

自昭和五年二月	伊號第一	十四種砲旋回手	
至同	潜水艦		
自昭和六年五月	伊號第二	十四種砲旋回手	
至昭和七年七月	潜水艦		
自昭和八年四月	木曾	十四種砲射手	
自昭和八年五月	安宅	十二種砲射手	
至同			
自昭和八年十一月	砲術學校	教員	

所轄長 又ハ分 隊長印	年 月 日	履	歴	所屬艦船 部隊若ハ辭 令官廳名
	大正十五	六、一	現役編入	
		同 日	横須賀海兵團ニ入團	横須賀海兵團
		同 日	「海軍四等水兵ヲ命ス」(朱書)	
		同 日	「海軍三等水兵ヲ命ス」(朱書)	
		同 日	「海軍二等水兵ヲ命ス」(朱書)	
		同 日	「昭和ト改元」(朱書)	
昭和二	三、二七		青島へ向ケ佐伯發(外國鐵戊)	
	四、七		旅順歸著	
	一、一		「海軍二等水兵ヲ命ス」(朱書)	

昭和三	三、二九		舟山列島へ向ケ有明灣發	
	四、二		基隆歸著	
	四、七		香港へ向ケ基隆發(外國鐵戊)	
	四、一五		馬公歸著	
	十、二九		第六十一期普通科砲術練習生トシテ海軍砲術學校ニ入校ヲ命ス	
昭和四	五、一		「海軍一等水兵ヲ命ス」(朱書)	
	五、四		戶籍異動届 妻入籍(四一四一三〇)横人第一號ノ一三〇〇	
	五、十一		海軍砲術學校普通科砲術練習生教程卒業	
	同 日		沖風乗組ヲ命ス(豫備艦)(朱書)	
	六、一		「普通善行章一級付與」(朱書)	
	八、四		第二種症ニ依リ横須賀海軍病院ニ入院	

	八、十一		湊海軍病院ニ轉院	
	八、十二		横須賀海兵團へ送籍	
	九、四		退院歸團	
昭和五	二、一		第七潜水隊附ヲ命ス(在役)(朱書)	
	同 日		乗艦ヲ伊號第一潜水艦ニ指定ス	
	五、一		乗艦ヲ伊號第二潜水艦ニ變更ス	
	五、一七		「特別善行章一級付與」(朱書)	
	十一、二		(五、三、一九)額海灣加徳水道ニ於テ生命ヲ賭シ重要兵器ヲ毀損シテ失事シテ一級隊機密第三九號ヲ一ノニ認許シテ(朱書)	
	十一、二		戶籍異動届 長男出生(五一〇一八)横人第一號ノ一五五七	
昭和六	三、三		父看護ノ爲休暇旅行許可(往返四日)出發(滞在十四日)	
	三、二十一		休暇旅行中ノ處歸艦	

	三、二九		青島へ向ケ寺島水道發(外國鐵戊)	
	四、五		襄長山列島歸著	
	五、一		「任海軍三等兵曹」(朱書)	
	七、十三		善行表彰(六、六、三〇)廣島縣佐伯郡大野村一五四番地ニ於テ人命救助	
	八、四		擅ニ職役ヲ離レタル科禁足三日ニ處ス(朱書)	
	同 日		「普通善行章一級授與」(朱書)	
	十一、十二		第六十期高等科砲術練習生トシテ海軍砲術學校ニ入校ヲ命ス	
昭和七	七、三〇		海軍砲術學校高等科砲術(大口徑)練習生教程卒業	
	同 日		木曾乗組ヲ命ス(豫備艦)(朱書)	
	九、一		「普通善行章一級付與」(朱書)	
	十二、二〇		「給一級俸」(朱書)	



自昭和五年四月	伊號第一潜水艦	十四號砲長回手	
自昭和五年五月	伊號第一潜水艦	十四號砲長回手	
自昭和六年七月	木曾	十四號砲長回手	
自昭和七年四月	安宅	十二號砲長回手	
自昭和八年五月	砲術學校	教員	

所轄長又ハ分隊長印	年月日	履	歴	所屬艦船部隊若ハ辭令官廳名
	大正十五	六、一	現役編入	
		同	横須賀海兵團入團	横須賀海兵團
		同	「海軍四等水兵ノ命ス」(朱書)	
		十、二九	「海軍三等水兵ノ命ス」(朱書)	
		同	長門垂組ヲ命ス(聯合艦隊)(朱書)	
		十二、二五	「昭和ト改元」(朱書)	長門
昭和二	三、二七		青島へ向ケ佐伯發(外國艦隊)	
	四、七		旅順歸著	
	一、一		「海軍二等水兵ノ命ス」(朱書)	

昭和三	三、二九		舟山列島へ向ケ有明灣發	
	四、二		基隆歸著	
	四、七		香港へ向ケ基隆發(外國艦隊)	
	四、一五		馬公歸著	
	十、二九		第六十一期普通科砲術練習生トシテ海軍砲術學校入校ヲ命ス	砲術學校
昭和四	五、一		「海軍一等水兵ノ命ス」(朱書)	
	五、四		口籍異動届 妻入籍(四、四、三) 横入第ニ號ノ(三、三〇)	
	五、十一		海軍砲術學校普通科砲術練習生教授卒業	
	同		沖風垂組ヲ命ス(豫備艦)(朱書)	
	六、一		「普通奉行章」發付(朱書)	第二編運醫
	八、四		第二種症ニ依リ横須賀海軍病院入院	

昭和五	八、十一		海軍病院ニ轉院	
	八、十二		横須賀海兵團へ發籍	
	九、四		退院歸國	横須賀海兵團
	二、一		第七潜水隊ヲ命ス(在役)(朱書)	第七潜水隊
	同		乗艦ヲ伊號第一潜水艦へ指定ス	
	五、一		乗艦ヲ伊號第二潜水艦へ變更ス	
	九、一七		「特別奉行章」發付(朱書)	
	同		(五、三、一九)海軍加給水道ニ於テ生命ヲ賭シ重要兵器ヲ發射シテ(五、三、一九)海軍加給水道ニ於テ生命ヲ賭シ重要兵器ヲ發射シテ(五、三、一九)海軍加給水道ニ於テ生命ヲ賭シ重要兵器ヲ發射シテ	
昭和六	十一、二		戸籍異動届 長男出生(五、一〇、一八) 横入第ニ號ノ(五、五、七)	
	三、三		父有疾ノ爲メ休職旅行許可(休職四日)出發	
	三、二十一		休暇旅行中ノ水歸職	

昭和七	三、二九		青島へ向ケ青島水兵發(外國艦隊)	
	四、五		襄長山列島歸著	
	五、一		「任海軍三等兵曹」(朱書)	横須賀海兵團
	七、十三		善行表彰(六、六、三) 廣島縣佐伯郡大野村一五四九番地ニ於テ人命救助	第七潜水隊
	八、四		「擢」職役ヲ離レケル(特異)三日ニ當リ(朱書)	
	同		「普通奉行章」發付(朱書)	
	十一、十二		第六十期高等科砲術練習生トシテ海軍砲術學校入校ヲ命ス	砲術學校
	七、三〇		海軍砲術學校高等科砲術(大口径)練習生教授卒業	
	同		木曾垂組ヲ命ス(豫備艦)(朱書)	
	九、一		「普通奉行章」發付(朱書)	木曾
	十二、二〇		「給」被褥(朱書)	横須賀海兵團







第十一類 下士官兵身上

徵募徵集入團(隊)、青年訓練終了者檢定合格、所屬及所屬内ノ乘艦變更、滿期、免役、歸休、退團、進級(兵ノ)、増俸(一等兵ノ特)、善行章ノ付與及褫奪

八、考課調査表ノ記載事項ニ對シテハ分隊長之ニ姓、所轄及職名ヲ自署スルモノトス

九、履歴表並考課調査表ノ記註ハ楷書ニテ明瞭ニ爲スヘシ

十、記註ヲ誤ルカ若ハ訂正ヲ要スルモノアルトキハ朱線ヲ畫シテ之ヲ抹殺シ側傍又ハ下方ニ正誤又ハ所要ノ記註ヲ爲シ決シテ削リ又ハ擬リ消ス等ノコトヲ爲スヘカラス

十一、履歴表並考課調査表中家族ノ欄ニハ本人ノ戸籍中ニ在ル祖父母、父母、妻子、兄弟、姉妹ヲ記入シ戸主ニハ別ニ戸主ト添記スルモノトス

十二、現役中又ハ召集中ニ死亡セシ下士官兵ノ履歴表ハ所轄長ヨリ之ヲ家族ニ、又考課調査表ハ人事部ニ送付スルモノトス

十三、考課調査表ヲ人事部ニ於テ保存スル期間ヲ三年トス

附則

明治三十五年達第六十二號海軍下士卒履歴表取扱及記註心得ハ

本達施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

●下士官兵轉勤轉乘ノ旅行中又ハ上

陸外出中事故發生遲達等ノ場合屆

出手績

明治三十三年五月十九日  
海軍省令第十號

下士卒轉勤轉乘ノ旅行中已ムヲ得サル事故ノ爲メ指定期限内ニ到達シ能ハサル場合ニ在テハ速ニ其ノ旨新所屬長ニ届出且左ノ書類ヲ得テ到達ノ上之ヲ差出スヘシ

汽船若ハ汽車ニ關スル事故アルトキハ船長若ハ驛長ノ證明書

傷痍若ハ疾病ナルトキハ醫師ノ診斷書

其ノ他ノ事故ナルトキハ其地ノ市區町村長ノ證明書

上陸外出中ニ係ルモノ亦前項ニ準ス

●航空術練習生入隊手續ニ關スル件

昭和八年十一月四日  
海人第八五號

(海軍省人事、經理局長ヨリ關係所屬長宛)

航空術練習生入隊手續ニ關スル件申進

自今航空術練習生ノ入隊手續ニ關シテハ左記ニ依リ取計フコトニ定メラレ候

記

一、航空術練習生ヲ命ズル場合ハ第二次檢査ニ合格セル者ヲ採用豫定者トシテ航空隊ニ派遣シ第三次以後各種ノ檢査ニ合格シ採用確定シタル時之ニ練習生ヲ命ジ同時ニ退艦(團)(隊)ノ手續ヲ採ルコト

二、第三次以後各種ノ檢査ニ合格セザル者ハ之ヲ現所轄ニ歸還セシムルコト

三、前二號ニ該當スル者ニ支給スル旅費ハ總テ出張旅費(特定旅費)支辨トス但シ目的地滞在中ハ航空隊内ニ起臥セシメ糧食ヲ支給シ旅費ヲ支給セザルコト  
本旅費ハ請求ヲ俟テ別途配付セララルコト

第十一類 下士官兵身上

四、履歴ニハ練習生採用確定セル者ニ對シテ練習生ヲ命ジ退艦(團)(隊)セシムル旨記註スルコトトシ其ノ他ノ事項ハ記註セザルモノトス







但シ判任文官新任ノ際及海軍文官進級増俸取扱規則別表第一號所屬者ノ職課並外國へ出張、歸朝ノ辭令ハ海軍大臣之ヲ令ス

第八條 所屬長官判任文官ニ休職ヲ命セントスルトキハ事由ヲ具シ海軍大臣ノ認許ヲ受クヘシ

休職者ヲ復職セシムルトキ亦前項ニ同シ

第九條 所屬長官ハ相互ノ協議ニ依リ部下判任文官同待遇者ヲ他ノ所屬ニ兼務又ハ轉勤セシムルコトヲ得但シ海軍文官進級増俸取扱規則別表第一號ノ所屬長官ニ在リテハ豫メ海軍大臣ノ承認ヲ受クベキモノトス

前項ノ場合ニ於ケル職課ノ命免ハ兼務ニ在リテハ本務ノ所屬長官、轉勤ニ在リテハ現所屬長官之ヲ行フ

第十條 所屬長官部下判任文官同待遇者ノ命課ヲ行ヒタルトキハ速ニ其ノ辭令ヲ海軍大臣ニ報告スヘシ

第十一條 削除

履歷

第十二條 鎮守府司令長官ハ所屬判任文官同待遇者ノ履歷簿及各廳別名簿ヲ整頓保管スヘシ

履歷書ハ第五様式ニ據ル

第十三條 海軍文官同待遇者ノ履歷書ハ正副二通トシ正本ハ高等文官同待遇者及左記所屬判任文官同待遇者ニ在リテハ海軍省人事局ニ、其ノ他ノ判任文官同待遇者ニ在リテハ所屬鎮守府ノ海軍人事部ニ副本ハ各所轄長之ヲ保管スヘシ

海軍文官進級増俸取扱規則別表第一號ノ各廳

第十四條 始メテ任用又ハ採用セラレタル者又ハ部外ヨリ轉シタル者ハ履歷書一通ヲ作製シ前條ノ區分ニ從ヒ一通ハ海軍省人事局又ハ所屬鎮守府ノ海軍人事部ニ、一通ハ所轄長ニ差出スヘシ

第十五條 文官同待遇者其ノ所轄ヲ變更シタルトキハ舊所轄長

ハ履歷書副本ヲ新所轄長ニ送付スヘシ判任文官同待遇者其ノ所屬ヲ變更シタルトキハ第十三條ノ區分ニ從ヒ其ノ正本ヲ海軍省人事局又ハ新所屬鎮守府ノ海軍人事部ニ送付スヘシ

第十六條 履歷書ハ保管官廳ニ於テ之ヲ記入スヘシ

第十七條 文官同待遇者部内ノ取扱ニ依ラサル事項ニシテ履歷書ニ訂正加除ヲ要スヘキ事項發生シタルトキハ所轄長ヲ經テ速ニ海軍省人事局長又ハ所屬鎮守府ノ海軍人事部長ニ届出ヘ

〔海軍〕

第二十一條 文官同待遇者ハ其ノ現住所ヲ所轄長ニ届出ヘシ

所轄長ハ前項住所ヲ第十三條ノ區分ニ從ヒ順序ヲ經テ海軍省人事局長又ハ所屬鎮守府ノ海軍人事部長ニ通報スヘシ

第二十二條 始メテ文官同待遇者ニ任用（判任文官ヨリ高等タル者ハ）セラレタル者及高等官五等並判任官三級俸ニ進級シタル者ハ其ノ際寫眞（半身、脱帽、手札形無）一葉ヲ第十三條ノ區分ニ依リ提出スヘシ

所屬ヲ變更シタル場合前項ノ寫眞ハ之ヲ新所屬ノ海軍人事部長又ハ海軍省人事局長ニ送付スヘシ

第二十三條 休職文官同待遇者ハ最後ニ勤務シタル廳ヲ以テ其ノ所轄廳トス

附則

本達ハ大正四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

海軍文官履歷書及身上取扱規則及明治三十八年九月達第三百三十號ハ之ヲ廢止ス

シ

第十八條 恩給年加算ノ始終期ハ其ノ都度所轄長ヨリ事由、官職氏名ヲ海軍省人事局長又ハ所屬鎮守府ノ海軍人事部長ニ通報スヘシ

但シ恩給取扱手續第五條ニ依リ勤務日誌寫ヲ送付スル場合ニ在リテハ此ノ限ニ在ラス

第十八條ノ二 所轄長ハ文官同待遇者死亡又ハ所在不明トナリタル者アルトキハ其ノ旨速ニ海軍省人事局長又ハ所屬鎮守府ノ海軍人事部長ニ通報スベシ所在不明ノ者所在分明シタルトキ亦同ジ

海軍人事部長前項ノ通報ヲ受ケタルトキハ之ヲ海軍省人事局長ニ通報スベシ

第十九條 所轄長ハ文官同待遇者退官退職、部外へ轉出又ハ死亡等ノ場合ニハ其ノ保管ノ履歷書副本ヲ本人又ハ其ノ遺族ニ下付スルコトヲ得

雜則

第二十條 監獄看守、警査在職中死歿シタルトキハ弔祭料ヲ給スヘキ年數及金額等ヲ海軍省經理局長ニ通知スヘシ（第六様式）

第十一類 文官、囑託身上



第十一類 文官、囑託身上

第一様式

年 月 日	大 區 宛	職 爵 氏 名 印
文官任用具申書		
現官職名及現俸給等	横須賀海軍工廠附海軍技手、三級俸	
位 勳 功 等	勳七等	
氏 名	何 某	
任用スヘキ官名	海軍技師	
官 等 俸 給	高等官七等、十一級俸	
補 職 名	横須賀海軍工廠造機部副部長	
任用ノ事由	(本欄ニハ任用ノ事由ヲ詳記スヘシ)	

(別紙履歷書、經歷書、卒業證書寫、戶籍謄本及身體檢查證添付)

〔海軍〕

(用紙美濃十三行罫紙)

第二様式

(用紙美濃十三行罫紙)

〔海軍〕

履 歷 書	本籍地及族籍	海軍技手	勳七等	何	某
年 月 日	事 項	生 年 月 日			
明治三十三年三月三十一日	、縣中學校卒業				
明治三十四年九月一日	、高等工業學校機械科へ入學				
明治三十六年一月二十三日	海軍造兵生徒ヲ命ス				
明治三十七年七月八日	、高等工業學校機械科卒業				
七月十日	任海軍技手 給八級俸				
同日	海軍造兵廠附ヲ命ス				
明治三十八年九月三十日	給七級俸				
明治三十九年四月一日	明治三十七八年戰役ノ功ニ依リ勳七等青色桐葉章及金百五十圓ヲ授ケ賜フ				

第十一類 文官、囑託身上



明治四十年十月十二日	給六級俸
明治四十二年三月二十七日	給五級俸
明治四十四年三月三十一日	給四級俸
八月二十六日	海軍造兵廠附ヲ免シ横須賀海軍工廠附ヲ命ス
大正二年三月三十一日	給三級俸

高等試験令第三條ニ該當スル事項ナシ(現ニ文官タル者ハ記載ヲ要セス)

大正 年 月 日

右

何

某

(受恩給者ハ其ノ事項及恩給證書ノ番號ヲ記載スルヲ要ス)

〔海軍〕

第三様式

経歴書

海軍技手 何

某

自明治三十七年七月二十日

海軍造兵廠製造部第二工場ニ於テ何々ノ業務ヲ擔當シ何々等ノ製造ニ従事ス

自明治三十八年十一月二十六日

海軍造兵廠製造部第三工場及第二工場ニ於テ何々ノ業務ヲ擔當シ何々等ノ製造ニ従事ス

自明治四十四年八月二十七日

横須賀海軍工廠製造部第十二工場及第十八工場ニ於テ何々ノ業務ヲ擔當シ何々ノ製造ニ従事ス

大正 年 月 日

右

何

某

(用紙美濃十三行罫紙)

〔海軍〕











履歷書記註心得

- 一 書體ハ總テ楷書ヲ用ウベシ
- 二 戸主ノ職業欄ニハ戸主ガ本人ニ非ザル場合ニ限リ「父何業」「兄何業」等ト記載スベシ
- 三 本人ノ氏名ニハ振假名ヲ附スベシ
- 四 家族名及誕辰欄ニハ同一戸籍内ニ在ル祖父母、父母、妻子、兄弟姉妹ヲ記載スベシ
- 五 任免轉補等ノ年月日ハ辭令發布ノ日ヲ記載スベシ
- 六 事項欄ニ記載スベキ條項概テ左ノ如シ
  - (イ) 第一段ヨリ記載スベキ事項
    - 學業、學位、各試驗合格、任官、免官(朱書)、休職及非職(朱書)、轉官(他官ニ轉官ノ場合ハ朱書)、陞等、軍人ノ待命休職後備退役免官免役(朱書)、兵役ニ服シタル事項、退職(朱書)、失官(朱書)、死亡(朱書)
  - (ロ) 第二段ヨリ記載スベキ事項
    - 敘位、敘勳(叙位、叙勳若ハ事件ノ功又ハ定例ノ敘勳ニ非ザルモノニシテ御沙汰、賜杯、敘勳ノ例)、御物御菓子料祭菜料幣帛ノ下賜、特別賞賜事項(海軍公報所)、授爵、記章、外國勳章記章受領佩用允許、賞罰(年未賞罰等ノ如キ常例ニ依ルモノハ記入ニ及バズ)(朱書)、收禁及放免(朱書)、精勤證書及之ニ準ズベキ證書、恩給、退官賜金、一時賜金、官制ノ改廢(朱書)、族籍變更改氏名(朱書)
  - (ハ) 第三段ニ記載スベキ事項
    - 職課ノ命免、増俸、病氣引入私事旅行(朱書)、委員ノ命免、外國出張並歸朝、官公署ノ勤務、民間ニ於テ從事シタル重ナル事業、恩給法ニ依ル從軍年及在官年加算ノ始終期
- 七 辭令ハ其ノ全文ヲ記載スベシ
- 八 應名ノ欄ニハ辭令ヲ發シタル應名官名等ヲ記載スベシ

第六様式

(用紙美濃紙)

年月日	海軍省人事局長印 (何海軍人事部長印)				
海軍省經理局長宛					
看守(審査)弔祭料給與ニ關スル件					
任命年月日	死亡年月日	給俸	給與	職名	氏名
		在職年數	金額		
		何年			
		加算何年ヲ含ム			

右通知ス  
備考 在職年數中ニハ從軍年加算ヲ含ム  
本通知ニハ遺族ヨリ戸籍謄本ヲ添ヘタル請求書ヲ添付スルヲ要ス

●判任文官同待遇者ノ命課増俸ヲ海軍公報鎮守府公報ニ掲載ノモノハ文書ヲ以テ報告ニ及ハサルノ件

大正八年二月二十六日  
海人第二二號

(海軍省人事局長ヨリ所屬長官宛)

所屬長官ノ行ヒタル判任文官同待遇者ノ命課及定期ノ増俸ハ海軍文官身上取扱規則第十條及海軍文官進級増俸取扱規則第二條第二項ニ依リ報告ヲ要スル次第ニ候處該辭令文ニシテ海軍公報又ハ各鎮守府公報ニ掲載ノモノハ之ヲ以テ其ノ報告ニ代ヘ別ニ文書ヲ要セサル儀ト御承知相成度

右依命申進ス

●文官履歷事項通報ニ關スル件

大正三年七月十三日  
海人第二六號

(海軍省人事局長ヨリ各廳長宛)

文官履歷事項通報ニ關スル件

文官ノ履歷書ハ海軍文官履歷書及身上取扱規則ニ依リ取扱ハルヘキ義ニ有之候處當局ニ於テ保管セル履歷書中左記ノ事項ノ脱落又ハ通報洩ノモノ往々有之敘勳資格其他恩給並退官賜金等調査ニ方リ事務ノ進行ヲ妨クル場合不尠候ニ就テハ此際篤ト調査ノ上無洩通報セシメラルル様御取計相成度

右申進ス



兵役ニ服シタ 一年志願兵、徴兵又ハ志願兵トシテ現役ニ服シタル日數ハ官吏恩給法ノ在官年數ニ算入セラルルモノナリ  
ル事項 部外ノ文官ヲ退官シタルトキノ理由ニシテ疾病、自己ノ便宜又ハ諭旨等  
退官理由

從軍年加算

戰時		平時
出征中ノ艦船乗組ヲ命セラレタル者ハ加算ノ始期タル内國港灣出發ノ年月日及其ノ地名、旅順、口鎮守府附、鎮海灣防備隊等ヲ命セラレタル者亦同シ	出征中ノ艦船乗組ヲ免セラレ内地ニ歸リタル者ハ加算ノ終期タル内國港灣歸著ノ年月日及其ノ地名、旅順、口鎮守府附、鎮海灣防備隊等ヲ免セラレ内地ニ歸リタル者亦同シ	旅順、鎮守府附、鎮海灣防備隊等ヲ免セラレ内地ニ歸リタル者ハ加算ノ終期タル同鎮守府又ハ同防備隊ヘ著任シタル年月日
旅順、鎮守府附、鎮海灣防備隊等ヲ免セラレ内地ニ歸リタル者ハ加算ノ始期タル同鎮守府又ハ同防備隊ヘ著任シタル年月日	旅順、鎮守府附、鎮海灣防備隊等ヲ免セラレ内地ニ歸リタル者ハ加算ノ終期タル同鎮守府又ハ同防備隊ヘ著任シタル年月日	旅順、鎮守府附、鎮海灣防備隊等ヲ免セラレ内地ニ歸リタル者ハ加算ノ終期タル同鎮守府又ハ同防備隊ヘ著任シタル年月日

朝鮮、臺灣、樺太在勤加算

三ヶ年以上引續キ在職シタル者ニ加算セラルルモノニシテ其ノ加算ノ始期ハ朝鮮、臺灣、樺太ニ到著シタル日、其ノ終期ハ同地ヲ出發シタル日  
現ニ同地ニ在職セル者ハ其在職三ヶ年ニ滿タサルモノト雖同地ニ到著シタル日ヲ通報セラルヘシ

第四款 婚姻

●海軍現役士官特務士官候補生准士官婚姻ノ件

大正十年十二月二十三日 勅令第四百八十三號

朕海軍現役士官現役特務士官候補生及現役准士官ノ婚姻ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム  
(總理、臨時海軍大臣事務管理副署)

海軍現役士官、現役特務士官、候補生及現役准士官婚姻ヲ爲サムトスルトキハ親任官同待遇者ニ在リテハ海軍大臣ノ奏請ニ依リ勅許ヲ仰キ其ノ他ノ士官及候補生ニ在リテハ海軍大臣、特務士官及准士官ニ在リテハ在籍鎮守府司令長官ノ許可ヲ受クヘシ

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス  
海軍現役軍人結婚條例ハ之ヲ廢止ス

●海軍現役士官特務士官候補生准士官婚姻取扱規則

大正十年十二月二十三日 海軍省令第二十一號

海軍現役士官、現役特務士官、候補生及現役准士官婚姻取扱規則左ノ通定ム

海軍現役士官、現役特務士官、候補生及現役准士官婚姻取扱規則

第一條 海軍現役士官、現役特務士官、候補生及現役准士官大正十年勅令第四百八十三號ニ依リ婚姻ノ許可ヲ受ケムトスルトキハ婚姻願書(第一號書式)ニ配偶者タルヘキ婦人ノ身元證明書(第二號書式)及戶籍謄本ヲ添ヘ將官ニ在リテハ直接海軍大臣ニ、佐官尉官候補生ニ在リテハ順序ヲ經テ海軍大臣ニ、特務士官准士官ニ在リテハ順序ヲ經テ在籍鎮守府司令長官ニ差出スヘシ

第二條 所屬長官前條ノ願書ヲ受ケタルトキハ之ニ可否ノ意見ヲ附シ進達又ハ移牒スヘシ

第三條 婚姻ノ許可ヲ得タル者ハ戶籍上ノ手續ヲ爲シタル後士



第十一類 婚 姻

官候補生ニ在リテハ海軍大臣ニ、特務士官准士官ニ在リテハ在籍鎮守府司令長官ニ成婚ノ旨届出ツヘシ

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス  
海軍現役軍人結婚條例施行細則ハ之ヲ廢止ス

(第一號書式)

大正 年 月 日

官 氏 名 印

海軍大臣宛

(鎮守府司令長官宛)

婚 姻 ノ 件

府縣都市區町村字番地

族籍職業氏名何女(姉妹等)

名

年 月 日 生

右ノ者ト結婚致度ニ付御許可(親任官同待遇者ニ在リ)相成度候也

也

(第二號書式)

身元證明書

府縣都市區町村字番地

族籍職業氏名何女(姉妹等)

名

- 一 教育ノ程度
- 二 處刑處罰ノ有無及平素ノ行狀
- 三 父母(養父母共)ノ身分職業
- 四 民法上差支ノ有無
- 五 其ノ他婚姻ノ許可ニ付參考トナルヘキ事項

右證明ス

大正 年 月 日

何市區町村長 氏

名 印

第五款 死亡者取扱

●海軍生徒學生下士官兵死亡者取扱

規 則

明治三十二年一月七日  
海軍省令第一號

海軍生徒學生下士官死亡者取扱規則左ノ通定ム

海軍生徒學生下士官死亡者取扱規則

第一條 生徒學生(帝國大學等ニ依リ)及下士官死亡シタルトキハ本則ニ依リ處分スルモノトス

下士官入院中若ハ陸地療養中現役ヲ離ル、ニ際シ重症ノ爲メ引續キ療養ノ者死亡シ又ハ傷痍疾病ニ依リ現役ヲ免セラレタル者歸郷ノ途中死亡シ其ノ死體引取者ナキトキ或ハ雇員傭人規則別表ニ掲クル傭人(艦船部除其ノ他各部内ニ居住セサル者ヲ除ク)死亡シタルトキハ總テ本則ニ準シ處分スルコトヲ得但シ傭人ハ卒ニ準ス

第二條 死體ハ死後二十四時間ヲ過クルニ非サレハ之ヲ葬ル可カラス但シ傳染病死亡者ハ此ノ限ニアラス

第十一類 死亡者取扱

第三條 溺死等ニテ死體ナキトキハ其ノ軍帽、軍衣及軍袴ヲ死體ニ代ヘ葬ルコトヲ得又傳染病死亡者ハ之ヲ火葬シ或ハ傳染病豫防法ニ依リ消毒法ヲ施シタル後埋葬スヘシ

第四條 生徒學生及下士官海軍病院ニ於テ療養中死亡シタルトキハ病院長ハ其ノ地所在艦船部隊其ノ他各部ノ者ニ在テハ本人所屬ノ長ニ通知シ本人所屬ノ艦船拔錨後若ハ其ノ他ノ場合ニ在テハ其ノ地所在ノ海兵團長ニ通知スヘシ

第五條 生徒學生及下士官地方病院又ハ陸地ニ於テ療養中死亡シタルトキハ病院長若ハ療養中在宿セシ家ノ戸主又ハ看護人ハ其ノ地所在艦船部隊其ノ他各部ノ者ニ在テハ死亡診斷書若ハ死體檢案書ヲ添ヘ本人所屬ノ長ニ通知シ本人所屬ノ艦船拔錨後若ハ其ノ他ノ場合ニ在テハ死亡診斷書若ハ死體檢案書ヲ添ヘ其ノ地所在ノ市區町村長若ハ之ニ準スヘキ者(其ノ地ニ海軍官廳アルトキハ該官廳、東京市ニ在テハ海軍省經理局)ニ届出ヘシ

第六條 艦船部隊其ノ他各部ニ於テ第四條第一項及第五條ニ依



第十一類 死亡者取扱

リ病院長等ヨリ死亡ノ通知ヲ受ケタルトキハ其ノ近傍ニ本人ノ親族故舊或ハ身元引受人アレハ速ニ其ノ旨ヲ報知シ又主任者ヲ定メ其ノ葬具ヲ調ヘ死體入棺ニ會同セシメ且神道教師或ハ僧侶ヲ祭主ト爲シ之ヲ埋葬スヘシ海軍省經理局其ノ他海軍官廳ニ於テ前條ニ依リ死亡届ニ接シタルトキ亦同シ

第七條 生徒及下士卒艦船部隊其ノ他各部内ニ於テ死亡シタルトキハ前條ニ準シ埋葬スヘシ學生在學中死亡シタルトキハ第五條第六條及第十條ニ準ス

第八條 艦船乗組ノ生徒下士卒ニシテ他ノ海軍各部ニ委託療養中本人所屬ノ艦船拔錨後死亡シタルトキハ其ノ委託ヲ受ケタル各部ニ於テ第六條ニ準シ埋葬スヘシ

第九條 生徒及下士卒地方病院又ハ陸地ニ於テ療養中本人所屬ノ艦船拔錨スルニ當リ該艦船ノ長之ヲ不治ノ症ト認ムルトキハ其ノ旨ヲ其ノ所在地ノ市區町村長若ハ之ニ準スヘキ者ニ通知シ豫メ埋葬ノ事ヲ依托スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ所屬長ハ速ニ其ノ旨ヲ本人在籍鎮守府ニ報告スヘシ

第十條 市區町村長若ハ之ニ準スヘキ者ハ前條ニ依リ艦船長ヨ

リ依托ヲ受ケタル者死亡シタルトキ又ハ第五條ニ依リ死亡届ニ接シタルトキハ速ニ葬具ヲ調ヘ死體入棺ヲ行ヒ神道教師或ハ僧侶ヲ祭主ト爲シ適宜埋葬スヘシ

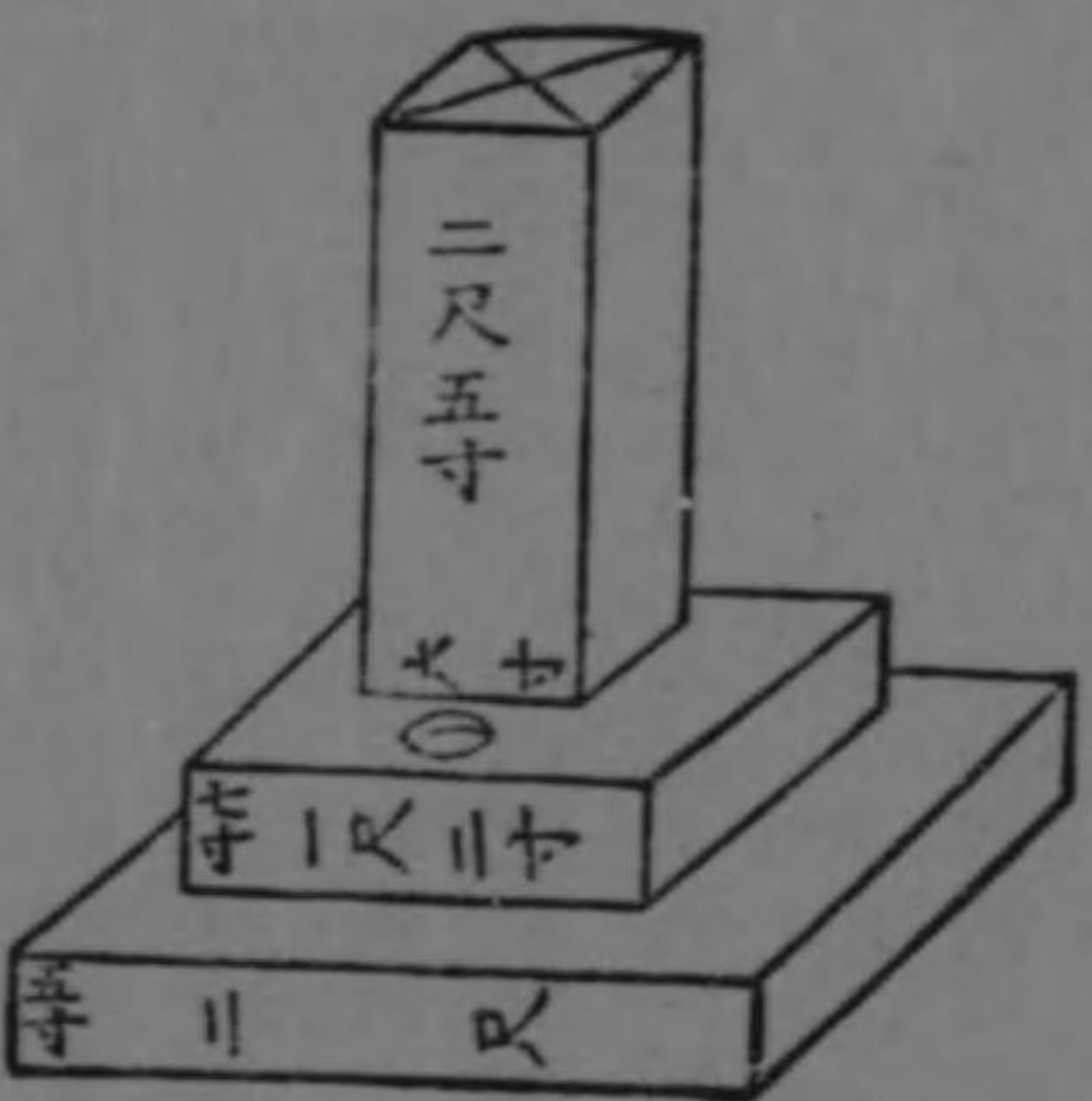
第十一條 生徒學生及下士卒行旅中死亡シタルトキハ所在市區町村長若ハ之ニ準スヘキ者ニ於テ明治十五年九月第四十九號布告行旅死亡人取扱規則ニ從ヒ假ニ之ヲ埋葬スヘシ

第十二條 第十條及第十一條ニ依リ死亡者ヲ埋葬シタルトキハ市區町村長若ハ之ニ準スヘキ者ハ速ニ其ノ時日場所等ヲ詳記シ醫師ノ死亡診斷書若ハ死體檢案書ヲ添ヘ本人所屬ノ長ニ報告スヘシ海軍省經理局其ノ他海軍官廳ニ於テ第六條ニ依リ死亡者ヲ埋葬シタルトキ亦同シ

第十三條 生徒學生及下士卒ニ變死ノ者アル場合艦船部隊官衙學校其ノ他海軍營造物内ナルトキハ其ノ廳長又ハ海軍檢察官、其ノ以外ナルトキハ憲兵所在地ニ在リテハ憲兵其ノ他ノ場所ニ在リテハ警察官檢視ヲ行ヒタル後之ヲ埋葬スヘシ

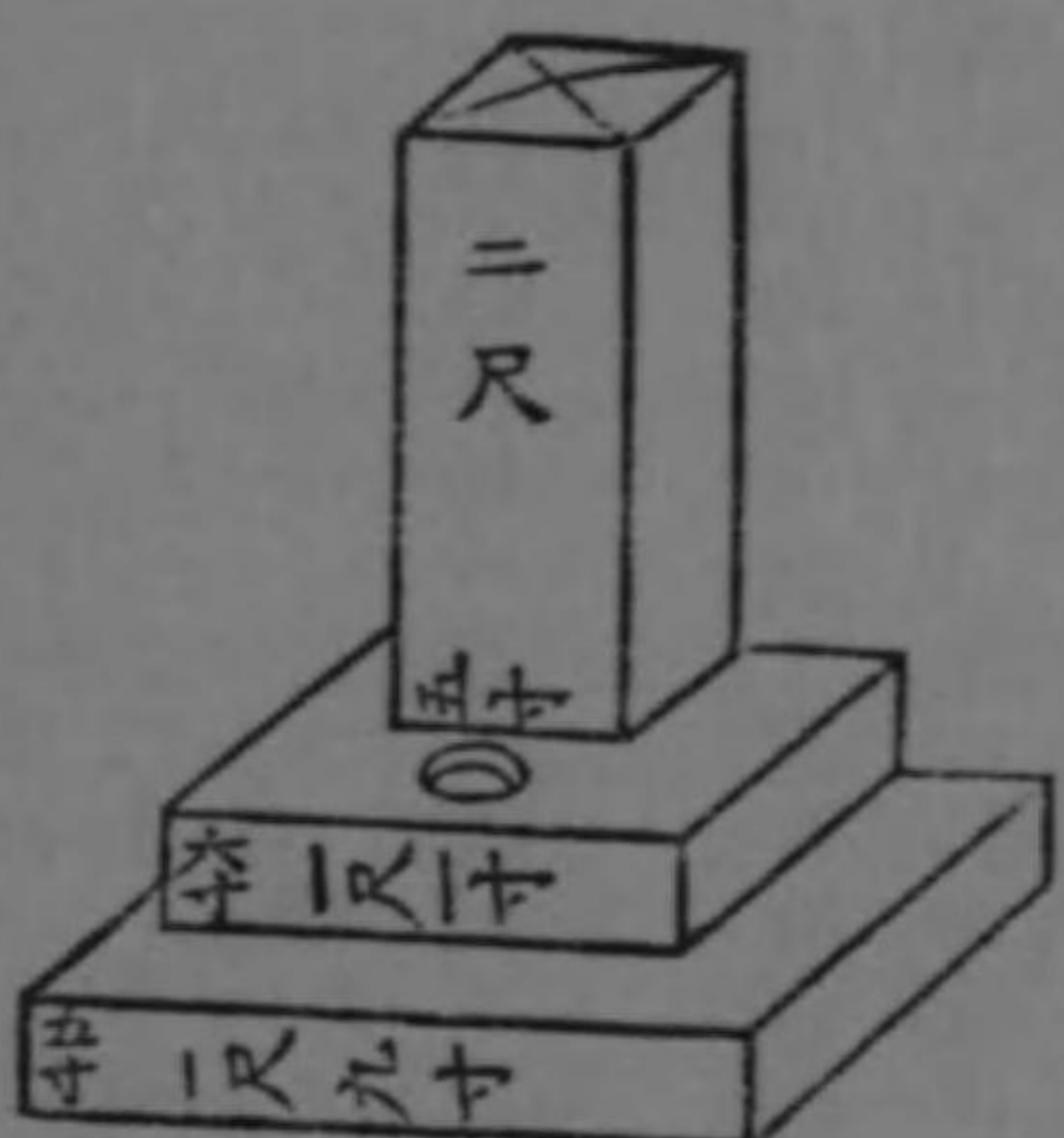
第十四條 生徒學生及下士卒死亡シタルトキハ本人所屬ノ長ハ其ノ病名及死亡時刻ヲ速ニ死者ノ親族又ハ身元引受人ニ電報シ生徒學生ニ在リテハ海軍大臣ニ届出テ又別ニ死亡診斷書若

生徒學生及下士墓標



〔海軍〕

卒墓標



三二五

ハ死體檢案書ヲ添ヘ身元引受人ニ通知シ下士卒ニ在リテハ死亡診斷書若ハ死體檢案書ヲ添ヘ在籍鎮守府ヲ經テ本籍地ノ市區町村長若ハ之ニ準スヘキ者ニ通知シ市區町村長若ハ之ニ準スヘキ者ハ之ヲ死者ノ親族ニ送達スヘシ

第十五條 埋葬地番人ハ埋葬ノ通知アリタルトキハ主任者ノ意ヲ承ケ葬具ヲ調ヘ神道教師或ハ僧侶ニ祭主ヲ囑托シ又其ノ葬事ヲ補助スヘシ

第十六條 死體ハ海軍埋葬地ニ葬ルヲ本則トス海軍埋葬地ナキ地方ニ在テハ該地墓地管理人ニ協議シ相當ノ地所ヲ選定シテ埋葬スヘシ又海軍埋葬地所在地ト雖モ死者ノ遺言等ニテ某埋葬地ニ葬ラレンコトヲ請フトキハ其ノ意ニ任スコトヲ得但シ其ノ地遠隔等ニテ事實行ヒ難キ場合ハ此ノ限ニアラス

第十七條 墓地ノ區畫ハ生徒學生及下士ハ方五尺トシ卒ハ方四尺トス

第十八條 墓標ハ左圖ニ基キ石材ヲ以テ之ヲ製シ其ノ正面ニ海軍生徒(學生)(何官)(動何等)何某之墓ト記シ左側面ニハ何府何族(平民)享年何十何年何箇月ト記シ右側面ニハ明治何年何月何日死ト記ス可シ

第十一類 死亡者取扱

三二四

〔海軍〕



第十一類 死亡者取扱

第十九條 死者ノ親族或ハ故舊ヨリ墓地區畫外ニ燈籠水鉢等ヲ建設スルコトヲ許サス但シ海軍埋葬地外ニ埋葬シタル場合ニ於テハ死者ノ親族等ヨリ其ノ墓地管理人ニ示談シ墓地ヲ廣メ燈籠水鉢等ヲ建設シ墓標ヲ大ニスル等ノ事ヲ爲スモ妨ケナシ

第二十八條 生徒學生及下士卒歸省中死亡シタルトキ其ノ親族故舊或ハ身元引受人ハ第二十六條ノ手續ヲ要セス直ニ之ヲ埋葬スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ醫師ノ死亡診斷書若ハ死體檢案書ヲ添ヘ其ノ時日場所等ヲ詳記シ速ニ本人所屬ノ長ニ届出ヘシ

第二十六條 生徒學生及下士卒死亡シ其ノ親族故舊或ハ身元引受人ニ於テ死體ヲ引受ケ埋葬セントスルトキハ其ノ死亡ノ時

ヨリ二十四時間以内ニ左記書式ニ依リ本人所屬ノ長若ハ其ノ地所在ノ海兵團長 第十條ノ場合ニ在テハ市區ニ願出ヘシ但シ本人死亡ノ病院或ハ所屬ノ艦船部隊其ノ他各部内ニ親族故舊或ハ身元引受人アルトキハ時宜ニ依リ願書ヲ要セサルモ妨ケナシ

第二十九條 第二十六條ニ依リ親族故舊或ハ身元引受人ニ於テ死亡者ヲ埋葬シタルトキハ速ニ其ノ時日場所等ヲ詳記シ本人所屬ノ長其ノ地所在ノ海兵團長又ハ市區町村長若ハ之ニ準スヘキ者ニ届出ヘシ

第二十七條

前條ニ依リ親族故舊或ハ身元引受人ニ死體ヲ引渡ストキハ先ツ之ヲ歛シ棺上ニ白布ヲ覆フヘシ

第三十條 生徒學生及下士卒死亡シタルトキハ本人所屬ノ艦船部隊其ノ他各部ノ長ハ其ノ遺物ヲ取纏メ官給品ハ成規ニ從ヒ主管廳ニ返付シ私有物ハ本人ノ親族或ハ身元引受人所在ノ市區町村長若ハ之ニ準スヘキ者ニ送付シ本人ノ親族或ハ身元引受人ニ下付セシム但シ時宜ニ依リ直ニ死者ノ親族或ハ身元引受人ニ下付スルコトヲ得

第三十一條

生徒學生及下士卒海軍病院或ハ地方病院等ニ於テ死亡シタルトキハ海軍病院長或ハ第五條ニ依リ死亡ノ届出ヲ受タル者ハ其ノ遺物ヲ本人所屬ノ長ニ送付スヘシ但シ便宜ニ

〔海軍〕

從ヒ直ニ前條ニ準シ處分スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ市區町村長若ハ之ニ準スヘキ者ハ速ニ運送費計算書ヲ調製シ本人所屬ノ長ニ請求スヘシ

第三十二條

市區町村長若ハ之ニ準スヘキ者第三十條及第三十一條ニ依リ遺物ヲ親族或ハ身元引受人ニ下付シタルトキハ其ノ領收證書ヲ得テ本人所屬ノ長ニ送付スヘシ

死體引受願

海軍生徒(學生)(何職)

何 某

右ノ者何地海軍病院(何地病院)(何地)ニ於テ死亡仕候ニ付

テハ私儀親族(故舊)(身元引受人)ニ付本人死體引受埋葬仕度候條御許可被成下度此段奉願候也

年月日

何府縣何市町村何番地

親族(故舊)(身元引受人) 何 某印

何府縣何市町村何番地

保證人

何 某印

死亡者所屬長海兵團長又ハ市區町村長若ハ之ニ準スヘキ者宛

追テ海軍埋葬地内(外)ニ埋葬可仕候也

第十一類 死亡者取扱

●從軍中又ハ艦船遭難ニ際シ軍人軍屬ノ爲シタル遺言ノ確認ニ關スル

明治三十三年二月七日 法律第十三號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル民法第七十九條及第八十一條ノ規定ニ依リ遺言ノ確認ニ關スル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム(總理、陸軍、海軍、司法大臣副署)

第一條 民法第七十九條ノ規定ニ依リ軍人軍屬ノ爲シタル遺言ノ確認ハ左ノ區別ニ從ヒ之ヲ請求スヘシ

- 一 陸軍ニ在リテハ遺言當時遺言者ノ屬シタル陸軍官衛團隊ノ軍法會議ノ理事又ハ遺言ヲ爲シタル地ヲ管轄スル陸軍軍法會議ノ理事ニ請求スヘシ若其ノ軍法會議ノ設置ナク若ハ廢セラレタル場合ニ於テハ遺言者ノ住所地又ハ相續開始地ヲ管轄スル陸軍軍法會議ノ理事ニ請求スヘシ
- 二 海軍ニ在リテハ遺言當時遺言者ノ屬シタル海軍官衛團隊所在地又ハ其ノ附近ノ軍法會議ノ主理ニ請求スヘシ若遺言ヲ爲シタル者カ艦船乗込員ナル場合ニ於テハ便宜海軍軍法會議ノ主理ニ請求スヘシ



第二條 民法第八十一條本文ノ場合ニ該當スル遺言ノ確認ハ便宜海軍軍法會議ノ主理ニ請求スヘシ

第三條 民事訴訟法裁判所職員ノ除斥人證鑑定ニ關スル規定非訟事件手續法第六條第八條第九條第十條第十二條第十四條第十七條乃至第十九條第三十二條第九條第二項ノ規定及民事訴訟費用法ノ規定ハ本法ノ事件ニ之ヲ準用シ其ノ規定中裁判所及判事ニ屬スル職務ハ理事又ハ主理之ヲ行ヒ書記ニ屬スル職務ハ録事之ヲ行フ但シ上訴ニ關スル規定ハ準用ノ限ニ在ラス

(參照) 民法(明治三十一年)中抄錄

第七十九條 從軍中疾病、傷痍其他ノ事由ニ因リテ死亡ノ危急ニ迫リタル軍人及ヒ軍屬ハ證人二人以上ノ立會ヲ以テ口頭ニテ遺言ヲ爲スコトヲ得

前項ノ規定ニ從ヒテ爲シタル遺言ハ證人其趣旨ヲ筆記シテ之ニ署名、捺印シ且證人ノ一人又ハ利害關係ハヨリ遲滞ナク理事又ハ主理ニ請求シテ其確認ヲ得ルニ非サレハ其效ナシ  
第七十六條第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス  
第八十一條 第七十九條ノ規定ハ艦船遺棄ノ場合ニ之ヲ準用ス但海軍ノ所屬ニ非サル船舶中ニ在ル者カ遺言ヲ爲シタル場合ニ於テハ其確認ハ之ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ要ス

●航海中入水者アリテ死體ヲ發見ス

ル能ハサルモ溺死ト認定スル場合

ニ於ケル手續 明治三十九年七月二十四日 人事局長通知

戸籍法第百三十條ノ解釋ニ付左ノ通司法省民刑局長ヨリ回答有之候間此旨及御通知置候也

航海中ニ入水者アリテ明ニ溺死ト認ムルコトヲ得ル場合ニ於テハ假令死體ヲ發見スル能ハサルトキト雖艦長ハ戸籍法第百三十條ノ手續ヲ行フコトヲ得

死體ヲ發見セサルモ溺死ト認定スル場合ハ入水シタルコト明ニシテ陸岸ニ遠キ洋中タルコト等四圍ノ情況ニ照シ萬生存ノ疑ナキ場合ニ限ラサルヘカラス如此場合ニ於テハ航海日誌ニ溺死ト認定スト記載スルモ差支ナシ但認定シタル四圍ノ情況ハ詳細ニ記載スルヲ要ス

(參照) 戸籍法(大正三年法律第二十六號)中抄錄

第二百二十三條 第七十一條、第七十五條及ヒ第七十六條ノ規定ハ死亡ノ届出ニ之ヲ準用ス

第七十五條 航海中ニ出生アリタルトキハ艦長又ハ船長ハ二十四時内ニ第六十九條第二項ニ掲ケタル事項ヲ航海日誌ニ記載シテ署名

●死亡認定ニ關スル件

大正十一年三月二十日 官房第九六〇號

(海軍次官通牒)

死亡認定ノ件ニ關シ當省法務局長左記甲號照會ニ對シ司法省民事局長ヨリ乙號ノ通り回答有之候

右通知ス

(甲號)

大正十一年一月二十七日海法第六號

飛行機搭乗者カ海上ニ於テ操縱中氣流濛濛等ニ原因シ著水ノ際顛覆漂浪ノ結果所在不明ト爲リ百方搜索シタルモ遂ニ死體ヲ發見セサル場合ニ於テハ航海中ニ於ケル入水者ト同シク艦長ハ死亡者ト認定シ戸籍法第百十九條ニ依リ處理可然モノト思料致候右ニ付貴見承知致度

右照會ス

(乙號)

大正十一年二月三日司法省民事局長第二九八號

死亡認定ニ關スル件

客月二十七日附海法第六號照會ノ件ハ貴見ノ通ト思考致候此段及回答候也

捺印スルコトヲ要ス

前項ノ手續ヲ爲シタル後艦船カ日本ノ港ニ著シタルトキハ艦長又ハ船長ハ遲滞ナク出生ニ關スル航海日誌ノ際本ヲ其地ノ市町村長ニ發送スルコトヲ要ス

艦船カ外國ノ港ニ著シタルトキハ艦長又ハ船長ハ遲滞ナク出生ニ關スル航海日誌ノ際本ヲ其國ニ駐在スル日本ノ大使、公使又ハ領事ニ發送シ大使、公使又ハ領事ハ一个月内ニ之ヲ外務大臣ニ發送シ外務大臣ハ十日内ニ之ヲ本籍地ノ市町村長ニ發送スルコトヲ要ス



艦内爆發ノ爲海中ニ吹飛バサレタル者死亡認定ノ件

昭和六年九月十七日  
海法第九〇號

(海軍省法務局長ヨリ各艦長宛)

死亡認定ニ關スル件通知  
首題ノ件ニ關シ左記申號ノ照會ニ對シ乙號ノ通回答有之候條御承知相成度

記

(甲號)

昭和六年九月八日海法第八六號(海軍省法務局長ヨリ司法省民事局長宛)

死亡認定ニ關スル件照會

艦船ノ乗員艦内爆發ノ爲海中ニ吹飛バサレ百方搜索シタルモ遂ニ死體ヲ發見セザル場合ニ於テ四圍ノ情況ニ照シ萬生存ノ見込ナキ以上艦長ハ死亡者ト認定シ戸籍法第百十九條ニ依リ處理可然モノト思料致候ヘ共爲念貴見承知致度

(乙號)

昭和六年九月十一日司法省民事局長第九四八號(司法省民事局長ヨリ海軍省法務局長宛)

死亡ノ認定ニ關スル件

本月八日附海法第八六號御照會ノ件貴見ノ通ト思考致候此段及回答候也

官廳内竝工場艦船等ニテ變死傷死者檢視ノ件

明治十三年二月二十五日  
太政官第十四號達

(官廳院使、府縣ヘ)

明治十二年三月第十二號達左ノ通改正候條此旨相達候事  
官廳内竝ニ官有ノ工場及ヒ艦船等ニテ變死ニ係ル者及ヒ重傷死ニ至ル者ハ近傍ノ警察署ヘ報知シ檢視ヲ受クヘシ  
但軍人軍屬ニシテ陸海軍官限り處分ヲ了シ警察官ノ檢視ヲ要セサル分及ヒ遠洋航海中ニ係ル者ハ此限ニアラス

海軍軍人軍屬變死ノ場合檢視官管轄區分

明治四十四年十月九日  
官房第三四三九號

海軍軍人軍屬變死ノ場合ニ於テ檢視官ノ管轄區分ニ付テハ左ノ通心得ヘシ

一 艦船、團隊、官衙其他ノ海軍營造物内ニ於ケル變死者ハ其ノ廳長又ハ海軍檢察官之ヲ檢視ス

二 艦船、團隊、官衙其ノ他海軍營造物外ニ於ケル變死者ハ憲兵屯在地ニ在リテハ憲兵、其ノ他ノ場所ニ在リテハ警察官之ヲ檢視ス

(海軍)

變死者檢視ノ場合軍醫官立會方ノ件

大正三年八月二十二日  
官房第二四二二號

改正 大正一五年第七二八號

檢視ノ場合ニ於テ軍醫官ノ立會ニ關スル件左ノ通改正ス

一 檢察官部隊内ニ於テ變死者ヲ檢視スル場合ニ在リテハ死體所在部隊ノ長若ハ所屬部隊ノ長ニ對シ又部隊外ニ於テハ其所屬部隊ノ長ニ對シ軍醫科士官ノ派遣ヲ請求スルコトヲ得

死體所在部隊若ハ所屬部隊ニ軍醫科士官在ラサルトキ、死體所在地ニ所屬部隊在ラサルトキ又ハ特ニ急速ヲ要スルトキハ便宜死體所在地ニ在ル部隊ノ長ニ對シ之ヲ請求ヲナスコトヲ得

二 各部隊ノ長前項ノ請求ヲ受ケタルトキハ其ノ所屬軍醫科士官ヲシテ檢視ニ立會ハシムヘシ

三 海軍司法警察官海軍軍人軍屬ノ變死者ヲ檢視スル場合ニ於テハ第一項ノ例ニ依リ軍醫科士官ノ派遣ヲ請求スルコトヲ得

四 各部隊ノ長前項ノ請求ヲ受ケタルトキハ支障ナキ限り其ノ所屬軍醫科士官ヲシテ檢視ニ立會ハシムヘシ

海軍軍人軍屬備役人夫竝艦船便乗者等艦船沈没破壊捕獲ノ爲生死不明ノ者アルトキ報告方ノ件

明治三十七年五月九日  
官房第一六八七號

海軍軍人軍屬及海軍ニ於テ備役スル人夫又ハ海軍艦船ニ便乗ヲ許可シタル者等ニシテ艦船ノ沈没破壊若ハ捕獲等ノ爲其ノ生死明ナラサルニ至リシモノアルトキハ所屬長官又ハ所轄長ハ其ノ所屬官職氏名及當時ノ情況等ノ大略ヲ具シテ海軍大臣ニ報告スヘシ



●英領新嘉坡ニ於テ帝國軍艦内ニ死亡者アルトキ埋葬通知ノ件

明治三十九年二月十二日  
官房第四六六號

英領新嘉坡港内ニ於テ帝國軍艦内ニ死亡者ヲ生シ之ヲ陸上ニ埋葬セントスルトキハ可成速ニ死亡ノ情態ニ關シ同港衛生官ニ通知シ死亡證明書ハ英文ニテ調製スルコトヲ希望スル旨新嘉坡政廳ヨリ在内地帝國領事ヘ照會アリタル趣外務大臣ヨリ移牒有之候條此旨心得ヘシ

●戰時海軍死亡者取扱規則

明治二十八年五月二十四日  
達第四十六號

改正 明治二十八年第一三八號、三三年第一一二號、三七年第四二號、第一一九號、三八年第二號、大正八年第九一號

戰時海軍死亡者取扱規則左ノ通改ム

戰時海軍死亡者取扱規則

第一條 戰時戰役ニ從事シ死亡シタル者又ハ戰地ニ於テ傷疾ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リ爲メニ死亡シタル者ハ此規則ニ依リ取

扱フモノトス但此規則ニ規定ナキモノハ海軍葬式規則海軍生徒下士卒死亡者取扱規則ニ依ル

軍屬タル高等官ニ等以上及勅任待遇ノ者ハ將官ニ高等官三等四等五等ノ者ハ上長官ニ高等官六等以下及奏任待遇ノ者ハ士官ニ候補ハ准士官ニ判任官及判任待遇ノ者ハ下士ニ其他ハ卒ニ準ス軍人軍屬外ノ者モ亦同シ但海軍用船舶ノ船員ハ各其取扱フ所ノ身分ニ依ル

第二條 死體ハ海軍埋葬地共同墓地若クハ特ニ選定シタル土地ニ埋葬ス但場合ニ依リ火葬シ又ハ合葬シ又海上ニ在テハ水葬スルコトヲ得

死者ノ所屬長若クハ所屬先任士官ハ時宜ニ依リ其死體若クハ遺骨遺髪ノ處分ヲ海軍官廳ニ依リシ又ハ死體ノ埋葬ヲ最寄ノ市區或ハ町村ノ長ニ依頼スルコトヲ得但之ヲ依頼セントキハ別ニ依リ證明書ヲ交付シ其要費ヲ最近ノ鎮守府監督部ニ請求セシムヘシ

前二項ノ處分ヲ終了シタルトキハ之ヲ其遺族ニ通知スヘシ

第三條 死者ノ斂具ハ現場ノ實況ニ依リ便宜ニ任ス

第四條 墓標ハ木柱ヲ以テ之ヲ製シ其正面ニ(官)位勳氏名墓ト

記シ側面ニハ族籍享年及死亡年月日等ヲ記スヘシ其尺度ハ左ノ如シト雖モ合葬ノ場合又ハ地方ノ狀況ニ依リ材料ヲ變更シ若クハ尺度ヲ伸縮スルコトヲ得

將官	高五尺 <sup>地上以上</sup> 下同シ	方一尺
上長官	高四尺五寸	方九寸
士官及候補生	高四尺	方八寸
准士官	高三尺	方七寸
下士	高二尺五寸	方六寸
卒	高二尺	方五寸

第五條 所屬長ハ部下准士官以上及候補生死亡シタルトキハ海軍大臣ニ下士卒死亡シタルトキハ本人在籍鎮守府ニ報告シ鎮守府ハ之ヲ人事局長ニ通知スヘシ

軍屬及其他ノモノ死亡セシトキ其高等官及之ニ準スルモノハ海軍大臣ニ其他ノモノハ都テ人事局長ニ報告スヘシ但鎮守府所屬ニ係ルモノハ本人所屬鎮守府ニ報告シ鎮守府ハ海軍大臣ニ報告シ若クハ人事局長ニ通知スヘシ

前二項ノ報告、通知様式附表ノ如ク定ム此ノ報告ヲナスト同時ニ其ノ遺族ニ通知スヘシ

第六條 死體若クハ遺骨遺髪ヲ戰地外ニ於テ處分スルトキハ左ノ諸項ニ依ルヘシ但第二條第二項ノ海軍官廳ニ於ケル處分モ亦同シ

- 一 准士官以上及候補生ノ死體若クハ遺骨ハ其遺族ヲ召喚シ之ヲ引渡スヘシ但シ請求アルトキハ其親戚故舊ニ引渡スコトヲ得
- 二 下士卒ノ死體ハ海軍生徒下士卒死亡者取扱規則ニ依リ處分スヘシ遺骨モ亦之ニ準ス
- 三 遺髪ハ都テ官費ヲ以テ之ヲ遺族ニ送附スヘシ但シ請求アルトキハ其親戚故舊ニ引渡スコトヲ得

前項第一號ニ依リ遺族ヲ召喚シタルトキハ其ノ居住地ヨリ召喚地迄明治三十一年達第四十九號ニ依リ往返ノ旅費ヲ支給ス但シ死者士官以上ナルトキハ海軍内國旅費規則旅費等級三等ノ額、候補生ナルトキハ同四等ノ額、准士官ナルトキハ同五等ノ額トス

第六條ノ二 准士官以上及候補生ノ遺物ヲ其ノ遺族又ハ親戚故舊ニ送還スルニ際シ必要アルトキハ之ヲ官費支辨ト爲スコトヲ得



第十一類 死亡者取扱

**第七條** 戦地ニ於テ死亡シタル下士卒ノ遺物ハ所屬長若ハ所屬先任士官之ヲ死者在籍ノ鎮守府所在地海兵團長ニ移送シ其ノ遺族又ハ親戚故舊ニ下付セシムルコトヲ得

**第八條** 削除

**第九條** 第四條ニ依リ木柱ヲ以テ建設シタル墓標ハ平時ニ復セシ後石材ヲ以テ改設シ其石材ヲ得難キ地方ニ在テハ成ヘク之レニ等シキ材料ヲ以テ改設スヘシ但准士官以上ノ墓標ハ左圖ニ基キ製シ其正面ニ官位勳氏名墓ト記シ其左側面ニ何府縣何族(平民)享年何年何箇月ト記シ其右側面ニ明治何年何月何日於何役戦死(死)ト記スヘシ

**第十條** 海軍埋葬地外ニ埋葬シタル者ヲ平時ニ復セシ後前條ノ墓標改設前ニ於テ遺族若クハ親戚故舊ヨリ自費改葬ヲ願出ツルトキハ之ヲ許スコトアルヘシ

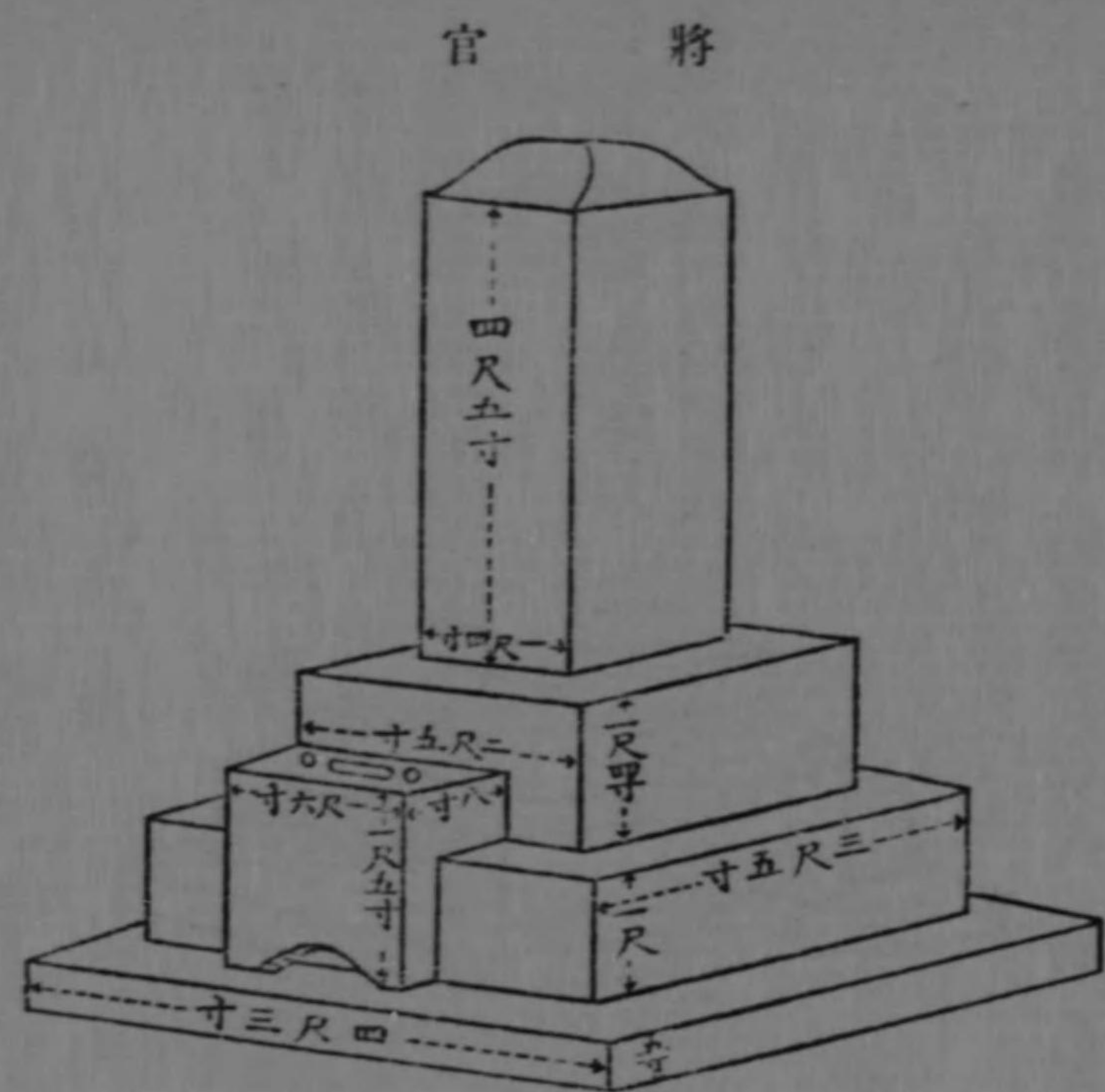
**第十一條** 下士卒及下士卒ニ準スル者ノ死體若クハ遺骨ヲ遺族若クハ親戚故舊ニ引渡シ又ハ水葬シタルトキハ平時ニ復セシ後其石碑ヲ海軍埋葬地ニ官設スルモノトス前條ニ依リ改葬シタル者モ亦同シ但時宜ニ依リ數名合同ト爲スコトアルヘシ又准士官以上候補生及准士官以上候補生ニ準スル者ニモ必要アル場合ニハ本條ヲ適用スルコトアルヘシ

附表

戦時海軍死亡者調				(年 月 日)		
死亡年月日	死亡ノ場所	死因	原籍	籍	所屬部隊	官(職)名
						氏名

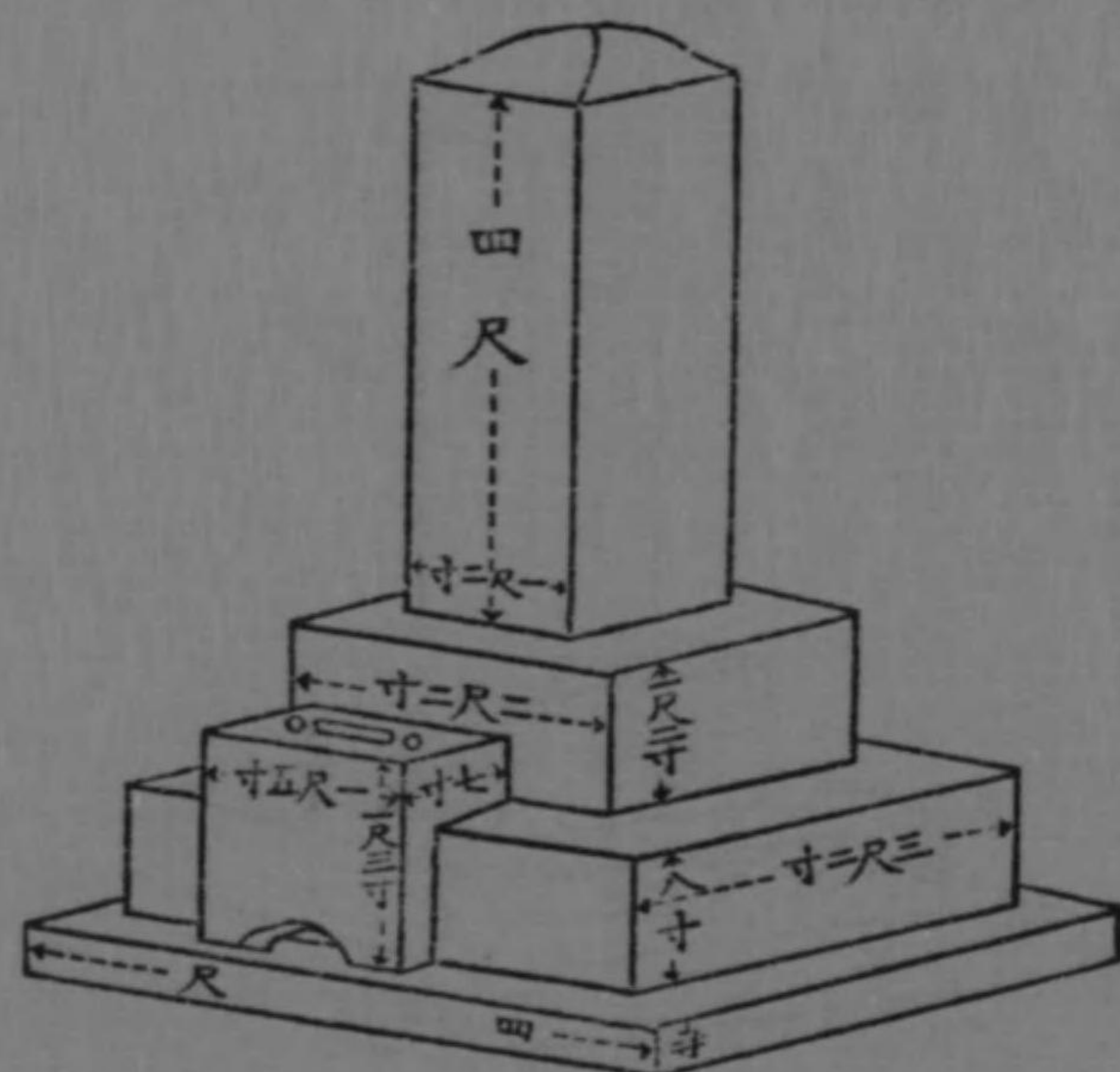
[海軍]

(附圖)



第十一類 死亡者取扱

官長上



[海軍]

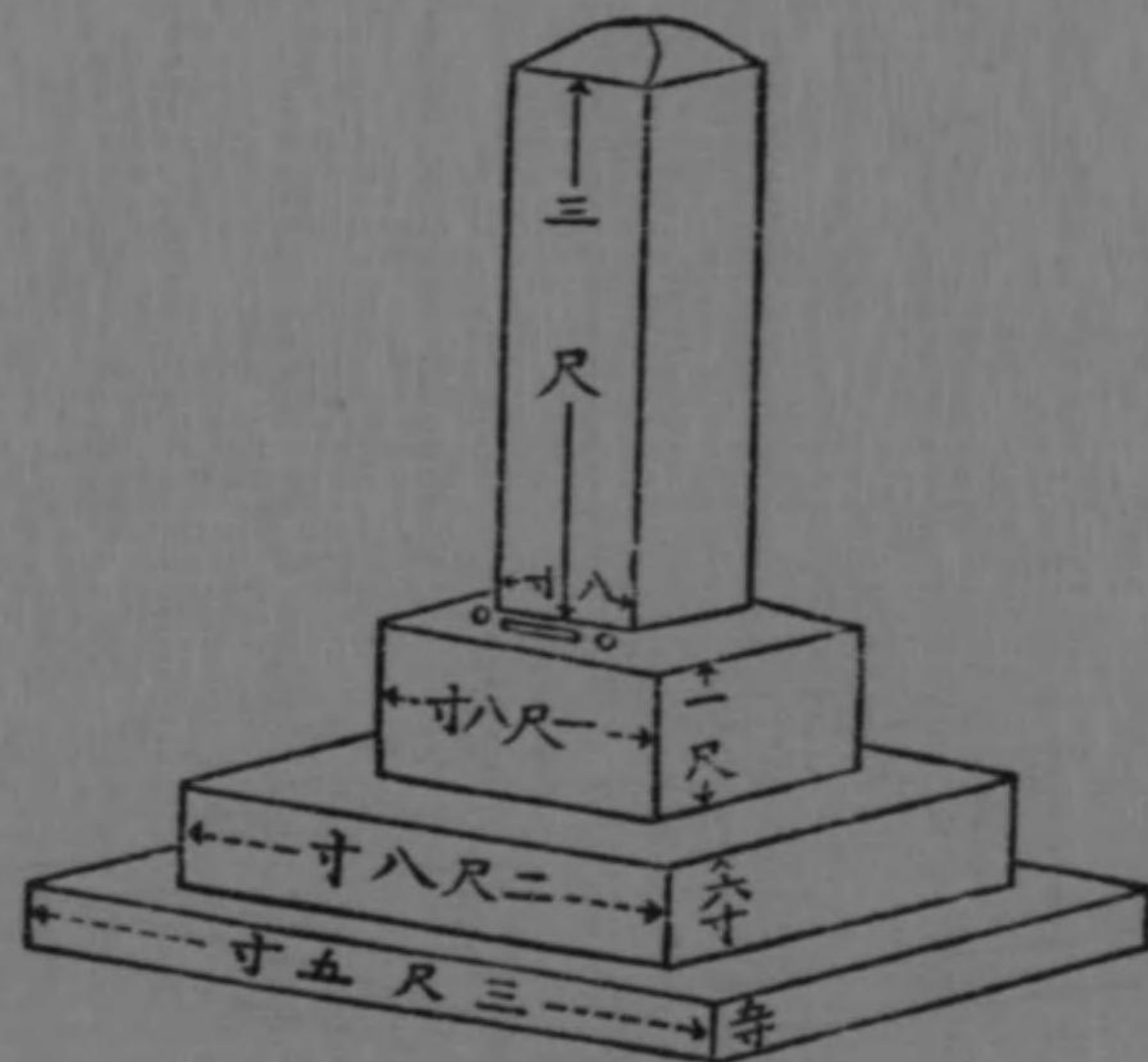
三三五

三三四





官士准



第六款 海技免狀 就職仲介

●海軍軍人ノ海技免狀授與申請ニ關スル件

昭知五年六月十九日 官房第二一三八號

(海軍次官ヨリ各艦長ニ)

海軍軍人ノ海技免狀授與申請ニ關スル件通牒  
首題ノ件ニ關シ今般船舶職員法及關係法規ノ改正竝ニ制定ニ伴  
ヒ遞信省ト協議ノ結果左記ノ通定メラレ候

記

- 一 海軍軍人ニシテ船舶職員法第五條第一項及第二項ノ規定ニ依リ海技免狀授與ノ申請ヲ爲ス者ハ現役ニ非ザルコトヲ必要トスルモ左ニ該當スル者ニ限り現役中ト雖モ申請差支ナシ
- 一 准士官以上 離現役前ノ待命者
- 一 下士官及兵 離現役前ノ入團中又ハ歸休中ノ者
- 二 海軍軍人ニシテ船舶職員法第五條第一項ノ規定ニ依リ試験ヲ受ケントスル場合ノ海上履歷ノ證明書ハ第一號書式ニ依

第十一類 海技免狀 就職仲介

三

船舶職員法第五條第二項ノ規定ニ依リ海技免狀初授ノ申請ヲ爲ス場合ニ於ケル體格検査申請書竝ニ之ニ要スル證明書ハ第二號書式ニ依リ、右海技免狀授有後上級免狀授與ノ申請ヲ爲ス場合ノ證明書ハ第三號書式ニ依ル

追テ大正十一年六月六日官房第二一四五號、大正十一年七月十七日官房第二六四七號、大正十一年十一月四日海人第四號ノ一六五、大正十二年三月十九日官房第九〇七號及大正十三年五月十二日官房第一四五〇號ハ之ヲ廢止セラル











第十一類 海技免狀 就職仲介

海軍現役後ノ履歴 (職業ノ經歷及賞罰) フ詳記スルコト

記註要旨	特務上官以下ハ在籍領守府ヲ授種ニ又特務兵ハ官又ハ等級ニ附記スルモノトス
------	-------------------------------------

大正十一年九月二十八日  
官房第三三〇三號ノ二

(海軍次官ヨリ各艦長宛)

今回官房第三三〇三號ヲ以テ豫後備役海軍軍人就職仲介ニ關スル手續令達相成候處該業務ノ實施ニ當リ其ノ實績ヲ學クルコト容易ナラサルハ察知スルニ難カラス候茲ニ於テカ之カ當事者ハ勿論其ノ他一般諸官ニ於テモ相互救済ノ親情ヲ以テ之ニ協力シ其ノ實績ヲ學クルコトニ御留意相成度  
依命申進ス

〔以下參考規定〕

●船舶職員法(抄録)

明治二十九年四月七日  
法律第六十八號

- 第一條 日本船舶ニハ命令ヲ以テ定ムル場合ヲ除クノ外此ノ法律ノ規定ニ依リ船舶職員ヲ乗組マシムヘシ但シ船舶安全法第二條第一項ノ規定ヲ適用セサル船舶ハ此ノ限ニ在ラス
- 船舶職員ト稱スルハ船長、一等運轉士、二等運轉士、三等運轉士、機關長、一等機關士、二等機關士及三等機關士ヲ謂フ
- 第二條 海技免狀ヲ有スル者ニアラサレハ船舶職員タルコトヲ得ス
- 第三條 海技免狀ハ左ノ十二種トス

- 甲種船長
- 甲種一等運轉士
- 甲種二等運轉士
- 乙種船長
- 乙種一等運轉士
- 乙種二等運轉士
- 丙種船長
- 丙種運轉士
- 機關長

〔海軍〕

〔海軍〕

選信大臣ニ於テ學術試験ニ合格スト認ムル者ニハ學術試験ヲ行ハスシテ相當ノ免狀ヲ授與スルコトヲ得

小形船舶ニ乗組ム船舶職員ノ有ヘキ海技免狀ハ選信大臣ノ定ムル所ニ依リ學術試験ヲ行ハスシテ之ヲ授與スルコトヲ得

●船舶職員學術試験ニ合格スト認ムル者ニ授與スヘキ海技免狀(抄録)

昭和五年五月十日  
選信省告示第千二百八十四號

一一 海軍艦船艇ニ乗組ミタル者ハ左表ニ依ル

授與スヘキ海技免狀

- 汽船甲種船長免狀
- 汽船甲種一等運轉士免狀
- 汽船甲種二等運轉士免狀
- 〔乙種一等運轉士免狀但シ海軍兵學校選修科學(生)教程修了者ニ限リ汽船甲種二等運轉士免狀
- 乙種二等運轉士免狀

三四三

官階

海上勤務期間

大尉	以上	大尉	以上	一年
中尉	以上	中尉	以上	一年
少尉	以上	少尉	以上	二年
特務少尉	以上	特務少尉	以上	二年
特務中尉	以上	特務中尉	以上	二年
特務大尉	以上	特務大尉	以上	二年
一等兵曹	以上	一等兵曹	以上	二年
二等兵曹	以上	二等兵曹	以上	二年
三等兵曹	以上	三等兵曹	以上	二年

第十一類 海技免狀 就職仲介

三四三







第十一類 海技免狀 就職仲介

入セス)迄ニ其履歷書及身分書ヲ添ヘ受験申請書ヲ試験ヲ行フ管海官廳ニ差出スヘシ

第五條 履歷ハ左ニ掲クル書類ヲ以テ之ヲ證明スヘシ

- 一 商船ニ乗組ミタル履歷 船員手帖又ハ之ニ準スヘキ證明書
- 二 海軍艦船其他官廳所屬船ニ乗組ミタル履歷 當該官廳又ハ艦船ノ辭令書又ハ證明書
- 三 水先修業生タリシ履歷 當該水先人及船長ノ證明書
- 四 試験ヲ受ケントスル水先區ノ航海ニ從事シタル履歷 航海日誌又ハ船舶所有者ノ證明書

第六條 身分書ニハ左ノ事項ヲ記載シ第一號乃至第三號ノ事項ニ付テハ戸籍吏、第四號ノ事項ニ付テハ本籍市區町村長ノ證明ヲ受ケヘシ

- 一 氏名
- 二 本籍地
- 三 出生ノ年月日

第七條 水先法第三條第二號及第三號ノ事項ニ該當セサルコト

第八條 學術試験ハ試験官吏ノ見込ニ依リ筆記試験又ハ口述試験トシ左ノ事項ニ就キ之ヲ行フ但シ乙種水先區ノ水先人試験ニ限り試験事

者ニアラサレハ學術試験ヲ受クルコトヲ得ス

項ノ一部ヲ省略スルコトヲ得

- 一 英語
- 二 航路標識、潮流、地勢、水路、港灣、錨地及危險物ノ説明
- 三 船舶ノ嚮導及運航方法
- 四 羅針遠差ノ檢定方法
- 五 船舶衝突ノ豫防、水路港灣ノ取締其他水先人本分ノ職務ニ關スル法規

前項但書ノ規定ニ依リ試験事項ヲ省略スル場合ニハ其ノ事項ヲ告示ス

筆記試験及口述試験ヲ併セ行フ場合ニハ筆記試験ニ合格シタル者ニアラサレハ口述試験ヲ受クルコトヲ得ス

第九條 受験申請人ハ手数料トシテ體格檢査ニ付テハ一圓、學術試験ニ付テハ水先區一區毎ニ左ノ金額ヲ納付スヘシ

- 内海水先區水先人試験 十五圓
- 其他ノ水先區水先人試験 十圓

第十條 船舶職員試験規程第三條、第二十一條前段、第二十二條乃至第二十四條、第二十六條及第二十七條ノ規定ハ水先人試験ニ之ヲ準用ス

第十條ノ二 學術試験ノ成績ハ試験官吏ニ於テ受験人カ當該水先區ノ

航海ニ從事シタル履歷ノ多少ヲモ參考シテ之ヲ定ム

●航空法(抄録) 大正十年四月九日 法律第五十四號

第三章 乗員

第十五條 航空機ノ乗員ニ非サレハ航空機ニ搭乗シテ其ノ運航ニ從事スルコトヲ得ス

乗員ハ技術證明書及航空免狀ヲ有スルコトヲ要ス

第十六條 技術證明書ハ命令ノ定ムル所ニ依リ行政官廳ノ行フ考査ニ合格シタル者ニ之ヲ交付ス技術證明書ヲ有スル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ航空免狀ノ交付ヲ受クルコトヲ得

第十七條 乗員ハ技術證明書及航空免狀ヲ携帯スルニ非サレハ運航ニ從事スルコトヲ得ス

●航空法施行規則(抄録) 昭和二年五月五日 逓信省令第八號

第六十二條 航空機乗員技術證明書ハ左ノ九種トス

- 一 等飛行機操縦士技術證明書
- 二 等飛行機操縦士技術證明書
- 一 等航空船操縦士技術證明書
- 二 等航空船操縦士技術證明書

第十一類 海技免狀 就職仲介

三 等航空船操縦士技術證明書

自由氣球操縦士技術證明書

一 等航空士技術證明書

二 等航空士技術證明書

航空機關士技術證明書

第六十三條 航空免狀ハ左ノ九種トス

一 等飛行機操縦士免狀

二 等飛行機操縦士免狀

一 等航空船操縦士免狀

二 等航空船操縦士免狀

三 等航空船操縦士免狀

自由氣球操縦士免狀

一 等航空士免狀

二 等航空士免狀

航空機關士免狀

航空免狀ハ第十三號書式ニ依ル

第六十四條 技術證明書ノ交付ヲ受ケムトスル者ハ第十四號書式ニ依ル申請書ニ戸籍抄本出願當時市町村長又ハ其ノ職務ヲ最近撮影シタ



第十一類 海技免狀 就職仲介

ル寫眞(半身脱帽二葉及第十五號書式ニ依ル履歷書ヲ添附シ選信大臣ニ之ヲ提出スヘシ)

第六十五條 選信大臣前條ノ申請書ヲ受理シタルトキハ實地試驗及學科試驗ヲ行ヒ之ニ合格シタル者ニ技術證明書ヲ交付ス

第六十六條 技術證明書ノ受有者ハ第三號表ニ依リ技術證明書ニ對應スル航空免狀ノ交付ヲ申請スルコトヲ得

第六十七條 前條ノ申請ヲ爲サムトスル者ハ第十六號書式ニ依ル申請書ニ技術證明書寫及最近撮影シタル寫眞(半身脱帽二葉ヲ添附シ選信大臣ニ之ヲ提出スヘシ)

●無線通信士資格檢定規則(抄録) 昭和六年四月一日 選信省令第八號

第一條 無線通信士ノ資格ハ左ノ區別ニ從ヒ十七歳以上ノ者ニ就キ試驗又ハ銓衡ニ依リ選信大臣ノ命シタル無線通信士資格檢定委員之ヲ檢定ス

第一級 施設無線電信ノ通信及施設無線電信ノ放送用施設無線電信規則ニ依ルモノヲ除ク以下ノ通信ニ從事シタル者

第二級 無線電信法第二條第一號第二號第四號乃至第六號ニ依リ施設シタル施設無線電信ノ通信、同條第三號ニ依リ施設シタル施設無線電信ノ歐文通信ノ補助及和文通信並施設無線電

第三級 無線電信法第二條第一號第二號第四號及第六號ニ依リ總噸數五百噸未満ノ漁船ニ施設シタル施設無線電信ノ通信、同條第三號ニ依リ同漁船ニ施設シタル施設無線電信ノ和文通信、同條第五號ニ依リ施設シタル施設無線電信ノ通信、同條第六號ニ依リ受信ニ専用スル目的ヲ以テ施設シタル施設無線電信ノ通信及同條各號ニ依リ施設シタル施設無線電信ノ通信ノ補助並空中線電力五十「ワット」以下ノ施設無線電信ノ通信ニ從事シ得ル者

電話級 空中線電力五十「ワット」以下ノ施設無線電信ノ通信ニ從事シ得ル者

聽守員 無線電信法第二條第六號ニ依リ受信ニ専用スル目的ヲ以テ施設シタル施設無線電信ノ通信及船舶ニ施設シタル施設無線電信ニ於ケル聽守ニ從事シ得ル者

第二條 試驗檢定ノ試驗科目左ノ如シ

第一級 一 無線電信無 電氣ノ一般原理及無線電信無線電話ノ學理

二 無線電信無 無線電信無線電話用機器ノ調整、修理及運用ノ實踐

二 電氣通信術 電氣ノ一般原理及無線電信無線電話ノ學理ノ初步

三 無線電信無 無線電信無線電話ニ關スル法令及條約並其ノ他無線電信ノ取扱ニ關スル規定

四 交通地理 內國及外國ノ一般交通地理ニ無線電信、無線電話、電報及電報ノ通信連絡並航路又ハ航空路ニ關スル地理

六 英語 中學校卒業程度

第二級 一 無線電信無 電氣ノ一般原理及無線電信無線電話ノ學理ノ初步

二 無線電信無 無線電信無線電話用機器ノ調整、修理及運用ノ簡易ナル實踐

三 電氣通信術 電氣(一分時和文七十字及歐文隱語十六語ノ速度ニ依ル送信及受信)

四 無線電信無 無線電信無線電話ニ關スル法令及條約ノ大要並其ノ他無線電信ノ取扱ニ關スル規定

五 交通地理 第一級ニ同シ

六 英語 中學校三年修業程度

第三級 一 無線電信無 無線電信無線電話用機器ノ調整及運用ノ簡易ナル實踐

二 無線電信無 無線電信無線電話ニ關スル法令及條約ノ大要並其ノ他無線電信ノ取扱ニ關スル規定

三 電氣通信術 電氣(一分時和文七十字及歐文隱語十六語ノ速度ニ依ル送信及受信)

四 無線電信無 無線電信無線電話ニ關スル法令及條約ノ大要並其ノ他無線電信ノ取扱ニ關スル規定

五 交通地理 第一級ニ同シ

六 英語 中學校三年修業程度

第十一類 海技免狀 就職仲介



第十一類 海技免狀 就職仲介

級

- 二 第三級ノ檢定ニ合格シタル後二年以上無線電信法第二條第三號ニ依リ施設シタル私設無線電信ノ通信ニ從事シタル者又ハ二年以上無線電信ニ依ル公衆通信ニ從事シタル者ニ就テハ第二級
  - 三 一年以上無線電信ニ依ル公衆通信ニ從事シタル者又ハ二年以上無線電信ニ依ル軍用通信ニ從事シタル者ニ就テハ第三級
  - 四 一年以上無線電信ニ依ル軍用通信ニ從事シタル者ニ就テハ電話級又ハ聽守員級
  - 五 一年以上無線電話ニ依ル公衆通信又ハ軍用通信ニ從事シタル者ニ就テハ電話級
  - 六 二年以上電信ニ依ル公衆通信ニ從事シタル者ニ就テハ聽守員級無線通信士資格檢定委員ニ於テ前項ノ銓衡上必要アリト認ムルトキハ前條ノ科目ニ就キ試問ヲ行フコトアルベシ
- 第四條 選信省ニ於テ又ハ選信大臣ノ認定ヲ受ケタル講習所ニ於テ所定ノ無線電信無線電話ノ通信ニ關スル學術ヲ修メ其ノ課程ヲ卒ヘタル者ハ第一級以下ノ資格ニ付銓衡檢定ヲ申請スルコトヲ得
- 前項ノ認定ヲ受ケントスル講習所ノ管理者ハ選信大臣ノ指示スル所ニ從ヒ其ノ申請ヲ爲スベシ
- 第五條 選信大臣ハ檢定ニ合格シタル者ニ合格證書第一號ヲ附與ス

第六條 檢定合格者ハ官報ヲ以テ之ヲ公告ス

第七條 試驗檢定ハ毎年一回之ヲ行ヒ其ノ期日、場所等ハ豫メ之ヲ官報ニ公告ス但シ選信大臣ニ於テ必要アリト認ムルトキハ臨時ニ之ヲ行フコトアルベシ

銓衡檢定ハ隨時之ヲ行フ

第八條 檢定ヲ受ケントスル者ハ檢定申請書第二號ニ履歷書第三號、

戸籍謄本及寫眞申請前六个月内ニ撮影シタル正面、脱帽、半身像ノ手モノ以テ二葉ヲ添ヘ指定期日迄銓衡檢定ノ選信大臣ニ提出スベシ

第九條 檢定ヲ申請スル者ハ檢定手数料トシテ第一級ハ四圓、第二級ハ三圓、第三級ハ二圓、電話級及聽守員級ハ一圓ニ相當スル收入印紙ヲ檢定申請書ニ貼附シテ之ヲ納付スベシ

既納ノ檢定手数料ハ檢定ヲ受ケザル場合又ハ第十條ニ依リ檢定ヲ行ハザル場合ト雖之ヲ還付セズ

第十條 無線通信士資格檢定委員ニ於テ檢定申請者ガ履歷ヲ偽リ又ハ試驗ニ際シ不正ノ行爲アリト認メタルトキハ之ニ對スル檢定ヲ行ハズ

檢定ニ合格シタル後前項ノ事實發覺シタルトキハ其ノ合格證書ハ無効トス

●電氣事業法施行規則(抄録)

昭和七年十一月二十一日 選信省令第五十二號

第四章 主任技術者

第五十條 主任技術者ハ左ノ區別ニ依リ電氣事業主任技術者資格檢定規則ニ依ル資格ヲ有スル者ナルコトヲ要ス

電氣事業ノ種類

資格

- 電氣供給事業及電氣鐵道事業 第一種
- 三萬五千ワット以下ノ電氣供給事業及電氣鐵道事業 第二種
- 高壓又ハ低壓ノ電氣供給事業及鋼索式電氣鐵道事業 第三種

●電氣事業主任技術者資格檢定規則(抄録)

昭和七年十一月二十一日 選信省令第五十四號

第一條 電氣事業主任技術者ノ資格ハ第一種、第二種及第三種ニ區別シテ之ヲ檢定ス

第二條 檢定ハ試驗又ハ銓衡ニ依リ選信大臣ノ命ジタル檢定委員之ヲ行フ

第三條 前條ノ試驗ヲ分チテ第一次試驗及第二次試験トス

第一次試験ニ合格シタル者ニ非ザレバ第二次試験ヲ受ケルコトヲ得ズ

第四條 第一次試験ハ一般電氣學術及其ノ應用ニ就キ之ヲ行フ

第十一類 海技免狀 就職仲介

第一次試験ニ合格シタル者ニハ翌年及翌翌年ニ限り第一次試験ヲ免ズ

第五條 第二次試験ハ筆記及口述トス但シ第三種ノ試験ニ付テハ口述試験ヲ行ハズ

筆記試験ニ合格シタル者ニ非ザレバ口述試験ヲ受ケルコトヲ得ズ

第六條 第二次試験ハ左ノ科目ニ就キ之ヲ行フ但シ第三種ノ試験ニ在リテハ電氣理論、電力傳送及電氣鐵道ヲ除ク

- 一 電氣理論及電氣鐵道測定
- 二 電氣機器及附屬器具
- 三 電力傳送、配電及蓄電池
- 四 電燈、照明及電熱
- 五 電氣鐵道
- 六 發電所設計及原動力設備

第九條 試驗檢定ハ毎年一回之ヲ行ヒ其ノ期日及場所ハ豫メ之ヲ官報ニ公告ス但シ選信大臣ニ於テ必要ト認ムルトキハ臨時ニ之ヲ行フコトアルベシ

銓衡檢定ハ隨時之ヲ行フ

第十條 試驗檢定ヲ受ケントスル者ハ指定ノ期日迄ニ履歷書第二號、

戸籍ノ抄本及寫眞ヲ添ヘ檢定申請書第一號ヲ選信大臣ニ提出スベシ

銓衡檢定ヲ受ケントスル者ハ隨時ニ履歷書第二號及戸籍ノ抄本ヲ添



第十一類 海技免狀 就職仲介

（檢定申請書第一號）様式ヲ選信大臣ニ提出スベシ但シ第七條ニ依リ銓衡檢定ヲ受ケントスル者ハ其ノ修得セル學科ニ關スル證明書及必要アルトキハ説明書ヲ添附スベシ  
外國人ニ在リテハ身分ニ關シ本國領事ノ證明アル書面ヲ以テ戶籍ノ抄本ニ代フルコトヲ得

第十一條 檢定ヲ受ケントスル者ハ左ノ區別ニ從ヒ檢定手数料ヲ納ムベシ但シ第七條第一項又ハ同條第三項ニ依リ檢定ヲ受ケントスル者ノ當該大學又ハ學校ノ課程修了後二年內ニ檢定ヲ申請スル場合ニ於ケル檢定手数料ハ二圓トス

第一種 十四

第二種 六圓

第三種 四圓

前項ノ手数料ハ收入印紙ヲ檢定申請書ニ貼附シテ之ヲ納ムベシ  
既納ノ手数料ハ檢定ヲ受ケザル場合ト雖モ之ヲ還付セズ

第十二條 檢定委員ニ於テ檢定申請者ガ其ノ資格若ハ履歴ヲ偽リ又ハ試驗ニ際シテ不正ノ行爲アリタリト認メタルトキハ之ニ對スル檢定ヲ行ハズ  
檢定合格決定ノ後前項ノ事實アリタルコト判明シタルトキハ其ノ檢定ハ之ヲ無効トス

一 普通免許及特殊免許ニ付テハ十八歳未満ノ者、小型免許ニ付テハ十六歳未満ノ者

二 略

三 運轉免許ノ取消ヲ受ケ一年ヲ經過セザル者

四 其ノ他地方長官ニ於テ不適當ト認ムル者

運轉免許ノ試驗ハ自動車ノ構造及取扱方法ノ要旨、自動車及交通ニ關スル取締法令並ニ自動車ノ運轉技能ニ關シ之ヲ行フ

第四十二條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニ付テハ前條ノ規定ニ依ル試驗ノ全部又ハ一部ヲ省略スルコトヲ得

一 現ニ運轉免許ヲ有シ運轉免許ノ有効期間滿了後引續キ自動車ヲ運轉セントスル者

二 普通免許ヲ有スル者ニシテ特殊免許ヲ受ケントスル者

三 特殊免許ヲ有スル者ニシテ普通免許又ハ異種ノ特殊免許ヲ受ケントスル者

左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニ付テハ前條ノ規定ニ依ル試驗ノ一部ヲ省略スルコトヲ得

一 特殊免許ヲ受ケントスル者

二 本令施行區域外ノ行政廳ニ於テ與ヘタル運轉免許ヲ有スル者

三 甲種工業學校又ハ之ト同等以上ノ學校ノ機械科卒業者ニシテ在學中自動車ノ構造ニ關スル學科ヲ修得シタル者

第十一類 海技免狀 就職仲介

●自動車取締令(抄録)

昭和八年八月十八日  
内務省令第二十三號

第四章 運轉免許

第三十七條 運轉免許ヲ受ケタル者ニ非ザレバ自動車ヲ運轉スルコトヲ得ズ

運轉免許ヲ分テテ普通免許、特殊免許及小型免許ノ三種トス  
普通免許ヲ受ケタル者ハ普通自動車及小型自動車ヲ、特殊免許ヲ受ケタル者ハ特定種類ノ特殊自動車及小型自動車ヲ、小型免許ヲ受ケタル者ハ小型自動車ヲ運轉スルコトヲ得

前項ノ特殊自動車ノ種類ハ内務大臣之ヲ定ム

第三十八條 運轉免許ヲ受ケントスル者ハ其ノ主タル運轉地ノ地方長官ニ申請スベシ

地方長官運轉免許ヲ與ヘタルトキハ別記第二號様式ノ運轉免許證ヲ交付ス

第三十九條 運轉免許ノ有効期間ハ五年トス

第四十條 運轉免許ノ有効期間滿了後引續キ自動車ヲ運轉セントスル者ハ有効期間滿了前六月以内ニ運轉免許ヲ申請スルコトヲ得

第四十一條 運轉免許ハ試驗ニ合格シ且左ノ各號ニ該當セザル者ニ之ヲ與フ但シ小型免許ニ在リテハ試驗ヲ行ハズ

四 内務大臣ノ指定シタル者ノ發行スル技備證明書ヲ有スル者

●銃砲火藥類取締法施行細則(抄録)

明治四十四年三月十一日  
内務省令第二號

第四條 火藥類取扱免狀ハ甲乙ノ二種トシ左ノ資格ヲ有スル者ニ限リ本人ノ申請ニ依リ廳府縣長官銓衡ノ上之ヲ交付ス

甲種

一 實業學校令ニ依ル甲種實業學校又ハ之ト同等以上ノ學校其ノ他内務大臣ノ指定シタル學校ニ於テ火藥類ニ關スル學科ヲ修得シ五月以上直接火藥類ノ取扱ニ干與シタルノ履歴ヲ有スル者

二 陸軍工科學校ニ於テ火工術ヲ專修シタル者

三 陸軍又ハ海軍ニ於テ火藥類ノ取扱ヲ爲スニ充分ナル技能ヲ有スルノ證明書ヲ付與シタル者

四 別ニ定ムル規定ニ依リ試驗ヲ受ケ合格シタル者

乙種

一 五月以上直接火藥類ノ取扱ニ干與シタルノ履歴ヲ有スル者  
第六條ノ二 火藥類作業主任者免狀ハ甲乙丙ノ三種トシ左ノ資格ヲ有スル者ニ限リ本人ノ申請ニ依リ甲種及乙種火藥類作業主任者免狀ハ内務大臣、丙種火藥類作業主任者免狀ハ廳府縣長官銓衡ノ上之ヲ交



第十一類 海技免狀 就職仲介

付ス

甲種

- 一 火薬學ニ關シ工學博士ノ學位ヲ有シ又ハ帝國大學ニ於ケル火薬學科專修ノ卒業證書ヲ有シ火薬類製造ノ經驗アル者
- 二 陸軍又ハ海軍ノ火薬類製造所ニ於テ三年以上火薬類製造ノ實務ニ從事シ當該製造所長又ハ技術上ノ首長ノ地位ニ在リタル者
- 三 高等工業學校又ハ之ト同等以上ノ學校ニ於ケル化學ニ關スル學科專修ノ卒業證書ヲ有シ乙種火薬類作業主任者免狀ヲ受ケタル後火薬類製造所ニ於テ三年以上火薬類製造ノ實務ニ從事シタル者

四 別ニ定ムル規定ニ依リ試験ヲ受ケ合格シタル者

乙種

- 一 高等工業學校又ハ之ト同等以上ノ學校ニ於ケル化學ニ關スル學科專修ノ卒業證書ヲ有シ火薬類製造ノ經驗アル者
- 二 陸軍又ハ海軍ノ火薬類製造所ニ於テ三年以上火薬類製造ノ實務ニ從事シ所屬長官ニ於テ火薬類製造ニ充分ナル技能ヲ有スルノ證明書ヲ付與シタル者
- 三 實業學校令ニ依ル甲種實業學校其ノ他内務大臣ノ指定シタル學校ニ於ケル化學ニ關スル學科專修ノ卒業證書ヲ有シ三年以上火

藥類製造ノ實務ニ從事シタル者

- 四 別ニ定ムル規定ニ依リ試験ヲ受ケ合格シタル者
- 丙種
- 一 實業學校令ニ依ル甲種實業學校又ハ之ト同等以上ノ學校其ノ他内務大臣ノ指定シタル學校ニ於ケル化學ニ關スル學科ヲ修得シ一年以上火工品ノ製造ノ實務ニ從事シタル者
- 二 陸軍又ハ海軍ニ於テ火工品製造ニ充分ナル技能ヲ有スルノ證明書ヲ付與シタル者
- 三 別ニ定ムル規定ニ依リ試験ヲ受ケ合格シタル者
- 四 本令公布ノ際現ニ作業主任者タル者ニシテ相當ノ技能ヲ有スル者

●汽罐取締令(抄録) 昭和十年四月九日 内務省令第二十號

第四章 汽罐士及汽罐取扱主任者

- 第三十一條 汽罐士免許ヲ受ケタル者(以下單ニ汽罐士ト稱ス)ニ非ザレバ汽罐ノ取扱ニ從事スルコトヲ得ズ但シ汽罐士ノ指揮監督ノ下ニ補助トシテ作業ニ從事スル者ハ此ノ限ニ在ラズ
- 汽罐士免許ヲ分チ一級汽罐士免許及二級汽罐士免許ノ二種トス
- 第三十二條 汽罐士免許ハ汽罐士試験ニ合格シ且一級汽罐士免許ニ在リテハ一年以上、二級汽罐士免許ニ在リテハ六月以上汽罐取扱ノ作

業ニ從事シタル者ニ之ヲ與フ但シ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニハ之ヲ與ヘズ

一、二略

- 三 汽罐士免許ノ取消ヲ受ケ一年ヲ經過セザル者
- 四 其ノ他地方長官ニ於テ不適當ト認ムル者

第三十三條 汽罐士試験ハ左ノ各號ノ科目ニ關シ之ヲ行フ

- 一 汽罐構造(設計及材料ニ關スル事項ヲモ含ム)
- 二 汽罐取扱方法
- 三 燃料及燃焼
- 四 汽罐取締ニ關スル法令

第三十四條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニ付テハ一級汽罐士試験ノ全部又ハ一部ヲ省略スルコトヲ得

- 一 工業學校ニシテ尋常小學校卒業程度ヲ以テ入學資格トスル修業年限五年ノモノ若ハ高等小學校卒業程度ヲ以テ入學資格トスル修業年限三年ノモノ又ハ之ト同等以上ノ學校ニ於テ機械又ハ船用機關ニ關スル學科目ヲ修メ之ヲ卒業シタル者
- 二 前號ト同等以上ノ學識經驗ヲ有スト認メタル者
- 三 二級汽罐士免許ヲ受ケ二年以上汽罐取扱ニ從事シタル者

第十一類 海技免狀 就職仲介

ヲ省略スルコトヲ得

- 一 前項第一號ニ定ムル以外ノ工業學校ニ於テ機械若ハ船用機關ニ關スル學科目ヲ修メ之ヲ卒業シタル者又ハ地方長官ノ指定シタル青年學校ニ於テ汽罐ニ關スル學科目ヲ修メ之ヲ卒業シタル者
- 二 前號ト同等以上ノ學識經驗ヲ有スト認メタル者
- 第三十五條 汽罐士試験ヲ受ケントスル者ハ別記第十五號様式ニ依リ受験地地方長官ニ願出ツベシ
- 汽罐士試験ニ合格シタルトキハ別記第十六號様式ノ汽罐士試験合格證書ヲ交付ス
- 第三十六條 汽罐士免許ヲ受ケントスル者ハ別記第十七號様式ニ依リ前條ノ試験ヲ受ケタル地ノ地方長官ニ申請スベシ
- 地方長官汽罐士免許ヲ與ヘタルトキハ別記第十八號様式ノ汽罐士免許證書ヲ交付ス



第十二類

位勳

褒賞



第十二類 位勳 褒賞

第一款 敘位 敘勳

●位階令

大正十五年十月二十一日  
勅令第三百二十五號

朕位階令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム(總理大臣  
副署)

位階令

第一條 位ハ左ノ十六階トス

- 正一位
- 從一位
- 正二位
- 從二位
- 正三位
- 從三位
- 正四位
- 從四位
- 正五位
- 從五位

第十二類 敘位 敘勳

〔海軍〕

- 正六位
- 從六位
- 正七位
- 從七位
- 正八位
- 從八位

一位ハ親授二位以下四位以上ハ勅授五位以下ハ奏授トス

第二條 位ハ左ニ掲クル者ヲ敘ス

- 一 國家ニ勳功アリ又ハ表彰スヘキ效績アル者
- 二 有爵者及爵ヲ襲クコトヲ得ヘキ相續人
- 三 在官者及在職者

第三條 前條ニ掲クル者死亡シタル場合ニ於テハ特旨ヲ以テ其ノ死亡ノ日ニ遡リ位ヲ追賜スルコトアルヘシ

第四條 故人ニシテ勳績顯著ナル者ニハ特旨ヲ以テ位ヲ贈ルコトアルヘシ

第五條 有位者ハ其ノ位ニ相當スル禮遇ヲ享ク

第六條 有位者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ禮遇ヲ享クルコトヲ得ス



第十二類 敘位 敘勳

一 禁治産者及準禁治産者

二 破産者ニシテ復権ヲ得サルモノ

三 刑事ノ訴ヲ受ケ勾留又ハ保釋若ハ責付中ニ在ル者

四 禁錮以上ノ刑ノ宣告ヲ受ケタル時ヨリ其ノ裁判確定スルニ至ル迄ノ者

第七條 有位者其ノ品位ヲ保ツコト能ハス又ハ其ノ體面ヲ汚辱スル失行アリタルトキハ情狀ニ依リ其ノ禮遇ヲ停止若ハ禁止シ又ハ位ヲ失ハシム

第八條 有位者死刑、懲役又ハ無期若ハ三年以上ノ禁錮ニ處セラレタルトキハ其ノ位ヲ失フ

有位者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ情狀ニ依リ其ノ位ヲ失ハシム

一 刑ノ執行ヲ猶豫セラレタルトキ

二 三年未滿ノ禁錮ニ處セラレタルトキ

三 懲戒ノ裁判又ハ處分ニ依リ免官又ハ免職セラレタルトキ

第九條 有位者國籍ヲ喪失シタルトキハ其ノ位ヲ失フ

第十條 有爵者又ハ其ノ家族華族令又ハ朝鮮貴族令ニ依リ禮遇ヲ停止又ハ禁止セラレタルトキハ其ノ位ニ屬スル禮遇ヲ停止

●位階令施行細則

大正十五年十月二十一日  
附令第六號

位階令施行細則左ノ通定ム

位階令施行細則

第一條 裁判所(軍法會議及領事裁判權)有スル領事官ヲ含ム)

左ノ各號ノ一ニ該當スル裁判ヲ爲シタル場合ニ於テ之ヲ受ケタル者カ有位者ナルコトヲ知り得タルトキハ遲滯ナク其ノ旨宮内大臣ニ報告スヘシ

一 禁治産又ハ準禁治産ノ宣告

二 禁治産又ハ準禁治産ノ宣告ノ取消

三 破産ノ宣告

四 破産者ニ對スル復権

第二條 裁判所(軍法會議及領事裁判權)有スル領事官ヲ含ム)

被告人ヲ勾留シタル場合ニ於テ勾留セラレタル者カ有位者ナルコトヲ知り得タルトキハ遲滯ナク其ノ旨宮内大臣ニ報告スヘシ勾留ヲ取消シ又ハ勾留ノ效力消滅シタルトキ亦同シ

第三條 裁判所(軍法會議、領事裁判權)有スル領事官及犯罪即決官廳ヲ含ム以下之ニ同シ)禁錮以上ノ刑ノ言渡ヲ爲シタ

第十二類 敘位 敘勳

又ハ禁止ス

第十一條 有爵者華族令又ハ朝鮮貴族令ニ依リ爵ヲ返上シタルトキハ其ノ位ヲ失フ

第十二條 有位者其ノ品位ヲ保ツコト能ハサルトキハ位ノ返上ヲ請願スルコトヲ得

前項ノ請願ハ有爵者ニ在リテハ爵ノ返上ノ請願ト共ニスルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第十三條 本令ハ皇族、王族及公族ニ之ヲ適用セス

附則

敘位條例ハ之ヲ廢止ス

〔海軍〕

ル場合ニ於テ之ヲ受ケタル者カ有位者ナルコトヲ知り得タルトキハ刑ノ言渡確定シタル場合ヲ除キ遲滯ナク其ノ旨宮内大臣ニ報告スヘシ禁錮以上ノ刑ノ言渡ヲ受ケタル者ニ對シ無罪、免訴、刑ノ免除、公訴棄却又ハ罰金以下ノ刑ノ言渡ヲ爲シタルトキ亦同シ

前項ノ規定ニ依リ報告シタル有位者ニ對シ刑ノ言渡確定前大赦又ハ刑ノ言渡ノ效力ヲ失ハシムル特赦アリタルトキハ刑ノ言渡ヲ爲シタル裁判所ノ檢察官、領事官及犯罪即決官廳ヲ含ム以下之ニ同シ)ハ遲滯ナク其ノ旨宮内大臣ニ報告スヘシ

第四條 位階令第八條第一項又ハ同條第二項第一號若ハ第二號ノ場合ニ於テハ確定裁判(即決處分ヲ含ム以下之ニ同シ)ヲ爲シタル裁判所ハ遲滯ナク判決(即決ノ言渡書ヲ含ム)ノ謄本又ハ抄本ヲ添へ別記書式ニ依リ内閣總理大臣ニ報告スヘシ

第五條 位階令第八條第二項第三號ノ場合ニ於テハ確定懲戒裁判ヲ爲シタル懲戒裁判所ノ長官若ハ檢察官又ハ懲戒懲罰ノ處分ヲ爲シタル官廳ハ遲滯ナク判決ノ謄本又ハ懲戒懲罰事由明細書ヲ添へ別記書式ニ準シ内閣總理大臣ニ報告スヘシ



**第六條** 位階令第八條第一項ノ規定ニ該當スル者ヲ除クノ外第四條又ハ前條ノ規定ニ依リ報告シタル有位者ニ對シ失位ニ關スル決定前大赦、刑ノ言渡ノ效力ヲ失ハシムル特赦又ハ懲戒若ハ懲罰ノ免除アリタルトキハ確定裁判ヲ爲シタル裁判所ノ檢事、確定懲戒裁判ヲ爲シタル懲戒裁判所ノ長官若ハ檢察官又ハ懲戒懲罰ノ處分ヲ爲シタル官廳ハ遲滯ナク其ノ旨内閣總理大臣ニ報告スヘシ

**第七條** 市町村長(之ニ準シ戶籍事務ヲ管掌スル者ヲ含ム)國籍喪失ノ届出ヲ受理シタル場合ニ於テ國籍喪失者カ有位者ナルコトヲ知り得タルトキハ遲滯ナク其ノ旨内閣總理大臣ニ報告スヘシ

**第八條** 有位者位階令第七條乃至第九條又ハ第十一條ノ規定ニ依リ其ノ位ヲ失ヒタルトキハ位記ヲ返上スヘシ  
前項ノ規定ニ依リ返上スヘキ位記ハ宮内大臣ノ囑託ニ依リ失位者ノ現住所地ヲ管轄スル地方官廳(朝鮮、臺灣、關東州、樺太及南洋群島ニ於ケル地方官廳ヲ含ム)之ヲ回收シ宗秩寮總裁ニ送付スヘシ

**第九條** 位階令第十二條ノ規定ニ依リ位ノ返上ヲ請願スル有位

者ハ願書ニ返上ノ理由ヲ具シ位記ヲ添ヘ内閣總理大臣ニ提出スヘシ

**第十條** 有位者カ有爵者若ハ爵ヲ襲クコトヲ得ヘキ相續人又ハ宮内職員ナルトキハ本令ニ依リ内閣總理大臣ニ爲スヘキ報告又ハ願書提出ハ之ヲ宮内大臣ニ爲スヘシ

**第十一條** 有位者死亡シタルトキハ家督相續人、戸主又ハ家族ヨリ、氏名ヲ變更シタルトキハ本人ヨリ速ニ其ノ旨宗秩寮總裁ニ届出ツヘシ

附則  
敘位條例施行細則ハ之ヲ廢止ス

(別記)  
書式

一 罪名	本籍	現住所	位勳功爵氏	名	生年月日
一 刑名					

[海軍]

一 刑期

一 裁判確定又ハ即決ノ言渡確定ノ年月日

一 犯罪ノ情狀其ノ他參考ト爲ルヘキ事項

一 位ヲ賜リタル當時ノ職業及年月日

一 記章、褒章又ハ外國ノ勳章若ハ記章ヲ有スル者ナルトキハ其ノ種類

右位階令施行細則ニ依リ及報告候

年 月 日

官職氏	名印
内閣總理大臣(宮内大臣)宛	

●有位者ニシテ其ノ體面ヲ汚辱スル等ノ行爲ヲ爲シ位記ヲ返上セシムヘキモノト認メタルトキ具申方

大正十五年十二月二日  
官房第三六七五號

位階令第七條ニ該當スル有位者アル場合ニ於テハ其ノ品位ヲ保ツコト能ハサル事情又ハ體面ヲ汚辱スル行爲ヲ詳細ニ具シ所屬長官ヨリ遲滯ナク内閣總理大臣(有爵者又ハ爵ヲ襲クコトヲ得

第十二類 敘位 敘勳

[海軍]

(ヘキ相續人ナルトキハ宮内大臣)及海軍大臣ニ報告スヘシ  
明治三十四年海總第七八〇號ノ三及同海總第七八〇號ノ四ハ之ヲ廢止ス

●位階令並位階令施行細則ノ施行ニ

關スル件

大正十五年十二月二日  
官房第三六七五號ノ二

(海軍次官ヨリ關係各局長宛)

位階令並位階令施行細則ノ施行ニ關スル件

十月二十一日官報號外ヲ以テ公布セラレタル位階令並位階令施行細則ハ十一月十日ヨリ施行セラレ候ニ就テハ今回内閣書記官長ヨリ通牒ノ次第モ有之其ノ施行上萬遺漏ナキヲ期シ殊ニ位階令施行細則ニ規定シタル諸報告等ノ事務ニ付テハ特ニ御留意相成度  
右依命通牒ス  
(別紙)

大正十五年十一月三日閣甲第一六二號 (内閣書記官長ヨリ海軍次官宛)

位階令並位階令施行細則ノ施行ニ關スル件

客月二十一日官報號外ヲ以テ公布セラレ候位階令並位階令施行



細則本月十日ヨリ施行セラレ候ニ就テハ豫メ左記事項及貴廳關係事項ニ關シ特ニ御留意相成度「尙貴管下關係各廳ヘモ此ノ旨篤ト御示達相成候様致度」依命此段及通牒候

記

- 一、位階令並位階令施行細則ノ施行上萬遺漏ナキヲ期スルコト
- 殊ニ位階令施行細則ニ規定シタル諸報告等ノ事務ニ付テハ特ニ遺漏ナキ様注意セラレタキコト
- 二、位階令第七條ニ該當スル有位者アル場合ニ於テハ其ノ品位ヲ保ツコト能ハサル事情又ハ體面ヲ汚辱スル行爲ヲ詳細ニ具シ遲滯ナク内閣總理大臣ニ報告スルコト但シ有爵者又ハ爵ヲ襲クコトヲ得ヘキ相續人ナルトキハ之ヲ宮内大臣ニ報告スルコト

●海軍高等官敘位具申手續

大正七年九月六日 達第百五十三號

改正 大正一〇年第一五〇號

海軍高等官敘位具申手續左ノ通定ム

海軍高等官敘位具申手續

第一條 所轄長ハ部下海軍高等官ニシテ文武官敘位進階内則

以下單ニ内 第二條第二項及第三條ノ規定ニ依リ敘位至當ト認

- 勅任官同待遇以上及内則第二條第一項ノ規定ニ依ル初叙又ハ進級ニ因ル相當位ハ具申ヲ要セス但シ進級ノ際待命中心ニシテ未タ相當位ニ叙セラレサル者就職シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス
- 第二條 内則第四條第一項第一號ノ規定ニ依ル特旨敘位ハ時機ヲ失セス速ニ電報又ハ電話ヲ以テ具申スヘシ
- 内則第四條ノ二ノ規定ニ依ル特旨敘位ハ本人死亡後速ニ前項ト同様ノ手續ヲ爲スヘシ但シ此ノ場合ニハ具申ノ際死亡日ヲ明示スルヲ要ス
- 内則第四條第一項第二號第三號ノ規定ニ依ル特旨敘位ハ具申ヲ要セス

第三條 所轄長ハ敘位資格ニ付テハ規定ノ年數ニ達シアルモ勤

務成績不良又ハ其ノ他ノ事由ニ依リ敘位具申ヲ爲ササル者アルトキハ速ニ其ノ事情ヲ海軍省人事局長ニ通牒スヘシ

第四條 敘位具申書ハ別紙様式ニ據ルヘシ

第五條 所轄長ハ敘位具申後其ノ敘賜以前ニ官勤功氏名ノ異動

又ハ内則第九條ノ規定ニ依ル懲戒刑罰並其ノ他ノ不正行爲生死不明若ハ死亡等ノ事故發生セハ其ノ旨速ニ所屬長官並海軍大臣ニ電報スヘシ

第六條 敘位具申後敘賜以前ニ於テ轉動シタル者アルトキハ舊所轄長ハ敘位具申中ノ旨ヲ新所轄長ニ通報スヘシ

年月日

所轄長 爵氏

海軍大臣 爵氏

名印

敘位ノ件

左記ノ者前叙以來規定ノ年限ヲ經過シ勤勞不尠進階至當ト認ム

海軍高等武官(文官)進階

現叙位	進階資格	檢現官拜命除算日數	在職年數	官位	勤功	爵氏名
年月日	發生年月日	年月日	年月日	及事由		

備考 一、履歷書添付ヲ要セス

第十二類 敘位 敘勳

●海軍高等官敘勳具申手續

大正七年九月六日 達第百五十四號

改正 大正八年第二二五號、第一九二號、一〇年第一五一號、昭和四年第二三號、九年第一一號

海軍高等官敘勳具申手續左ノ通定ム

海軍高等官敘勳具申手續

第一條 所轄長ハ毎月二十五日部下海軍高等官ニシテ翌月末日迄ニ敘勳年限年ニ達シ敘勳至當ト認ムル者ヲ調査シ翌月五日迄ニ海軍大臣ニ進達スヘシ勅任官同待遇以上ノ敘勳具申ハ之ヲ要セス

第二條 敘勳内則第十七條ニ依ル敘勳具申書ニハ其ノ勤功顯著ニシテ敘勳ヲ要スル確實ナル理由ヲ詳述シ順序ヲ經テ之ヲ海軍大臣ニ進達スヘシ

第三條 敘勳内則第十九條第一項ニ依ル敘勳ノ具申書ハ書式第一ニ依ルヘシ



第十二類 敘位 敘勳

前項ノ敘勳具申書ニハ書式第二ノ人名簿ヲ添付スヘシ

第四條 第三條ノ敘勳具申書ニ添付スヘキ人名簿ハ進級及初級ニ區分シ進級ノ者ハ勳等順ニ、初級ノ者ハ官等順ニ記載スヘシ

第五條 敘勳具申後叙賜以前ニ於テ官位氏名ノ異動又ハ死亡其ノ他敘勳スヘカラサル事故ヲ生シタル者アルトキハ速ニ其ノ事由ヲ海軍大臣ニ電報スヘシ

前項ノ報告ニハ官名及有勳者ナルトキハ其ノ勳等ヲ記載スヘシ

第六條 所轄長ハ敘勳資格ニ付テハ既ニ定限ニ達シアルモ勤務成績不良、刑罰上ノ責任調査中又ハ其ノ他ノ事由ニ依リ敘勳具申ヲ爲ササル者アルトキハ速ニ其ノ事情ヲ海軍省人事局長ヘ通牒スヘシ

第七條 待命、名譽進級者又ハ文官ニシテ官等陞叙ト同時ニ退職スル者ニシテ在職中勤務成績アリ且既ニ敘勳定限年數ニ達セル者ノ敘勳取扱ハ敘勳内則第二十條ヲ準用シ本手續第二條ノ具申ヲ行フヘシ

第八條 敘勳具申後叙賜以前ニ於テ轉動シタル者アルトキハ舊

所轄長ハ敘勳具申中ノ旨ヲ新所轄長ニ通報スヘシ  
書式第一(用紙美濃罌紙)

年月日

所轄長 爵氏 名印  
海軍大臣 爵氏 名宛  
官氏名外何名儀敘勳(出身)以來常ニ職務ニ精勵シ勳勞不尠敘勳至當ト認ム

右具申ス

書式第二(用紙美濃罌紙)

進級人名簿(初級人名簿)

擬叙後叙勳除算在職年數	從軍年數	勤務年數	勳記番號	官位勳功爵氏名
動等定限日數	加算	減算		

○記註心得

- 一、勳等ノ異ナル者ハ勳等順ニ列記シ勳等ノ同シキ者ハ官等順ニ列記スヘシ
- 二、在職年數(除算日數ヲ減算日數ヲ控除シタルモノ)及從軍年加算ハ規定ニ依リ通算シタルモノヲ記入シ其ノ合計ヲ勤務年數欄ニ記載スヘシ
- 三、履歷書添付ヲ要セス

●海軍特務士官准士官下士官敘位敘勳具申手續

大正元年十一月二十八日 連第六十三號

改正 大正三年第一四七號、七年第一五五號、第一六〇號、八年第一二六號、第一九三號、一〇年第二五號、第一五二號、昭和六年第四五號、九年第一二號

海軍特務士官准士官下士官敘位敘勳具申手續左ノ通定ム

海軍特務士官准士官下士官敘位敘勳具申手續

第一條 所轄長ハ部下特務士官、准士官、下士官ニシテ敘位至當ト認ムル者アルトキハ其ノ敘位定限年ニ達スル日ノ十五日以前迄ニ履歷書(特務士官ニアリテハ履歷書ノ添付ヲ要セス)ヲ添へ在籍鎮守府司令長官ニ具申第一式ニ在籍鎮守府司令長官ハ敘位至當ト認メタルトキハ之ヲ海軍大臣ニ進達スヘシ

新ニ特務士官ニ任用セラレタル者ニシテ其ノ初叙相當位ニ敘セラレントスル場合ニ限り前項ノ具申ヲ要セス

第二條 所轄長ハ毎月十日部下特務士官准士官下士官ニシテ翌月末日迄ニ敘勳定限年ニ達スヘキ者ヲ調査シ敘勳至當ト認ムルトキハ履歷書(書式第五又ハ第六)ヲ添へ其ノ月二十五日迄ニ在籍鎮守府司令長官ニ具申第三式ニ在籍鎮守府司令長官ハ敘勳至當ト認

第十二類 敘位 敘勳

メタルトキハ進級人名簿(初級人名簿)書式ヲ添へ翌月五日迄ニ海軍大臣ニ進達スヘシ

第三條 現役ヲ退キタルトキ特ニ任用又ハ進級シタル特務士官准士官下士官ニシテ職務精勵成績アル者其ノ上級ノ官等ニ任用又ハ進級ノ爲勳等進級又ハ初級ノ資格ヲ生シタル場合ニハ人事部長ハ前條ニ準シ敘勳内則第二十條ニ依リ其ノ際敘勳具申ノ手續ヲ行フヘシ

第四條 敘位、敘勳具申後叙賜以前ニ於テ特務士官、准士官、下士官ノ所轄ニ異動ヲ生シタルトキハ舊所轄長ハ敘位又ハ敘勳具申中ノ旨ヲ新所轄長ニ通報スヘシ

第五條 所轄長ハ敘位、敘勳具申後叙賜以前ニ於テ任用、進級、改氏名、免官又ハ死亡ノ者アルトキ及刑、罰其ノ他敘位敘勳スヘカラサル事由ノ生シタル者アルトキハ速ニ之ヲ在籍鎮守府ノ人事部長ニ電報シ人事部長ハ之ヲ海軍省人事局長ニ電報スヘシ

第一條第二項ノ場合ニ於テ改氏名、免官又ハ死亡ノ者アルトキ及刑、罰其ノ他敘位スヘカラサル理由ノ生シタルトキ亦前項ニ同シ



第十二類 敘位 敘勳

第六條 削除

第七條 所轄長ハ敘勳資格ニ付テハ既ニ定限ニ達シアルモ勤務成績不良、刑罰上ノ責任調査中又ハ其ノ他ノ事由ニ依リ敘勳

具申ヲ爲ササル者アルトキハ速ニ其ノ事情ヲ在籍鎮守府ノ人事部長ヘ通報スヘシ  
第八條 削除

書式第一(用紙美濃罫紙)  
年 月 日

鎮守府司令長官 爵氏 名 宛

敘位ノ件

所轄長 爵氏 名印

左記ノ者ハ海軍下士官任官(從七位ニ敘セラレタル)以來十五年(五年)ヲ經過シ勤勞不尠敘位(進階)至當ト認ム  
右具申ス

(特務士官、准士官、下士官ノ初叙又ハ進階ノトキ)

下士官初任年月日 (現敘位年月日)	敘位(進階)資格 發生年月日	除算日數	在職年數	官位	勳功	氏名
----------------------	-------------------	------	------	----	----	----

(特務士官進階ノトキ)

現敘位年月日	進階資格 發生年月日	判任官中 除算日數	判任官在職 年數ノ半數	現官拜命 年月日	除算 日數	高等官 在職年數	通算在職年數	官位 勳功 氏名
--------	---------------	--------------	----------------	-------------	----------	-------------	--------	----------

○記註心得

一 在職年數ハ進階資格發生期日迄規定ニ依リ計算セル勤務日數ニシテ除算日數ヲ含ムヲ控除シタルモノトス

(終)

(別紙履歷書何通添)

書式第二(敘位具申ニ添  
用紙美濃罫紙)

履 歷 書

官 位 勳 功 氏 名

改 氏 年 月 日 生 名  
名朱(敘位後改氏)  
書(名ノ場合)

明治 何年	何月 何日	任海軍三等兵曹
	何月 何日	清國ト開戦
	何月 何日	何地發戰役ニ從事
	何月 何日	何地歸著
何年	何月 何日	明治二十七八年戰役ノ功ニ依リ勳八等瑞寶章及金五十四圓ヲ授ケ賜フ
何年	何月 何日	明治二十七八年從軍記章授與
何年	何月 何日	任海軍二等兵曹
何年	何月 何日	允許上陸ノ末歸期ヲ失シタル科ニ依リ禁足三日ニ處ス書朱
何年	何月 何日	敘勳七等授瑞寶章
何年	何月 何日	任海軍一等兵曹
何年	何月 何日	

在 職 年 數

第十二類 敘位 敘勳



第十二類 敘位 敘勳

○記註心得

履歷書ニ記載スヘキ事項概テ左ノ如シ

一 任官、敘位、敘勳、賞典、刑罰、罰金、罰金、休職、停職、就職、退職、就職、休職又ハ停職ヨリ就職シ、從軍記章、官等改正、從軍中ノ主ナル事項、改氏名、

二 初敘セラレントスル者ニ在リテハ下士官任用以後ノ事項ヲ記シ進階セラレントスル者ニ在リテハ初メニ前敘位當時ノ官名ヲ記シ次ニ前敘位後ノ事項ヲ記スヘシ

書式第三(用紙美濃野紙)

年 月 日

鎮守府司令長官 爵氏 名宛

敘勳ノ件

所轄長 爵氏

名宛

官氏名外何名儀敘勳(海軍出身)以來常ニ職務ニ精勵シ勳勞不尠敘勳至當ト認ム  
右具申ス

(別紙履歷書何通添)

書式第四敘勳具申ニ添(用紙美濃野紙)

進敘人名簿(初敘人名簿)

何 鎮守府

動限	年	月	日	番	號	官位	勳功	氏名
定	動	務	勤	記	記	勳	氏	名
年	年	月	日	番	號	官位	勳功	氏名

○記註心得 勳等ノ異ナル者ハ勳等順ニ列記シ勳等ノ同シキ者ハ官等(兵種)順ニ列記スヘシ

(海軍)

(海軍)

書式第五勳等初敘具申ニ添(用紙美濃野紙)

履 歷 書

官 位 氏 名

生 年 月 日

族 籍 何縣士族(平民)  
現住所 何府縣何郡市町村大字番地(軍艦何、何學校、何海兵團等)

年 號	月 日	任 免 賞 罰 等	資 格	在 職 年 數	通 算
明治三十四年	六月一日	海軍五等水兵	兵		
	十一月十五日	海軍四等水兵			
	六月一日	海軍三等水兵		四年十一月	判任ノ半數
	四月十五日	海軍二等水兵			二年五月半
	四月十五日	海軍一等水兵			
	四月三十日	海軍三等兵曹	判任		
	五月一日	海軍二等兵曹			
	十一月一日	海軍一等兵曹			
	八月十日	禁足二十日		五年 內三ヶ月減 殘四年九ヶ月	四年九ヶ月
	十一月一日	海軍一等兵曹			
	四月三十日	海軍一等兵曹	二等		

第十二類 敘位 敘勳

三六九

三六八



第十二類 敘位 敘勳

明治三十五年	一月二十日	加算	軍艦何ニテ清國警備	兵	一年	判任ノ半數 六ヶ月
同 三十六年	十月五日		軍艦何ニテ韓國回航	同	六ヶ月	同
同 三十七年	九月十六日		軍艦何ニテ日露戰役ニ從事	同	四年	同
同 三十八年	五月十日		軍艦何ニテ清國警備	判任	一年	二年
同 四十年	八月十五日		旅順海軍港務部勤務	同	一年	一年
同 四十一年	七月二十日			同	一年	一年
明治四十二年	八月十日	允許上陸ノ末撞ニ職役ヲ離タル科禁足三日				計四年九ヶ月 合計十一年十一ヶ月半

○記註心得

- 一、任免、賞罰等ノ欄ニハ兵ノ等級、任官、敘位及ヒ減算事項ヲ記スヘシ
- 二、加算ノ欄ニハ勤務歴及加算事項ヲ記スヘシ
- 三、同一ノ任務ヲ以テ同一方面ニ數次航海スルモノハ航海年ノ始終期ニ關係ナキモノニ限リ一一掲載スルヲ要セス(從軍年始終期ニ依リ最初ノ出發ト最後ノ歸著トヲ記スヘシ)
- 四、備考ニハ官階改稱、刑罰事項等ヲ記スヘシ

書式第六 勳等進級具申ニ添ユヘキモノ(用紙美濃算紙)

履 歴 書

官 位 動 氏

名 (敘勳後改氏)  
名ノ場合  
生 年 月 日

旭(瑞)第何號(現勳等ニ對ス)

族 籍 何縣士族(平民) 新舊異ナリタルトキハ舊族籍ヲモ記載スヘシ  
現住所 何府縣何郡市町村大字番地(軍艦何、何學校、何海兵團等)

年 號	月 日	任 免 賞 罰 等	資 格	在 職 年 數	通 算
明治三十九年	四月一日	海軍一等水兵	兵	一年一ヶ月	判任ノ半數 六ヶ月半
同 四十年	四月三十日	勳八等白色桐葉章(戰功)			
同 四十二年	五月一日	海軍三等兵曹	判任		
同 四十四年	五月一日	海軍二等兵曹	同	五年	五年
同 四十五年	四月三十日	海軍一等兵曹	二等		計五年六ヶ月半
明治三十九年	五月二十八日	加算	兵	一年	判任ノ半數 六ヶ月

第十二類 敘位 敘勳







同	四十四年	七月二十三日	就職	八等	三年三ヶ月半	三年三ヶ月半
同	四十四年	十月三十一日				計六年七ヶ月
明治三十九年	五月三十日	加算				奏任ノ半數 六ヶ月
同	七月二十二日	軍艦吾妻ニテ韓國警備	判任	一年		
同	八月二十二日	同艦ニテ韓國回航	同	六ヶ月		
同	十一月三十日	同	奏任	六ヶ月		
同	八月十一日	軍艦日進ニテ清國警備	同	一年		
同	五月十一日	軍艦阿蘇ニテ清國警備	同	一年		
同	六月三日	命令ヲ誤リ傳ヘタル科ニ依リ謹慎二十日未				合計九年七ヶ月
備考						

○記註心得書式第六(例一)ニ同シ

● 叙位叙勳具申ニ關スル件

大正八年九月二日  
海人第七八號

(海軍省人事局長ヨリ各艦長宛)

叙位叙勳具申ニ關スル件  
准士官以上ニシテ特ニ命ヲ受ケ服務スル者ニ對スル叙位叙勳ノ具申ハ履歷書副本ヲ保管スル勤務廳長ニ於テ取扱ヒ相成度右依命申進ス

● 判任文官並同待遇者叙位ニ關スル件

大正八年六月六日  
官房第二〇二一號

改正 大正一〇年第五八二號

判任文官並同待遇者叙位ニ關スル件  
判任文官ニシテ叙位上申後叙賜以前ニ於テ免官又ハ休職ト爲スヘキ者アルトキハ海軍文官身上取扱規則第四條又ハ第八條第一項ノ具申ヲ爲スニ當リ當人ハ叙位上申中ノ旨附記相成度右申進ス

● 所轄長部下判任文官叙位叙勳取扱

大正四年三月一日  
達第二十五號

改正 大正七年第一五六號、八年第一二號、一〇年第二四號

所轄長ハ部下判任文官叙勳ニ在リテハニシテ叙位叙勳至當ト認ムルモノヲ調査シ海軍特務士官准士官下士官叙位叙勳具申手續ニ準シ取扱フヘシ  
本達ハ大正四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス



勳章(旭日章)從軍記章制定

明治八年四月十日  
太政官布告第五十四號

改正 明治九年第一四一號

今般勳章別冊ノ通被定候條此旨布告候事

(別冊)

(△印版書字)

朕惟フニ凡ソ國家ニ功ヲ立テ績ヲ顯ス者宜ク之ヲ褒賞シ以テ之ニ酬ユヘシ仍テ勳等賞牌ノ典ヲ定メ人々ヲシテ寵異表彰スル所アルヲ知ラシメントス汝有司其斯旨ヲ體セヨ

△明治八年二月

勳等勳章

勳等ハ勳績及功勞アル者ヲ賞スル爲メニ設クル所ノ階級ニシテ位階ト異ナル故ニ各種ノ勳章ヲ佩用セシム  
勳等ヲ分ツテ八級ト爲ス

勳一等

右ニ敍スル者ハ一等勳章ヲ賜フ

勳二等

右ニ敍スル者ハ二等勳章ヲ賜フ

第十二類 敍位 敍勳

(海軍)

勳三等

右ニ敍スル者ハ三等勳章ヲ賜フ

勳四等

右ニ敍スル者ハ四等勳章ヲ賜フ

勳五等

右ニ敍スル者ハ五等勳章ヲ賜フ

勳六等

右ニ敍スル者ハ六等勳章ヲ賜フ

勳七等

右ニ敍スル者ハ七等勳章ヲ賜フ

勳八等

右ニ敍スル者ハ八等勳章ヲ賜フ

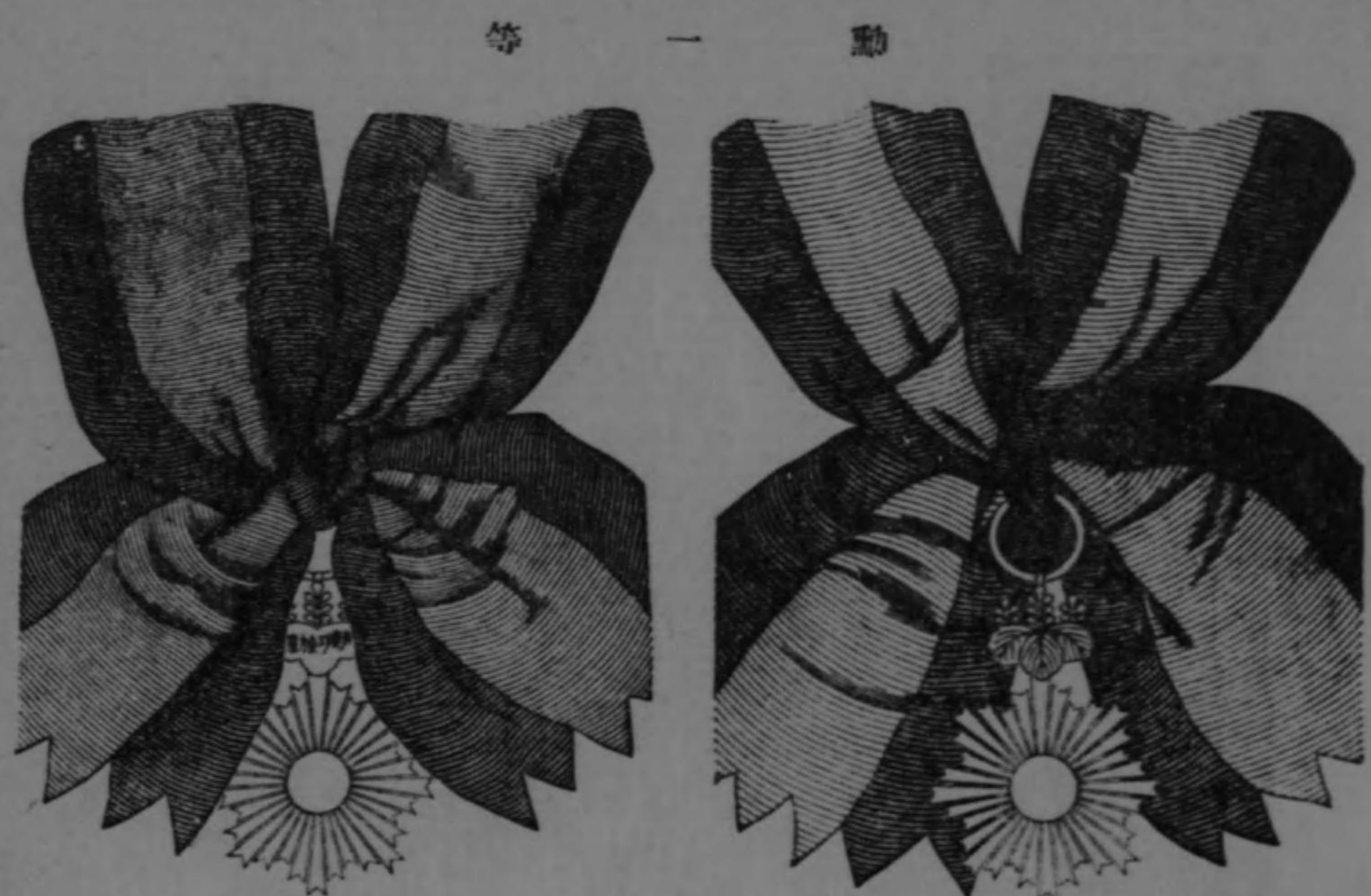
從軍記章

從軍記章ハ將卒ノ別ナク軍功ノ有無ヲ論セス凱旋ノ後從軍セシ徵ニ之ヲ賜フ

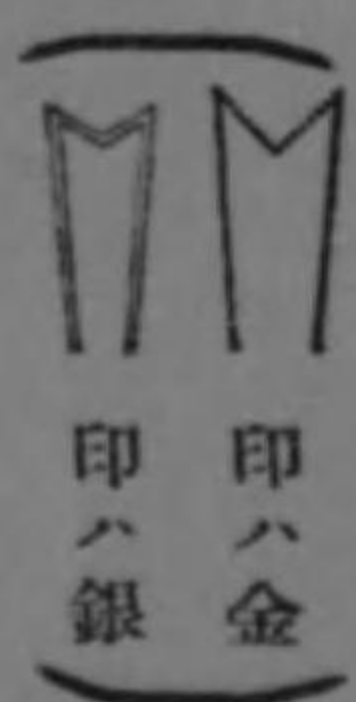
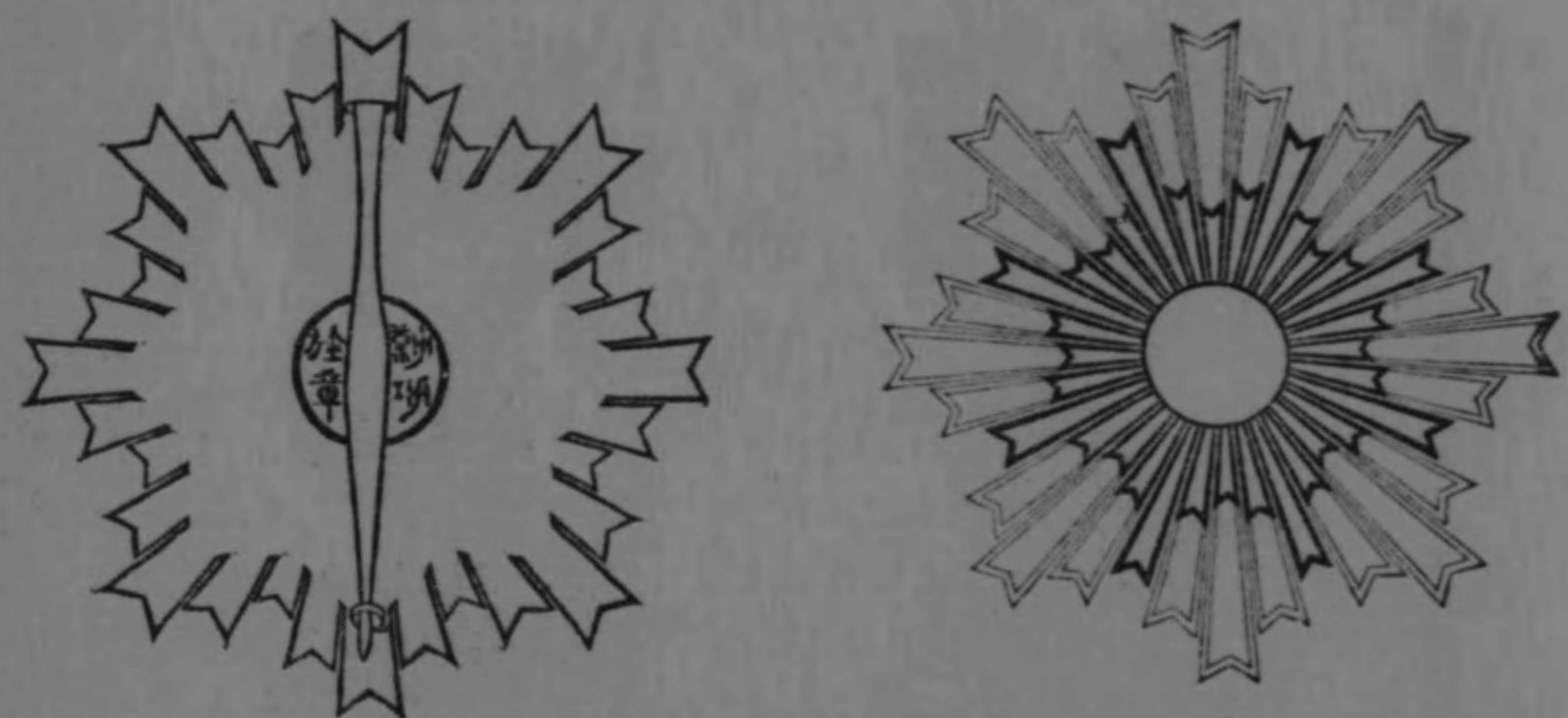
一 勳章及從軍記章ハ佩用本人ニ止リ子孫之ヲ用ユルヲ得ス

勳章佩用式(明治二十一年勅令第七十六號ニ依リ消滅)  
從軍記章



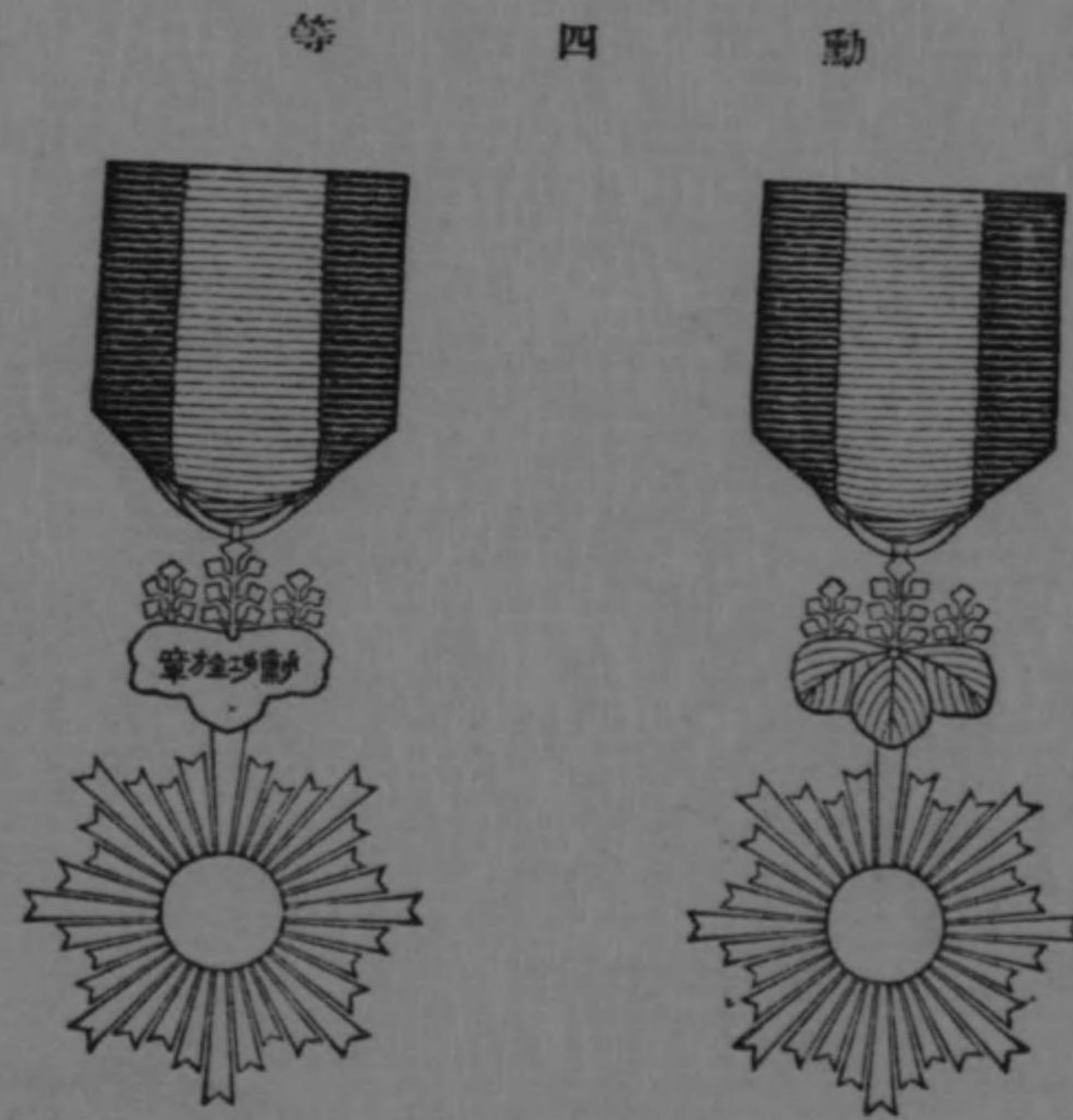
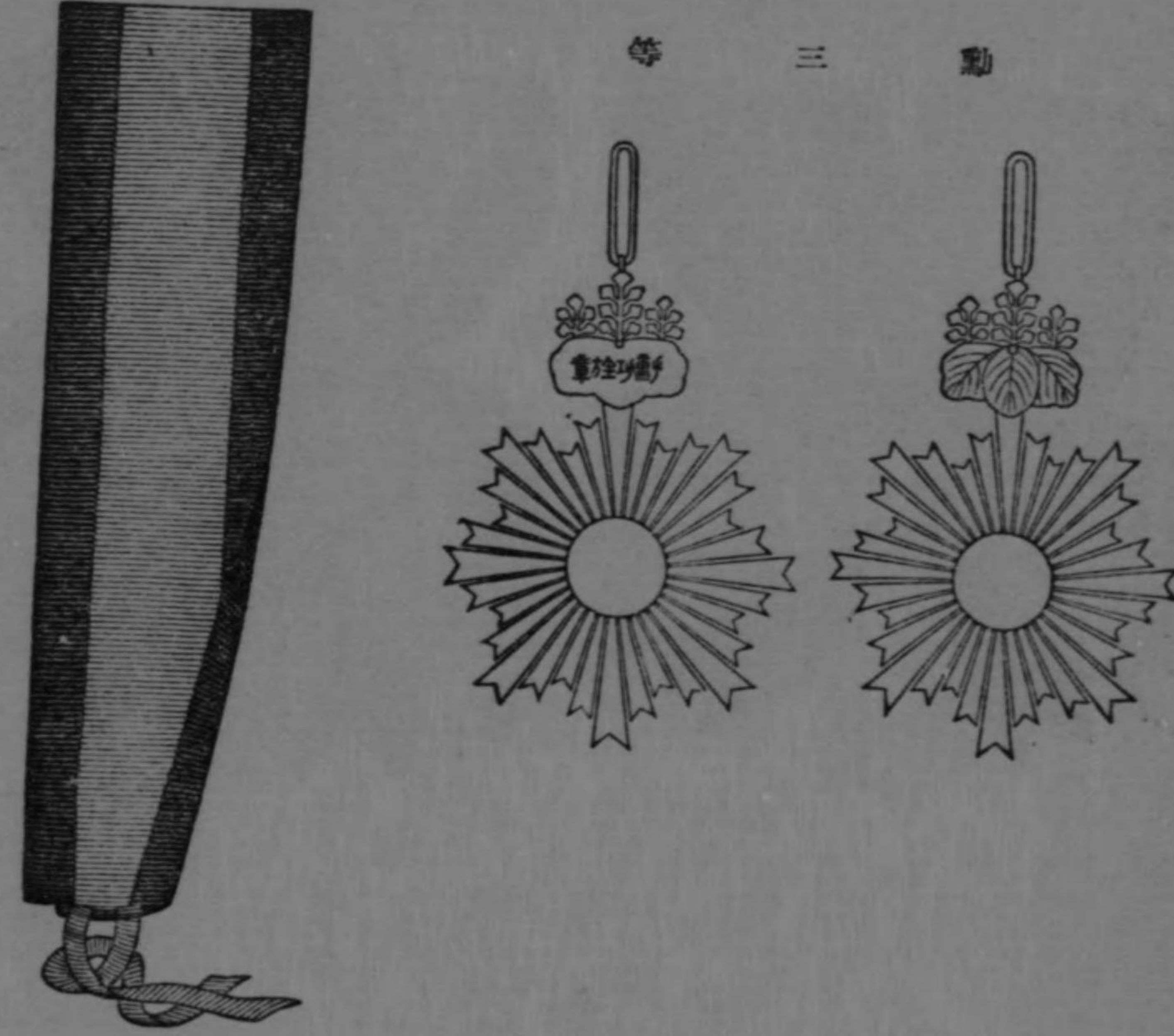
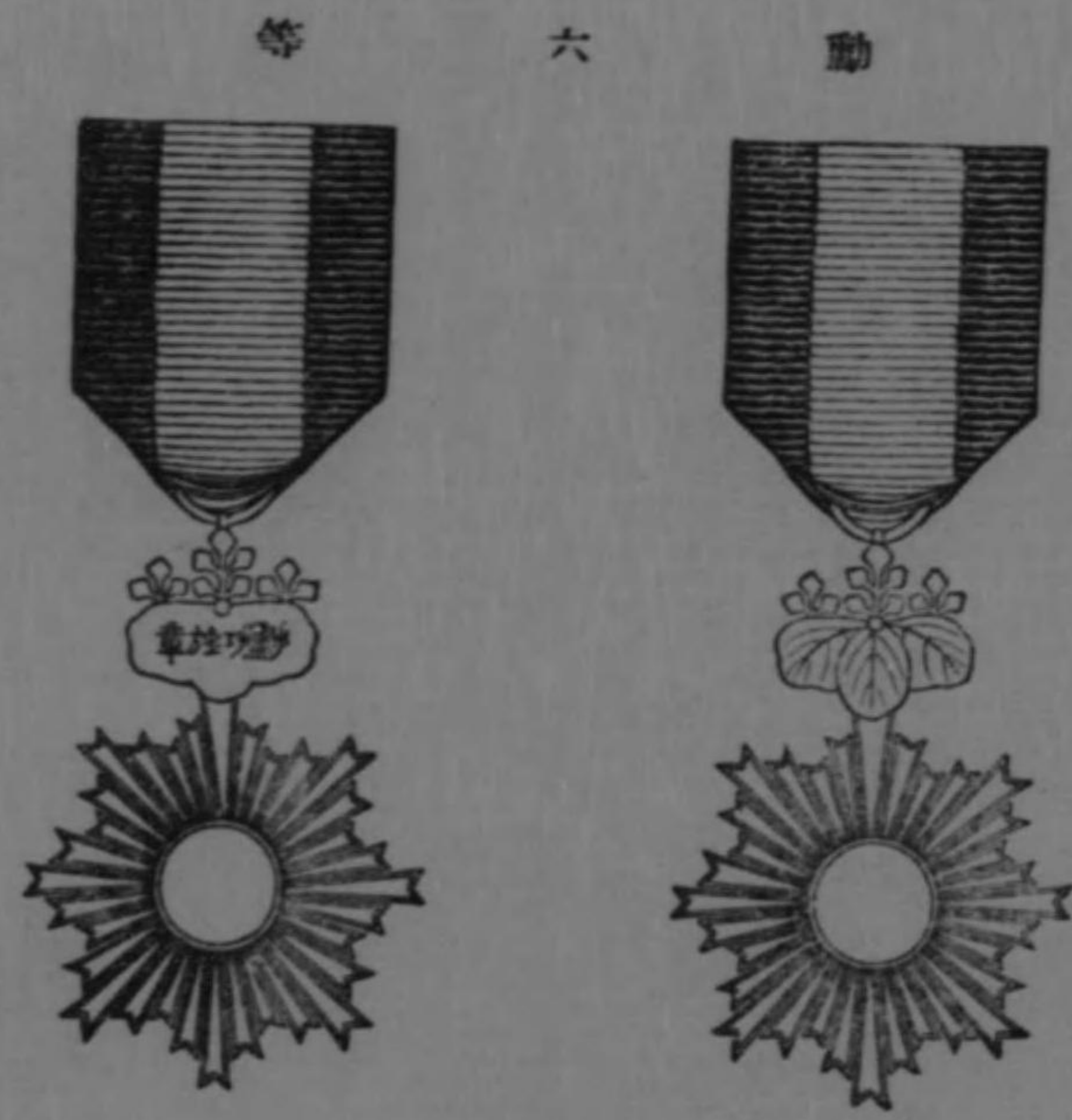
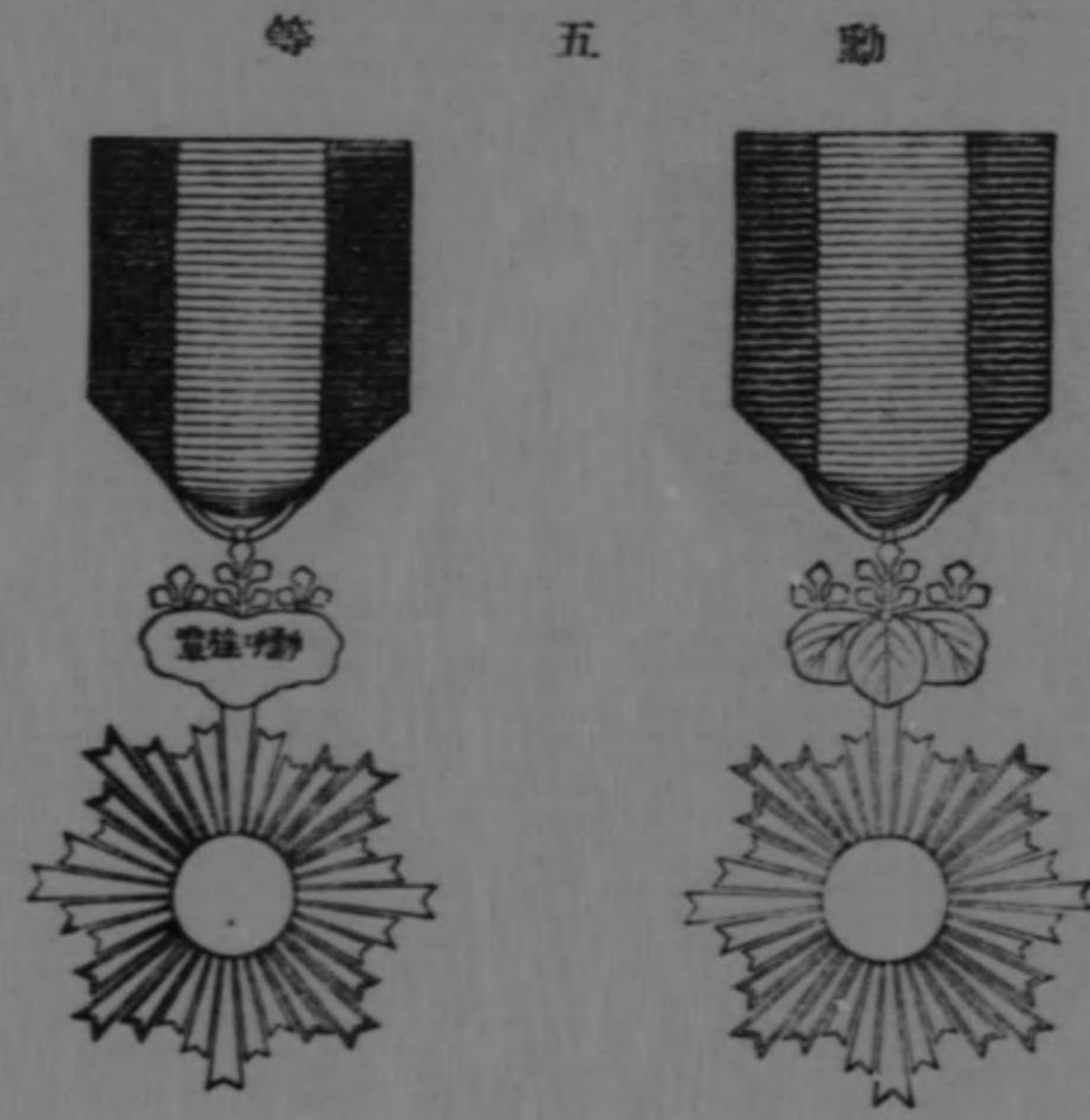


第一等



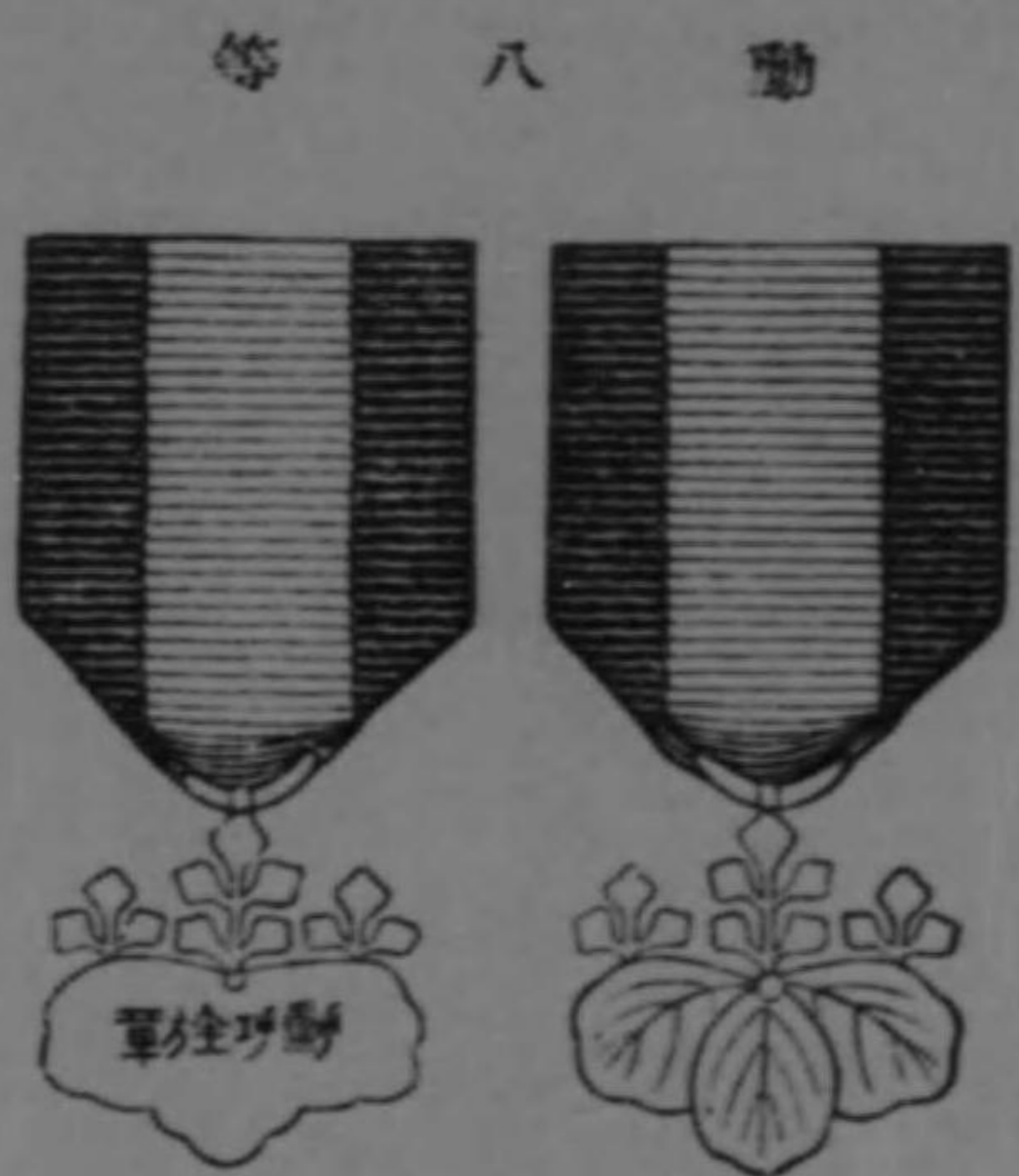
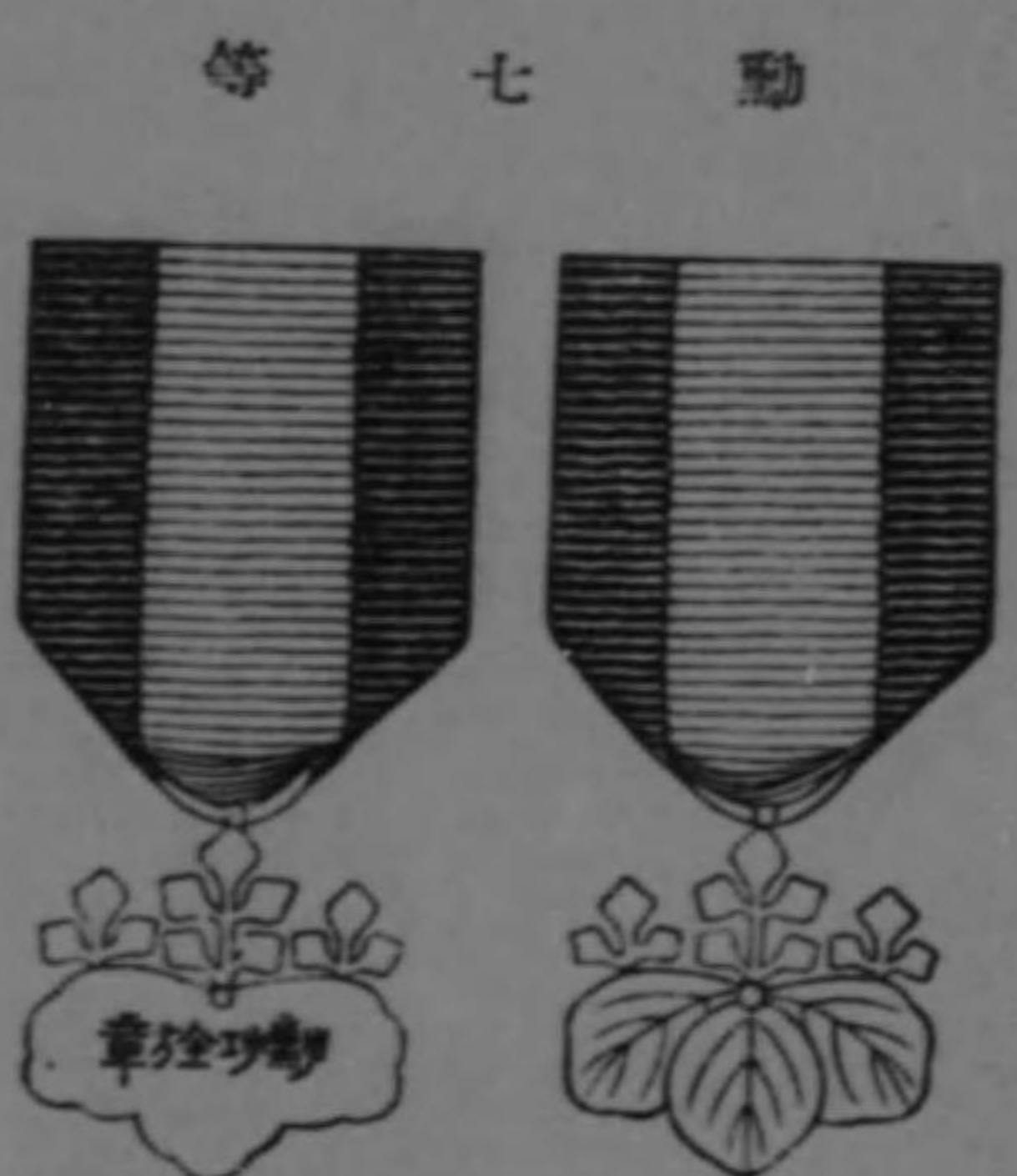
章	鈕	環	授	章	鈕	環	授	章	鈕	環	授
勳一等	金日章徑二寸五分 光線白佛荊笹	金五七桐	花紫佛荊笹 葉綠佛荊笹	勳一等	金銀日章徑二寸五分 光線白佛荊笹	金五三桐	花紫佛荊笹 葉綠佛荊笹	勳二等	金日章徑三寸 光線三重白佛荊笹	無鈕	無環佩針銀
勳二等	金日章徑二寸八分 光線白佛荊笹	金五七桐	花紫佛荊笹 葉綠佛荊笹	勳三等	銀日章徑一寸五分 光線白佛荊笹	銀五三桐	花紫佛荊笹 葉綠佛荊笹	勳四等	金日章徑一寸五分 光線白佛荊笹	金五七桐	花紫佛荊笹 葉綠佛荊笹
勳三等	金日章徑一寸五分 光線白佛荊笹	金五七桐	花紫佛荊笹 葉綠佛荊笹	勳四等	銀日章徑一寸 光線白佛荊笹	銀圓形	無鈕	勳五等	銀五三桐章徑一寸	金圓形	花紫佛荊笹 葉綠佛荊笹
勳四等	金日章徑一寸 光線白佛荊笹	金五七桐	花紫佛荊笹 葉綠佛荊笹	勳五等	銀五三桐章徑一寸	銀圓形	無鈕	勳六等	銀五三桐章徑一寸	金圓形	花紫佛荊笹 葉綠佛荊笹
勳五等	金日章徑一寸	金五七桐	花紫佛荊笹 葉綠佛荊笹	勳六等	銀五三桐章徑一寸	銀圓形	無鈕	勳七等	銀五三桐章徑一寸	金圓形	花紫佛荊笹 葉綠佛荊笹
勳六等	金日章徑一寸	金五七桐	花紫佛荊笹 葉綠佛荊笹	勳七等	銀五三桐章徑一寸	銀圓形	無鈕	勳八等	銀五三桐章徑一寸	金圓形	花紫佛荊笹 葉綠佛荊笹
勳七等	金日章徑一寸	金五七桐	花紫佛荊笹 葉綠佛荊笹	勳八等	銀五三桐章徑一寸	銀圓形	無鈕	勳九等	銀五三桐章徑一寸	金圓形	花紫佛荊笹 葉綠佛荊笹
勳八等	金日章徑一寸	金五七桐	花紫佛荊笹 葉綠佛荊笹	勳九等	銀五三桐章徑一寸	銀圓形	無鈕	勳十等	銀五三桐章徑一寸	金圓形	花紫佛荊笹 葉綠佛荊笹





註 綬面ニ彩花附著ノ改正アリ(三八二頁參照)





從軍記章



【參照】明治十九年十月二十五日官報

賞勳局ハ勳四等旭日小授章ノ授面ニ同色ヲ以テ左圖ノ如キ圓形綵花(佛朗西語「ローゼット」Rosette)ヲ加附セラシ、コトヲ上申シ本月十六日裁可ヲ經テ治定セリ因リテ從來該章ヲ受領シタル人々ハ追ヒテ新ニ此ノ綵花ノ附飾ヲ下附シ受領者ハ各自之ヲ其ノ授面ニ取付ケ佩用スルコト爲セリ

勳四等旭日小授章ニ綵花ヲ附着シタル圖

同上側面



〔海軍〕

●大勳位菊花大授章大勳位菊花章及各種略綬圖式

明治十年十二月二十五日 太政官達第九十七號

改正 大正一〇年勅令第一四六號

明治九年中欽定ノ大勳位菊花大授章大勳位菊花章圖式別冊ノ通ニ候事  
從前各種ノ略綬ヲ廢シ更ニ大勳章以下略綬別紙ノ通被定候事  
右相達候事

附則 (大正十年勅令第四十六號)

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス  
本令施行前授與セラレタル略綬ハ本令ニ規定スルモノト異ルモ當分ノ内仍之ヲ佩用スルコトヲ得

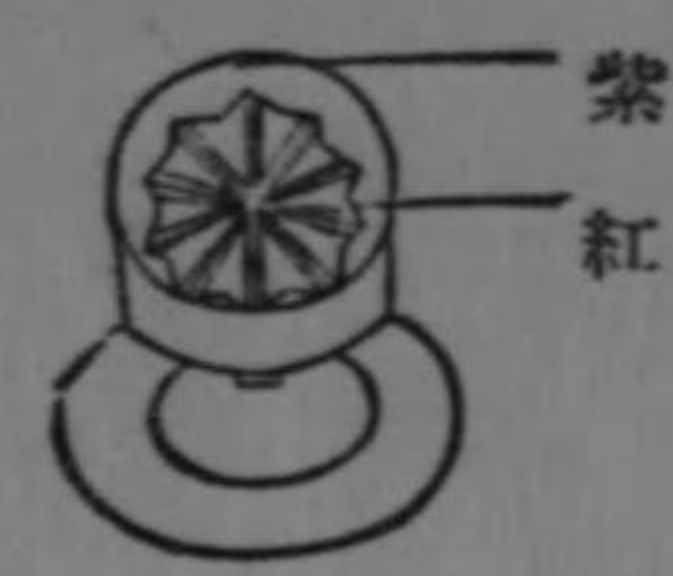
(別冊)

大勳章佩用式  
一、菊花大授章ハ旭日大授章ニ等ヲ佩帶スルニ同シ、菊花章ハ旭日重光章ニ等ヲ佩帶スルニ同シ

〔海軍〕

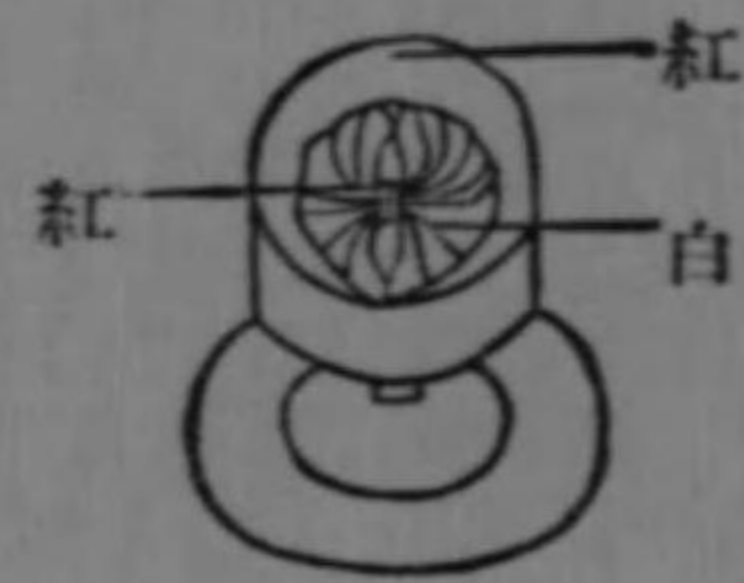
授	環	鈕	章	大勳位菊花大授章	大勳位菊花章
幅三寸八分	金圓形	金菊花	金日章徑三寸五分 日光線白佛絲 菊花黃佛絲 葉綠佛絲	金銀日章徑三寸 日光線三重白佛絲 菊花黃佛絲 葉綠佛絲	無環佩針銀
紅紫綵	無環佩針銀	無鈕	無	無	無



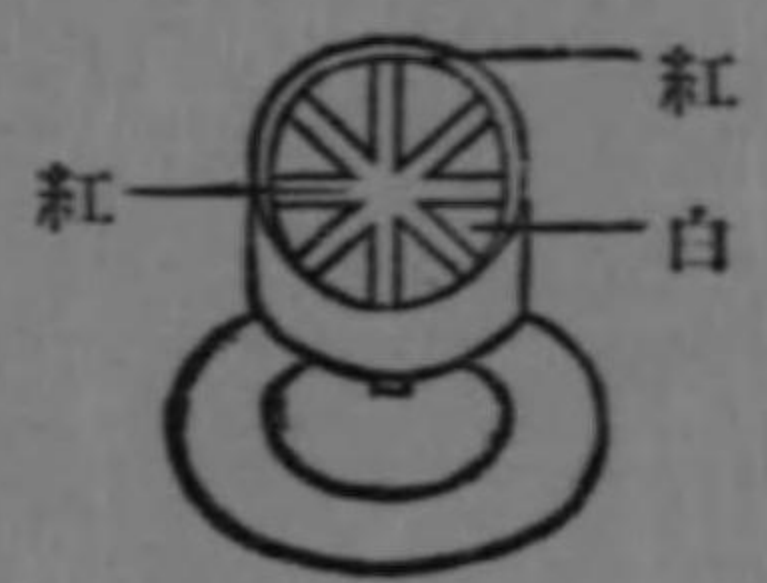


大勳位菊花大綬章略綬

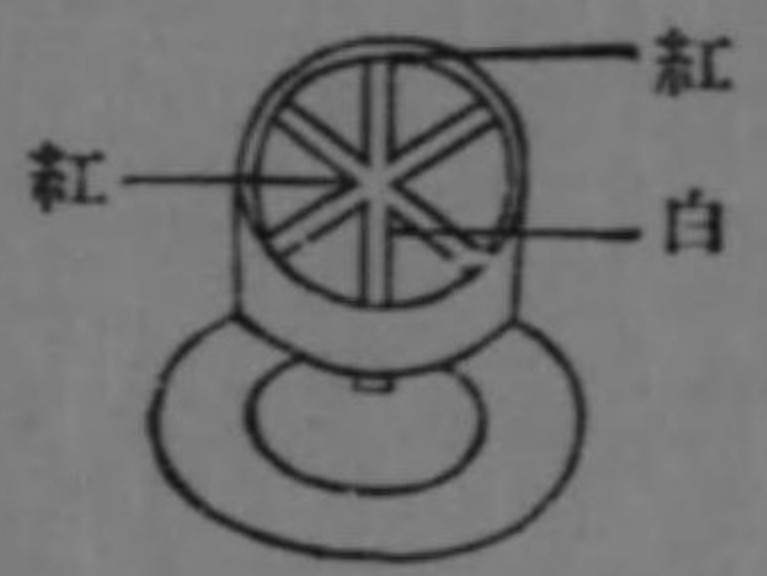
(別紙)



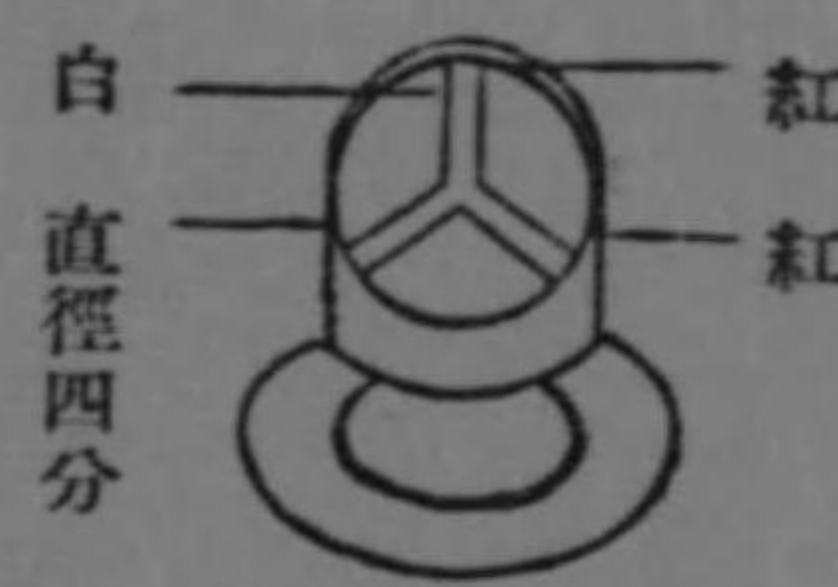
旭日大綬章略綬



旭日中綬章略綬



雙光旭日章略綬



青色桐葉章略綬

直徑四分

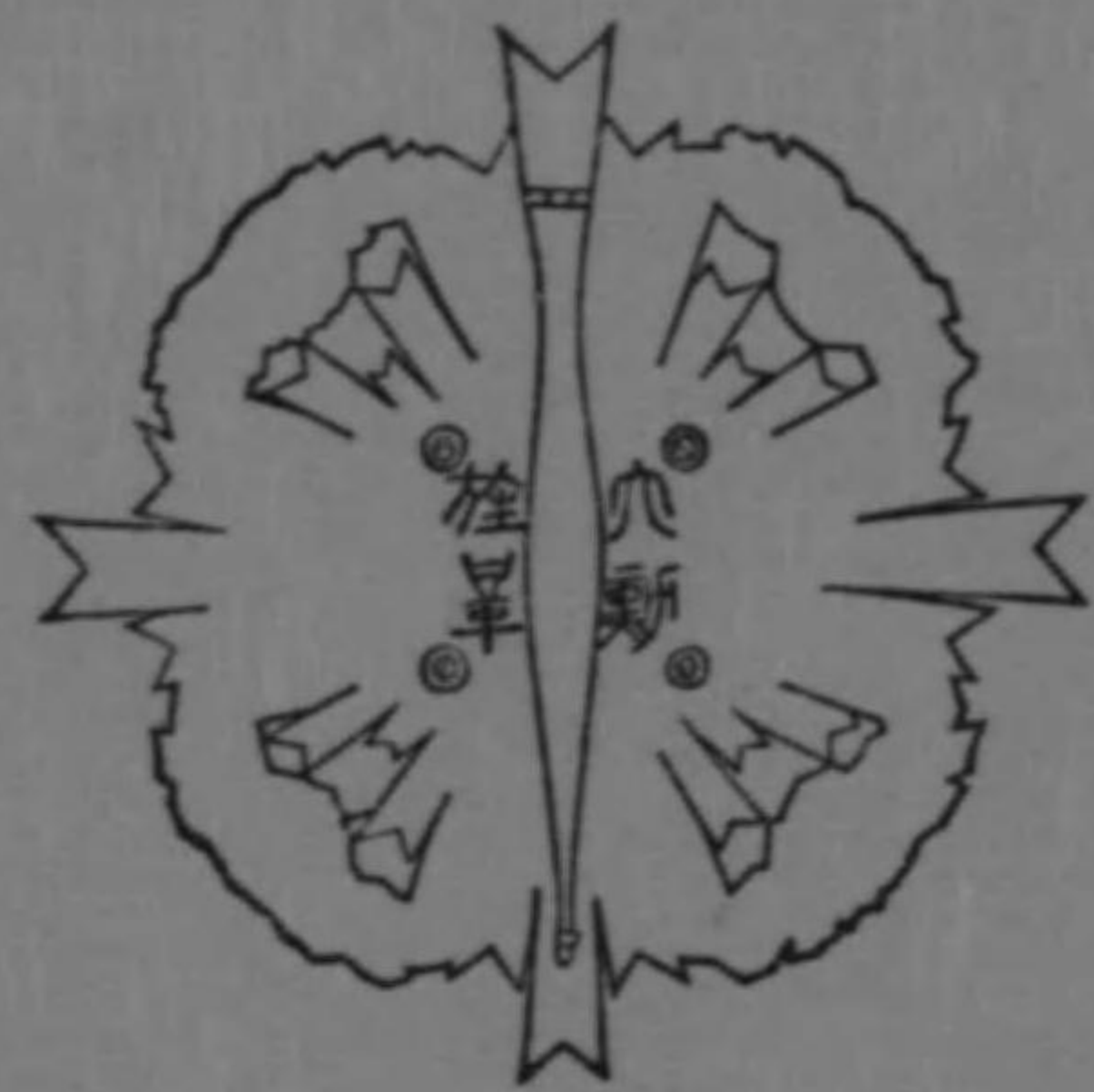
章花菊位勳大



表面



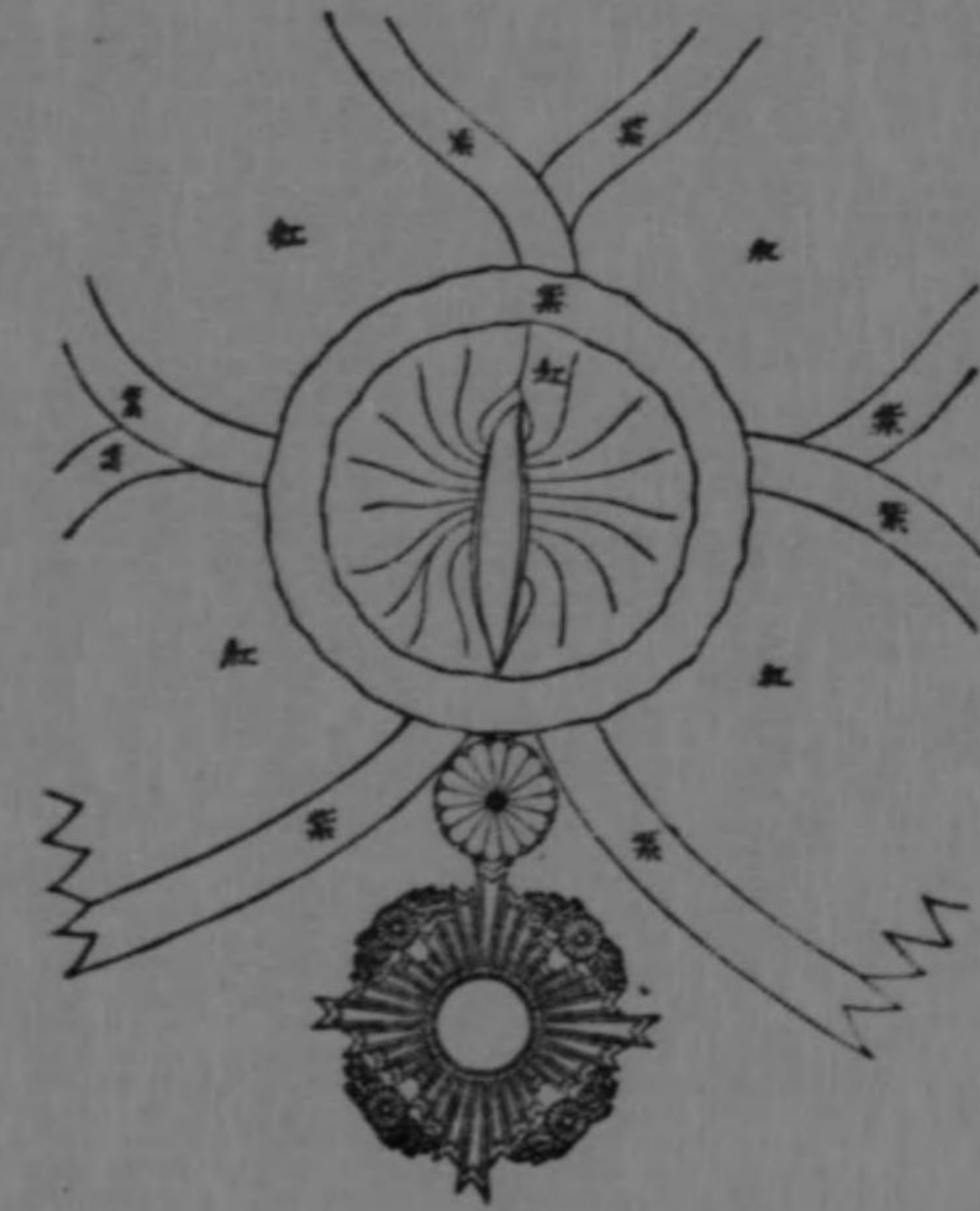
側面



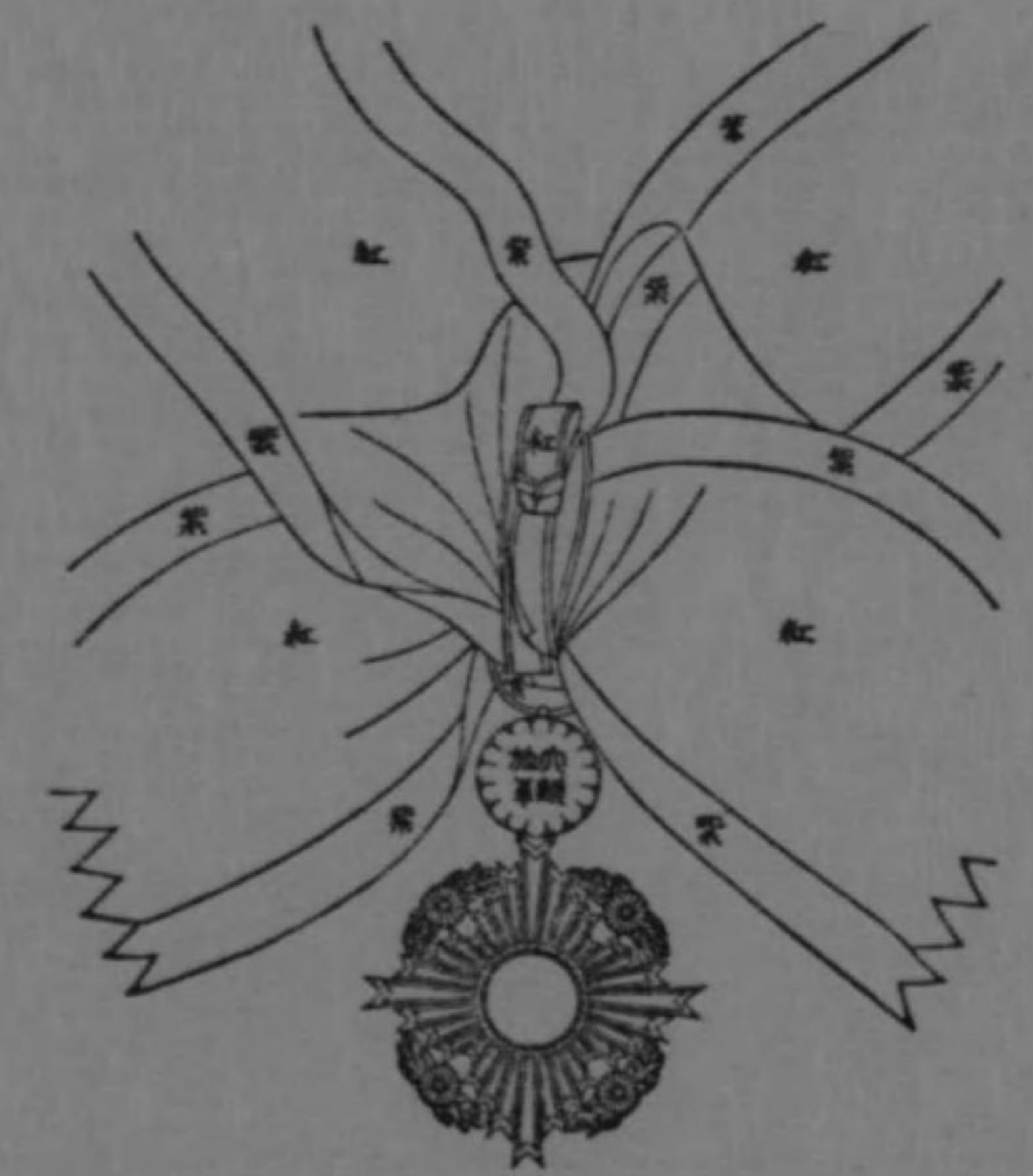
裏面

(海軍)

面表章綬大花菊位勳大



面裏章綬大花菊位勳大



(海軍)



勳章増設ノ詔

明治二十一年一月四日

朕曩ニ勳位ヲ定メ佩章ノ制ヲ設ク茲ニ復潤飾増設シ新舊與ニ併行シ勳功アル者ヲ賞旌シ以テ獎勵ノ道ヲ擴ム汝衆庶此旨ヲ體セヨ(總理大臣)(副署)

各種勳章等級製式等(寶冠章、旭)

桐花大綬章、瑞寶章、大勳位菊花

日章頸飾

明治二十一年一月四日勅令第一號

改正 明治二十九年第一三六號

朕各種ノ勳章等級製式及ヒ大勳位菊花章頸飾ノ製式ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム(總理大臣)(副署)

一 寶冠章

勳一等ヨリ勳八等ニ至ル婦人ノ勳勞アル者ニ賜フ

章 寶冠ト竹櫻ノ形ヲ以テ飾ル

綬 地黄色變線紅色

一 勳一等旭日桐花大綬章

旭日大綬章ノ上級トス勳勞アル者ニ賜フ

章 旭日ト桐花ノ形ヲ以テ飾ル

綬 地紅色變線白色

一 瑞寶章

勳一等ヨリ勳八等ニ至ル勳勞アル者ニ賜フ

章 鏡珠ノ形ヲ以テ飾ル

綬 地淡藍色變線橙黄色

一 大勳位菊花章頸飾

頸飾ハ大勳位ニ敍セシ者ニ特別之ヲ賜フ

菊花菊葉ノ形ト明治二字古篆文ヲ以テ飾ル

勳章及大勳位菊花章頸飾圖樣

明治二十一年十一月二十六日勅令第二十一號

改正 明治二十九年第四號、大正八年第四號、一〇年第四號

明治二十一年一月勅令第一號各種ノ勳章及大勳位菊花章頸飾ノ圖樣左ノ如シ

各種勳章及大勳位菊花章頸飾ノ圖樣

勳一等寶冠章	金楕圓長徑一寸二分	寶冠金地藍色佛絲篋重廓眞珠其間濃紅色佛絲篋竹枝綠色佛絲篋櫻花紅色佛絲篋葉綠色佛絲篋
同副章	幅二寸六分	織地黃雙線紅
勳二等寶冠章	金楕圓長徑一寸一分	寶冠金地藍色佛絲篋重廓眞珠其間濃紅色佛絲篋竹枝綠色佛絲篋櫻花紅色佛絲篋葉綠色佛絲篋
勳三等寶冠章	幅一寸二分	織地黃雙線紅
勳四等寶冠章	金楕圓長徑一寸	寶冠金地藍色佛絲篋重廓眞珠其間濃紅色佛絲篋竹枝綠色佛絲篋櫻花紅色佛絲篋葉綠色佛絲篋
勳五等寶冠章	幅一寸二分	織地黃雙線紅
勳六等寶冠章	金楕圓長徑九分	寶冠金地藍色佛絲篋重廓眞珠其間濃紅色佛絲篋竹枝綠色佛絲篋櫻花紅色佛絲篋葉綠色佛絲篋
勳七等寶冠章	幅一寸二分	織地黃雙線紅
勳八等寶冠章	銀楕圓長徑九分	寶冠金
勳九等寶冠章	幅一寸二分	織地黃雙線紅



第十二類 紋位 紋勳

勳一等旭日桐花大授章	章 金日章徑二寸五分 日赤色佛絲笹光線二重紅白色佛絲笹桐花紫色佛絲笹
鈕 金五七桐 花紫色佛絲笹葉綠色佛絲笹	授 幅三寸五分 織地紅雙線白
同副章	章 金日章徑三寸 日赤色佛絲笹光線二重紅白色佛絲笹桐花紫色佛絲笹
勳一等瑞寶章	章 金徑二寸二分 鏡銀地藍色佛絲笹連珠紅色佛絲笹金四條光線白色佛絲笹
勳二等瑞寶章	授 幅三寸三分 婦人ニ賜フ瑞寶章ニ在リテハ幅二寸六分織地淡藍雙線橙黃
勳三等瑞寶章	章 金徑二寸五分 鏡銀地藍色佛絲笹連珠紅色佛絲笹金銀八條光線白色佛絲笹光線間藍色佛絲笹
勳四等瑞寶章	章 金徑一寸八分 鏡銀地藍色佛絲笹連珠紅色佛絲笹金四條光線白色佛絲笹
勳四等瑞寶章	授 幅一寸二分 織地淡藍雙線橙黃
勳五等瑞寶章	章 金徑一寸五分 鏡銀地藍色佛絲笹連珠紅色佛絲笹金四條光線白色佛絲笹
勳五等瑞寶章	授 幅一寸二分 彩花ヲ付著ス織地淡藍雙線橙黃

勳五等瑞寶章	章 銀徑一寸五分 鏡銀地藍色佛絲笹連珠紅色佛絲笹金銀四條光線白色佛絲笹
勳六等瑞寶章	授 幅一寸二分 織地淡藍雙線橙黃
勳七等瑞寶章	章 銀徑一寸三分 鏡銀地藍色佛絲笹連珠紅色佛絲笹銀四條光線白色佛絲笹
勳七等瑞寶章	授 幅一寸二分 織地淡藍雙線橙黃
勳八等瑞寶章	章 銀徑一寸二分 鏡銀連珠金
勳八等瑞寶章	授 幅一寸二分 織地淡藍雙線橙黃
勳八等瑞寶章	授 幅一寸二分 鏡銀連珠銀
勳八等瑞寶章	授 幅一寸二分 織地淡藍雙線橙黃
勳位菊花章頸飾	中央 圓形徑一寸 花金葉綠色佛絲笹
勳位菊花章頸飾	連環 橢圓長徑九分 一ハ古篆明ノ字一ハ治ノ字各金一ハ菊花金葉綠色佛絲笹

附則 (大正十年閣令第四號)  
 本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス  
 本令施行前授與セラレタル略綬ハ本令ニ規定スルモノト異ルモ當分ノ内仍之ヲ佩用スルコトヲ得

勳一等寶冠章



同副章



勳二等寶冠章



〔海軍〕

勳三等寶冠章



勳四等寶冠章



勳五等寶冠章

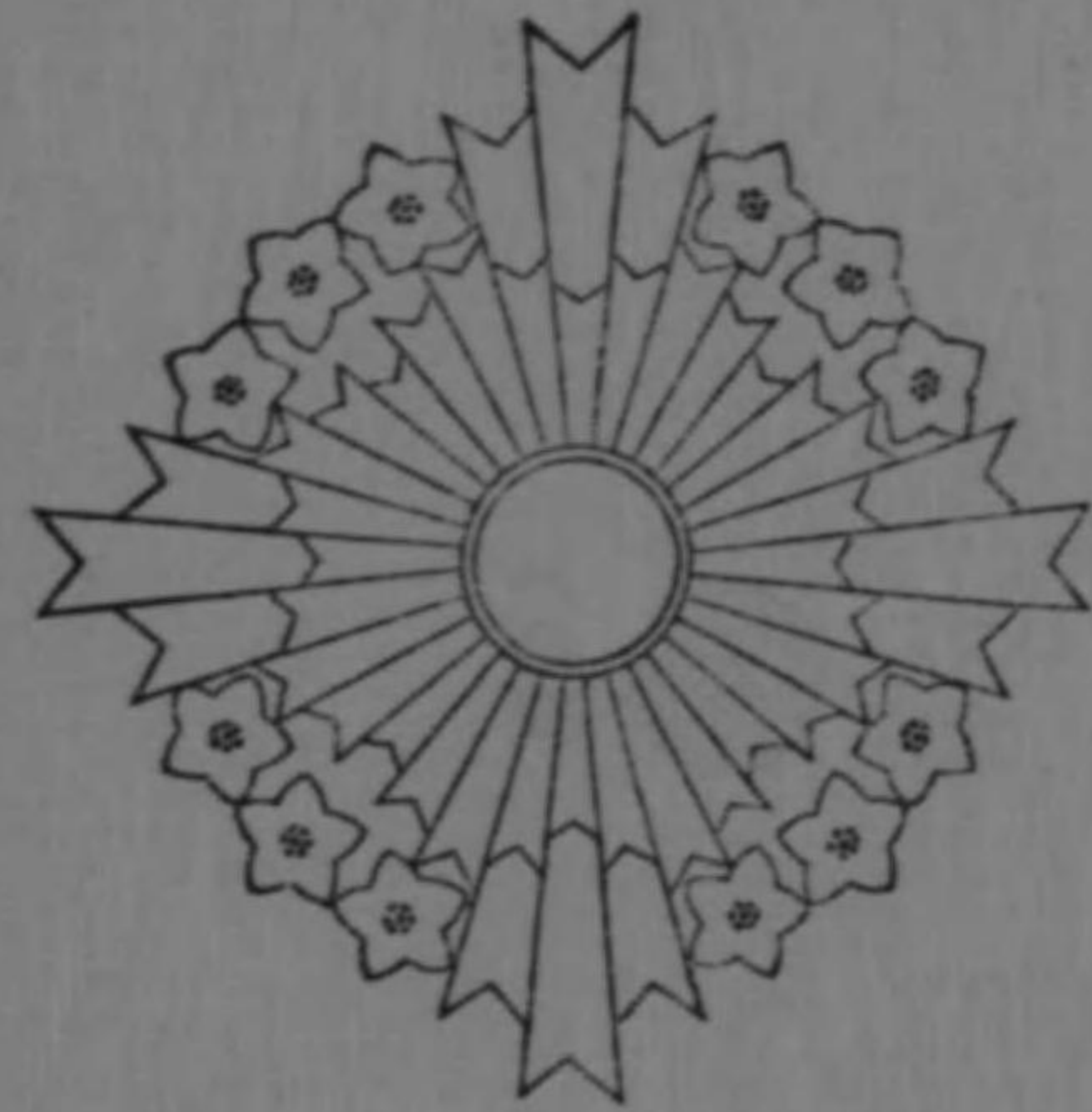


第十二類 紋位 紋勳





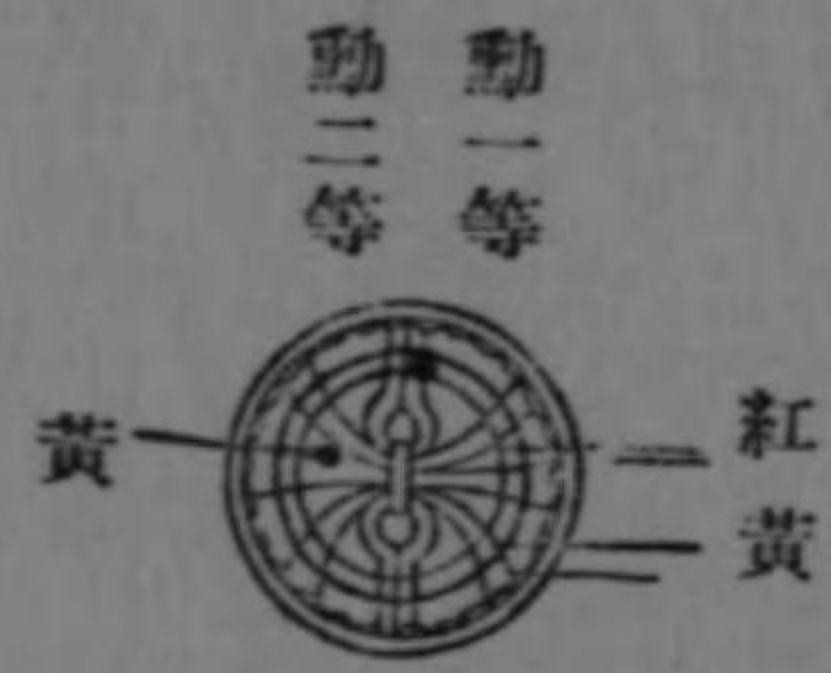
勳一等旭日桐花大授章



同副章



勳六等以下寶冠章綬



勳一等以下寶冠章略綬ノ圖



勳六等寶冠章



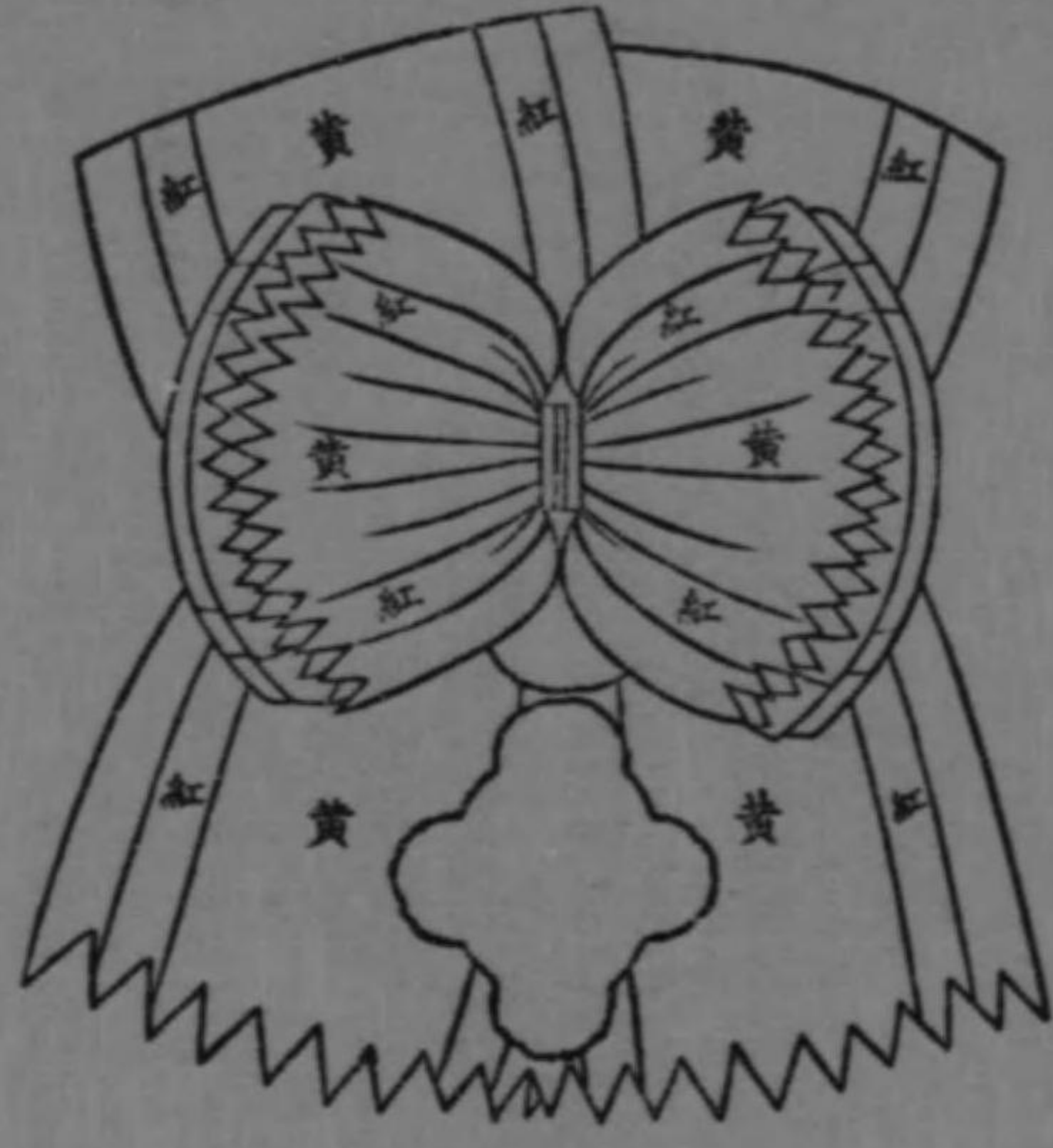
勳七等寶冠章



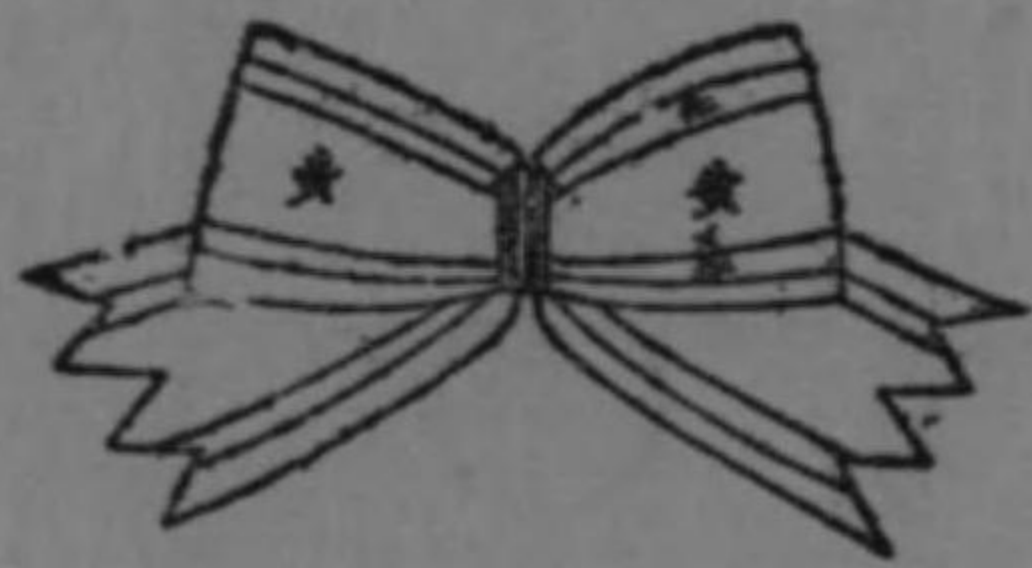
勳八等寶冠章



勳一等寶冠章綬

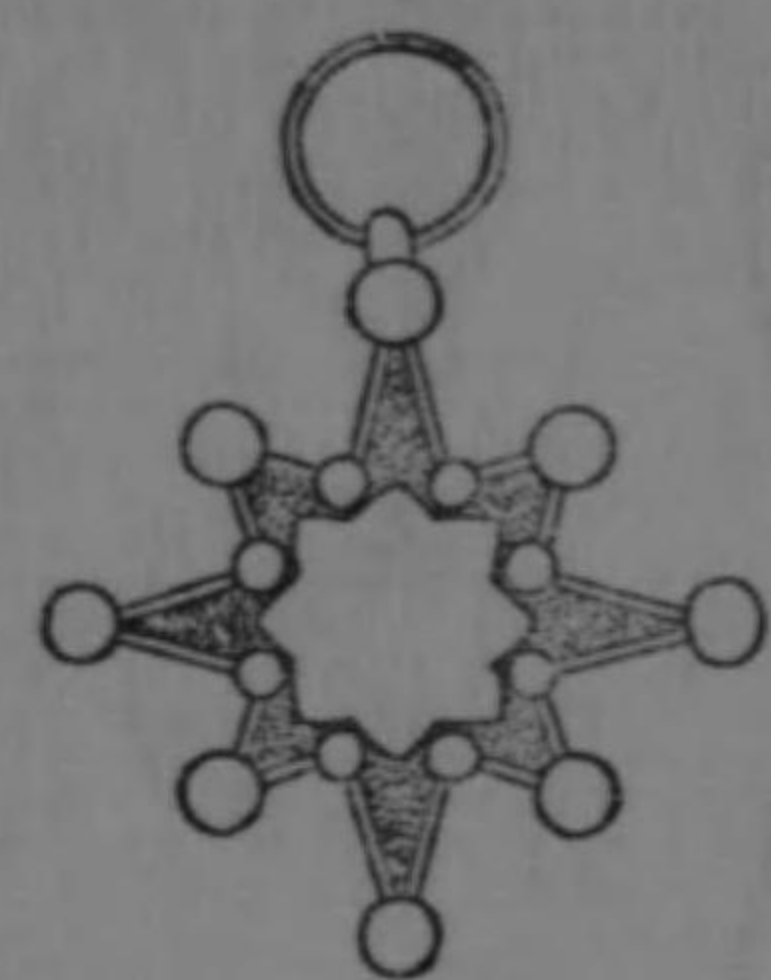


勳二等以下寶冠章綬

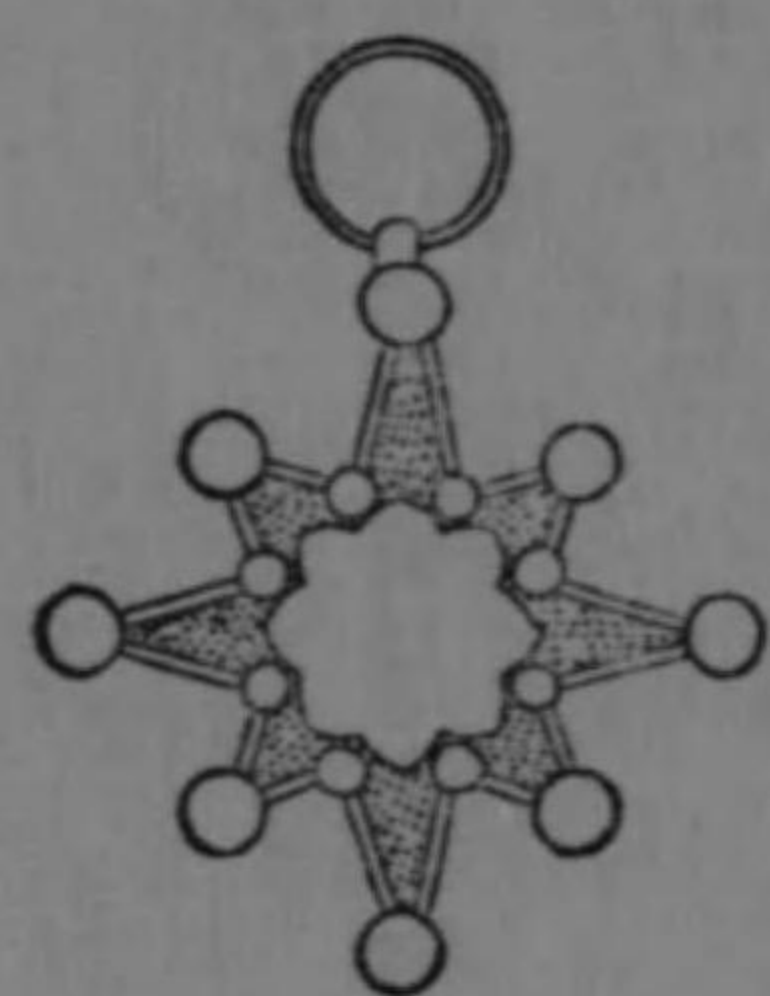




第十二類 敘位 敘勳

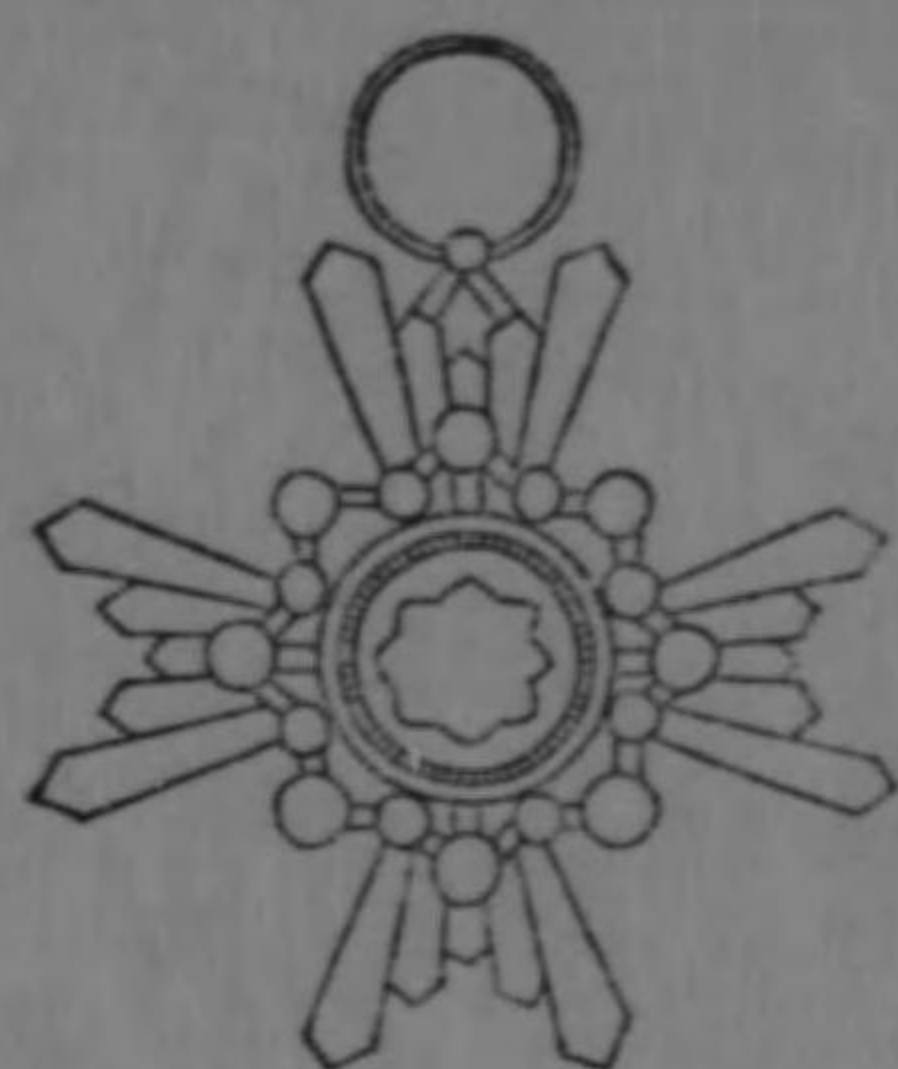


勳七等瑞寶章

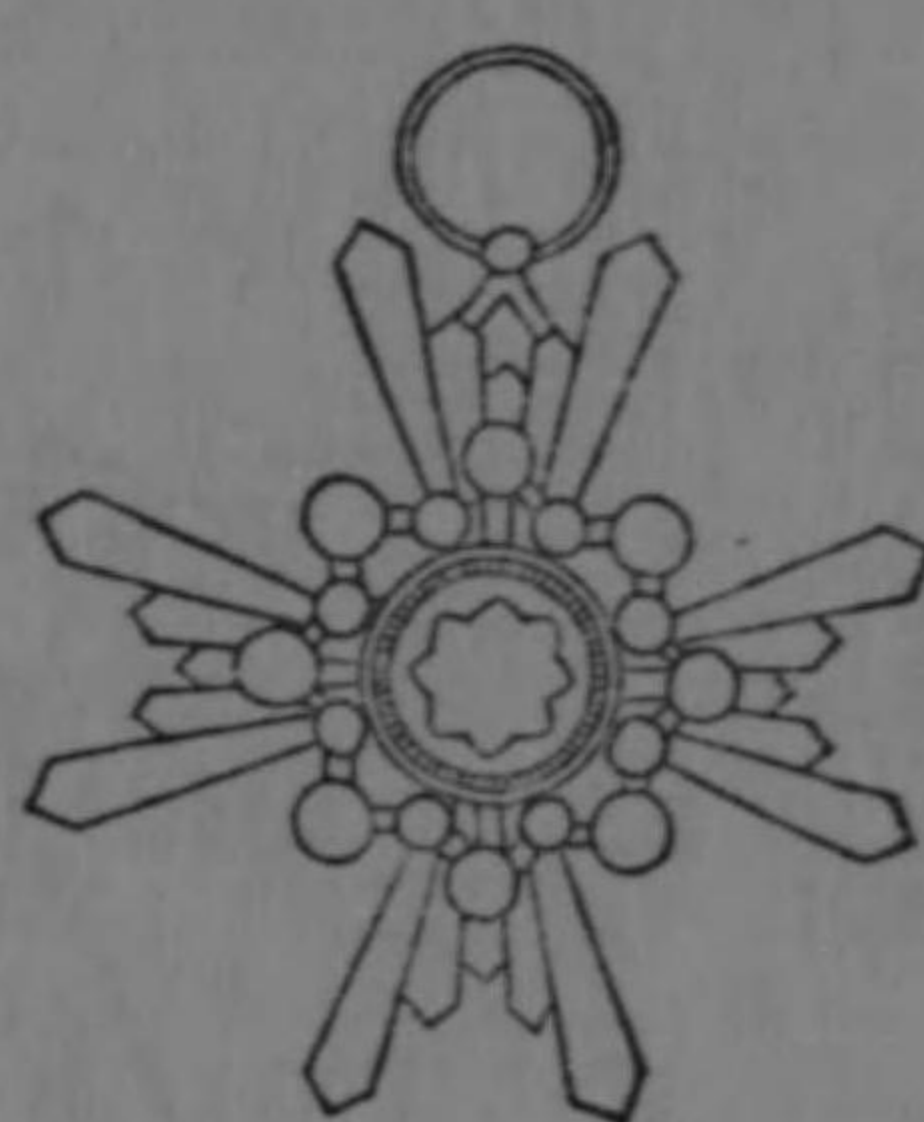


勳八等瑞寶章

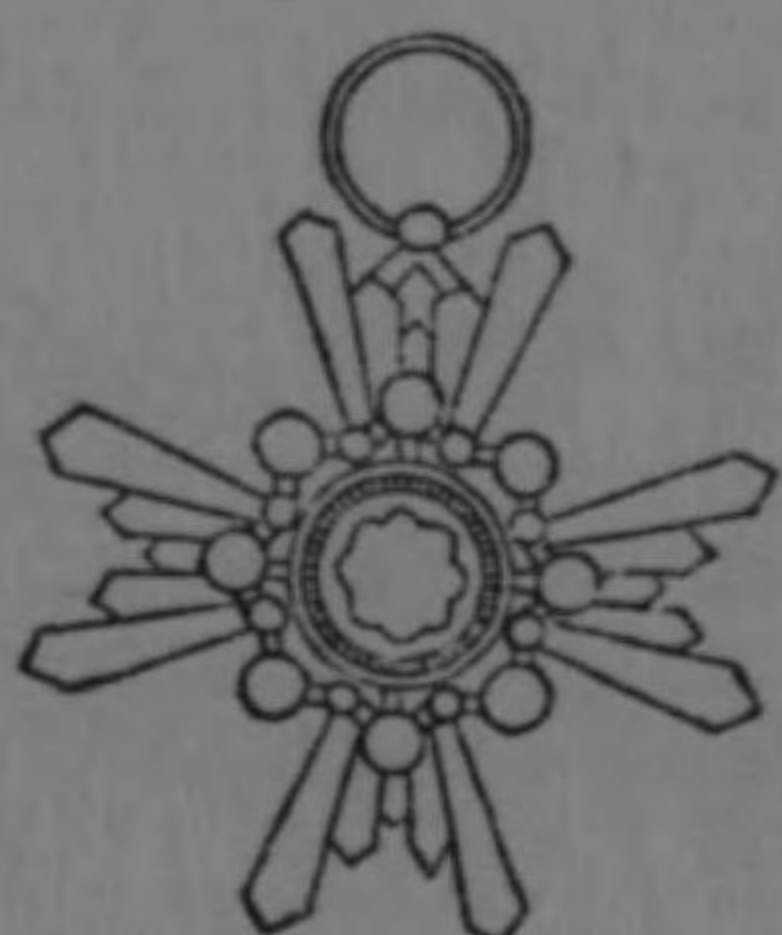
勳四等瑞寶章



勳五等瑞寶章



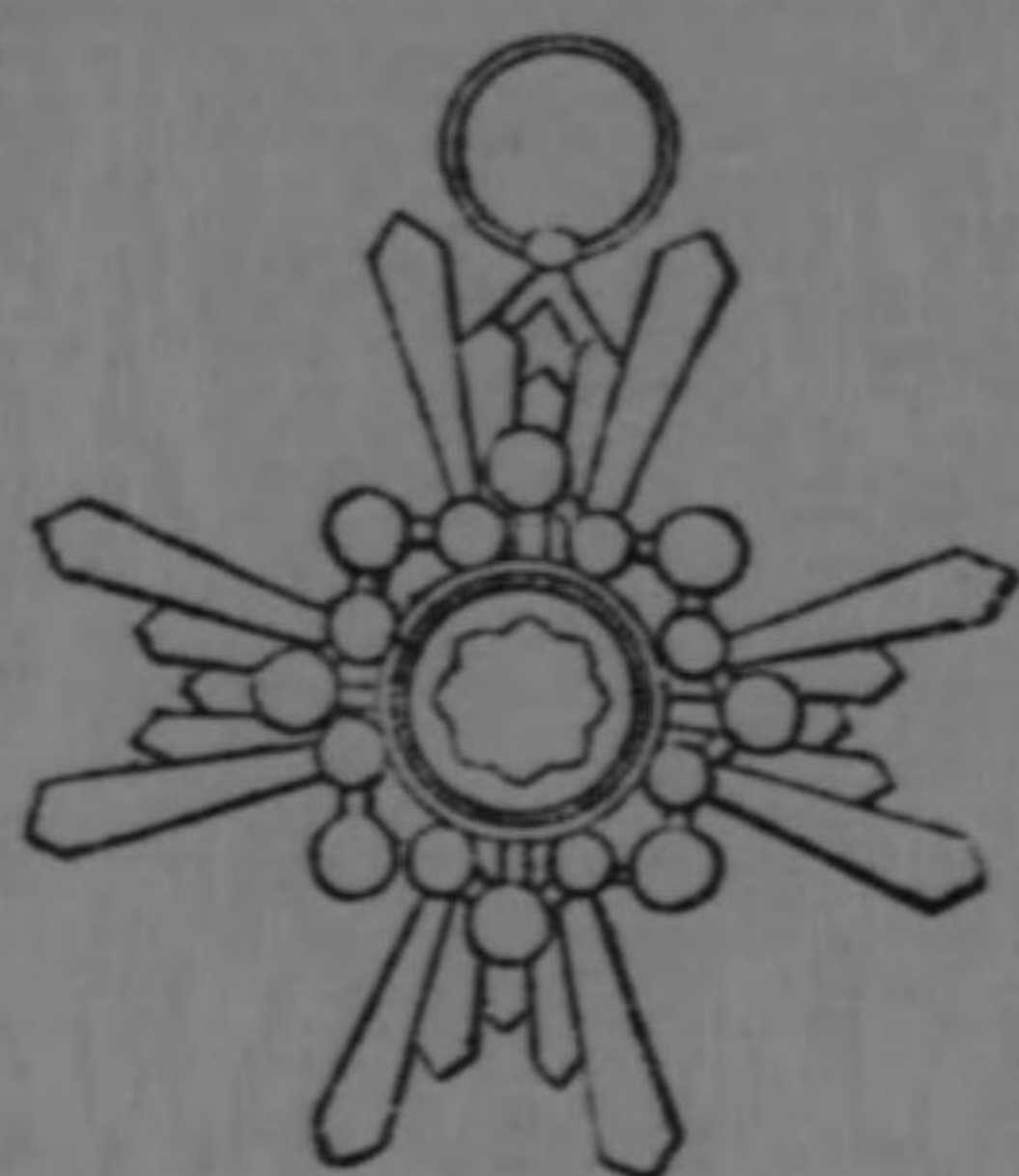
勳六等瑞寶章



(海軍)

第十二類 敘位 敘勳

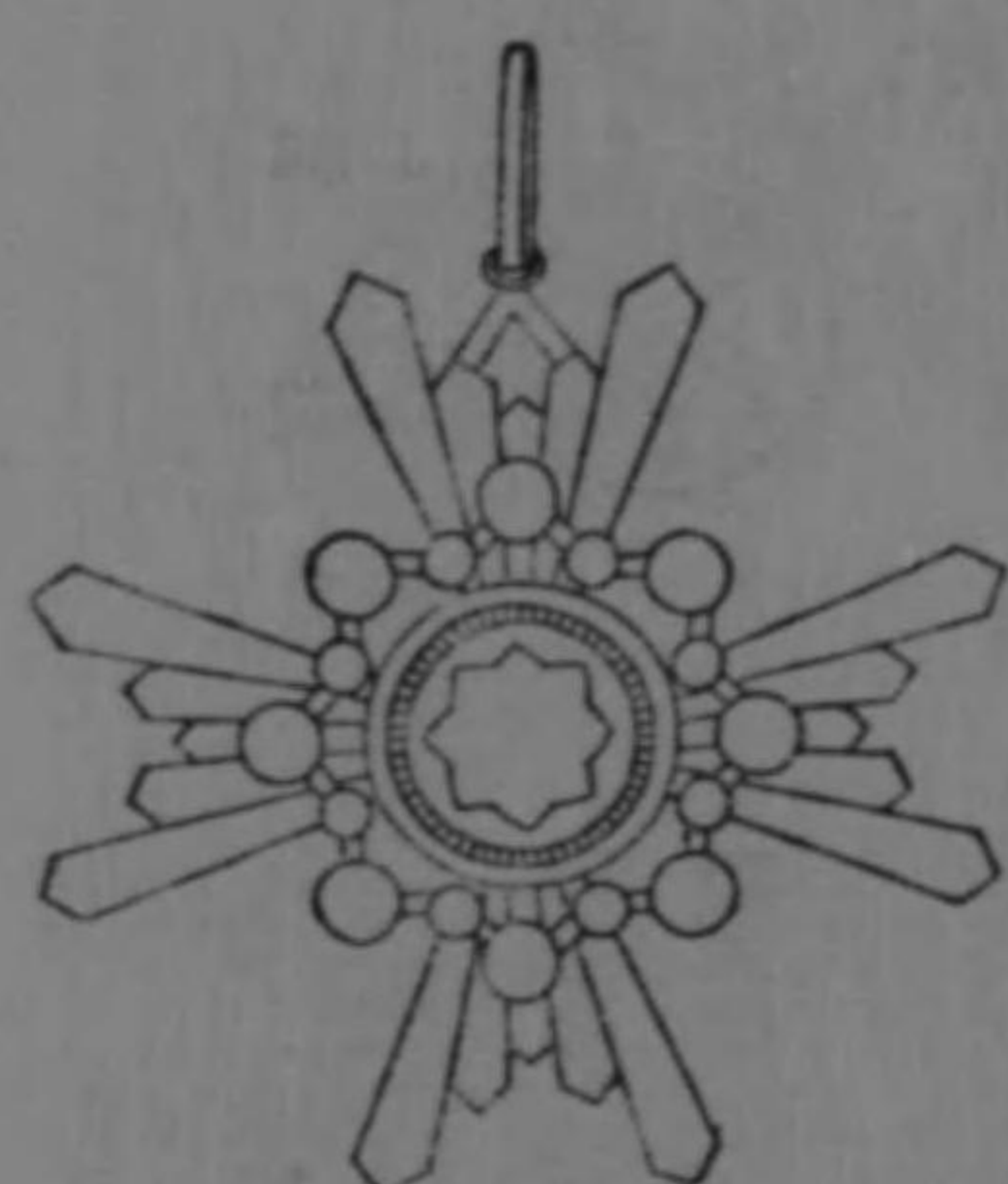
勳一等瑞寶章



勳一等瑞寶副章  
勳二等瑞寶章

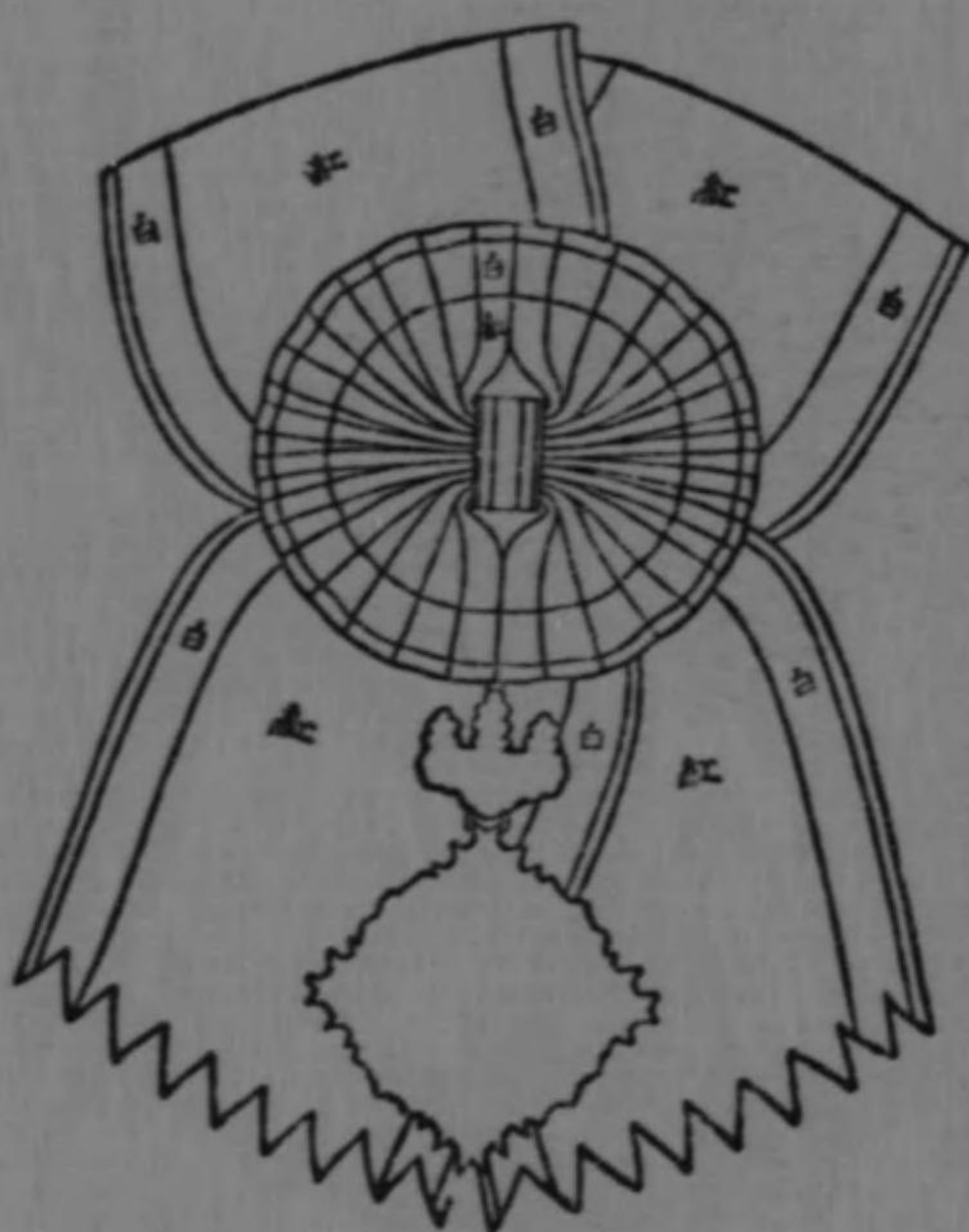


勳三等瑞寶章



(海軍)

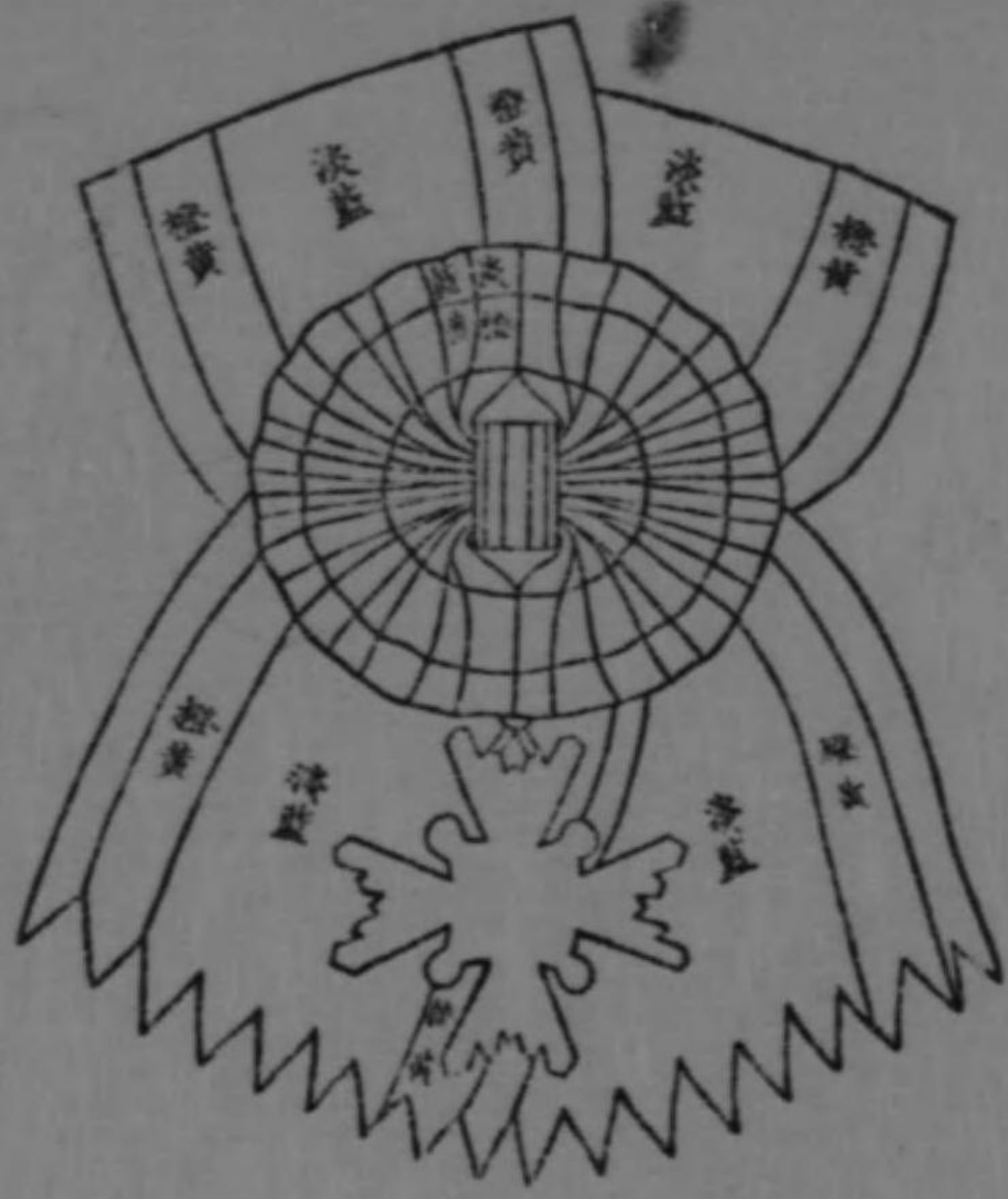
勳一等旭日桐花章大綬



同略綬



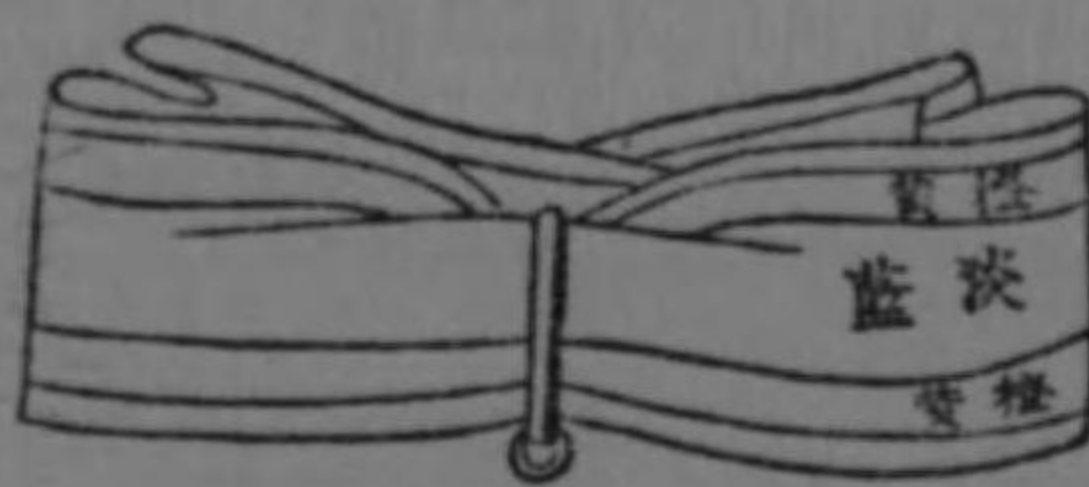
勳一等瑞寶章大綬



婦人ニ賜フ勳一等瑞寶章大綬



勳三等瑞寶章綬



〔海軍〕

〔海軍〕

婦人ニ賜フ勳三等以下瑞寶章綬

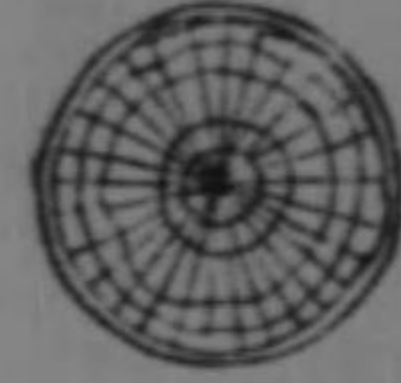


勳四等以下瑞寶章綬

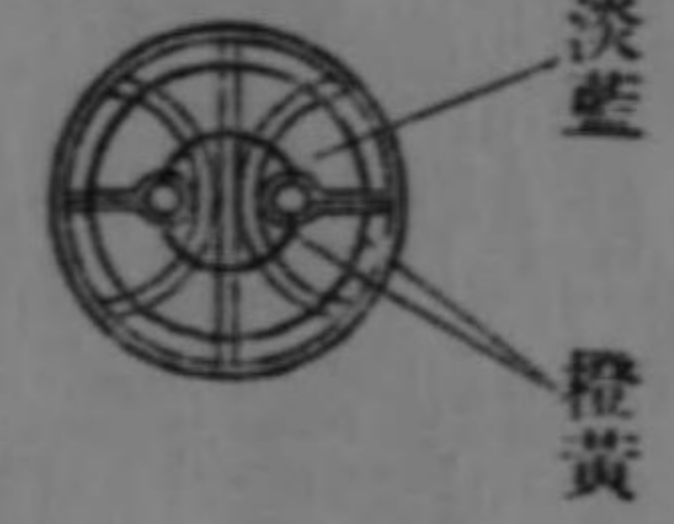


瑞寶章略綬

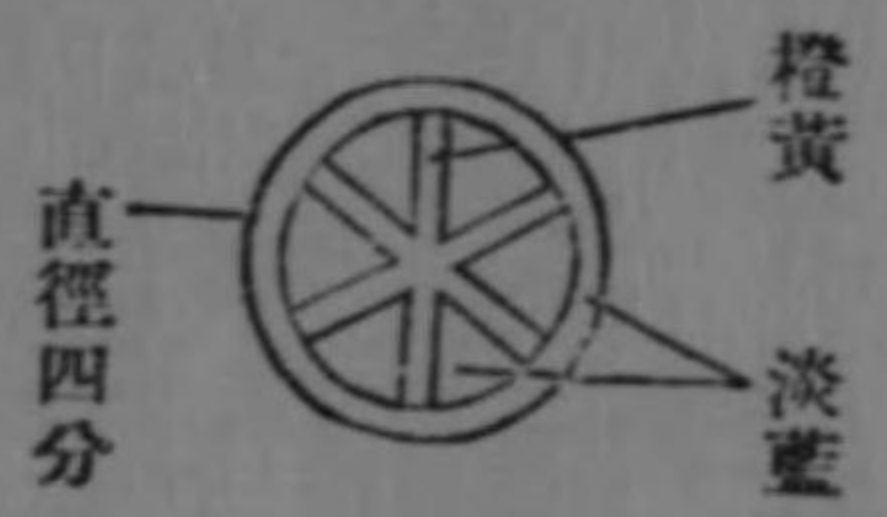
二 一  
等 等



四 三  
等 等



六 五  
等 等



八 七  
等 等



婦人ニ賜フ勳六等以下瑞寶章綬





大勳位菊花章頸飾



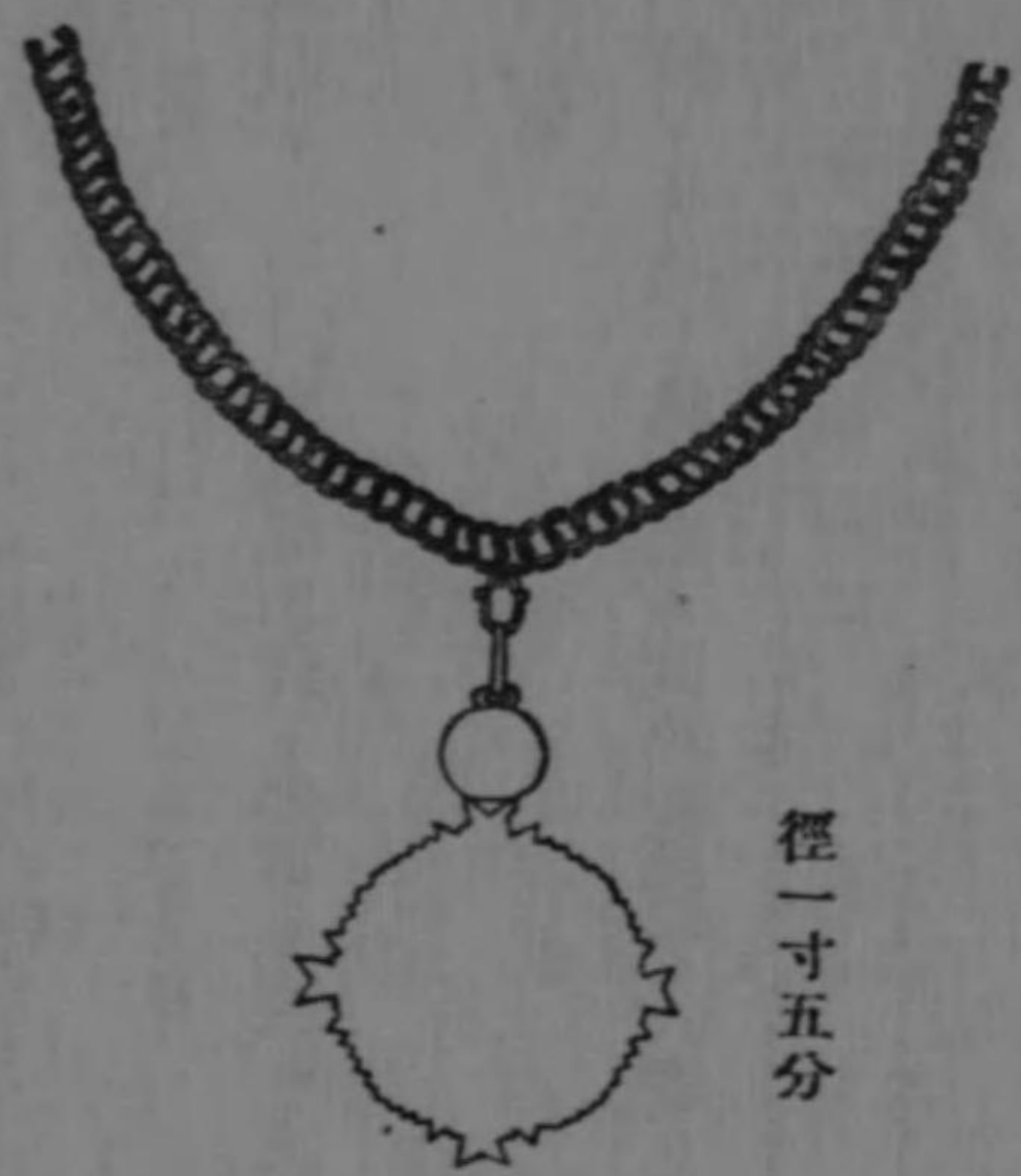
〔海軍〕

●大勳位菊花章頸飾略鎖略章圖式及

佩用方

明治三十五年四月十七日  
内閣告示第二號

大勳位菊花章頸飾ヲ有スル者ハ略鎖ヲ以テ略章ヲ喉下ニ佩フル  
コトヲ得  
略鎖略章ヲ佩フルハ陸海軍ニ在リテハ正裝正服以外ノ制服著用  
ノ時其ノ他ニ在リテハ通常禮服著用ノ時トス  
略鎖略章ノ圖式左ノ如シ



徑一寸五分

●婦人ノ勳勞アル者ニ瑞寶章ヲ賜フ

ノ件

大正八年五月二十二日  
勅令第二百三十二號

〔海軍〕

朕婦人ノ勳勞アル者ニ瑞寶章ヲ賜フノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布  
セシム(總理大臣)  
瑞寶章ハ婦人ノ勳勞アル者ニ亦之ヲ賜フ

●金鷄勳章創設ノ詔

明治二十三年  
二月十一日

朕惟ミルニ  
神武天皇皇業ヲ恢弘シ繼承シテ朕ニ及ヘリ今ヤ負カニ登極紀元  
ヲ算スレハ二千五百五十年ニ達セリ  
朕此期ニ際シ  
天皇裁定ノ故事ニ徴シ金鷄勳章ヲ創設シ將來武功拔群ノ者ニ授  
與シ永ク  
天皇ノ威烈ヲ光ニシ以テ其忠勇ヲ獎勵セントス汝衆庶此旨ヲ體  
セヨ(總理大臣)  
(副署)



●金鷄勳章等級製式佩用式

明治二十三年二月十一日  
勅令第十一號

改正 明治二十八年第一二〇號、大正一〇年第一四九號

朕金鷄勳章ノ等級製式佩用式ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

一金鷄勳章

功一級ヨリ功七級ニ至ル武功拔群ナル者ニ賜フ

(總理大臣  
副署)

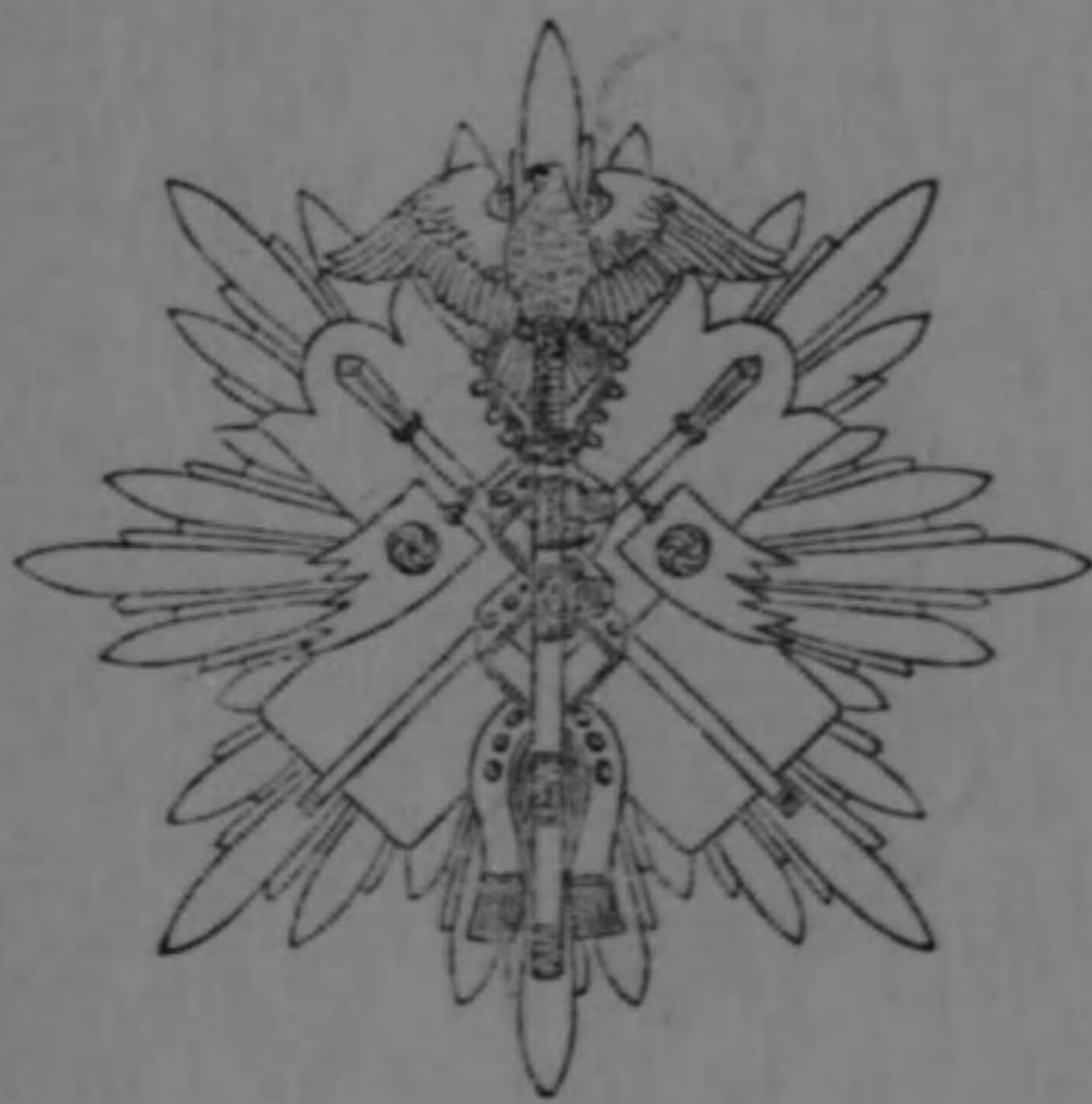
金鷄勳章製式	
功一級章	章 金徑二寸五分 牙銀地 劍線紫白淡藍色 佛絲 依 橫濃藍色 佛絲 依 授 幅 二寸六分 織地 綠雙線白
同 副章	章 金徑三寸 牙銀地 劍線紫白淡藍色 佛絲 依 橫濃藍色 佛絲 依 功二級章
同 副章	章 金徑三寸 牙銀地 劍線紫白淡藍色 佛絲 依 橫濃藍色 佛絲 依 功二級章
同 副章	章 金徑一寸八分 牙銀地 劍線紫白淡藍色 佛絲 依 橫濃藍色 佛絲 依 牙銀地 黃紅色 佛絲 依 光線 紅色 佛絲 依

授 幅 一寸二分 織地 綠雙線白	功三級章	章 金徑一寸八分 牙銀地 劍線紫白淡藍色 佛絲 依 橫濃藍色 佛絲 依 授 幅 一寸二分 織地 綠雙線白	功四級章	章 金徑一寸五分 牙銀地 劍線紫白淡藍色 佛絲 依 橫濃藍色 佛絲 依 授 幅 一寸二分 織地 綠雙線白	功五級章	章 銀徑一寸五分 牙銀地 劍線紫白淡藍色 佛絲 依 橫濃藍色 佛絲 依 授 幅 一寸二分 織地 綠雙線白	功六級章	章 金長徑一寸七分 鵝劍 盾 牙 金地 授 幅 一寸二分 織地 綠雙線白	功七級章	章 銀長徑一寸七分 鵝劍 盾 牙 銀地 授 幅 一寸二分 織地 綠雙線白
------------------	------	--	------	--	------	--	------	---	------	---

功一級金鷄章



功一級金鷄副章  
功二級金鷄章



功二級金鷄副章  
功三級金鷄章



功四級金鷄章



功五級金鷄章





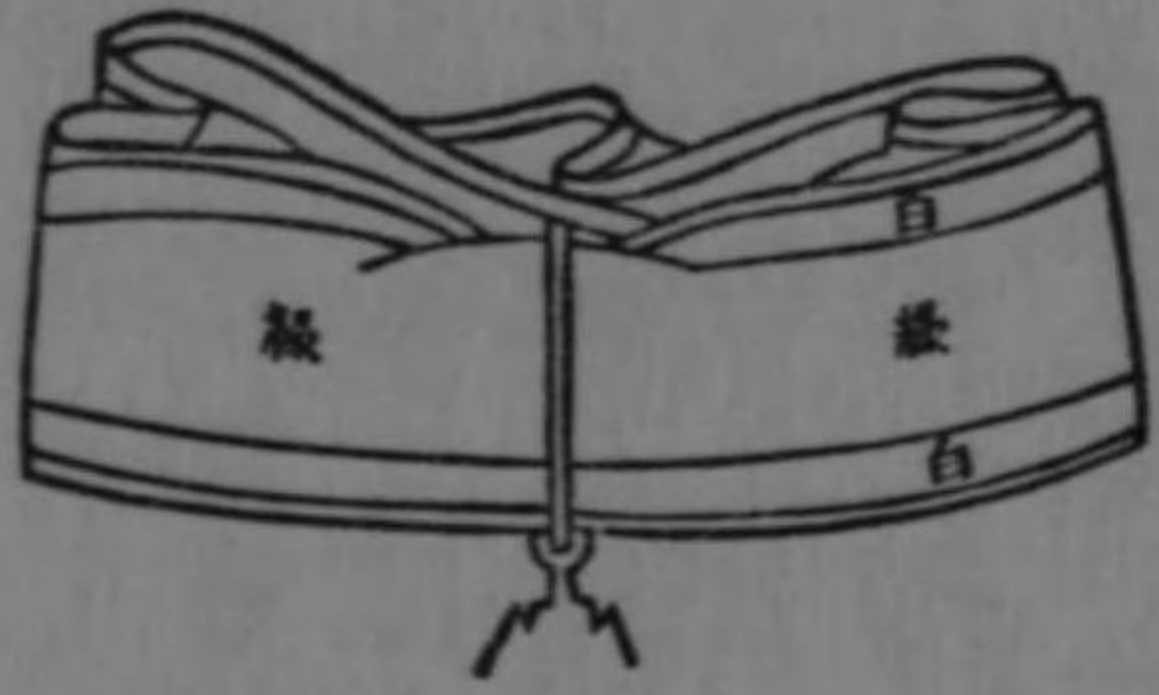
功六級金鷄章



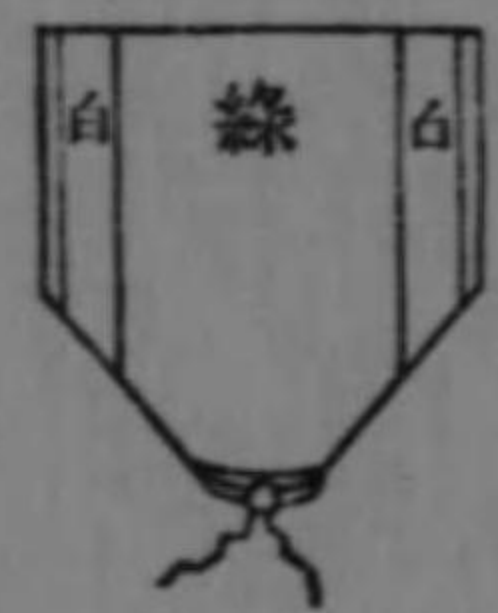
功七級金鷄章



功二級金鷄副章授  
功三級金鷄章授



功四級以下金鷄章授



金鷄勳章略綬

綠地白線



同上



第十二類 敘位 敘勳

同上



同上



直徑四分

金鷄勳章佩用式

- 一 功一級章ハ大綬ヲ以テ左肩ヨリ右脇ニ垂レ其ノ副章ヲ左肋ニ佩フ
- 二 功二級章ハ右肋ニ佩ヒ其ノ副章ヲ中綬ヲ以テ喉下ニ佩フ
- 三 功三級章ハ中綬ヲ以テ喉下ニ佩フ
- 四 功四級章以下ハ小綬ヲ以テ左肋ニ佩フ

附 則 (大正十年勅令第四百九十九號)

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前授與セラレタル略綬ハ本令ニ規定スルモノト異ルモ當分ノ内仍之ヲ佩用スルコトヲ得



### ●金鷄勳章敍賜條例

明治二十七年十一月二十八日  
勅令第百九十三號

朕金鷄勳章敍賜條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム(總理大臣  
副署)

#### 金鷄勳章敍賜條例

- 第一條** 金鷄勳章ヲ武功拔群ナル者ニ敍賜スルハ本條例ノ定ムル所ニ依ル
- 第二條** 將官ノ初級ハ功三級トシ武功ヲ累スルニ從ヒ逐次進級セシム
- 特旨ヲ以テ敍賜スルモノハ前項ノ限ニアラス
- 第三條** 佐官ノ初級ハ功四級トシ尉官ノ初級ハ功五級トシ武功ヲ累スルニ從ヒ逐次進級セシメ佐官ハ功二級尉官ハ功三級ニ至ルヲ得
- 第四條** 准士官下士及兵卒ノ初級ハ功七級トシ武功ヲ累スルニ從ヒ逐次進級セシメ准士官下士ハ功五級兵卒ハ功六級ニ至ルヲ得

第十二類 敍位 勳

〔海軍〕

- 第五條** 陸軍見習士官海軍少尉候補生ハ尉官ニ準シテ擬敍ス
- 第六條** 將校相當官及軍屬ハ將校若クハ下士ニ準シテ敍賜ス
- 第七條** 戰役間武功常ニ卓越ニシテ優賞スヘシト論定シタル者又ハ重要ノ職ニ當リ武功拔群ナル者ハ第二條乃至第四條初級ノ例ニ依ラス一等上級ニ敍賜スルコトアルヘシ
- 第八條** 戰役ノ景況ニ依リ特ニ軍司令官又ハ艦隊司令長官ニ金鷄勳章五級以下ヲ其ノ部下ニ授與スルノ權ヲ假スコトアルヘシ
- 第九條** 金鷄勳章敍賜規程ハ別ニ定ムル所ニ依ル



●金鷄勳章敘賜規程

明治二十七年十二月二十日  
官房第三四〇九號

改正 明治二十八年第三七五號ノ三

金鷄勳章敘賜規程左ノ通定メラル

金鷄勳章敘賜規程

第一章 議敘手續

第一條 軍事内局ニ武功審査委員ヲ置キ陸海軍將校並同相當官中帶勳者若干名ヲ以テ之ヲ組織ス

第二條 武功ニ依リ金鷄勳章ヲ敘賜セラルヘキモノアルトキハ武功審査委員ヲシテ論定セシム但シ本規程第九條ニ係ル場合ハ此限ニアラス

第三條 參謀總長軍司令官臺灣總督又ハ艦隊司令長官ノ下ニ各武功調査委員ヲ置キ將校並同相當官中帶勳者若干名ヲ以テ之ヲ組織ス

第四條 武功ヲ奏シタル者アルトキハ直屬長官タル各部團隊艦船長其武功明細書ヲ作り署名捺印シテ見認證書ヲ添ヘ順序ヲ經テ參謀總長軍司令官臺灣總督又ハ艦隊司令長官ニ呈シ參謀

總長軍司令官臺灣總督又ハ艦隊司令長官ハ佐官以下ハ之ヲ武功調査委員ノ調査ニ付ス

奏功者將官ナルトキハ參謀總長軍司令官臺灣總督又ハ艦隊司令長官ニ於テ武功明細書ヲ作り軍事内局長ニ移ス

第五條 武功調査委員ニ於テ合格ノ者ト査定シタルトキハ其理由ヲ附シ參謀總長軍司令官臺灣總督又ハ艦隊司令長官ニ報告ス參謀總長軍司令官臺灣總督又ハ艦隊司令長官ニ於テ敘賜セラルヘキモノト認定シタルトキハ其武功ノ理由勳章ノ等級及職官位勳爵姓名ヲ具シ武功明細書及見認證書ヲ添ヘ軍事内局長ニ移ス

第六條 武功ハ武功明細書及見認證書ニ就キ調査ス見認證書ハ高級若クハ古參ノ者之ヲ作り署名捺印ス但戰鬪ノ狀況ニ依リ高級又ハ古參ノ者ナキトキハ同級以下三名以上ヲ以テ見認證書トナスヲ得

第七條 軍事内局長第四條第二項及第五條ノ移牒ヲ受ケタルトキハ第二條ニ依リ武功審査委員ノ審査ニ付シ敘賜スヘキモノト論定シタルトキハ直ニ上奏裁可ヲ仰クヘシ

第八條 敘賜ノ裁可アリタルトキハ軍事内局長ハ之ヲ内閣總理

大臣ニ移牒ス内閣總理大臣ハ賞勳局總裁ヲシテ勳記勳章及辭令書ヲ參謀總長軍司令官臺灣總督又ハ艦隊司令長官ニ送付セシム

第九條 金鷄勳章敘賜條例第八條ニ依リ金鷄勳章授與ノ權ヲ假サルトキハ軍司令官又ハ艦隊司令長官ハ本規程第四條ニ依リ武功調査委員ノ調査ヲ經テ勳章ヲ授與ス

第十條 前條ニ依リ軍司令官又ハ艦隊司令長官ニ於テ勳章ヲ授與スルトキハ辭令書ヲ作り之ヲ授與ス

第十一條 本規程第九條ニ依リ軍司令官又ハ艦隊司令長官ニ於テ勳章ヲ授與シタルトキハ其武功ノ理由勳章ノ等級及職官位勳爵姓名ヲ具シ軍事内局長ニ移シ軍事内局長之ヲ上奏ス

第十二條 軍事内局長上奏ヲ經タルノ後武功ノ理由勳章ノ等級及職官位勳爵姓名ヲ内閣總理大臣ヲ經テ賞勳局總裁ニ移牒ス而シテ其勳記ハ賞勳局總裁ヨリ直ニ軍司令官臺灣總督又ハ艦隊司令長官ニ送付ス

第十三條 大本營ヲ解カレタル後ニ於テハ武功審査委員ニ關スル事項ハ陸海軍勳功調査委員ニ軍事内局長ニ係ル事項ハ陸海軍大臣ニ移シ陸海軍大臣ハ内閣總理大臣ヲ經テ之ヲ上奏ス

參謀總長軍司令官臺灣總督又ハ艦隊司令長官ノ下ニ屬セサルモノニシテ敘賜セラルヘキ資格ヲ有スル者ニ在テハ各所管長官ヨリ陸海軍大臣ニ稟申ス

第十四條 金鷄勳章授與式ハ陸海軍大臣別ニ之ヲ定ム

第二章 賞格  
第十五條 軍人武功ノ種類ハ一々列舉スヘカラサルヲ以テ豫メ之ヲ限定スルヲ得スト雖モ茲ニ其綱要ヲ記載シテ賞格ノ標準ヲ示ス但此ニ明文ナキ功績ト雖モ一ノ賞格ニ比準スヘキ程度ノモノト認定シタルトキハ之ニ對シテ擬議スルヲ得

陸海軍將校  
第十六條 籌策宜キニ協ヒ以テ作戰計畫ニ非常ノ補益ヲ與ヘ又ハ出師準備ノ計畫能ク其當ヲ得メニ作戰軍ヲシテ顧慮ナカラシメ遂ニ我軍ノ全捷ヲ期スルニ至ラシメタル者

第十七條 樞要ノ機務ニ參シ計畫宜キニ適シ勵精能ク作戰ノ目的ヲ達セシメ其功卓越ナル者

第十八條 陸軍軍司令官若クハ師團長若クハ獨立混成旅團長又ハ海軍司令官若クハ司令官若クハ司令官ト同權力ヲ有スル



長官ニ對シテ用兵上其豫想外ニ屬スル意見ヲ具申シ實行上果シテ敵軍ヲ全敗ニ歸セシメタル者

第十九條 戰鬪中敵ノ高等司令官ヲ生擒シ若クハ我上官ヲ敵ノ生擒又ハ危險ノ中ヨリ奪還シタル者

第二十條 極メテ危險ヲ冒シ剛膽不撓其任務ヲ遂ケ又ハ獨斷專行ノ動作ヲ以テ適當ニ能ク其職務ヲ盡シ以テ敵ヲ不利ノ地位ニ陥レ我軍ニ全勝ノ機會ヲ與ヘタル者

第二十一條 劇戰ニ當リ率先勇奮シテ我兵氣ヲ鼓舞シ爲メニ勝利ノ道ヲ開キタル者

第二十二條 敵ノ守備線ヲ通過シ使命ヲ全フシ又ハ冒險ノ策略ヲ建議シ之カ實行ノ任ニ當リ全ク其目的ヲ達シタル者

第二十三條 危險ヲ冒シテ敵ノ陣地ヲ偵察シ要地ヲ發見シ我軍ノ一部ヲ有利ノ位置ニ導キ爲メニ全軍ノ勝利ヲ得セシメタル者

第二十四條 偵察若クハ斥候ノ任務ヲ負ヒ敵ノ前哨線内ニ侵入シ若クハ他ノ危險ヲ冒シテ緊要ナル敵情ヲ探偵報告シ以テ全體ノ畫策ヲ輔ケ爲メニ我軍ニ勝利ヲ得セシメタル者

第二十五條 拔群ノ武功ヲ奏シタル上長ノ指揮下ニ在テ衆ニ擢テテ動作シ上長ノ奏功ヲ輔ケテ最モ力アリタリト認定セラレ

ニ合シタル者

第三十三條 倍数以上ノ敵ヲ擊破シ以テ友軍ヲ重圍中ニ拯ヒ得タル者

第三十四條 戰鬪中奮進敵ノ隊旗(我軍旗ニ等シキ價值アルモノ)砲煩ヲ奪取シ若クハ敵ニ奪取セラレタル我軍旗砲煩ヲ奪還シタル者

第三十五條 猛烈ナル敵火ヲ冒シテ敵ノ陣地堡壘砲臺ニ先登シ後續軍隊ニ之ヲ奪略スルノ便宜ヲ與ヘタル者

第三十六條 敵前渡河ノ戰鬪ニ於テ率先對岸ニ達シテ全軍ノ渡河ヲ掩護シタル者

第三十七條 本軍狹隘ノ通過ニ當リ之ヲ攻撃シ來ル優勢ノ敵ヲ防止シ本軍ヲシテ其目的ヲ達セシメタル者

第三十八條 猛烈ナル敵火ヲ冒シテ敵ヲ潰走セシメ遮斷セラレタル交通ヲ回復シタル者

第三十九條 危險ヲ冒シテ我要地ノ前方ニ障礙ヲ設ケ以テ此點ニ向テ攻撃スル敵ヲ拒止シ爲メニ此地ヲ敵手ニ委セサラシメタル者

第四十條 優勢ナル敵ノ上陸セントスル海岸ヲ守備シ其上陸ヲ

第十二類 敘位 敘勳

タル者

第二十六條 戰列外ノ職務ニ當ル者危險ヲ冒シ剛膽不撓能ク其職務ヲ全フシ以テ軍隊軍艦ノ危急ヲ救ヒ遂ニ勝利ノ道ヲ開キ其功卓越ナル者

第二十七條 優勢ノ敵ト戰鬪シ之ヲ全敗ニ歸セシメ若クハ全軍勝利ノ原因トナルヘキ戰勝ヲ得タル者

第二十八條 敵ノ要塞ヲ略取シ爲メニ敵軍ノ志氣ヲ沮喪セシメ以テ戰況ヲ一變シ撤兵ノ命令ヲ受クルマテ之ヲ扼守シタル者

第二十九條 我要塞堡壘若クハ砲臺攻圍ヲ受クルニ當リ挑戰若クハ他ノ方策ヲ以テ敵ヲ某方面ニ牽制シ其間ニ乘シテ援兵若クハ軍需品ヲ該要塞堡壘若クハ砲臺内ニ入ルコトヲ得セシメタル者

第三十條 同數以上ナル敵ノ嚴守シアル陣地堡壘砲臺ヲ攻撃シテ之ヲ奪略シタル者

第三十一條 倍数以上ノ敵ニ攻撃セラルルニ當リ之ヲ擊退シ能ク陣地堡壘砲臺ノ防禦ヲ全フシタル者

第三十二條 敵ノ重圍ニ陥リ能ク部下ヲ護メテ一方ヲ破リ我軍

防止シ得タル者

第四十一條 他隊ノ火力ヲ藉ラス優勢ノ敵ヲ攻撃シテ之ヲ擾亂潰走ニ至ラシメタル騎兵隊長

第四十二條 巧ミニ砲兵ヲ指揮シ我ニ倍スル敵ノ砲火ヲ沈黙セシメタル砲兵隊長

第四十三條 優勢ノ敵ヨリ攻撃セラルルニ當リ砲火ノ力ヲ以テ我レト同數以上ナル敵ノ砲兵隊ノ前進ヲ防止シ若クハ其ノ砲火ヲ沈黙セシメ其ノ結果ニ依リ敵ヲ潰走セシメタルモノ

第四十四條 敵ノ要塞ヲ攻撃スルニ當リ巧ミニ砲兵ヲ指揮シテ壘壁ヲ破壊シ我軍ヲシテ此ヨリ侵入シ要塞ヲ奪略セシメタル者

第四十五條 敵ノ堡壘砲臺ト砲戰シ敵ノ砲煩若クハ壘壁砲臺ヲ破壊シ少クモ二十四時間以上砲火ヲ沈黙セシメタル者

第四十六條 堡壘砲臺敵ノ包圍砲擊ヲ受クルニ當リ敵ヲ砲擊シ其砲煩ヲ破壊シテ數日間其用ヲ失ハシメ以テ我守兵ニ整備ノ猶豫ヲ與ヘタル者

第四十七條 猛烈ナル敵火ヲ冒シテ迅速ニ某工事ヲ遂ケタル者

第四十八條 猛烈ナル敵火ヲ冒シテ敵ノ地雷其他副防禦等ヲ撤



却シ我攻撃軍隊ノ爲メ通路ヲ開キタル者

第四十九條 猛烈ナル敵火ヲ冒シ要塞若クハ堡壘ノ濠岸ヲ破壊シ我攻撃軍隊ニ通路ヲ與ヘタル者

第五十條 背進ニ當リ猛烈ナル敵火ヲ冒シテ橋梁ヲ破壊シ若クハ障礙ヲ設ケ以テ本隊ニ安全ノ背進ヲ爲サシメタル者

第五十一條 敵ノ據守セル要塞堡壘等ニ穿テタル破墻孔ヲ占領シタル時率先其守兵ニ對シ障礙ヲ築造シタル者

第五十二條 危險ヲ冒シテ我要塞堡壘ニ受ケタル破墻孔ヲ修理シ敵ノ侵入ヲ防止シ若クハ敵ヲシテ更ニ破墻孔ヲ作ルノ手段ヲ盡サシメタル者

海戰

第五十三條 優勢ナル敵軍又ハ砲臺ノ應援アル我ト殆ント同勢力ノ敵軍ト抗戰シテ勝利ヲ占メ敵ノ軍艦ヲ捕獲シ又ハ之ヲ沈没セシメ若クハ其戰鬪力ヲ失ハシメタル者

第五十四條 劇烈ナル戰鬪ニ於テ敵艦隊ノ一部ヲ衝破シ以テ勝利ヲ占ムヘキ機勢ヲ助ケタル者

第五十五條 敵軍ノ防備堅固ナルヲ顧ミス其布設セル水雷又ハ障害物ヲ撤却若クハ破壊シ以テ我軍艦ノ進路ヲ開キ戰勝ヲ占ムヘキ實行ヲ容易ナラシメタル者

第五十六條 優勢ナル敵軍ノ攻圍ヲ受ケタル我砲臺若クハ封鎖サレタル我港灣ニ運輸ノ途ヲ開クニ當リ苦戰シ以テ能ク其目的ヲ達シタル者

第五十七條 他ノ應援ナク優勢ナル敵艦ニ攻撃セラレ敵ノ掠奪ヲ免カレ名譽ヲ保持シテ脫歸シタル者

第五十八條 多數ノ船舶ヲ護送スルニ當リ我ヨリ優勢ナル敵軍ニ遭遇シ劇戰ノ後其船舶ヲ安全ナル場所ニ航到セシメタル者

第五十九條 嚴ニ守備セル敵ノ砲臺港灣若クハ市府ヲ攻撃占領シタル者

第六十條 優勢ナル敵軍ノ擁護スル我被掠ノ軍艦ヲ奪還シタル者

第六十一條 守備セル敵ノ港灣内ニ進入シ敵ノ艦船又ハ水雷艇ヲ捕獲シ若クハ之ヲ破壊シタル者

第六十二條 水雷ヲ備ヘタル艇舟ニシテ危險ヲ冒シ水雷ヲ放テ敵艦ニ著シキ危害ヲ與ヘ殆ント戰鬪力ヲ失ハシメタル者

〔海軍〕

〔海軍〕

第六十四條 戰鬪中一艦ノ運命ニ係ル毀傷ヲ生シタル時又ハ艦内火藥庫ニ接近セル場所ニ起リタル火災ヲ消滅セン爲メ挺身危險ヲ冒シ應急ノ處置ヲナシ以テ其艦ヲ全フスルヲ得セシメ又ハ其延燒ヲ防止シタル者

第六十五條 我軍ノ上陸セントスルニ方リ猛烈ナル敵火ヲ冒シ剛膽勇奮海岸ニ先登シ上陸ヲ遂クルニ至ラシメタル者

第六十六條 拔群ノ武功ヲ奏シタル將校ノ指揮下ニ在テ能ク衆ニ擢テテ動作シ此將校ノ武功ヲ奏スル爲メ與ツテ最モ力アリト認定セラレタル者

第六十七條 特異ノ功ヲ現ハシ以テ一隊若クハ一艦又ハ全軍ノ志氣ヲ鼓舞作興シ又ハ之カ爲メ勝利ノ道ヲ開キタル者

第六十八條 敵ノ守備線ヲ通過シ使命ヲ全フシ又ハ其他冒險ノ任ニ當リ全ク其目的ヲ達シタル者

第六十九條 戰鬪中奮進敵ノ隊旗(我軍旗ニ等シキ價值アルモノ)砲煩ヲ奪取シ若クハ敵ニ奪取セラレタル我軍旗砲煩ヲ奪還シタル者

第七十條 戰鬪中敵ノ將官或ハ上長官ヲ生擒シ若クハ我將校ヲ

敵ノ生擒又ハ危險ノ中ヨリ奪還シタル者

第七十一條 戰鬪中將校悉皆戰死若クハ重傷ヲ負ヒ指揮ヲ執ルモノナキトキニ方リ代テ指揮ヲ執リ隊列ヲ紊亂セシムルコトナク固ク孤擊ヲ嬰守シ又ハ敵兵ヲ擊退シタル者

第七十二條 攻戰ニ當リ拔群率先敵ノ防禦工事ヲ施シ堅固ニ據守スル地點ニ侵入シ以テ奪略ノ道ヲ開キタル者

第七十三條 敵兵我陣地堡壘砲臺ニ侵入スルニ方リ拔群率先勇闘シ之ヲ擊退スルニ至ラシメタル者

第七十四條 敵火ヲ冒シテ率先衆ヲ勵マシ其力ニ依リ我散逸セル砲具若クハ輓馬駄馬ヲ失ヒタル砲煩ヲ收還シタル者

第七十五條 猛烈ナル敵火ヲ冒シテ某工事ヲナスニ當リ剛膽勇奮以テ衆ヲ勵マシ迅速ニ作業ヲ成シタル者

第七十六條 艦船砲臺其他ノ敵ノ要害ヲ攻撃スルトキ拔群率先侵入シテ之ヲ奪略スルノ道ヲ開キタル者

第七十七條 敵ノ艦船ヲ狙撃シテ之ヲ沈没セシメ又ハ之ヲ破壊シ殆ント其戰鬪力ヲ失ハシメタル者

第七十八條 敵艦ヲ襲撃スルニ當リ先登シ若クハ勇進シテ敵ノ



第十二類 旂位 旂勳

旗幟(我軍艦旗ト等シキ價値アルモノ)ヲ奪取シタル者

第七十九條 戰鬪中火災ヲ消防スルニ當リ殊死ノ働ヲナシ又ハ艦體若クハ緊要ナル機具ノ損敗ヲ急ニ應シテ修理シ爲メニ其艦ノ危險ヲ防キタル者

第八十條 我軍ノ上陸スルニ當リ敵ノ射撃ヲ冒シ海岸ニ先登シタル者

軍司令官又ハ艦隊司令長官ニ於テ附與スル辭令書ノ書式第何號 (用紙ハ普通ノ辭令紙ヲ用フ)

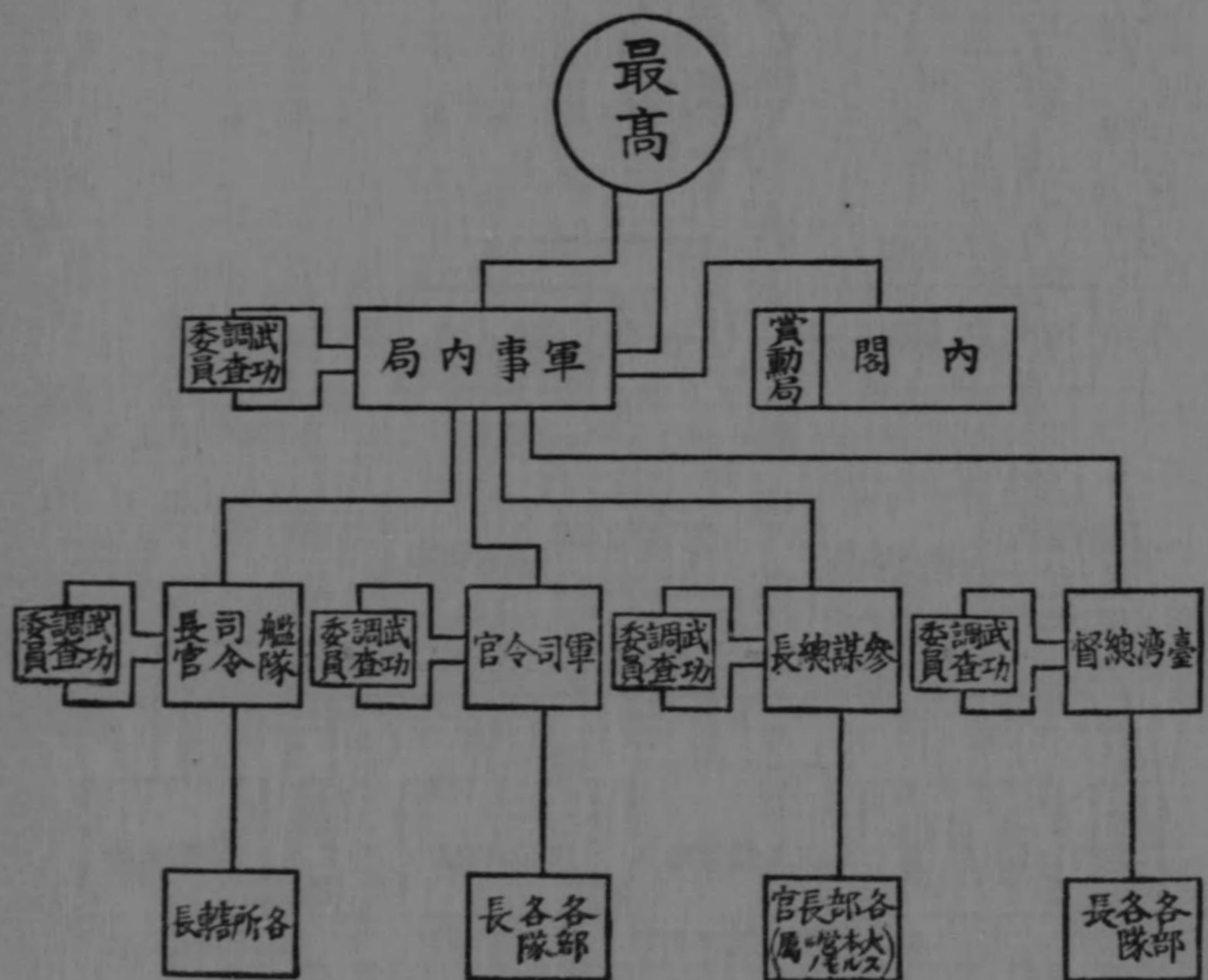
官位勳爵氏名

大元帥陛下ノ御名ヲ以テ陛下ヨリ假サレタル職權ニ基キ卿力何月何日某地ニ於テ奏シタル拔群ノ武功ヲ賞スル爲メ勳功調査委員會ノ決議ヲ經テ卿ヲ功何級ニ旂シ金鷄勳章ヲ授與ス

某地軍司令部又ハ旗艦某艦ニ於テ

軍司令官(艦隊司令長官)官位勳爵氏名印

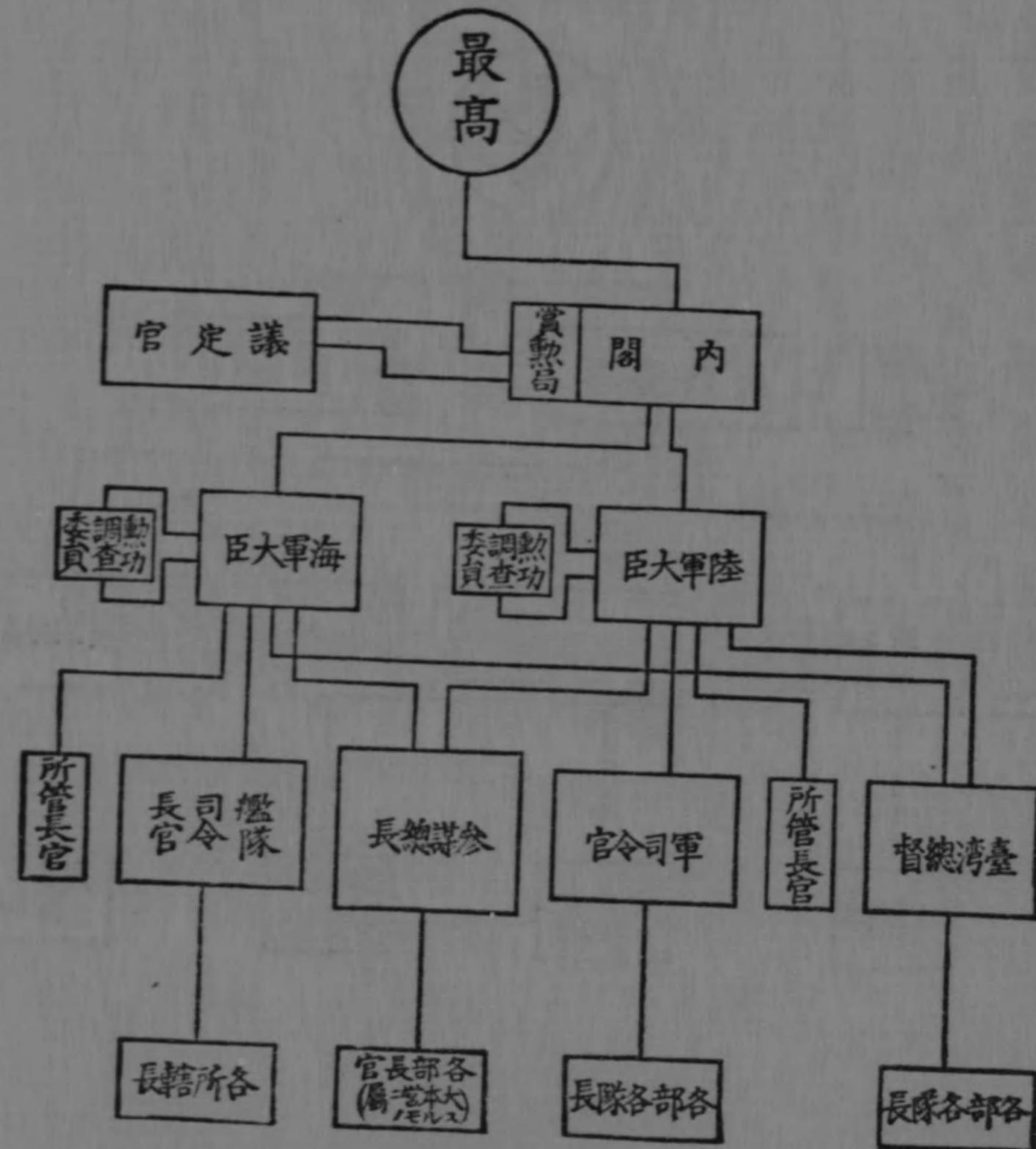
第一圖 (ノモル係ニ中置設局内事軍)



第十二類 旂位 旂勳



圖 二 第 (ノモル係=後局閉局内事軍)



● 金鷄勳章年金令

明治二十七年十月三日 勅令第百七十三號

改正 明治二十八年第一一〇號、三十九年第二〇八號、大正九年第一八五號、昭和二年第一二〇號

朕金鷄勳章年金ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム(總理大臣)

金鷄勳章年金令

第一條 金鷄勳章ヲ賜フ者ニハ功級ニ應シ終身年金ヲ加賜ス

第二條 金鷄勳章年金ノ定額ハ左ノ如シ

- 功一級 千五百圓
- 功二級 千圓
- 功三級 七百圓
- 功四級 五百圓
- 功五級 三百五十圓
- 功六級 二百五十圓
- 功七級 百五十圓

第三條 本令ノ年金受領者死亡シタルトキハ仍一年間遺族ニ其年金ヲ賜フ

前項ノ場合ニ於テ年金受領期間本人及遺族ヲ通シテ五年ニ滿

第十二類 敘位 敘勳

タサルトキハ五年ニ滿ツ迄遺族ニ其ノ年金ヲ賜フ

第四條 前條ノ遺族トハ寡婦孤兒父母及祖父母ニシテ年金受領者生存中ヨリ戶籍簿ニ登記シタル者並家督相續人及戶主ヲ云フ

第五條 本令ノ年金ハ他ノ勳等年金又ハ恩給ヲ受クルニ妨ケナキモノトス

第六條 本令施行ニ關スル細則ハ閣令ヲ以テ之ヲ定ム

附則 (明治三十九年勅令第百八號)

本令ハ明治三十七八年戰役ノ始ニ週リテ之ヲ適用ス

附則 (大正九年勅令第百八十五號)

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附則 (昭和二年勅令第百二十號)

本令ハ昭和二年分ヨリ之ヲ適用ス

附則 (昭和二年勅令第百二十號)

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附則 (昭和二年勅令第百二十號)

本令ハ昭和二年分ヨリ之ヲ適用ス



●勳章年金支給細則

明治二十七年十二月十五日  
閣令第九號

改正 明治三十九年第六號、四一年第三號、四三年第二號、大正二年第三號、九年第四號、昭和二年第七號

勳章年金支給細則左ノ通定ム

勳章年金支給細則

第一條 勳章年金ヲ賜フ者ニハ賞勳局總裁年金證書ヲ作り之ヲ授與スヘシ

第二條 賞勳局總裁年金證書ヲ授與シタルトキハ受領者ノ官職、氏名、功績若クハ勳等、年金額、證書ノ番號、授與ノ年月日ヲ貯金局ニ通知スヘシ

第三條 年金支給ノ初年ニ於テハ其ノ證書ノ日附六月三十日以前ニ在ルモノハ全額ヲ給シ七月一日以後ニ在ルモノハ半額ヲ給ス

年金受領者死亡ノ年ニ於テハ其ノ六月三十日以前ニ在ルモノハ半額ヲ給シ七月一日以後ニ在ルモノハ全額ヲ給ス

第四條 年金ハ半額ヲ毎年六月十二月ノ兩回ニ支給ス但シ前支給期月ニ支給スヘカリシ年金ハ支給期ニ非サル時期ニ於テモ

第十二類 敘位 敘勳

之ヲ支給ス

年金支給ニ關スル手續ハ選信大臣ノ定ムル所ニ依ル

第五條 金鷄勳章年金令ニ依リ遺族ニ賜フ年金ノ支給ハ年金受領者ノ死亡六月三十日以前ニ在ルモノハ七月一日、其ノ死亡七月一日以後ニ在ルモノハ翌年一月一日ニ始ル

第六條 削除

第七條 削除

第八條 削除

第九條 年金受領者カ死亡、離籍若クハ婚姻シ又ハ成年ニ達シタル爲年金受領ノ資格ヲ失ヒタルトキハ遺族、親戚又ハ本人ヨリ最寄郵便局ヲ經テ貯金局ニ届出ヘシ

郵便局ニ於テ最終期ノ年金支給ノトキハ其ノ證書ヲ收メ貯金局ヲ經テ之ヲ賞勳局ニ還納スヘシ

金鷄勳章年金令ニ依リ年金ヲ繼承スヘキ遺族アルトキハ其ノ賜期滿限ノ後還納スルモノトス

第十條 遺族ニ年金ヲ賜フトキハ其ノ順序左ノ如シ

- 一 寡婦
- 二 孤兒
- 三 父
- 四 母
- 五 祖父
- 六 祖母
- 七 家督相續人又ハ戸主



第十二類 敘勳

孤兒數人アルトキハ家督相續人ニ賜フ其ノ他ハ男子ヲ先ニシ女子ヲ後ニシ順次年長者ニ賜フ

第十一條 此ノ規則ニ於テ孤兒トハ年齡二十歳未滿ノ男女子ニシテ未タ結婚セサル者ヲ云フ

第十二條 年金ヲ繼承又ハ遞受シタル者其ノ受領期日前ニ死亡シハ籍ヲ去リ又ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキハ其ノ年金ハ次ノ順位者ニ之ヲ賜フ

第十三條 年金ヲ繼承又ハ遞受シタル者禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキハ確定裁判ヲ爲シタル官廳ノ長官又ハ檢察官ヨリ賞勳局及貯金局ニ之ヲ通知スヘシ

第十四條 年金ヲ繼承セントスル遺族ハ受領者最終期ノ年金支給濟ノ後署名捺印シタル願書(孤兒ハ親權者又ハ後見人ヨリ願書要)ニ市町村長(又ハ之ニ準スヘキ)ノ證明ヲ受ケハ保佐人ノ連署ヲ要スニ添附シ住所地方廳(官廳以下ニ同シ)ニ差出スヘシ

第十五條 賞勳局總裁ハ前條ノ願書ヲ審査シ許可スヘキモノト認メタルトキハ年金證書ノ裏面ニ其ノ事由ヲ記載シ住所地方廳ヲ經テ本人ニ下付シ其ノ旨ヲ貯金局ニ通知スヘシ

第十六條 遺族間年金ヲ遞受セントスルトキモ亦前二條ノ例ニ依ル

第十七條 年金ノ支給ヲ廢止シ又ハ停止若ハ解除スヘキ場合ニ於テハ賞勳局ハ之ヲ貯金局ニ通知シ貯金局ハ之ヲ年金支給郵便局ニ通知スヘシ

第十七條ノ二 年金ノ支給ヲ停止セフレタルトキハ停止以前ノ年金ハ解除後ノ支給期月ニ之ヲ支給シ其ノ廢止セラレタルトキハ廢止以前ノ年金ハ支給期月ニ拘ラス之ヲ支給ス

動章褫奪令第四條但書及同第五條但書ニ該當スルトキハ週リテ受クヘキ年金ハ當期ノ年金ト同時ニ之ヲ支給ス

第十八條 年金受領者行方不明ノ場合ニハ其ノ所在分明トナリタル後行方不明中ニ受取ルヘキ年金ヲ支給ス

地方長官ニ於テ年金受領者行方不明中年金ノ支給ヲ停止セラ

〔海軍〕

ルヘキ所爲アリト認定スルトキハ其ノ旨ヲ賞勳局ニ申牒シ且年金ノ支給ヲ猶豫セシムル爲貯金局ヘ通知スヘシ

第十九條 年金ノ支給ヲ廢止若ハ停止スヘキ場合ニハ其ノ支給額ハ各日割ヲ以テ之ヲ計算ス

第二十條 水火災盜難等ニ由リ年金證書ヲ亡失シタルトキハ年金ノ種類、證書ノ番號、年金額及亡失ノ事由ヲ具シ年金支給郵便局ヲ經テ貯金局ニ届出ヘシ

貯金局前項ノ届出ヲ受ケタルトキハ其ノ事實ヲ調査シ賞勳局ニ申牒スヘシ賞勳局總裁ハ新ニ年金證書ヲ作り其ノ裏面ニ再度授與ノ旨ヲ記載シ貯金局ヲ經由シ年金支給郵便局ヲシテ之ヲ本人ニ下付セシム但亡失シタル年金證書ヲ發見シタルトキハ直ニ年金支給郵便局ヲ經テ賞勳局ニ還納スヘシ

第二十一條 年金受領者氏名ヲ改メタルトキハ其ノ届書ニ年金證書ヲ授與シタル次ノ年金支給期月ニ其ノ年金ヲ併セ支給ス證書及戸籍謄本ヲ添ヘ年金支給郵便局ヲ經テ貯金局ニ差出スヘシ

貯金局長ハ年金證書ノ裏面ニ其ノ事由ヲ記載シ署名捺印ノ上

第十二類 敘勳

四一六

〔海軍〕

年金支給郵便局ヲ經テ本人ニ下付シ其ノ旨ヲ賞勳局ニ通知スヘシ

附錄

年金繼承願

府(縣)郡(市)町(村)番地華士族平民  
故官位功勳府氏名寡婦(孤兒)  
(父母)(祖父母)  
功何級金鷄勳章年金證第何號

氏 名

何年何月生

歲額何百何圓

右ハ夫(父等)氏名何年何月何日死亡候ニ付金鷄勳章年金令第三條ニ依リ何年一月(七月)ヨリ何年十二月(六月)迄何年(何年六月)間私拜受仕度別紙年金證並戸籍謄本相添此段奉願候也

右寡婦(孤兒)(父母)(祖父母)

氏 名印

年 號 月 日

賞勳局總裁府氏名殿

(遺族間年金遞受願書モ此ノ書式ニ準シテ作ルヘシ)

四一七



附則 (大正九年閣令第四號)

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス  
本令施行前年金繼受又ハ遞受ノ許可ヲ受ケタル者ニシテ金鵄勳章年金令第三條第二項ノ規定ニ依リ支給期間ヲ延長セラレタルモノハ勳章年金支給細則第十四條ノ規定及附録書式ニ準シ更ニ其ノ延長期間ノ年金ノ繼受又ハ遞受ヲ願出ツヘシ

第二款 佩用

勳章佩用式

明治二十一年十一月十七日勳令第七十六號

改正 明治二十二年第一〇八號、大正八年第二三三號

朕勳章佩用式ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム(總理大臣副署)

勳章佩用式

第一條 大勳位菊花章

菊花章ハ頸飾ヲ以テ喉下ニ佩ヒ其副章ヲ左肋ニ佩フ大綬ヲ以テ佩フル時ハ右肩ヨリ左脇ヘ垂レ其副章ハ左肋ニ佩フ但菊花章ヲ賜ヒタル者ハ旭日桐花大綬章瑞寶一等章ヲ併セ佩ルコトヲ得

第二條 寶冠章

一 勳一等寶冠章ハ大綬ヲ以テ右肩ヨリ左脇ヘ垂レ其副章ヲ左肋ニ佩フ

二 勳二等寶冠章以下ハ結蝶狀ノ綬ヲ以テ左肋ニ佩フ

第三條 旭日章

一 勳一等旭日桐花章並旭日章ハ大綬ヲ以テ右肩ヨリ左脇ヘ垂レ其副章ヲ左肋ニ佩フ

第十二類 佩用

二 勳二等旭日章ハ右肋ニ佩ヒ其副章ヲ中綬ヲ以テ喉下ニ佩フ

三 勳三等旭日章ハ中綬ヲ以テ喉下ニ佩フ

四 勳四等勳五等勳六等旭日章勳七等勳八等桐葉章ハ小綬ヲ以テ左肋ニ佩フ

第四條 瑞寶章

一 勳一等瑞寶章ハ大綬ヲ以テ右肩ヨリ左脇ヘ垂レ其副章ヲ左肋ニ佩フ

二 勳二等瑞寶章ハ右肋ニ佩フ

三 勳三等瑞寶章ハ中綬ヲ以テ喉下ニ佩フ

四 勳四等瑞寶章以下ハ小綬ヲ以テ左肋ニ佩フ

五 婦人ニ賜フ勳三等瑞寶章以下ハ結蝶狀ノ綬ヲ以テ左肋ニ佩フ

第五條 別種ノ勳章ハ之ヲ併佩ス其大綬章ハ之ヲ併佩セス



勳章記章佩用心得

明治二十二年二月七日  
賞勳局告示第一號

改正 大正五年内閣告示第一號

勳章記章佩用心得

- 第一款 一等勳章ヲ有スル者更ニ別種ノ一等勳章ヲ受ケタル時ハ旭日桐花章ト旭日章トハ同 後ニ受ケタル一等勳章ノ正章竝ニ其副章ト前ニ受ケタル一等勳章ノ副章トヲ併佩スヘシ
- 第二款 二等以下ノ勳章ヲ有スル者更ニ同種上級ノ勳章ヲ受ケタル時ハ其下級ノ勳章ヲ佩フルコトヲ止ム別種ノ同級若クハ上級ノ勳章ヲ受ケタル時ハ之ヲ併佩スヘシ
- 第三款 二等勳章若クハ一等ノ副章兩箇以上ヲ併佩スル時ハ後ニ受ケタルモノヲ前ニ受ケタルモノ、位置ニ付テ其上位ニ列佩スヘシ
- 第四款 三等勳章兩箇以上ヲ併佩スル時ハ後ニ受ケタルモノヲ前ニ受ケタルモノ、位置ノ上ニ佩フヘシ
- 第五款 四等勳章以下兩箇以上ヲ併佩スル時ハ後ニ受ケタルモノヲ前ニ受ケタルモノ、位置ヲ右ニ佩ヒ其記章若クハ褒章ヲ

有スル者ハ之ヲ勳章ノ位置ノ左ニ列佩スヘシ

第六款 勳章ハ男子ハ大禮服及通常禮服(燕尾服)著用ノ時佩フヘシ記章及褒章ヲ有スル者亦同シ  
通常禮服著用ノ時ハ大綬章ヲ上衣ノ下ニ佩ヒ其副章ヲ上衣ノ上ヘ其位置ニ佩フ又大綬章ヲ胴衣ノ下襷衣ノ上ニ佩ヒ副章ヲ上衣ノ上ヘ其位置ニ佩フルコトアリ時宜ニ依リ大綬章ヲ省キ其副章ノミヲ佩フルコトアルヘシ

第七款 勳章ハ婦人ハ大中小禮服著用ノ時佩フヘシ  
一等勳章ヲ有スル者大禮服ニハ大綬章及ヒ副章ヲ佩フ中小禮服ニハ時宜ニ依リ大綬章ヲ省キ副章ノミヲ佩フルコトアルヘシ又通常禮服ニハ時宜ニ依リ副章ノミヲ佩フルコトアルヘシ  
二等以下ノ勳章ヲ有スル者ハ通常禮服著用ノ時ニ於テモ時宜ニ依リ之ヲ佩フルコトアルヘシ

第八款 外國勳章佩用方ハ各彼ノ規則ニ依ル  
第九款 我勳章ヲ有スル者我勳章ヲ佩ヒシテ彼ノ勳章ノミヲ

外國勳章記章

〔海軍〕

フヘカラス

- 第十款 彼我ノ大綬章ヲ有スル者ハ彼ノ大綬章ヲ佩ヒス之ニ屬スル副章ノミヲ我副章ノ位置ノ下若クハ次ニ列佩スヘシ  
但外交ノ時宜ニ依リ彼ノ大綬章及ヒ其副章ヲ佩フル時ハ我大綬章ヲ省キ我副章ハ併佩スヘシ
- 第十一款 彼我ノ綬ヲ用ヒサル勳章ヲ併佩スル時ハ彼ノ勳章ヲ我勳章ノ位置ノ下若クハ次ニ列佩スヘシ
- 第十二款 我彼ノ喉下ニ佩フル勳章ヲ併佩スル時ハ彼ノ勳章ヲ我勳章ノ位置ノ下ニ佩フヘシ
- 第十三款 彼我ノ左肋ニ佩フル勳章ヲ併佩スル時ハ彼ノ勳章ヲ我勳章ノ位置ノ左ニ列佩スヘシ
- 第十四款 彼ノ左肋ニ佩フル勳章ヲ我記章及ヒ褒章ト併佩スルトキハ我記章及ヒ褒章ヲ彼ノ勳章ノ位置ノ左ニ列佩スヘシ
- 第十五款 彼ノ記章ト我記章及ヒ褒章ト併佩スル時ハ之ヲ我記章及ヒ褒章ノ位置ノ左ニ列佩スヘシ

略章略綬佩用心得

明治二十二年二月十二日  
賞勳局告示第二號

改正 大正八年閣令第五號、一〇年第五號、昭和六年第二號

略章略綬佩用心得

- 一 各種勳章ノ略章(凡ソ徑曲尺五六分若クハ其以下ノ大サニシテハ通常禮服著用ノ時或ル場合ニ於テ連鎖或ハ小綬ヲ以テ左肋ニ佩用スルヲ得外國勳章ノ略章モ亦同シ)
- 二 勳章又ハ褒章ノ略綬ハ通常禮服又ハ通常服著用ノ節左襟見返シノ鈕孔ニ掛ケ佩フヘシ婦人ニ在リテハ左肋ニ佩フヘシ但シ時宜ニ依リ男子ニ在リテハ紋付羽織袴婦人ニ在リテハ白襟紋服著用ノ節ニモ佩フルコトヲ得
- 三 略綬ハ別種二箇以上ノ勳章ヲ有スル者各其綬ト同色ナル絹ヲ以テ二箇若クハ數箇合併ノモノヲ製シ之ヲ佩用スルヲ得又内外數種ノ勳章ヲ有スル者ハ内外數箇合併ノ略綬ヲ製シ之ヲ佩用スルコトヲ得二箇以上ノ褒章ヲ有スル者ニ付亦同シ但シ勳章ノ略綬ト合併スルコトナシ
- 四 褒章ノ略綬ハ勳章ノ略綬ノ左ニ佩フヘシ

〔海軍〕



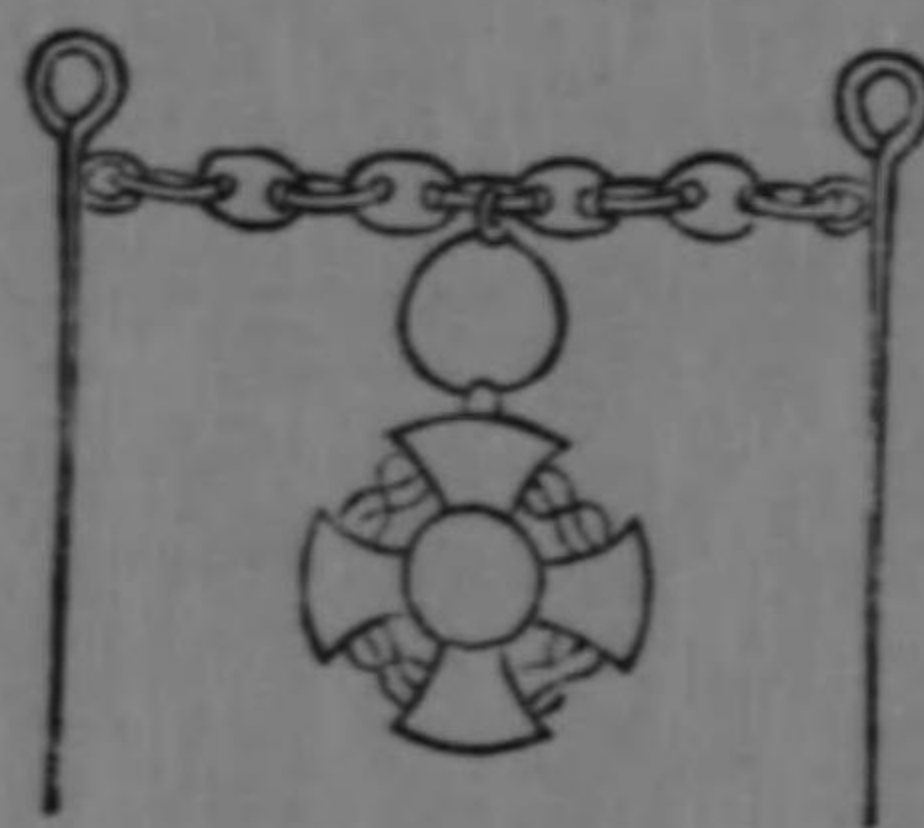
五 勳章ト褒章ト有スル者勳章ノ略綬ヲ佩ヒスシテ褒章ノ略綬ヲ佩フルコトナシ

六 略綬ハ勳章、記章、褒章又ハ略章ト同時ニ佩フルコトナシ  
外國ノ勳章、記章、褒章又ハ略章ニ付亦同シ

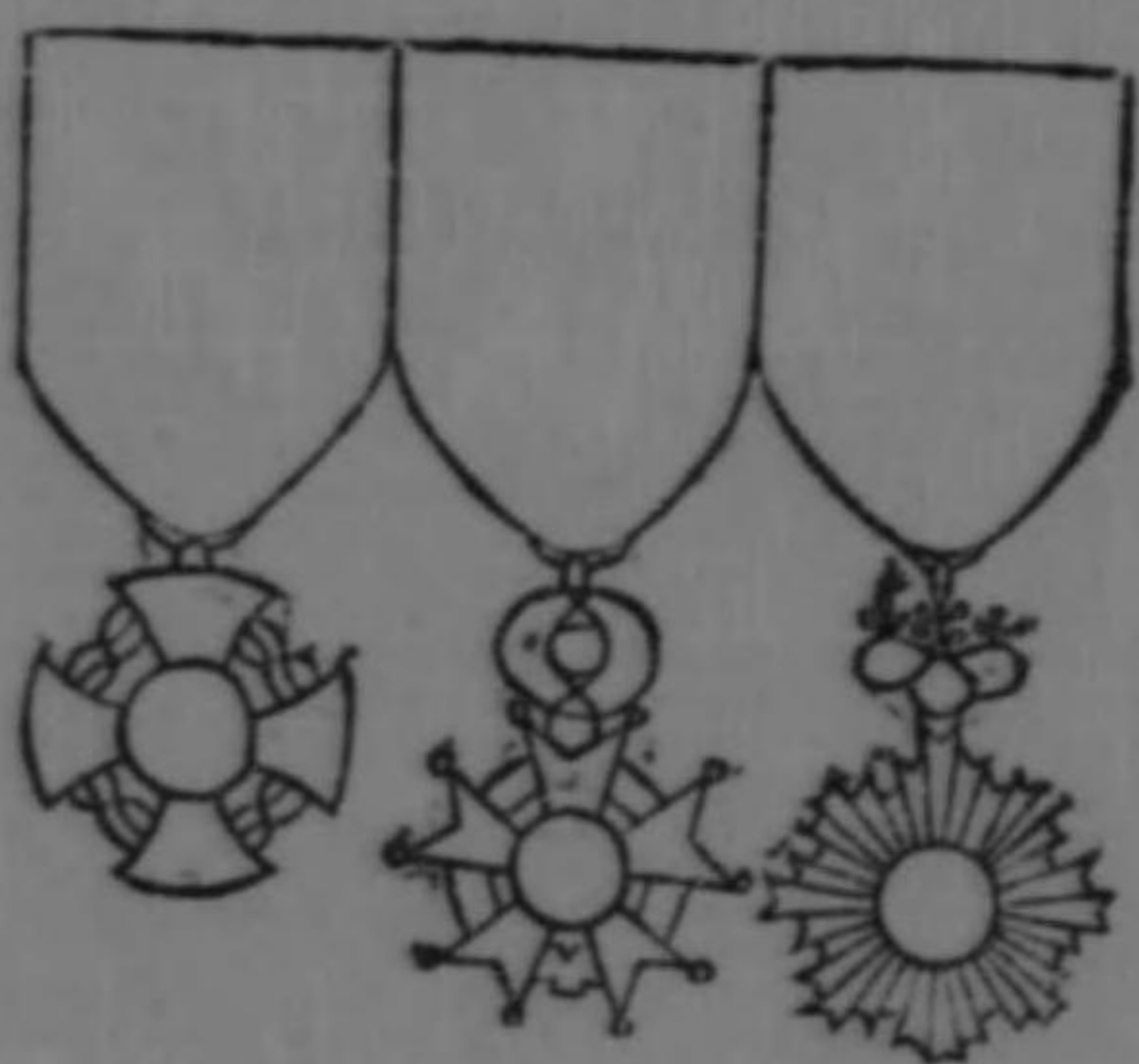
略章ヲ小綬ニテ佩ル圖



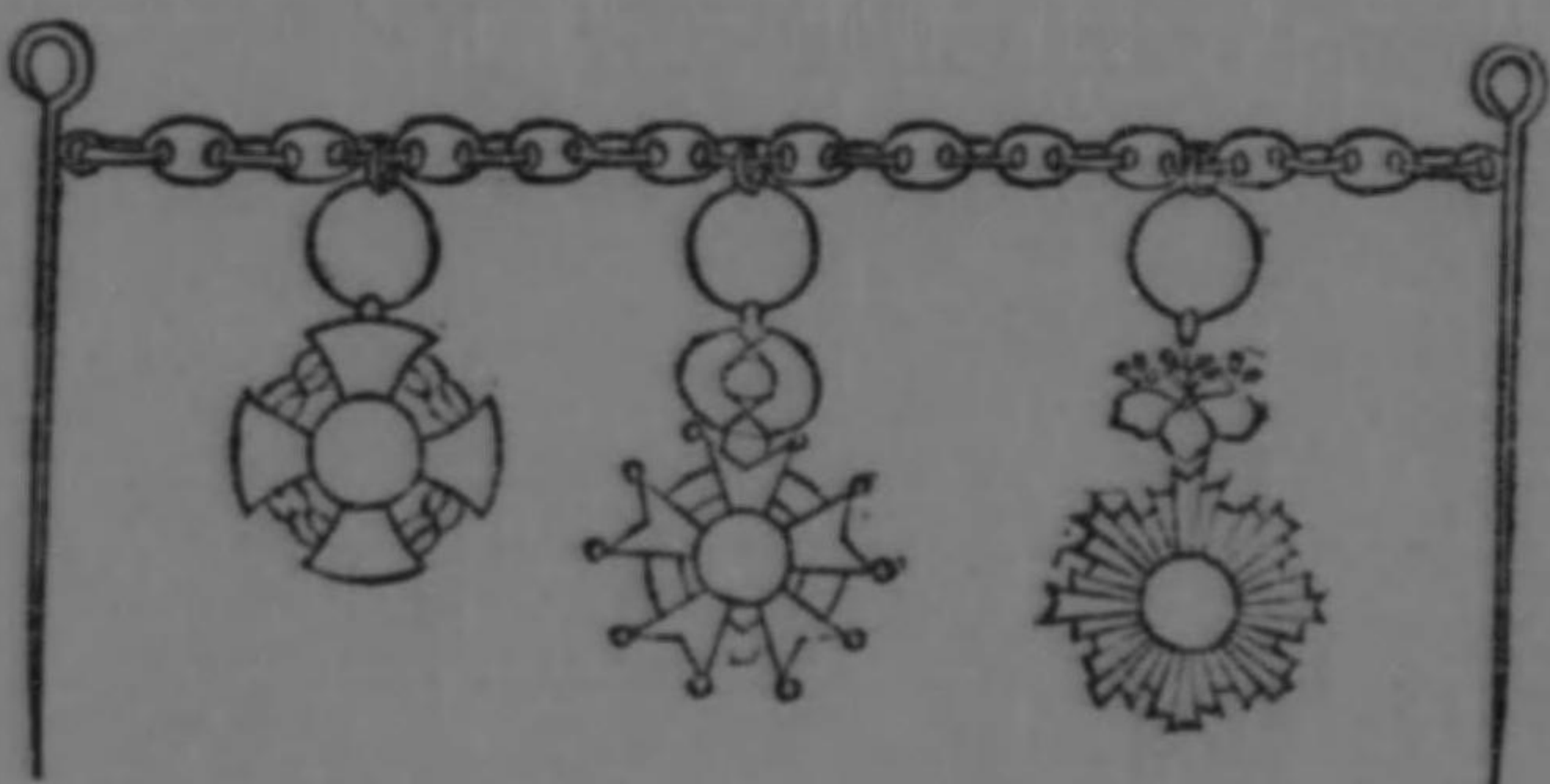
略章ヲ鏈鎖ニテ佩ル圖



略章ヲ小綬ニテ聯佩スル圖



略章ヲ鏈鎖ニテ聯佩スル圖



二種以上ノ勳章ノ略綬ヲ合併シタル圖

四種合併



三種合併

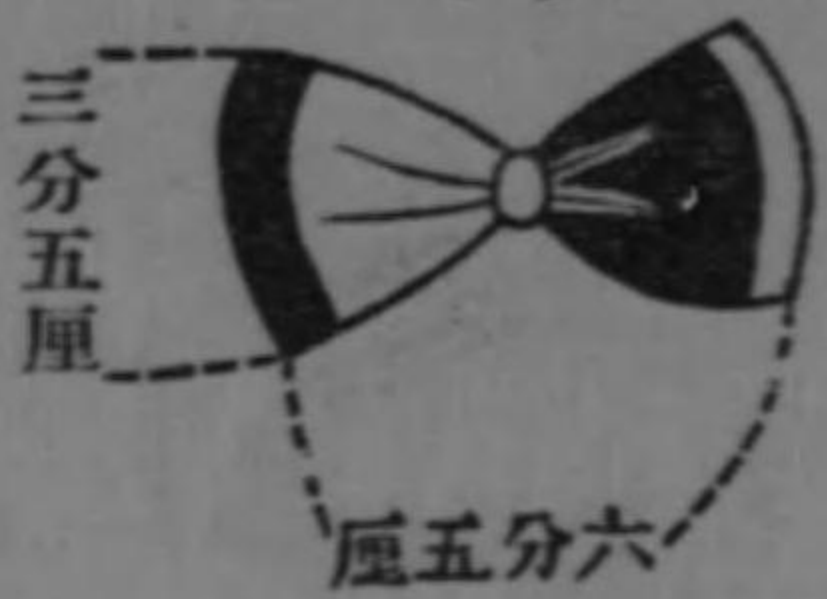


二種合併

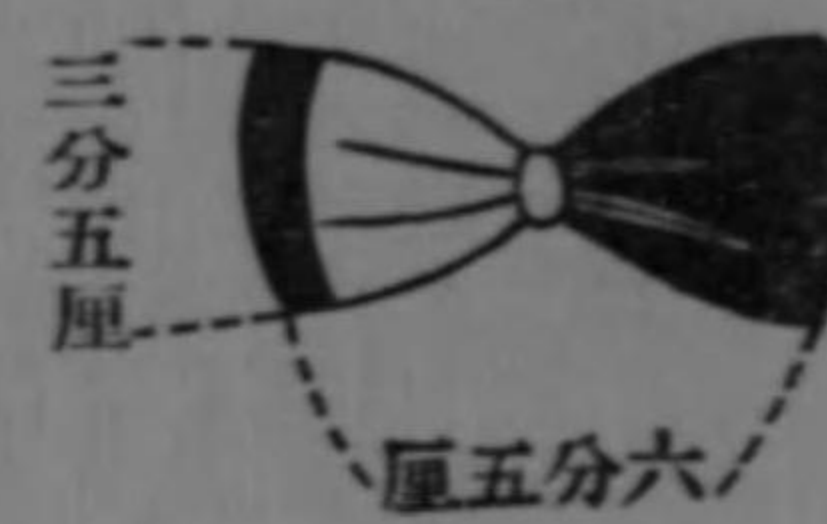


褒章ノ略綬ヲ合併シタル圖

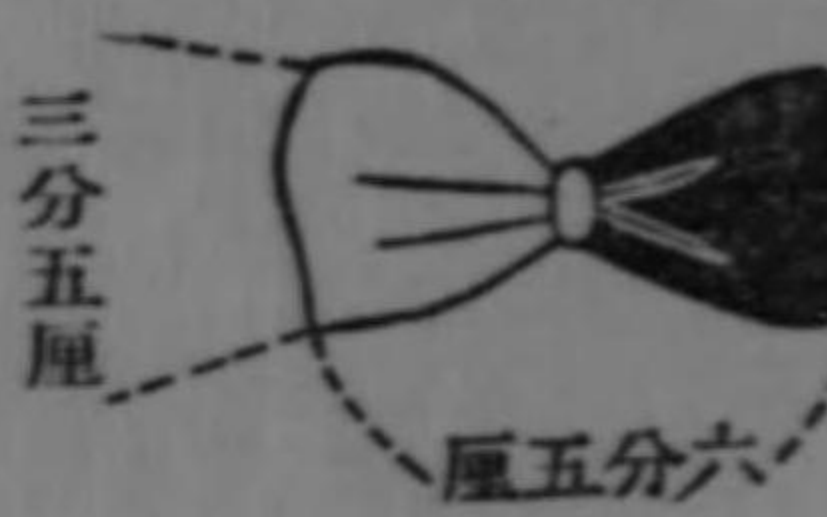
合四種



合三種



合二種



附則 (大正十年閣令第五號)

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス  
本令施行前褒章ヲ授與セラレタル者其ノ略綬ヲ佩用セムトスル  
トキハ制式ニ從ヒ各自之ヲ調製スヘシ



勳章記章褒章所有者略綬調製佩用方

方

大正七年九月十七日  
内閣告示第四號

勳章記章又ハ褒章ヲ有スル者ハ大禮服及正装ヲ除クノ外制服著用ノ節各自左ノ制式ノ略綬ヲ製シ之ヲ左肋ニ佩用スルコトヲ得略綬二種以上ニ及フトキハ本章佩用ノ順序ニ從ヒ聯結佩用スルモノトス

- 一 綬色 本綬ニ同シ
- 一 綬幅 本綬ニ同シ但シ無綬又ハ大綬ノ勳章ニ在リテハ功三級勳三等ノ綬幅ニ同シ
- 一 綬長 曲尺三分

大正七年十一月十四日  
官房第三九一三號ノ二

(海軍次官ヨリ各艦長迄)

本年内閣告示第四號ニ依ル略綬ノ佩用方ニ關シ別紙ノ通賞勳局總裁ヨリ通牒有之候條御承相成度  
右通牒ス

(別紙)

大正七年十月二十四日勳内發第八六四號(賞勳局總務ヨリ海軍次官迄)  
通牒

本年九月十七日内閣告示第四號ヲ以テ定メラレタル制服ニ佩用スルコトヲ得ル略綬ノ佩用方ニ付疑義ヲ生スル向モ可有之ニ付左記ノ通一定致度

記

- 一 略綬ハ勳章、記章、褒章又ハ略章ト同時ニ佩用スルコトナシ
- 一 外國ノ勳章、記章、褒章又ハ略章ニ付亦同シ
- 二 略綬二種以上ニ及フトキハ時宜ニ依リ其ノ一種若ハ數種ノミヲ佩用スルコトヲ得但シ勳章ノ略綬ヲ佩ヒスシテ他ノ略綬ノミヲ佩用スルコトヲ得ス
- 三 數種ノ略綬ヲ聯結佩用スル場合ニ於テハ其ノ一端ニ於テ之ヲ重ヌルコトヲ得又ハ一列ニ佩用スルコト能ハサルトキハ二列以上ニ及フトコトヲ得

(海軍)

勳章記章及略綬佩用例

昭和七年二月十二日  
官房第五二二號

(海軍省調官ヨリ各艦長迄)

勳章記章及略綬佩用方ノ件通牒

勳章記章及略綬佩用例左ノ通被定候條御了知相成度

追テ昭和六年一月二十七日官房第二五七號ハ自然消滅ノ儀ト御承相成度

勳章記章及略綬佩用例

- 一 正装、禮装著用ノ場合
  - 勳章記章ノ全部ヲ佩用ス
- 二 通常禮装著用ノ場合
  - (イ) 勳一等級以上ノ者
    - 特ニ指定アル場合ノ外最高勳章一個ヲ佩用ス
  - (ロ) 勳二等級以下ノ者
    - (甲) 最上級勳章及記章全部佩用スル場合左ノ如シ  
但シ勳四等功四級以下ノ勳章ハ記章ト併佩スルコトヲ得
    - (一) 宮中ノ午餐、賜饌、皇族ノ午餐又ハ觀櫻觀菊ノ御宴

第十二類 佩用

(海軍)

ニ陪スルトキ

- (二) 拜謁スルトキ
- (三) 臨御又ハ皇族ヲ差遣セラレタル式場ニ參會スルトキ
- (四) 天皇ニ對スル儀仗トシテ勤務スルトキ
- (五) 行幸ノ際奉迎又ハ奉送ヲナスルトキ
- (六) 遙拜式ヲ行フトキ又ハ神社ニ參拜スルトキ
- (七) 宮中大祓ニ參列スルトキ
- (八) 分隊點檢ヲ行フトキ
- (乙) 最上級ノ勳章一個ヲ佩用スル場合左ノ如シ
  - (一) 天機奉伺、御機嫌奉伺、御祝詞又ハ御禮其ノ他ノ爲參内參殿スルトキ
  - (二) 特命檢閱使ニ對スル儀仗トシテ勤務スルトキ
  - (三) 特命檢閱使ニ對スル迎送式及伺候式ニ參列スルトキ
- (丙) 最上級勳章一個若ハ略綬ヲ佩用スル場合左ノ如シ
  - (甲) 及(乙)ニ掲グル以外ノ場合
  - 軍裝著用ノ場合
  - (一) 軍裝ニ帶動スル場合ハ最上級ノ勳章一個又ハ略綬ヲ佩用



スルヲ例トス但シ參内參殿其ノ他

天皇又ハ皇族ニ對スル儀禮ノ場合(戰時又ハ演習ノ場合ヲ除ク)ハ略綬ヲ佩用セズ

(二) 第二種軍裝ヲ以テ正裝又ハ禮裝ニ代フル場合ハ最上級勳章(大綬ヲ以テ佩ブルモノハ其ノ副章)及記章全部ヲ佩用ス

(三) 第二種軍裝ヲ以テ通常禮裝ニ代フル場合ハ通常禮裝著用ノ場合ニ準ズ

四 前記諸號中最上級勳章一個ハ之ニ代フルニ金鷄勳章ヲ以テシ若ハ其ノ兩者ヲ併佩スルコトヲ得

五 特別ノ場合ニ於ケル勳章記章ノ佩用ニ關シテハ所在首席指揮官又ハ各部ノ長(首席者)之ヲ指定スルコトヲ得

備考  
當分ノ間最高勳章一個又ハ略綬ヲ佩用スル場合ニ於テ下士官兵ハ勳章記章全部ヲ佩用スルヲ例トス

### ●功一級金鷄勳章ヲ有スル者他ノ勳章佩用方

大正二年十月十八日  
式部第一〇九四號

(式部長官ヨリ海軍大臣宛)

功一級金鷄勳章ヲ有スル向ニシテ宮中ノ諸儀式祭典ノ節參内ノ場合勳章佩用方別紙ノ通御治定相成候ニ付該勳章鈿賜ノ向ヘ夫々通牒候間爲御心得此段申進候也

(別紙)

- 一 菊花頸飾ヲ佩フルトキハ勳一等旭日桐花大綬章ノ大綬又ハ功一級金鷄勳章ノ大綬ヲ佩用スルモノトス
- 一 菊花大綬章ト功一級金鷄勳章ト併有スル者ハ何レノ大綬ヲ佩用スルモ適宜トス功一級ト勳一等ト併有スル者亦同シ

[海軍]

### ●金鷄勳章並記章等別種勳章記章併佩ノ場合

明治四十年五月三十一日  
官房第二二八二號

改正 明治四二年第二〇八八號、大正一〇年第二二六三號、一一年第三五四〇號

金鷄勳章並記章等別種勳章記章ト併佩ノ場合ニシテ勳章記章佩用心得中規定ナキモノハ功二級及勳二等以下ニ限り當分ノ間左ノ通佩用スル儀ト心得ヘシ

金鷄勳章ト別種勳章ノ併佩

- 一 功二級金鷄勳章ト別種ノ勳章ト併佩スルトキハ別種勳章ノ位置ニ付共ノ上位ニ佩フヘシ
- 一 功三級金鷄勳章ト別種勳章ヲ併佩スルトキハ金鷄勳章ヲ別種勳章ノ位置ノ上ニ佩フヘシ
- 一 功四級以下ノ金鷄勳章ト別種勳章ヲ併佩スルトキハ別種勳章ノ位置ノ右ニ佩フヘシ

各種記章併佩

- 一 各種記章(記念章ヲ含ム)ヲ併佩スルトキハ憲法發布記念章ノ左方ヘ其授與セラレタル證狀日附ノ順序ニ依リ佩用スヘシ

[海軍]

其日附同日ナル場合ハ記章制定ノ順序ニ依ル

附則

日本赤十字社有功章同社員章ノ佩用ニ關シテハ日本赤十字社有功章社員章條例第八條ニ依ル

(參照)

日本赤十字社有功章社員章條例

第八條 有功章社員章ハ男女共ニ左肋ニ佩ル者トス

我國勳章記章褒章ヲ有スル者ハ其後ニ列佩スヘシ

外國勳章並ニ其政府ヨリ出ス記章ヲ有スル者ハ其勳章記章ノ後ニ列佩スヘシ

但有功章社員章ハ併佩スヘシ併佩スルトキハ有功章ヲ前ニシ社員章ヲ後ニスヘシ

### ●功六級勳七等以下ノ勳章記章褒章佩用方

大正八年二月八日  
內閣告示第一號

功六級勳七等以下ノ勳章及記章褒章ハ時宜ニ依リ男子ハ紋付羽織袴、婦人ハ白襟紋服(朝鮮人及臺灣人等ニ在リ)著用ノ節衣服ノ左肋ニ之ヲ佩用スルコトヲ妨ケス



●外國勳章佩用願規則

明治十八年十一月二十一日  
太政官布告第三十五號

改正 明治三十一年勅令第三三九號

明治十一年<sup>六</sup>月第十五號布告外國勳章佩用免許願手續左ノ通改正ス

外國勳章佩用願規則

第一條 外國ノ勳章ヲ受領シ之ヲ佩用セントスル者ハ賞勳局總裁ヘ願出免許狀ヲ受クヘシ

第二條 佩用願書ニハ勳章勳記其他關係書類ヲ添ヘ賞勳局總裁ヘ差出スヘシ

第三條 外國ノ勳章ヲ佩用スル者死亡シタルトキハ三十日以内ニ其旨ヲ遺族又ハ親戚ヨリ賞勳局ヘ届出ヘシ

第四條 外國ノ記章從軍記章人命救助記章博覽會記章ノ類ヲ受領シ之ヲ佩用セントスル者ハ總テ此規則ニ準據スヘシ

右奉 勅旨布告候事

●外國勳章佩用願ニ關スル件

大正十五年八月二十四日  
官房第二七一六號

(海軍省關官ヨリ各廳長宛)

外國勳章佩用願ニ關スル件

外國勳章佩用願規則第二條ニ依リ賞勳局總裁ヘ差出スヘキ佩用願書ニ左記書類ヲ添付相成度旨其ノ筋ヨリ通知有之候  
右通牒ス

記

一、勳章ヲ贈與セラレタル理由書

大正十五年九月二十日  
官房第二九四一號

(海軍省關官ヨリ各廳長宛)

外國勳章佩用願ニ關スル件

本件ニ關シ大正五年一月三十一日官房第二四一號ヲ以テ及通知置候處右ハ左ノ通改正致候  
右通知ス

記

外國勳章佩用願規則第二條ニ依リ佩用願書ニハ勳章勳記其ノ他

(海軍)

關係書類ヲ添ヘ本人ヨリ直接賞勳局總裁ヘ差出スコトト相成居候處勳記未著ノ場合ニハ海軍大臣ノ證明書ヲ得テ一件書類ニ添附シ佩用ヲ免許セラルル慣例ニ有之候  
尙本人外國ニ在リテ勳章ヲ提出シ能ハサルトキハ勳記及同譯文ノミヲ添附シ提出差支無之候

佩用願書例 (用紙美濃白紙)

一、勳記其ノ他完備セル場合

外國勳章受領及佩用願

氏 名 儀

今般(何)國(皇帝陛下)ヨリ(何々)勳章贈與相成候ニ付受領及佩用ノ儀御允許被成下度別紙供閱物件目錄相添ヘ此段奉願候也

年 月 日

官位勳功爵 氏

名 印

賞勳局總裁爵 氏 名 宛

(別紙)

第十二類 佩 用

供閱物件目錄

(海軍)

一、勳 章 (勳章名及等級ヲ記入スヘシ) 壹個(又ハ壹組)

一、勳 記 (勳章名及等級ヲ記入スヘシ) 壹通

一、同 譯 文 (支那國ノ分ニ限リ譯文ヲ要セス勳記寫ヲ要ス) 壹通

一、受勳理由書 壹通

右受領及佩用允許相願候ニ付差出候也

年 月 日

官位勳功爵 氏

名 印

二、勳記未受領ノ場合

書例一ニ同シ

但シ供閱物件目錄ハ左ノ通

(別紙)

供閱物件目錄

一、勳 章 (勳章名及等級ヲ記入スヘシ) 壹個(又ハ壹組)

一、海軍大臣ノ證明書 壹通

一、受勳理由書 壹通

右受領及佩用允許相願候ニ付差出候也

四二九



年月日

官位勳功爵氏

名

三、本人外國ニ在リテ勳章ヲ提出シ得サル場合  
書例一ニ同シ

但シ供閱物件目錄中「勳章」ノ一項ヲ削ル

大正七年六月二十二日  
官房第二二三七號

(海軍省副官ヨリ各艦長宛)

外國勳章佩用願ニ關スル件

外國勳章佩用願規則第二條ニ依リ賞勳局總裁ヘ差出スヘキ佩用願書及附帶物件等ハ自今海軍省人事局ヲ經由スルコトニ一定セラレ候  
右通知ス

勳章記章褒章佩用取締ニ關スル件

明治四十一年十二月二日  
勳令第二百九十二號

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ勳章記章褒章ノ佩用取締ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム(總理大臣)

第一條 勳章又ハ布告、勳令ニ依リ制定セラレタル各種ノ記章、褒章ヲ僭用シタル者又ハ其ノ佩用ノ停止ニ違反シタル者ハ五十圓以下ノ罰金、拘留又ハ科料ニ處ス外國勳章、記章ノ佩用禁止若ハ停止ニ違反シタル者又ハ佩用免許狀ナクシテ佩用シタル者亦同シ

第二條 勳章又ハ布告、勳令ニ依リ制定セラレタル各種ノ記章、褒章ニ類似シタル標章ヲ佩用シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス外國勳章ニ類似シタル標章ヲ佩用シタル者亦同シ

附則

明治二十八年勳令第百十八號ハ之ヲ廢止ス  
日本赤十字社ノ記章ノ佩用ニ關スル例規ハ本令ニ依リ變更ヲ受クルコトナシ

〔海軍〕

勳章記章類佩用ニ關スル件

明治四十年六月一日  
官房第二三三〇號

(文官ヨリ各艦長宛)

勳章又ハ勅令ニ依リ制定セラレタル各種記章ニ類似ノ標章類佩用ノ儀ハ明治二十八年勳令第百十八號ヲ以テ禁止セラレ居候ニ拘ハラズ近來我海軍軍人軍屬ニシテ赤十字社記念章ヲ同社記念章ニ添付シ又ハ單獨ニ之ヲ佩用スル者及海員救濟會徽章等ヲ佩用スルモノ其他勳章記章ヲ二列ニ佩用セル者等往々見受ケラレ候趣ニ聞及ヒ候處右等ノ者ノ内其違令タルコトヲ知ラサルモノ多カルヘシト認メ候ニ付一般ニ佩用スヘカラサル褒章徽章等ハ直接該章ニ關係アル場所ニ參列若ハ參會セルトキニ於テノミ佩用シ其他ノ場合ニハ一切佩用スヘキモノニ非ルコトヲ訓諭シ爾後違令者無之様貴部下一般ヘ御達示相成度依命此段申進候也

〔海軍〕



第三款 授與 概奪

勳章授與式例

大正四年六月七日  
官房第一八三〇號ノ二

改正 大正一〇年第二六二六號

今般勳章授與式例別紙ノ通御治定相成候趣賞勳局總裁ヨリ通牒有之候條此旨心得ヘシ

(別紙)

勳章授與式例 (大正四年五月二十三日臨時)

第一條 勳章ノ授與ハ特別ノ場合ヲ除クノ外本例ノ定ムル所ニ依リ式ヲ設ケテ之レヲ行フ但シ皇族、婦人又ハ外國人ニ對スル勳章ノ授與ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第二條 勳二等功三級以上ニ敍セラレタル在京者ニ對シテハ宮中ニ於テ賜授ノ式ヲ行ヒ其ノ勳章ヲ授與ス宮中賜授ノ式ハ親授式及奉授式トス

第三條 親授式ハ勳一等、功二級以上ニ敍セラレタル者ニ對シ其ノ勳章ヲ授與スル場合ニ之ヲ行ヒ  
天皇親臨シテ之ヲ賜フ

第四條 奉授式ハ勳二等、功三級ニ敍セラレタル者ニ對シ其ノ

第十二類 授與 概奪

〔海軍〕

勳章ヲ授與スル場合ニ之ヲ行ヒ賞勳局總裁旨ヲ奉シテ之ヲ授ク  
前項ニ掲ケル場合ノ外奉授式ハ事故ニ由リ親授式ヲ行ハセラレサルトキ亦之ヲ行フ

第五條 宮中賜授ノ式ニ依リ勳章ヲ授與セラルヘキ者以外ノ者ニ授與スヘキ勳章ハ賞勳局總裁之ヲ所管長官ニ傳達シ所管長官適宜式ヲ設ケテ之ヲ授與ス  
事故ニ由リ奉授式ヲ行フ能ハサル場合又ハ受章者宮中賜授式ニ參内スル能ハサル場合ニ於テハ前項ノ例ニ依ル

海軍勳章授與式施行手續

大正四年七月二十一日  
達第百三號

改正 大正一〇年第一四四號

海軍勳章授與式施行手續左ノ通定ム

海軍勳章授與式施行手續

第一條 左ノ場合ニ於ケル海軍軍人軍屬ノ勳章授與式ハ本手續ニ依リ之ヲ施行ス

一 勳三等旭日章及瑞寶章以下並功四級金鷄勳章以下ノ勳章

四三三



ヲ授與スルトキ

- 二 在京者ニ非シテ勳二等功三級以上ニ叙セラレタルトキ
- 三 賞勳局總裁旨ヲ奉シテ行フヘキ奉授式ヲ事故ニ由リ行フ能ハサルトキ

四 受章者官中賜授式ニ參内スル能ハサルトキ

五 金鷄勳章叙賜條例第八條ニ依リ勳章ヲ授與スルトキ

第二條 海軍高等武官候補生軍屬ニ在リテハ高等文官ニ授與セララル勳章及海軍軍人ニ授與セララル金鷄勳章ハ左ノ諸號ニ依リ之ヲ授與ス

- 一 東京又ハ大本營所在地ニ在ル者ニ對シテハ海軍大臣之ヲ授與シ其ノ他ノ者ニ對シテハ海軍大臣ヨリ各所屬長官ニ送付シ之ヲ授與セシム

二 鎮守府司令長官、要港部司令官部下ノ者ニシテ其ノ軍港、要港内ニ在ルトキハ該司令長官、司令官之ヲ授與シ其ノ軍港、要港内ニ在ラサルトキハ防備隊司令官又ハ防備隊司令官ノ他ノ各所轄長ニ送付シ之ヲ授與セシム

三 艦隊司令長官、艦隊司令官麾下ノ者ニシテ該官ト同港内ニ在ルトキハ該司令長官、司令官之ヲ授與シ同港内ニ在

ラサルトキハ戰隊司令官又ハ艦長、司令官ノ他ノ所轄長ニ送付シ之ヲ授與セシム戰隊司令官其ノ麾下ノ者ニ授與セシムル場合亦之ニ準ス

四 前二號ニ掲ケサル所屬長官部下ノ者ニ對シテハ當該所屬長官ハ各所轄長ニ送付シ之ヲ授與セシム

五 受章者ニシテ自ラ當該授與者タルトキハ前諸號ヲ適用スルノ限ニ在ラス

第三條

准士官軍屬ニ在リテハニ授與セララル旭日章及瑞寶章ハ東京ニ在ル者ニ對シテハ海軍大臣ヨリ各所轄長ニ付シ之ヲ授與セシメ其ノ他ノ者ニ對シテハ各所屬長官ニ送付シ所屬長官ハ各所轄長ニ付シ之ヲ授與セシム

第四條

海軍大臣授與ノ式場ハ東京ニ在リテハ海軍省内ニ設ケ其ノ式場ニハ人事局長大臣秘書官其ノ他帶勤者若干名班列シ大本營所在地ニ在リテハ之ニ準ス

第五條

鎮守府司令長官又ハ要港部司令官授與ノ式場ハ鎮守府内又ハ要港部内ニ設ケ其ノ式場ニハ參謀長副官其ノ他帶勤者若干名班列スルモノトス

防備隊司令官授與ノ場合亦前項ニ準ス

第六條

艦隊司令長官、司令官及艦隊司令授與ノ式場ハ艦船内ニ設ケ其ノ式場ニハ帶勤者若干名班列シ其ノ艦船ノ總員整列スルモノトス但シ司令長官授與ノ場合ニハ參謀長副官、司令官授與ノ場合ニハ參謀副官之ニ班列スルモノトス

第七條

部隊學校ノ長授與ノ式場ハ其ノ構内ニ設ケ式場ニハ帶勤者若干名及副官アルトキハ副官班列シ部隊ニ在リテハ總員、學校ニ在リテハ適宜ノ人員整列スルモノトス

前項以外ノ陸上各廳ノ長授與ノ場合亦前項ニ準ス但シ班列者及整列者ハ便宜之ヲ列セシメサルコトヲ得

第八條

式場ニ班列スル帶勤者ハ受章者ト同官等以上ノ者ニ就キ授與者其部下ヨリ之ヲ指定スヘシ

第九條

前諸條ニ掲ケサル授與ノ式場ハ適宜之ヲ選定シ授與者其ノ部下ヨリ班列者ヲ指定スヘシ

第十條

金鷄勳章授與式ニハ授與者部下ノ者ニシテ受章者ト同等以上ノ金鷄勳章ヲ有スル者ハ官等ノ如何ニ關セス成ルヘク其ノ式場ニ班列スルモノトス

第十一條

第二條ニ依ル勳章授與ハ時宜ニ依リ第三條ニ依ルコトヲ得

附則

明治二十八年達第六十九號勳四等旭日章及瑞寶章以下並功六級金鷄勳章以下ノ授與式ニ關スル規程ハ之ヲ廢止ス

勳章記章褒章等受領者諸届出ハ直

ニ賞勳局へ差出方ノ件

明治三十一年十月十日  
賞勳局告示第一號

從來勳章記章褒章等受領者諸届出ノ節地方廳ヲ經由シタルモノ自今其儀ニ及ハス直ニ賞勳局總裁へ差出スヘシ

勳章進敘ノトキ同種ノ下級勳章還

納方ノ件

明治二十二年三月二十二日  
勳令第三十八號

朕勳章還納ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム(總理大臣)

勳等進敘シ同種ノ上級勳章ヲ受ケタル者ハ其下級ノ勳章ヲ賞勳局へ還納スヘシ但勳記ハ還納スルノ限ニアラス



勳章還納手續

明治二十二年三月二十二日 閣令第九號

勳章還納手續ヲ定ムルコト左ノ如シ

勳章還納手續

- 第一條 同種上級ノ勳章ヲ授與セラレタル者ハ一週間以内ニ其下級ノ勳章ヲ賞勳局ヘ還納スヘシ
- 第二條 同種上級ノ勳章ヲ賞勳局ノ送達ニヨリ受領シタル者ハ直ニ其領票ト共ニ下級ノ勳章ヲ同局ヘ差出スヘシ
- 官廳ヲ經テ受領シタル者ハ其官廳ヘ差出シ官廳ハ之ヲ賞勳局ヘ送付スヘシ
- 第三條 外國人ノ勳等進級シ同種上級勳章ヲ受ケタル者モ亦此手續ニ從ヒ下級ノ勳章ヲ還納スヘシ其外國ニ在ル者ハ最寄我公使館又ハ領事館ヘ差出スヘシ
- 第四條 公使館又ハ領事館ニ於テ前條勳章ヲ領收シタルトキハ外務省ヘ送付シ同省ハ之ヲ賞勳局ヘ送付スヘシ
- 第五條 勳章還納ニ關スル費用ハ受章者ノ自辨トス又官廳ヨリ賞勳局ヘ送付スルモノハ其官廳ニ於テ支辨スヘシ

附則

一 從前同種勳章ニ進級シタル者ハ東京ハ二週間以内各地方ハ三十日以内ニ下級ノ勳章ヲ還納スヘシ我國在留ノ外國人亦同シ其外國ニ在ル者ハ手續第五條ニ依ルヘシ但進級者既ニ死亡シタルトキハ本文ノ限ニアラス

勳記領票及下級勳章還納ニ關スル

件

大正十五年六月三日 海人第七三號

勳記領票及下級勳章還納ニ關スル件

勳記領票及下級勳章還納ニ付テハ從來區々ニ相成居候處斯クテハ整理上困難ヲ來シ旁其ノ筋ノ希望モ有之候ニ付本年五月發表ノ定例敍勳ヨリ勳記領票及下級勳章ノ還納ハ其ノ下賜ノ月別ニ取纏メ當局ヘ送付相成様致度

追テ通信不便其ノ他ノ事故ニ依リ急速取纏ムルコトヲ得サルモノ有之候場合ハ其ノ送達ヲ待テ全部取纏メタル後送付相成度之レカ爲送達日時ノ遅延ハ不得止義ト御承知相成度爲念申

〔海軍〕

添候

大正十五年六月四日 海人第七四號

〔海軍省人事局長ヨリ各廳長宛〕

勳記領票及下級勳章還納ニ關スル件

本件ニ關シ賞勳局書記官ヨリ左記ノ通牒有之候右通牒ス

記

大正十五年五月二十五日勳内發第五四九號(賞勳局書記官ヨリ海軍省人事局長宛)

勳記領票及下級勳章ノ還納ニ關スル件

勳章勳記傳達セラレタルトキハ敍勳者ハ直ニ領票ヲ提出シ以テ貴重ナル章飾ニ恥サランコトヲ誓フヘキ儀ニ候處往々之ヲ怠ル向有之且提出ニ際シテモ傳達官廳ヲ經由セサル等區々ニ涉リ執奏上支障不尠候條今後貴管下敍勳者ニ對シテハ便宜御取纏メ御送付相成候様致度尙勳等進級シ同種上級ノ勳章ヲ授與セラレタル者ハ其ノ下級勳章ハ之ヲ還納スヘキモノナルニ從來手續ヲ等閑ニシ中ニハ之カ爲不識ノ間ニ違式ノ佩用ヲ爲スニ至ル者モ有

第十二類 授與 視察

〔海軍〕

之候處右ハ一面還納手續ノ周知セラレサルニ起因スルコト不尠ヘク甚タ遺憾ニ存候ニ付將來敍勳ノ場合右ニ該當スル者ニ對シテハ別紙書式ノ用紙ヲ交付スルコト致候ニ付勳記傳達ノ際併テ之ヲ交付シ以テ下級勳章ノ還納ヲ怠ラシメサル様可然御配慮相煩度

(別紙)

下級勳章還納書

一 還納勳章種類 勳 等 章  
 一 還納理由 大正 年 月 日勳 等 章ヲ賜ハリタルニ依ル  
 右勳章還納手續第二條ニ依リ及還納候也

大正 年 月 日

住所

氏

名

賞勳局 御 中



勳章褫奪令

明治四十一年十二月二日  
勳令第二百九十一號

改正 明治四十二年第一二〇號

朕勳章褫奪令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム(總理大臣) (副署)

勳章褫奪令

第一條 勳章ヲ有スル者死刑、懲役又ハ無期若ハ三年以上ノ禁錮ニ處セラレタルトキハ其ノ勳等、功級又ハ年金ハ之ヲ褫奪セラレタルモノトシ外國勳章ハ其ノ佩用ヲ禁止セラレタルモノトス但シ第二條第一項第一號ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス  
前項ノ場合ニ於テハ勳章、勳記、功記、年金證書又ハ外國勳章佩用免許證ハ之ヲ沒取ス前級ノ勳記又ハ功記ニ付亦同シ  
第二條 勳章ヲ有スル者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ情狀ニ依リ其ノ勳等、功級又ハ年金ヲ褫奪シ外國勳章ハ其ノ佩用ヲ禁止ス  
一 刑ノ執行ヲ猶豫セラレタルトキ  
二 三年未滿ノ禁錮ニ處セラレタルトキ  
三 懲戒ノ裁判又ハ處分ニ依リ免官又ハ免職セラレタルトキ

四 素行修ラス帶勤者タルノ面目ヲ汚シタルトキ  
前項ノ場合ニ於テハ前條第二項ノ規定ヲ適用ス  
第三條 勳章ヲ有スル者法令ニ因リ拘禁セラレ又ハ勞役場ニ留置セラレタルトキハ其ノ期間勳章ヲ佩用シ又ハ之ニ屬スル禮遇、特權ヲ享クルコトヲ得ス外國勳章ハ其ノ佩用ヲ停止ス保釋、責付、假出獄又ハ刑ノ執行猶豫ノ期間亦同シ  
第四條 勳章年金ヲ有スル者勾留セラレ又ハ禁錮以上ノ刑ニ因リ拘禁セラレタルトキハ其ノ期間年金ヲ受クルコトヲ得ス保釋、責付、假出獄又ハ刑ノ執行猶豫ノ期間亦同シ但シ處刑セラレタルコトナクシテ釋放若ハ放免セラレ又ハ刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ取消サルルコトナクシテ猶豫ノ期間ヲ經過シ且其ノ期間勳章ヲ褫奪セラレサル者ハ勾留ノ日ニ遡リテ年金ヲ受ク  
第五條 三年未滿ノ禁錮ニ處セラレ刑ノ執行ヲ了リタルトキ又ハ懲戒ノ裁判若ハ處分ニ因リ免官若ハ免職セラレタルトキハ勳章褫奪ニ關スル決定アル迄勳章ヲ佩用シ及之ニ屬スル禮遇、特權又ハ年金ヲ享受スルコトヲ得ス外國勳章ハ其ノ佩用ヲ停止ス但シ勳章褫奪ノ處分ニ及ハサルトキハ停止ノ始ニ遡リテ年金ヲ受ク

第六條 本令ハ記章、褒章ノ褫奪又ハ其ノ佩用停止及外國記章ノ佩用禁止又ハ停止ニ之ヲ準用ス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス  
明治十六年太政官布告第二十二號及明治三十二年勳令第三百九號ハ之ヲ廢止ス  
本令ハ本令施行前ヨリ引續キ法令ニ因リ拘禁セラレタル者及保釋、責付、假出獄又ハ刑ノ執行猶豫中ノ者ニ之ヲ準用ス

勳章褫奪令施行細則

明治四十一年十二月二日  
勳令第二號

改正 大正二年第一號、八年第九號

勳章褫奪令施行細則左ノ通定ム

勳章褫奪令施行細則

第一條 勳章褫奪令第二條第一項第一號乃至第三號ノ場合ニ於テハ確定裁判ヲ爲シタル官廳ノ長官若ハ檢察官又ハ懲戒處分ヲ爲シタル官廳若ハ行政廳ヨリ判決ノ謄本若ハ懲戒事由明細

第十二類 授與 勳章

書ヲ添ヘ第一號書式ニ依リ賞勳局總裁ニ申牒スヘシ  
前項判決ノ謄本ハ證據説明ノ部分ヲ省略シタル判決ノ抄本ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

第一項ノ申牒ヲ爲シタル後褫奪又ハ佩用禁止ニ關スル決定未濟ノ者ニ對シ刑ノ言渡ノ效力ヲ失ハシムル特赦又ハ特旨ニ依リ懲戒ノ免除アリタルトキハ其ノ旨賞勳局總裁ニ申牒スヘシ

第二條第一項第四號ノ場合ニ於テハ所轄長官又ハ地方長官ヨリ素行明細書ヲ添ヘ賞勳局總裁ニ申牒スヘシ

第二條 勳章褫奪令第四條ニ掲クル事由生シタルトキハ當該官廳又ハ行政廳ハ第二號書式ニ依リ賞勳局總裁ニ申牒スヘシ但シ勾留後ノ保釋、責付及假出獄ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第三條 勳章褫奪令第一條第二項ノ處分ハ賞勳局總裁ノ囑託アリタルモノト看做シ當該裁判所ノ長官若ハ檢察官之ヲ行ヒ同第二條第二項ノ處分ハ賞勳局總裁當該裁判所ノ長官若ハ申牒ヲ爲シタル官廳若ハ行政廳ニ囑託シテ之ヲ行フ  
勳章褫奪令第一條第二項ノ處分ヲ爲シタルトキハ第三號書式ニ依リ賞勳局總裁ニ申牒スヘシ







第十二類 授與 擬奪

調査事項	年金ノ種類	年金證書ノ番號	年金額	年金賜與ノ年月日	賜與當時ノ官職	賜與當時ノ所屬廳又ハ部隊
明治三十七八年戰役ニ關スルモノハ發表官報年月日及頁數						

右勳章擬奪令施行細則第二條ノ規定ニ依リ及申牒候也

年 月 日

賞勳局總裁

官職 氏

名印

備考

年金證書ノ番號ヲ記載スルコト能ハサルトキハ勳記又ハ功記ノ番號ヲ記載スヘシ  
 年金證書ノ番號又ハ勳記若ハ功記ノ番號ヲ記載シタルトキハ他ノ調査事項ヲ記載スルコトヲ要セス

第三號書式

申牒書

位勳功 氏

名

一 罪 名  
 一 刑 名  
 一 刑 期  
 一 裁判確定年月日

勳章、年金、記章又ハ褒章ノ種類	調査事項	勳記、功記、年金證書、記章證書、褒章證書、外國勳章佩用免許證又ハ外國記章佩用免許證ノ番號	授賜又ハ佩用免許ノ年月日	授賜又ハ佩用免許當時ノ官職	授賜又ハ佩用免許時ノ所屬廳又ハ部隊	授賜又ハ佩用免許當時ノ氏名	明治三十七八年戰役ニ關スルモノハ發表官報年月日及頁數

右勳章擬奪令施行細則第三條第二項ノ規定ニ依リ及申牒候也

年 月 日

賞勳局總裁

官職 氏

名印

備考

勳章、年金、記章又ハ褒章ノ種類ノ項ニハ左ノ順序ニ依リ記載スヘシ  
 一 勳章

第十二類 授與 擬奪



第十二類 授與 褒章

- 二 勳章年金
- 三 記章
- 四 褒章
- 五 外國勳章
- 六 外國記章

勳記、功記、年金證書、記章證狀、褒章證狀、外國勳章佩用免許證又ハ外國記章佩用免許證ノ番號ヲ記載シタルトキハ他ノ調査事項ヲ記載スルコトヲ要セス

勳章褒奪令施行細則ニ關スル取扱

規程

明治四十二年一月十五日  
連第五號

勳章褒奪令施行細則ニ關スル取扱規程左ノ通り定ム

第一條 勳章褒奪令第二條第一項第一號第二號ノ場合ニ於テ賞勳局總裁ニ爲ス申牒ハ其ノ確定裁判ヲ爲シタル軍法會議ヲ管轄スル長官之ヲ爲スヘシ

第二條 勳章褒奪令第二條第一項第四號ノ場合ニ於テ賞勳局總裁ニ爲ス申牒ハ所屬長官之ヲ爲スモノトス但シ海軍大臣ヲ經由スヘシ

前項ノ申牒ニ關スル書類ニハ副本ヲ添付スヘシ

第四款 記章

●大禮記念章

大正四年八月十三日  
勳令第五百四十四號

朕大禮記念章制定ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム(總理大臣副署)

第一條 大禮記念ノ表章トシテ記念章ヲ設ク

第二條 記念章ノ圖式左ノ如シ

章 銀圓形徑一寸輪廓内表面上部ニ金菊御紋、兩側緣ニ櫻

橘枝ト萬歲旒交架ノ圖、裏面ニ大禮記念章大正四年十

一月ノ文字ヲ識ス

環 銀彎形

綬 織地幅一寸二分、中央紅色、兩緣白色紅線

記念章ハ綬ヲ以テ左肋ニ佩フ

第三條 記念章ハ左ニ掲クル者ニ之ヲ授與ス

一 踐祚ノ式ニ召サレタル者

二 即位禮及大嘗祭ノ式ニ召サレタル者

三 各所在地ニ於テ饗饌ヲ賜リタル者

第四條 大禮ノ事務及大禮ニ伴フ要務ニ關與シタル者

記念章ハ本人ニ限り終身之ヲ佩用シ子孫ヲシテ之ヲ保

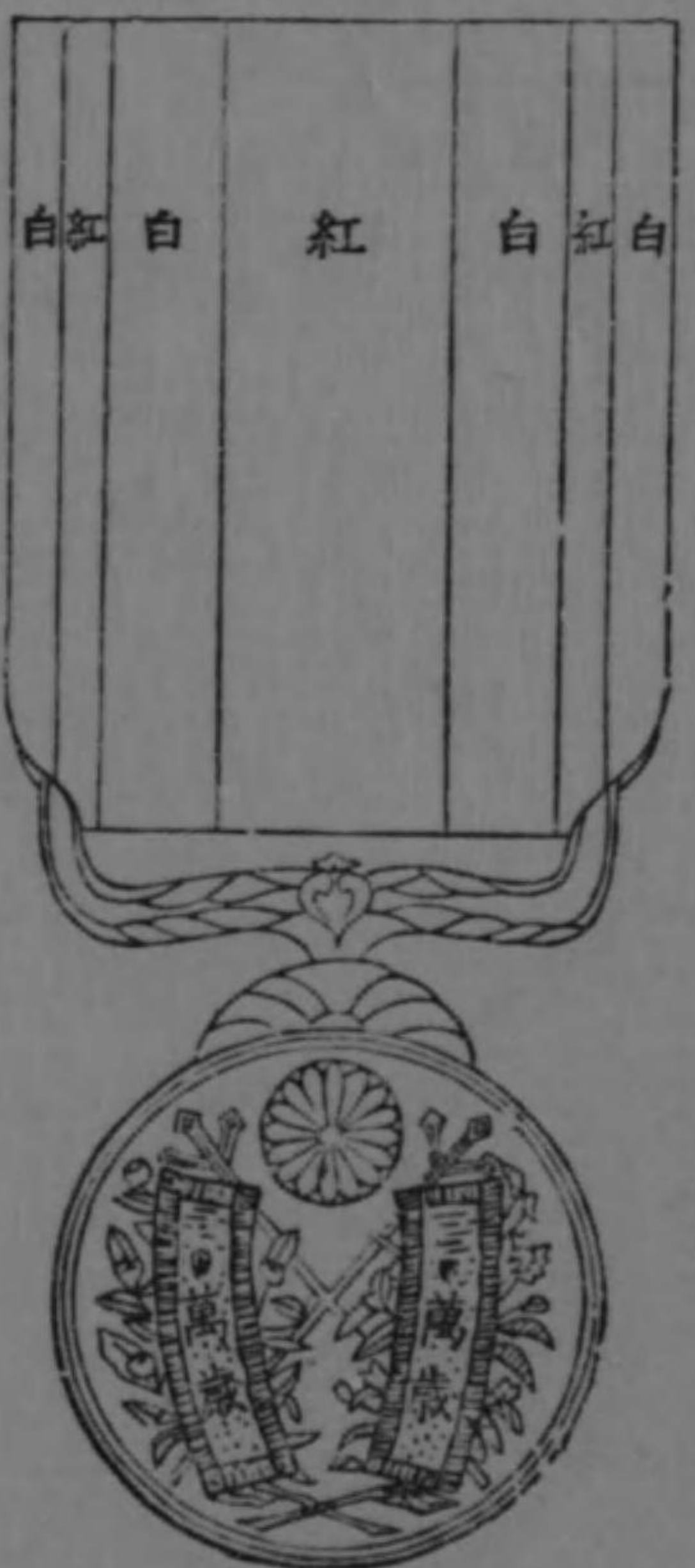
存セシム

第五條 記念章ヲ授與セラルヘキ者其ノ授與前死亡シタルトキハ之ヲ其ノ家督相續人又ハ戸主ニ交付シテ保存セシム

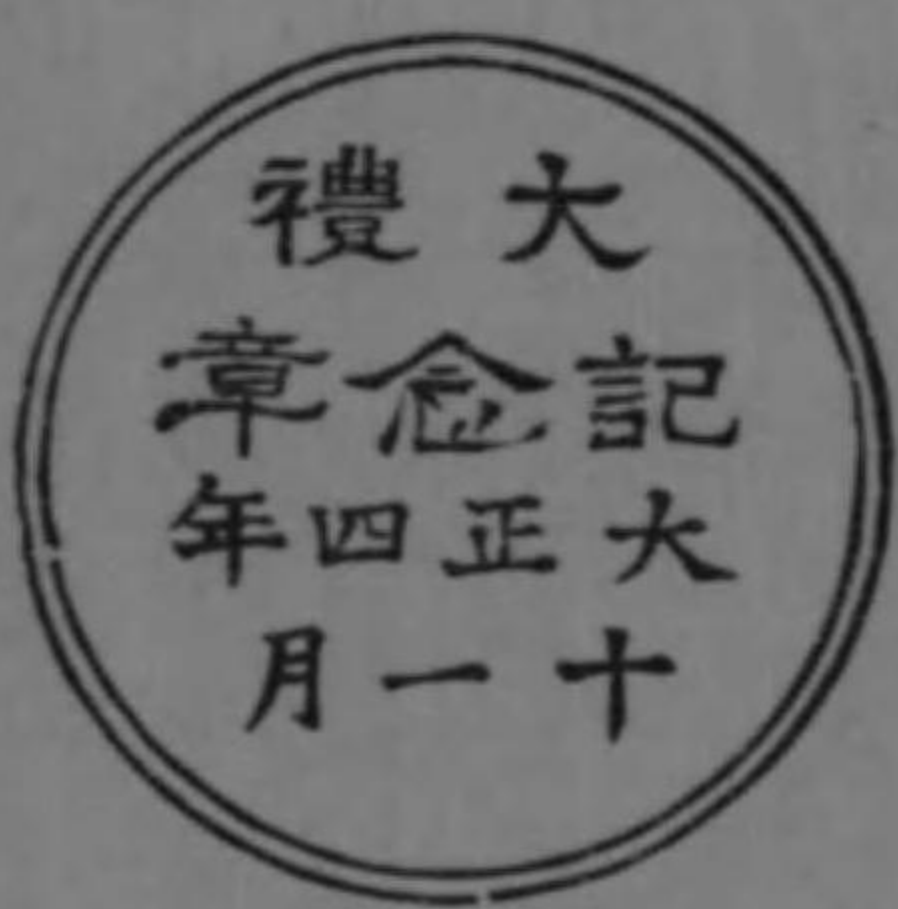
大禮記念章ノ圖

綬

表面



裏面





●大禮記念章

昭和三年八月一日  
勅令第百八十八號

朕大禮記念章制定ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム  
第一條 昭和三年十一月行ハルル大禮記念ノ表章トシテ記念章ヲ設ク

第二條 記念章ノ圖式左ノ如シ

章 銀圓形、徑一寸トス

表面ニハ輪廓内中央ニ高御座、其ノ中心ニ金菊御紋、周邊ニ櫻橋文様、左右空間ニ雲文ヲ置キ下方ニ萬歳ノ文字ヲ識ス

裏面ニハ輪廓ニ菊花形、中央ニ旗形、其ノ左右ニ雲文ヲ置キ旗形ノ内ニ大禮記念章、下方ニ昭和三年十一月ノ文字ヲ識ス

環 銀圓形トス

綬 織地、幅一寸二分、青黃赤白紫色ノ等分トス

記念章ハ綬ヲ以テ左肋ニ佩フ

第三條 記念章ハ左ニ掲グル者ニ之ヲ授與ス

一 踐祚ノ式ニ召サレタル者

二 即位禮及大嘗祭ノ式ニ召サレタル者

三 各所在地ニ於テ饗饌ヲ賜リタル者

四 大禮ノ事務及大禮ニ伴フ要務ニ關與シタル者

第四條 記念章ハ本人ニ限り終身之ヲ佩用シ子孫ヲシテ之ヲ保存セシム

第五條 記念章ヲ授與セラレベキ者其ノ授與前死亡シタルトキハ之ヲ其ノ家督相續人又ハ戸主ニ交付シテ保存セシム

大禮記念章ノ圖



綬

表面



裏面

●皇太子渡韓記念章

明治四十二年三月二十九日  
勅令第百四十二號

朕皇太子渡韓記念章制定ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

(總理大臣  
副署)

第一條 皇太子渡韓記念章ハ金銀ノ兩種トス

第二條 記念章ハ明治四十年十月皇太子渡韓ニ關リタル日韓兩國ノ皇族及奏任官以上ノ者ニ之ヲ頒賜ス

第三條 記念章ノ圖式左ノ如シ

第十二類 記章

章 圓形徑一寸輪廓内表面ニ菊御紋ト檀樹ノ花枝ヲ交叉シタル圖裏面上縁ニ大日本國皇太子中央ニ渡韓記念章下縁ニ明治四十年十月ノ十九字ヲ識ス

環 圓形

綬 織地幅一寸二分中央薄群青色其ノ左右黃色兩縁薄群青色

記念章ハ綬ヲ以テ左肋ニ佩フ

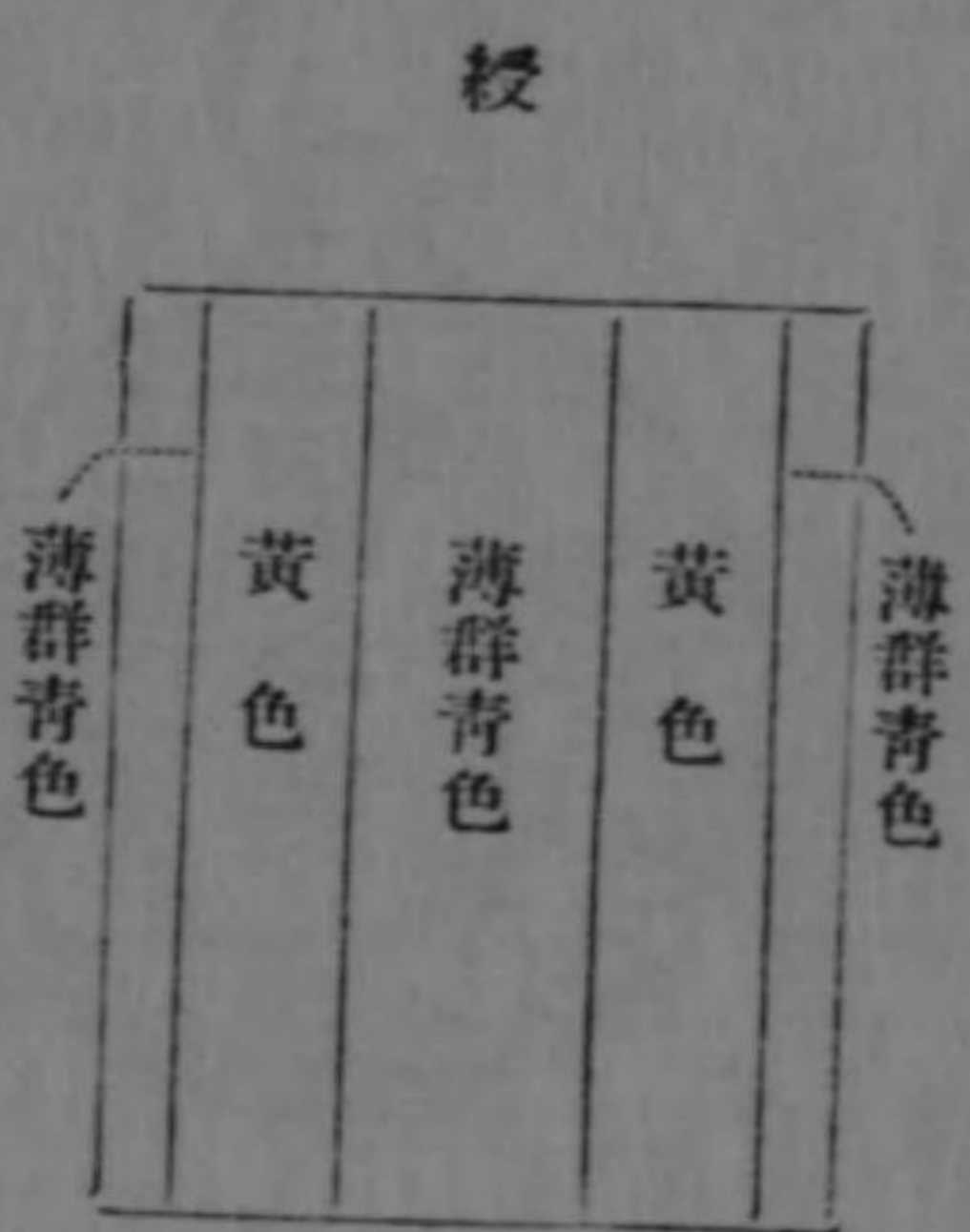
第四條 記念章ハ本人ニ限り終身之ヲ佩用シ子孫之ヲ保存スルコトヲ許ス

記念章ノ圖

表







● 韓國併合記念章

明治四十五年三月二十九日  
勅令第五十六號

朕韓國併合記念章制定ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

(總理大臣  
副署)

第一條 韓國併合記念ノ表章トシテ特ニ記念章ヲ設ク

第二條 記念章ノ圖式左ノ如シ

章 黃銅圓形徑一寸輪廓内表面上部ニ菊御紋、兩側緣ニ桐樹

及李樹ノ花枝ノ圖、裏面上部ニ明治四十三年、下部ニ八月二十九日、中央ニ韓國併合記念章ノ文字ヲ識ス

環 銀圓形

綬 織地幅一寸二分、中央紅色、其ノ左右黄色、兩緣白色

記念章ハ綬ヲ以テ左肋ニ佩フ

第三條 記念章ハ左ニ掲クル者ニ之ヲ授與ス

一 韓國併合ノ事業ニ直接關與シタル者及韓國併合ノ事業ニ作ヲ要務ニ關與シタル者

二 韓國併合ノ際朝鮮ニ在勤シタル官吏及官吏待遇者並韓國併合ノ際ニ於ケル韓國政府ノ官吏及官吏待遇者

三 従前日韓關係ニ於テ功績アリタル者

第四條 左ニ掲クル事項ノ一ニ該當スル者ニハ記念章ヲ授與セ

(海軍)

ス但シ處刑、免官又ハ免職ノ後前條ニ該當スル者ハ此ノ限ニ在ラス

一 禁錮又ハ禁獄以上ノ刑ニ處セラレタルトキ

二 懲戒處分ニ依リ免官又ハ免職セラレタルトキ

第五條 記念章ハ本人ニ限り終身之ヲ佩用シ子孫之ヲ保存スルコトヲ得

第六條 記念章ヲ授與セラルヘキ者其ノ授與前死亡シタルトキハ之ヲ其ノ遺族ニ交付シテ保存セシム

第七條 記念章ヲ授與セラレタル者ノ名簿ハ賞勳局ニ於テ之ヲ保存ス前條ノ規定ニ依リ記念章ヲ交付セラレタル者ノ名簿亦同シ

記念章ノ圖

白色	黄色	紅色	黄色	白色
----	----	----	----	----

綬

表



裏





●明治二十七八年從軍記章條例

明治二十八年十月九日  
勅令第四百十三號

朕明治二十七八年從軍記章條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

(總理大臣  
副署)

- 第一條 明治二十七年二十八年ノ戰捷ヲ表彰スル爲メ特ニ從軍記章ヲ設ク
- 第二條 從軍記章ハ敵軍ヨリ奪獲シタル大礮ノ地金ヲ以テ製造ス其ノ圖式左ノ如シ  
章 銅、寶珠ノ形堅一寸一分横一寸表面ニ菊御紋及陸軍聯隊旗ト海軍軍艦旗ト交叉シタル圖、裏面ニ明治二十七八年從軍記章ノ十一字ヲ識ス  
紐 銅、筋版ヲ附ス  
綬 織地、幅一寸二分中央白兩綠綵
- 第三條 從軍記章ハ左ニ掲クル者ニ授與ス  
一 明治二十七年二十八年ノ戰役ニ於テ大本營ニ從屬シ又ハ出征軍ニ編入セラレ戰地ニ在リシ者

(海軍)

- 二 同役ニ於テ出征軍ニ編入セラレサルモ戰地ニ在テ軍務ニ從事シタル陸海軍軍人軍屬若クハ文官  
但備役人夫ノ類ハ授與ノ限ニアラス
- 第四條 第三條ニ掲クル者ニ該當セスト雖同役ノ軍務ニ從事シ若クハ之ヲ幫助シタル者ニハ特ニ從軍記章ヲ授與スルコトアルヘシ
- 第五條 第三條第四條ニ該當スル者ト雖開戰以後左ニ掲クル事項ノ一ニ該當スル者ニハ從軍記章ヲ授與セス  
一 重禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキ  
二 輕禁錮ノ刑ヲ受ケ判官ヲ附加セラレ若クハ官職ヲ失フタルトキ  
三 懲戒處分ニ依リ免官セラレタルトキ  
但處刑又ハ免官ノ後同役ノ軍務ニ從事シタル者ニハ特ニ之ヲ授與スルコトアルヘシ
- 第六條 從軍記章ノ褫奪及佩用停止ニ關シテハ明治十六年第十二號布告ヲ適用ス
- 第七條 從軍記章ハ本人ニ限り終身之ヲ佩用シ子孫之ヲ保存スルコトヲ許ス

(海軍)

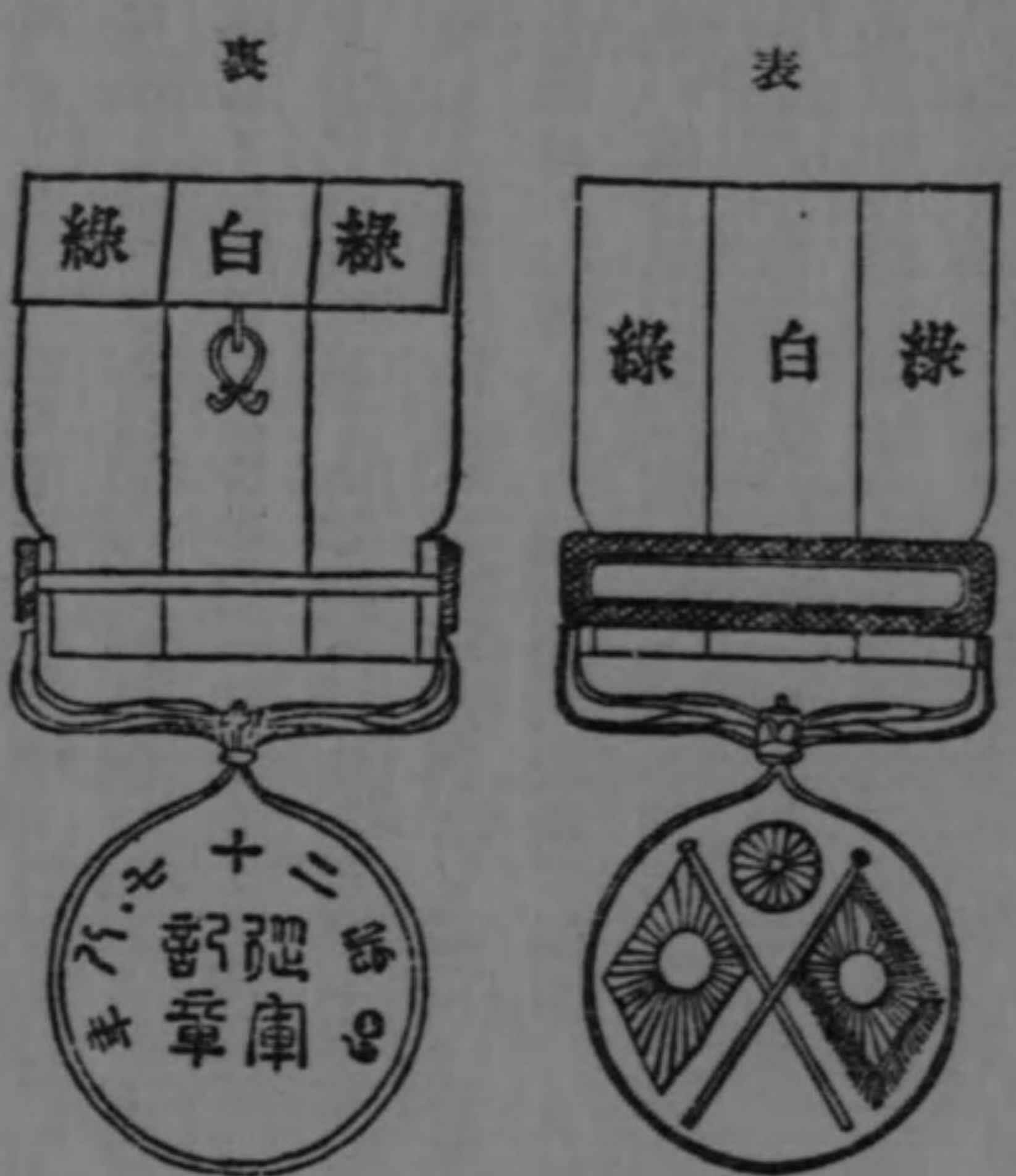
●明治三十三年從軍記章條例

明治三十五年四月二十一日  
勅令第四百十二號

(總理大臣  
副署)

- 第八條 從軍記章ヲ授與セラルヘキ資格ヲ有スル者其ノ授與前死亡シタルトキハ之ヲ其ノ遺族ニ付與シテ保存セシム
- 第九條 從軍記章ヲ授與セラレタル者ノ名簿ハ賞勳局ニ於テ之ヲ保存ス前條ニ依リ從軍記章ヲ付與セラレタル者ノ名簿亦同シ
- 第十條 從軍記章ノ奏請及授與ノ規程ハ別ニ之ヲ定ム

明治二十七八年從軍記章ノ圖



佩用式

一 明治二十七八年從軍記章ハ綬ヲ用井テ左肋ニ佩フ

第十二類 記 章

朕明治三十三年從軍記章條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

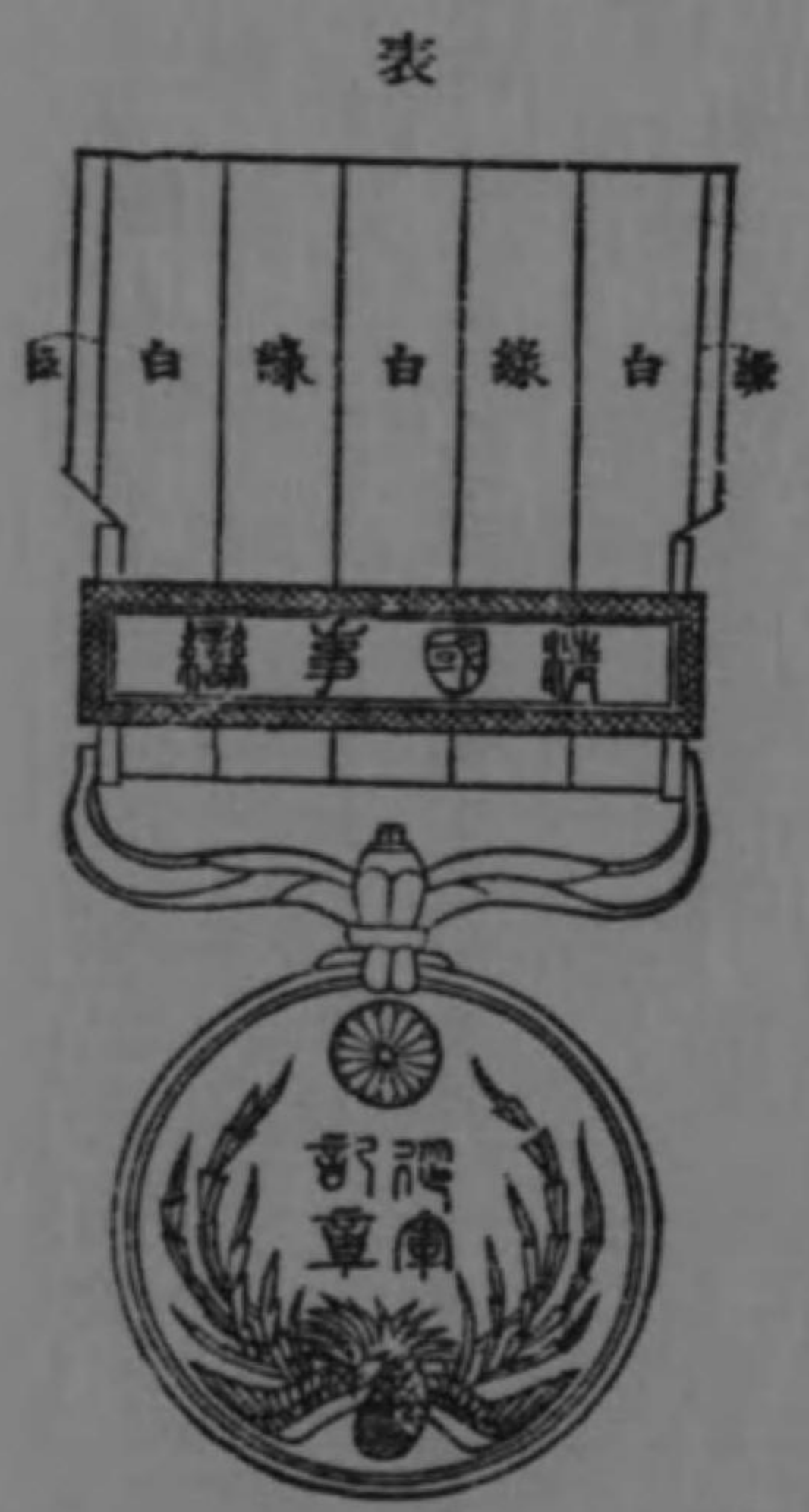
明治三十三年從軍記章條例

- 第一條 明治三十三年清國事變ノ平定ニ關與シタル者ニ授與スル爲從軍記章ヲ設ク
- 第二條 從軍記章ノ圖式左ノ如シ  
章 銅、圓形徑一寸表面ニ菊御紋及鳳凰ノ圖ヲ鑄出シ中央ニ從軍記章ノ四字ヲ識シ裏面ニ大日本帝國明治三十三年ノ十一字ヲ識ス  
飾版 銅、清國事變ノ四字ヲ識ス  
鈕 銅
- 綬 織地、幅一寸二分地綠三線白
- 從軍記章ハ綬ヲ用井テ左肋ニ佩フ
- 第三條 從軍記章ハ左ニ掲クル者ニ授與ス但シ備役人夫ノ類ハ此ノ限ニ在ラス



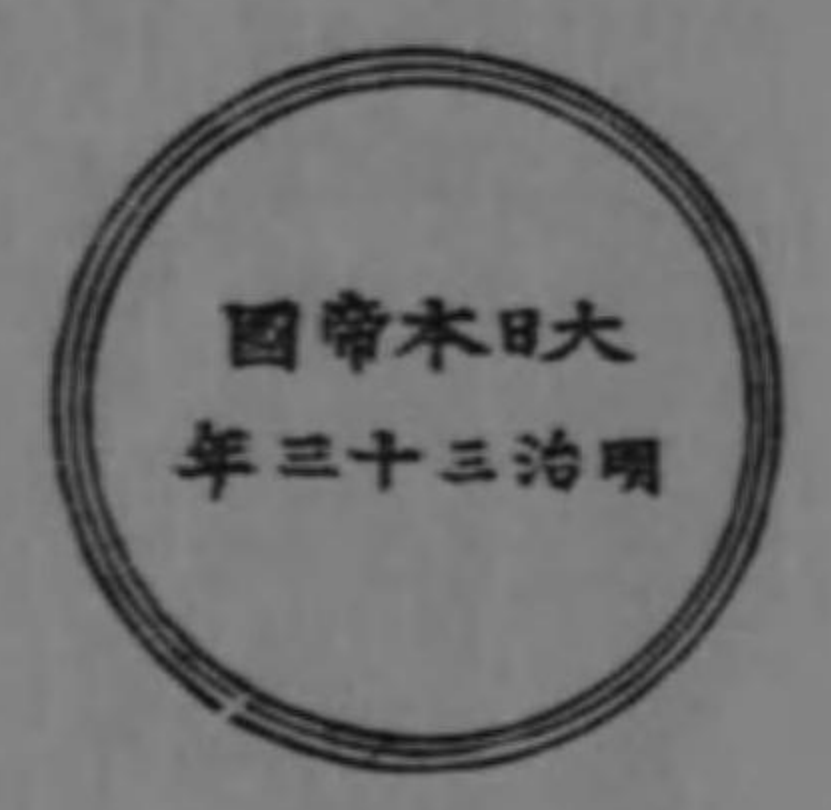
- 一 戰地ニ在リテ軍務ニ從事シタル陸海軍軍人軍屬及文官並之ニ準スヘキ者
  - 二 戰地ニ在リテ病傷者ノ救護ニ從事シタル者
  - 三 戰地ニ臨マサルモ戰時編制部隊ニ編入セラレタル者
  - 四 特別ノ任務ヲ受ケテ戰地ニ往復シタル陸海軍軍人軍屬及文官、内地ニ在リテ事變ニ關スル軍務ニ從事シタル陸海軍軍人軍屬、内地ニ在リテ病傷者ノ救護ニ從事シタル者及戰地ニ往復シタル運送船病院船ノ船員
- 前項第一號及第二號ニ依ルヘキ者ハ明治三十三年六月十一日ヨリ明治三十四年六月一日迄、第三號及第四號ニ依ルヘキ者ハ明治三十三年六月十一日ヨリ明治三十三年十一月三十日迄ノ間ニ於テ之ニ該當スル者ニ限ル
- 第四條** 從軍記章ハ帝國ノ軍隊艦船ト聯合シタル外國ノ軍隊艦船所屬ノ軍人軍屬ニモ授與スルコトアルヘシ
- 第五條** 第三條ニ該當スルモ左ニ掲クル事項ノ一ニ當ル者ニハ從軍記章ヲ授與セス但シ處刑又ハ免官ノ後第三條ニ該當シタル者ニハ特ニ之ヲ授與スルコトアルヘシ
- 一 重禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキ

- 二 輕禁錮ノ刑ヲ受ケ判官ヲ附加セラレ又ハ官職ヲ失ヒタルトキ
  - 三 懲戒處分ニ依リ免官セラレタルトキ
- 第六條** 從軍記章ノ褫奪及佩用停止ニ關シテハ明治十六年第二十二號布告ヲ準用ス
- 第七條** 從軍記章ハ本人ニ限り終身之ヲ佩用シ子孫之ヲ保存スルコトヲ許ス
- 第八條** 從軍記章ヲ授與セラルヘキ者其ノ授與前死亡シタルトキハ之ヲ其ノ遺族ニ付與シ保存セシム
- 第九條** 從軍記章ヲ授與セラレタル者ノ名簿ハ賞勳局ニ於テ之ヲ保存ス前條ニ依リ從軍記章ヲ付與セラレタル者ノ名簿亦同シ



〔海軍〕

表



●明治三十七八年從軍記章條例

明治三十九年三月三十一日 勅令第五十一號

朕明治三十七八年從軍記章條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

(總理大臣 副署)

明治三十七八年從軍記章條例

- 第一條** 明治三十七八年戰役記念ノ表章トシテ特ニ從軍記章ヲ設ク
- 第二條** 從軍記章ノ圖式左ノ如シ
- 章 銅圓形徑一寸表面ニ菊及桐ノ御紋章並陸軍聯隊旗ト海軍軍艦旗ト交叉シタル圖ヲ鑄出シ裏面ニ月桂樹ト戰捷章ヲ交叉シ中央ニ楯ヲ置キタル圖ヲ鑄出シ楯ニ

〔海軍〕

明治三十七八年戰役ノ八字ヲ識ス 飾版 銅表面ニ從軍記章ノ四字ヲ識ス

鈕 銅

綬 織地、幅一寸二分中央紺青其ノ左右綠兩綠白

從軍記章ハ綬ヲ用井テ左肋ニ佩フ

**第三條** 從軍記章ハ左ニ掲クル者ニ之ヲ授與ス

- 一 戰地ニ在リテ軍務ニ從事シタル陸海軍軍人軍屬及文官
  - 二 戰地ニ臨マサルモ動員部隊若ハ戰時特設部隊艦船ニ編入セラレ又ハ戰役ニ關スル陸海軍軍官用船舶ニ配置セラレタル陸海軍軍人軍屬
  - 三 特別ノ任務ヲ受ケテ戰地ニ往復シ又ハ戰地以外ニ在リテ戰役ニ關スル軍務ニ從事シタル陸海軍軍人軍屬
  - 四 戰地又ハ内地ニ在リテ陸海軍ノ監督ヲ受ケ傷病者ノ救護ニ從事シタル者
  - 五 戰役ニ關スル陸海軍軍官用船舶又ハ病院船ノ船員
- 第四條** 軍務ヲ補助シ功績アル者及許可ヲ得テ從軍シタル者ニハ特ニ從軍記章ヲ授與スルコトアルヘシ
- 第五條** 從軍記章ハ備役人夫ノ類及之ニ準スヘキ下級船員等ニ



ハ之ヲ授與セス但シ特種ノ軍務ニ服シ功績アル者ニ限り特ニ之ヲ授與スルコトアルヘシ

第六條 左ニ掲タル事項ノ一ニ當ル者ニハ從軍記章ヲ授與セス但シ處刑、免官又ハ免職ノ後第三條又ハ第四條ニ該當スル者ハ此ノ限ニ在ラス

一 重禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキ  
二 輕禁錮ノ刑ヲ受ケ判官ヲ附加セラレ又ハ官職ヲ失ヒタルトキ

三 懲戒處分ニ依リ免官又ハ免職セラレタルトキ

第七條 從軍記章ハ本人ニ限り終身之ヲ佩用シ子孫之ヲ保存スルコトヲ得

第八條 從軍記章ノ機奪及佩用停止ニ關シテハ明治十六年第二十二號布告ヲ準用ス

第九條 從軍記章ヲ授與セラルヘキ者其ノ授與前死亡シタルトキハ之ヲ其ノ遺族ニ交付シテ保存セシム

第十條 從軍記章ヲ授與セラレタル者ノ名簿ハ賞勳局ニ於テ之ヲ保存ス前條ニ依リ從軍記章ヲ交付セラレタル者ノ名簿亦同シ

●大正三年乃至九年戰役從軍記章令

大正四年十一月六日  
勅令第二百三號

改正 大正九年第四一號

朕大正三四年從軍記章令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

(總理大臣  
副署)

大正三年乃至九年戰役從軍記章令

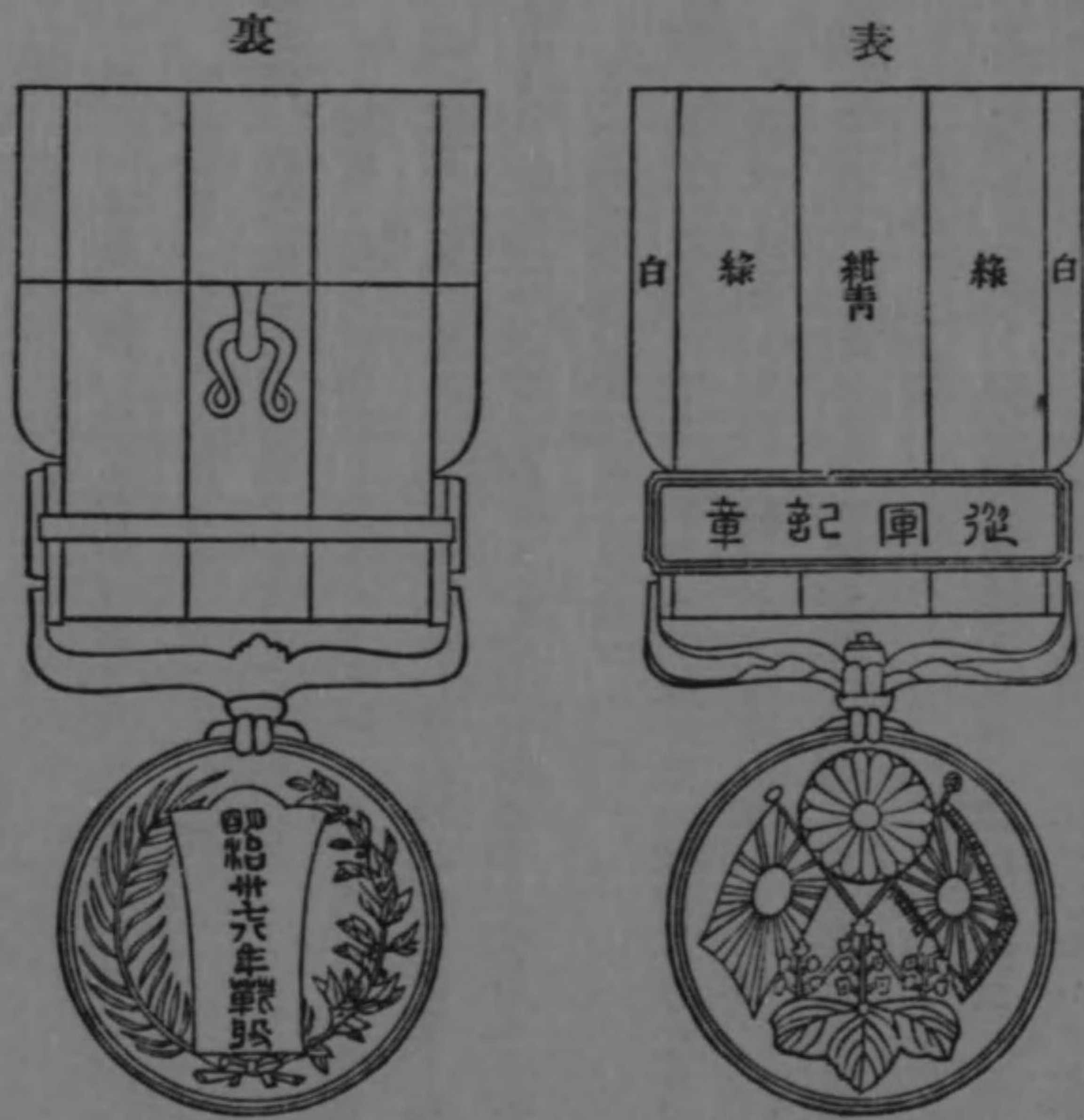
第一條 大正三年乃至九年戰役記念ノ表章トシテ特ニ從軍記章ヲ設ク

第二條 從軍記章ノ圖式左ノ如シ  
銅圓形徑一寸表面上部ニ菊御紋章中央ニ陸軍聯隊旗及海軍軍艦旗ノ交架下部兩側ニ桐樹ノ花枝ノ圖ヲ鑄出シ

裏面ニ大正三四年戰役ノ七字ヲ識ス但シ大正九年二月以後ニ於テ授與スル從軍記章ノ裏面ノ文字ハ大正三年乃至九年戰役ノ十字トス

飾版 銅表面ニ從軍記章ノ四字ヲ識ス  
鈕 銅

明治三十七八年從軍記章ノ圖



綬 織地幅一寸二分中央白左右紺青

從軍記章ハ綬ヲ用井テ左肋ニ佩フ

第三條

從軍記章ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニ之ヲ授與ス

一 戰地ニ在リテ軍務ニ從事シ又ハ軍事ニ關スル特別ノ任務ヲ受ケテ戰地ニ往復シタル陸海軍軍人軍屬及文官

二 戰地ニ臨マサルモ動員部隊若ハ戰役ノ爲臨時編成シタル部隊ニ編入セラレ又ハ戰役ニ關スル軍務ニ從事シタル陸海軍軍人軍屬

三 戰役ニ關スル軍務ニ從事シタル陸海軍官用船舶又ハ病院船ノ乗組船員

四 陸海軍官憲ノ監督ヲ受ケ戰役ニ關スル傷病者ノ救護ニ從事シタル者

前項各號ノ一ニ該當スル者ト雖備役人夫ノ類又ハ之ニ準スヘキ下級船員等ニ在リテハ特殊ノ軍務ニ服シ且功績アル者ニ非サレハ從軍記章ヲ授與セス

第四條 戰役ニ關スル軍務ヲ補助シテ功績アル者又ハ許可ヲ得テ從軍シタル者ニハ特ニ從軍記章ヲ授與スルコトアルヘシ



第五條 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者ニ、從軍記章ヲ授與セ  
ス但シ刑ノ執行ヲ猶豫セラレタル者及陸軍刑法又ハ海軍刑法  
ニ依リ一年未滿ノ禁錮ニ處セラレタル者ニハ其ノ情狀ニ依リ  
之ヲ授與スルコトアルヘシ

第六條 懲戒ノ裁判又ハ處分ニ依リ免官又ハ免職セラレタル者  
ニハ從軍記章ヲ授與セス但シ其ノ情狀ニ依リ之ヲ授與スルコ  
トアルヘシ

第七條 前二條ノ規定ハ處刑、免官又ハ免職ノ後第三條又ハ第  
四條ノ規定ニ該當スル者ニ付テハ之ヲ適用セス

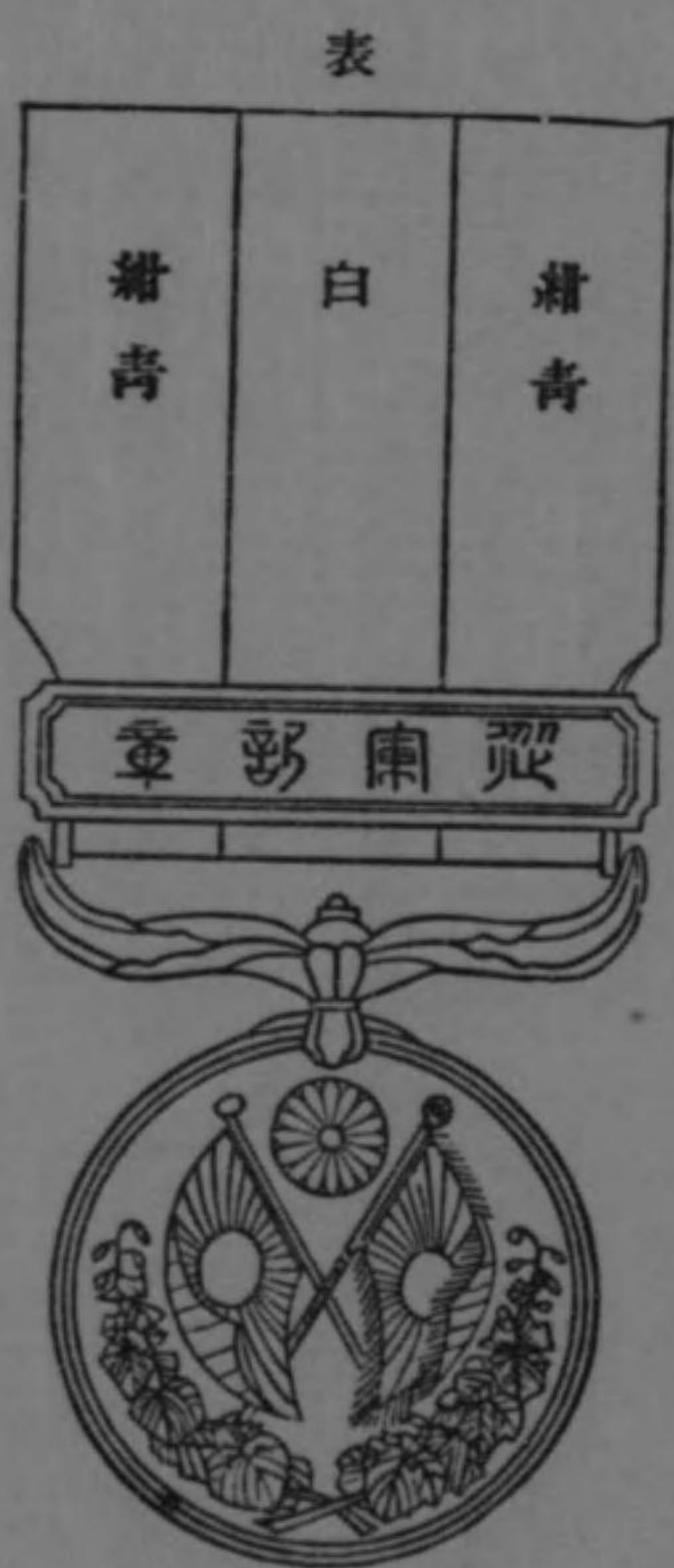
第八條 從軍記章ヲ授與セラルヘキ者ニ對シテハ其ノ授與前死  
亡シタルトキト雖仍之ヲ授與ス

第九條 從軍記章ハ本人ニ限り終身之ヲ佩用シ遺族之ヲ保存ス  
ルコトヲ許ス

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

裏面ニ大正三年乃至九年戰役ノ文字ヲ識シタル從軍記章ヲ授與  
セラレタル者ハ裏面ニ大正三四年戰役ノ文字ヲ識シタル從軍記  
章ヲ佩用スルコトヲ得ス



大正三年乃至九年戰役從軍記章ノ圖



● 大正三年乃至九年戰役從軍記章授

與規程

大正四年十二月二十日  
閣令第二號

改正 大正九年第六號

大正三四年從軍記章授與規程左ノ通定ム

大正三年乃至九年戰役從軍記章授與規程

第一條 大正三年乃至九年戰役從軍記章令第三條又ハ第四條ノ  
規定ニ依リ從軍記章ヲ授與セラルヘキ者ノ名簿ハ陸軍大臣又  
ハ海軍大臣之ヲ賞勳局總裁ニ移牒スヘシ

第二條 從軍記章ヲ授與セラルヘキ者ノ名簿ハ行賞ヲ受クル者  
ニ付テハ其ノ行賞ノ日、其ノ他ノ者ニ付テハ賞勳局總裁ノ指  
定スル日ノ現在ノ官位勳功爵氏名ニ依リ之ヲ調製スヘシ

第三條 從軍記章及其ノ證狀ハ名簿移牒官廳ヲ經テ各本人ニ傳  
達スルモノトス

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス



# 昭和六年乃至九年事變從軍記章令

昭和九年七月二十三日  
勅令第二百二十五號

朕昭和六年乃至九年事變從軍記章令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム(總理大臣)(副署)

昭和六年乃至九年事變從軍記章令

**第一條** 昭和六年乃至九年事變記念ノ表章トシテ特ニ從軍記章ヲ設ク

**第二條** 從軍記章ノ圖式左ノ如シ

章 青銅圓形徑三糎トシ表面ニ菊御紋、背光及上代ノ楯

ニ止リタル鴉ノ圖ヲ鑄出シ裏面ニ陸海軍ノ鐵兜及櫻  
花ノ圖ヲ鑄出シ昭和六年乃至九年事變ノ十字ヲ識ス

飾版 青銅トシ表面ニ從軍記章ノ四字ヲ識ス

鈕 青銅トシ表面及裏面ニ日蔭菱ノ圖ヲ鑄出ス

綬 織地幅三糎六耗トシ中央濃紅色、其ノ左右内側ヨリ  
各黃色、淺紅色、緋襷色、紅海老茶色トス

從軍記章ハ綬ヲ用ヒテ左肋ニ佩ブ

**第三條** 從軍記章ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニ之ヲ授與ス

第十二類 章

〔海軍〕

- 一 事變地ニ在リテ軍務ニ從事シ又ハ軍事ニ關スル特別ノ任務ヲ受ケテ事變地ニ往復シタル陸海軍軍人軍屬及文官
  - 二 事變地ニ臨マザルモ動員部隊若ハ事變ノ爲臨時編成シタル部隊ニ編入セラレ又ハ事變ニ關スル軍務ニ從事シタル陸海軍軍人軍屬
  - 三 事變ニ關スル軍務ニ從事シタル陸海軍官用船舶又ハ病院船ノ乗組船員
  - 四 陸海軍官憲ノ監督ヲ受ケ事變ニ關スル傷病者ノ救護ニ從事シタル者
- 前項各號ノ一ニ該當スル者ト雖モ備役人夫ノ類又ハ之ニ準ズベキ下級船員等ニ在リテハ特殊ノ軍務ニ服シ且功績アル者ニ非ザレバ從軍記章ヲ授與セズ
- 第四條** 事變ニ關スル軍務ヲ幫助シ特ニ功績アル者又ハ許可ヲ得テ從軍シタル者ニハ特ニ從軍記章ヲ授與スルコトアルベシ
- 第五條** 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者ニハ從軍記章ヲ授與セズ但シ刑ノ執行ヲ猶豫セラレタル者及陸軍刑法又ハ海軍刑法ニ依リ一年未滿ノ禁錮ノ刑ニ處セラレタル者ニハ其ノ情狀ニ依リ之ヲ授與スルコトアルベシ



第六條 懲戒ノ裁判又ハ處分ニ依リ免官又ハ免職セラレタル者ニハ從軍記章ヲ授與セズ但シ其ノ情狀ニ依リ之ヲ授與スルコトアルベシ

第七條 前二條ノ規定ハ處刑、免官又ハ免職ノ後第三條又ハ第四條ノ規定ニ該當スル者ニ付テハ之ヲ適用セズ

第八條 從軍記章ヲ授與セラルベキ者ニ對シテハ其ノ授與前死亡シタルトキト雖モ仍之ヲ授與ス

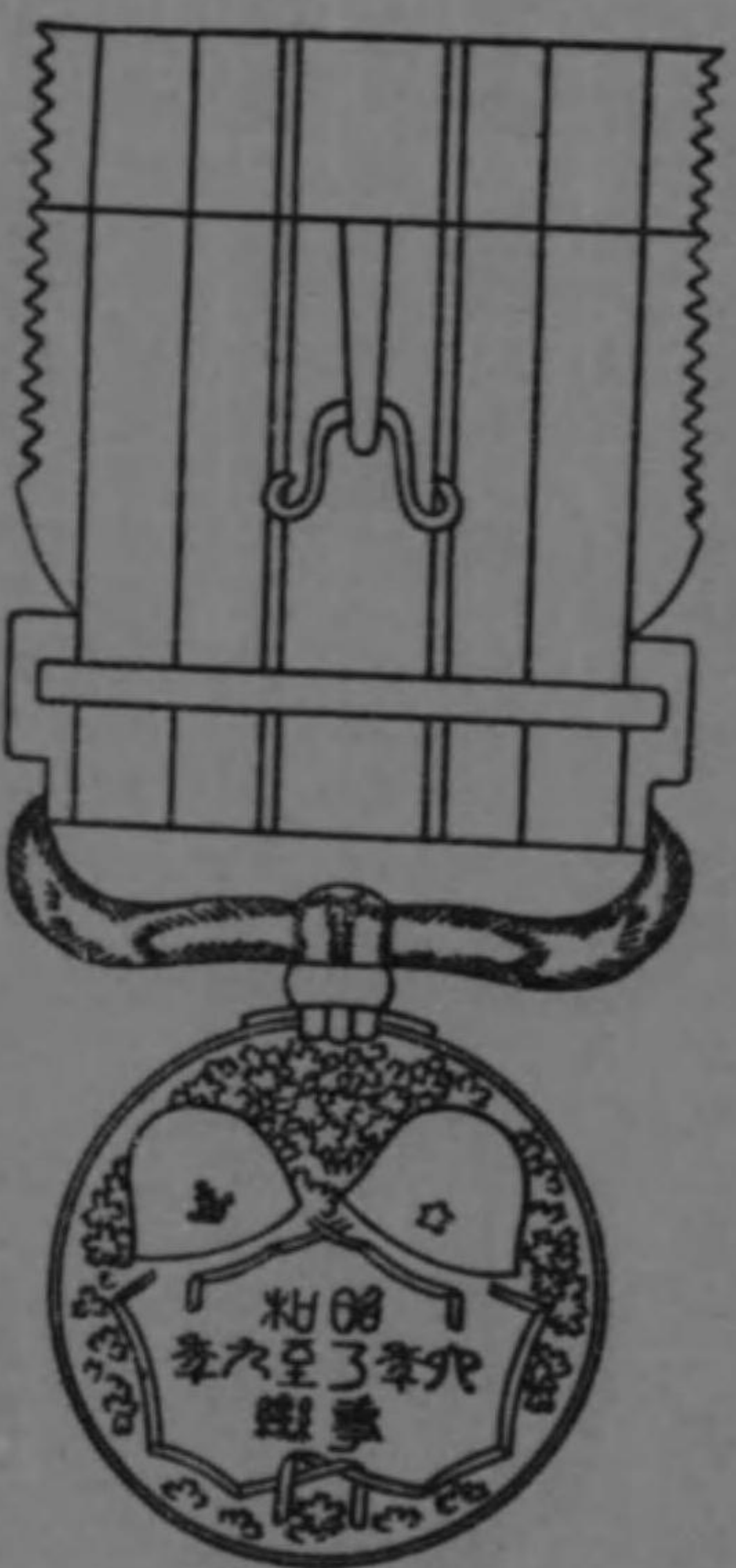
第九條 從軍記章ハ本人ニ限り終身之ヲ佩用シ遺族之ヲ保存スルコトヲ許ス

昭和六年乃至九年事變從軍記章ノ圖

表 面



裏 面



● 昭和六年乃至九年事變從軍記章授與規程

與規程

昭和九年七月二十三日 閣令第二號

昭和六年乃至九年事變從軍記章授與規程左ノ通定ム

昭和六年乃至九年事變從軍記章授與規程

第一條 昭和六年乃至九年事變從軍記章令第三條又ハ第四條ノ規定ニ依リ從軍記章ヲ授與セラルベキ者ノ名簿ハ陸軍大臣又ハ海軍大臣之ヲ賞勳局總裁ニ移牒スベシ

第二條 從軍記章ヲ授與セラルベキ者ノ名簿ハ行賞ヲ受クル者ニ付テハ其ノ行賞ノ日、其ノ他ノ者ニ付テハ賞勳局總裁ノ指

〔海軍〕

定スル日ノ現在ノ官位勳功爵氏名ニ依リ之ヲ調製スベシ  
第三條 從軍記章及其ノ證狀ハ名簿移牒官廳ヲ經テ各本人ニ傳達スルモノトス

● 戰捷記章令

大正九年九月十七日 勅令第四百六號

朕戰捷記章令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム(總理大臣)

戰捷記章令

第一條 大正三年乃至九年戰役ノ同盟及聯合國勝利記念ノ國際

表章トシテ特ニ戰捷記章ヲ設ク

第二條 戰捷記章ノ圖式左ノ如シ

章 青銅圓形徑一寸二分表面ニ武甕槌神像ヲ表シ裏面ニ櫻

花ノ圖、地球ノ圖並日本國、亞米利加合衆國、英帝國、佛

蘭西國及伊太利國ノ國旗ノ圖ヲ表シ文明擁護之大戰日

米英佛伊其他同盟及聯合國自大正三年至大正九年ノ三

十字ヲ識ス

綬 織地幅一寸二分兩緣白線二箇ノ虹ヲ赤色ヲ中央トシテ

竝置ス

戰捷記章ハ綬ヲ用テ左肋ニ佩フ

第十二類 記 章

〔海軍〕

第三條 戰捷記章ハ大正三年八月二十三日ヨリ大正九年一月九

日迄ノ間ニ於テ戰役ニ關スル軍務ニ從事シ功績顯著ナル戰鬥

員ニ之ヲ授與ス

第四條 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者ニハ戰捷記章ヲ授與セ

ズ但シ刑ノ執行ヲ猶豫セラレタル者及陸軍刑法又ハ海軍刑法

ニ依リ一年未滿ノ禁錮ニ處セラレタル者ニハ其ノ情狀ニ依リ

之ヲ授與スルコトアルヘシ

第五條 懲戒ノ裁判又ハ處分ニ依リ免官又ハ免職セラレタル者

ニハ戰捷記章ヲ授與セズ但シ其ノ情狀ニ依リ之ヲ授與スルコ

トアルヘシ

第六條 前二條ノ規定ハ處刑、免官又ハ免職ノ後第三條ノ規定

ニ該當スル者ニ付テハ之ヲ適用セズ

第七條 戰捷記章ヲ授與セラルベキ者ニ對シテハ其ノ授與前死

亡シタルトキト雖モ仍之ヲ授與ス

第八條 戰捷記章ハ本人ニ限り終身之ヲ佩用シ遺族之ヲ保存ス

ルコトヲ許ス

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス



戦捷記章ノ圖



● 軍人傷痍記章令

大正十三年八月二十七日  
勅令第百九十九號

改正 昭和六年第一六號 九年第二四五號

朕軍人傷痍記章條例改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

(總理、陸軍、海軍)  
大臣副署

軍人傷痍記章令

第一條 恩給法ニ依リ陸海軍軍人(準軍人ヲ含ム)トシテノ増加恩給、傷病年金又ハ傷病賜金ノ受給權ノ確定シタル者ニ授與スル爲軍人傷痍記章ヲ設ク

軍人傷痍記章ハ本人ノ願出ニ依リ陸軍大臣又ハ海軍大臣之ヲ授與ス

第二條 軍人傷痍記章ハ甲乙ノ二種トス其ノ制式及形狀附圖ノ如シ

第三條 甲種軍人傷痍記章ハ戰闘又ハ戰闘ニ準スヘキ公務ニ基因スル傷病ニ付テノ増加恩給、傷病年金又ハ傷病賜金ノ受給權ノ確定シタル者ニ、乙種軍人傷痍記章ハ其ノ他ノ増加恩給、傷病年金又ハ傷病賜金ノ受給權ノ確定シタル者ニ之ヲ授與ス

第四條 陸軍大臣又ハ海軍大臣ハ軍人傷痍記章ヲ授與セラレタ

〔海軍〕

裏



表

ル者ニ當該受章者ノ氏名、生年月並傷痍疾病ノ原因及症狀ヲ記載シタル軍人傷痍記章授與證書ヲ授與ス

第五條 軍人傷痍記章ハ之ヲ右肋ニ佩ヒ其ノ佩用中ハ軍人傷痍記章授與證書ヲ携帯スヘシ

第六條 軍人傷痍記章ヲ有スル者死刑又ハ無期若ハ二年ヲ超ユル懲役若ハ禁錮ノ刑ニ處セラレタルトキハ陸軍大臣又ハ海軍大臣ハ記章ヲ褫奪ス

軍人傷痍記章ヲ有スル者第一條第一項ノ受給權ノ基礎タル事實ノ屬スル在職中ノ職務ニ關スル犯罪(過失犯ヲ除ク)ニ因リ禁錮以上ノ刑(陸軍刑法又ハ海軍刑法ニ依ル一年未滿ノ禁錮ノ刑ヲ含マズ)ニ處セラレタルトキ亦前項ニ同ジ

第七條 軍人傷痍記章ヲ有スル者二年以下ノ懲役又ハ禁錮ノ刑ニ處セラレタルトキハ其ノ執行ヲ終リ又ハ執行ヲ受クルコトナキニ至ル迄之カ佩用ヲ停止ス但シ刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ受ケタルトキハ之カ佩用ヲ停止セス其ノ言渡ヲ取消サレタルトキハ刑ノ執行ヲ終リ又ハ執行ヲ受クルコトナキニ至ル迄之カ佩用ヲ停止ス

軍人傷痍記章ヲ有スル者記章又ハ軍人傷痍記章授與證書ヲ不

〔海軍〕

正ニ行使シタルトキハ陸軍大臣又ハ海軍大臣ハ記章ノ佩用ヲ一時停止シ又ハ記章ヲ褫奪スルコトヲ得

第八條 軍人傷痍記章ヲ褫奪スル場合ニ於テハ軍人傷痍記章授與證書ハ之ヲ沒取ス

第九條 軍人傷痍記章ヲ有スル者國籍ヲ失ヒ又ハ死亡シタルトキハ軍人傷痍記章授與證書ト共ニ記章ヲ返納セシム

第十條 軍人傷痍記章ノ授與、返納、佩用停止及褫奪ニ關スル手續ハ陸軍大臣又ハ海軍大臣之ヲ定ム

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス  
従前ノ規定ニ依リ授與シタル軍人傷痍記章及證書ハ之ヲ本令ニ依リ授與シタルモノト看做ス但シ陸軍大臣又ハ海軍大臣ノ定ムル所ニ依リ之ヲ本令ニ依ル軍人傷痍記章及軍人傷痍記章授與證書ト引換フルコトヲ得

附則

(昭和六年勅令第十六號)(昭和九年勅令第二百四十五號附則改)  
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス  
本令ハ恩給法ニ依リ既ニ傷病賜金ヲ給セラレタル者及従前ノ規定ニ依リ賑恤金又ハ之ニ相當スル一時金ヲ給セラレタル者ニモ



亦之ヲ適用ス

下士官以下ノ軍人又ハ下士官以下ノ軍人タリシ者ニシテ恩給法ニ依ル傷病賜金又ハ従前ノ規定ニ依ル賑恤金若ハ之ニ相當スル一時金ヲ給セラレザリシモノガ恩給法第四十六條又ハ第四十六條ノ二ノ規定ニ依リ新ニ普通恩給及增加恩給又ハ傷病年金ヲ請求シ其ノ症狀普通恩給及增加恩給ヲ給スル程度ニ達セザルモノトシテ當該請求ノ棄却セラレタル場合ト雖モ恩給法施行令第三十一條ニ規定スル傷病ノ程度ニ達スルモノト認メラルルトキハ之ニ軍人傷病記章ヲ授與スルコトヲ得

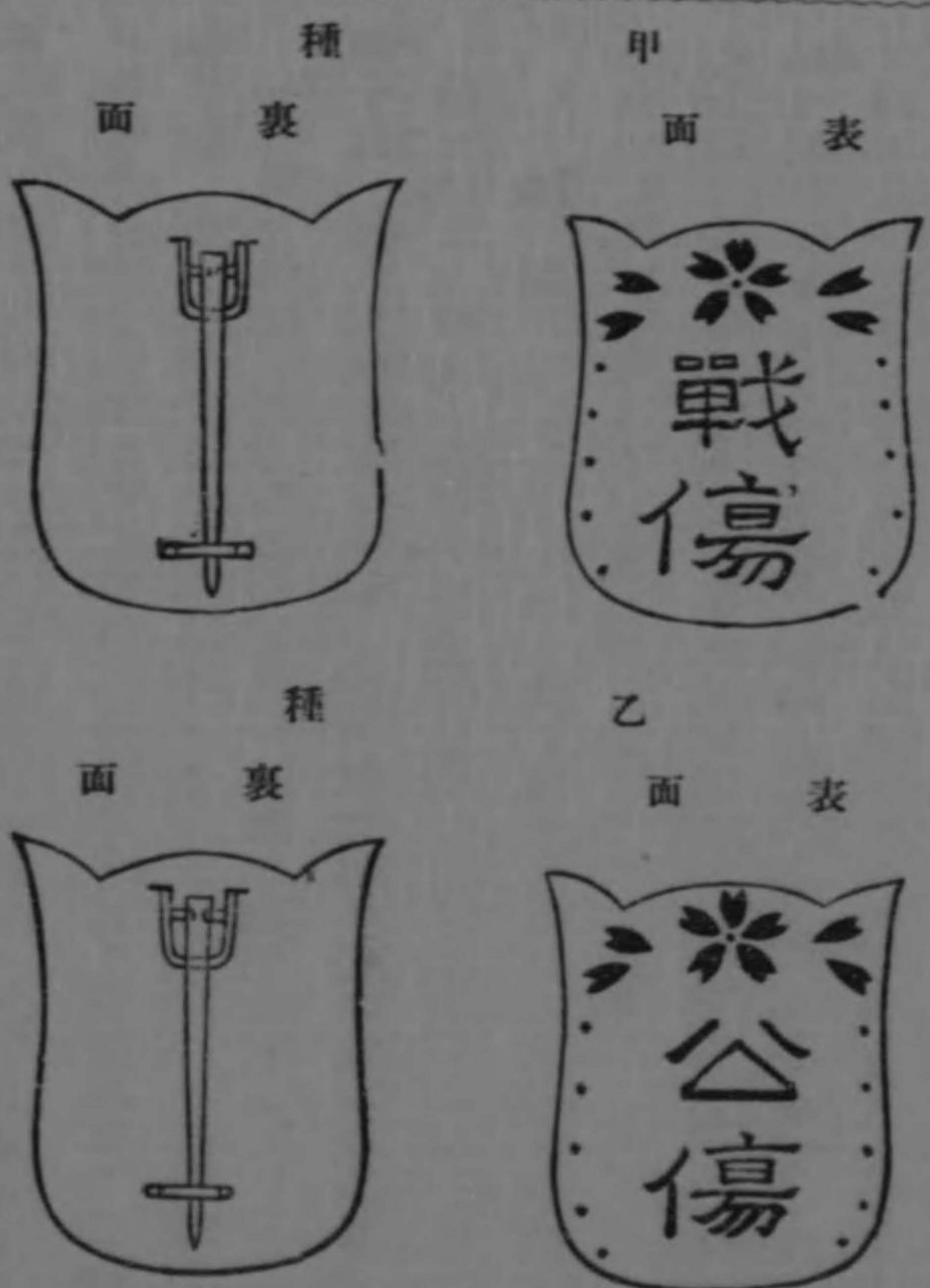
附則(昭和九年勅令第二百四十五號)

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

准士官以上ノ軍人ガ昭和九年三月三十一日以前ノ傷病ニ基キ恩給法第四十六條ノ規定ニ依リ新ニ普通恩給及增加恩給ヲ請求シ其ノ症狀普通恩給及增加恩給ヲ給スル程度ニ達セザルモノトシテ當該請求ノ棄却セラレタル場合ト雖モ恩給法施行令第二十四條ノ二ニ規定スル傷病ノ程度ニ達スルモノト認メラルルトキハ之ニ軍人傷病記章ヲ授與スルコトヲ得

昭和六年勅令第十六號附則第三項中「下士」ヲ「下士官」ニ改メ

「恩給法第四十六條」ノ下ニ「又ハ第四十六條ノ二」ヲ、「增加恩給」ノ下ニ「又ハ傷病年金」ヲ加フ



制	准士官以上ノ者ニ授與スル傷病記章	式	其ノ他ノ者ニ授與スル傷病記章
縦	九分	同	同上
横	八分	同	同上
地	暗色金屬	同	同上
櫻	金花	銀色	銀色
文	金字	銀色	銀色
側	金色	銀色	銀色

●海軍軍人傷病記章授與、返納、佩用

停止及褫奪手續

大正十三年八月二十七日 海軍省令第八號

改正 昭和六年第一號、九年第六號

海軍軍人傷病記章授與、返納及褫奪手續左ノ通改正ス

海軍軍人傷病記章授與、返納、佩用停止及褫奪手續

第一條 軍人傷病記章令ニ依リ軍人傷病記章ヲ受ケムトスル者

ハ願書<sup>様式</sup>第一ニ恩給證書又ハ裁定通知書ノ寫ヲ添ヘ本籍地市區町村長<sup>町村制ヲ施行セサル地ニ在リテハ</sup>ハ町村長ニ準スヘキ者以下同シニ差出スヘシ

前項ノ場合ニ於テ恩給證書又ハ裁定通知書ノ寫ヲ添附シ能ハサルトキハ其ノ事由ヲ具シタル書面ヲ添付スルヲ要ス

市區町村長第一項ノ願書ヲ受ケタルトキハ奥書證印シ士官ニ在リテハ海軍大臣ニ、特務士官以下ニ在リテハ在籍鎮守府司令長官ニ之ヲ送付スヘシ

前三項ノ規定ハ增加恩給、傷病年金又ハ傷病賜金ノ受給權ノ確定シタル後軍人傷病記章令第六條ニ規定スル刑ニ處セラレタル者ニ付テハ之ヲ適用セズ

第二條 鎮守府司令長官前條ノ願書ヲ受ケタルトキハ之ヲ調査シ海軍大臣ニ進達スヘシ

第三條 海軍大臣軍人傷病記章ノ授與ヲ決定シタルトキハ軍人傷病記章ニ軍人傷病記章授與證書<sup>様式</sup>第二ヲ添ヘ士官ニ在リテハ本籍地市區町村長ヲ經テ本人ニ授與シ特務士官以下ニ在リテハ其ノ在籍鎮守府司令長官ヲ經テ海軍人事部長ニ交付シ本籍地市區町村長ヲシテ之ヲ本人ニ授與セシム

第四條 軍人傷病記章ヲ有スル者國籍ヲ失ヒタルトキ又ハ死亡シタルトキハ本人又ハ其ノ遺族ヨリ軍人傷病記章及同授與證書ヲ本籍地市區町村長ニ返納スヘシ



市區町村長前項ノ規定ニ依リ記章及證書ヲ受ケタルトキハ其ノ返納ノ事由ヲ具シ士官ニ在リテハ海軍省人事局長ニ、特務士官以下ニ在リテハ在籍鎮守府ノ海軍人事部長ニ之ヲ送付スヘシ

本人又ハ其ノ遺族第一項ノ手續ヲ爲ササルトキハ本籍地市區町村長ハ記章及同授與證書ヲ回收シ前項ノ手續ヲ爲スヘシ

**第五條** 軍人傷痍記章ヲ有スル者軍人傷痍記章令第六條ノ刑ニ處セラレタルトキハ本籍地市區町村長ハ記章ト共ニ同授與證書ヲ回收シ其ノ事由ヲ具シ士官ニ在リテハ海軍省人事局長ニ、特務士官以下ニ在リテハ在籍鎮守府ノ海軍人事部長ニ之ヲ送付スヘシ

**第六條** 第四條第三項又ハ前條ノ場合ニ於テ軍人傷痍記章ヲ有スル者又ハ其ノ遺族ノ所在不明等已ムヲ得サル事情ニ依リ記章及同授與證書ヲ回收スルコト能ハサルトキハ本籍地市區町村長ハ事由ヲ具シ士官ニ在リテハ海軍省人事局長ニ、特務士官以下ニ在リテハ在籍鎮守府ノ海軍人事部長ニ通報スヘシ

テハ海軍省人事局長ニ、特務士官以下ニ在リテハ在籍鎮守府ノ海軍人事部長ニ速ニ詳報スヘシ  
憲兵又ハ警察官吏ニ於テ軍人傷痍記章又ハ同授與證書ヲ不正ニ行使シタル者アルヲ認メタルトキハ直ニ之ヲ本籍地市區町村長ニ通報スヘシ

**第八條** 海軍人事部長前條ノ通知ヲ受ケタルトキハ之ニ意見ヲ附シ海軍大臣ニ具申スヘシ

**第九條** 海軍大臣軍人傷痍記章ノ佩用停止及褫奪ヲ決定シタルトキハ士官ニ在リテハ本籍地市區町村長ニ、特務士官以下ニ在リテハ在籍鎮守府司令長官ニ之ヲ通知ス

鎮守府司令長官前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ海軍人事部長ヲ經テ之ヲ本籍地市區町村長ニ通知スヘシ

市區町村長第一項又ハ第二項ノ通知ヲ受ケタルトキハ其ノ褫奪スヘキ場合ニ在リテハ第五條ノ規定ニ準シ之ヲ回收送付シ回收不能ノ場合ニハ第六條ノ規定ニ準スル通報ヲ爲シ其ノ佩用ヲ停止スヘキ場合ニ在リテハ其ノ旨本人ニ通知スヘシ

**第十條** 海軍人事部長第四條第五條又ハ第九條ノ規定ニ依リ軍人傷痍記章及同授與證書ヲ受領シタルトキハ事由ヲ具シ之ヲ

海軍省ニ送付スヘシ

**第十一條** 軍人傷痍記章ヲ有スル者本籍地ヲ轉シタルトキハ七日以内ニ軍人傷痍記章ヲ有スル者ナル旨ヲ新本籍地ノ市區町村長ニ届出ツヘシ

**第十二條** 市區町村長其ノ所轄内ニ軍人傷痍記章ヲ有スル者ノ轉籍シタルモノアルトキハ士官ニ在リテハ海軍省人事局長ニ、特務士官以下ニ在リテハ在籍鎮守府ノ海軍人事部長ニ之ヲ通報スヘシ

**第十三條** 海軍省人事局長及海軍人事部長ハ毎年十二月末日調ヲ以テ軍人傷痍記章ヲ有スル者ノ異動ヲ海軍大臣ニ報告スヘシ

**第十四條** 軍人傷痍記章ヲ有スル者軍人傷痍記章又ハ同授與證書ヲ亡失シタルトキハ市區町村長又ハ警察官吏ノ證明書ヲ添附シ第一條ノ規定ニ準シ再下附ヲ出願スルコトヲ得

**第十五條** 軍人傷痍記章ヲ有スル者其ノ受ケタル恩給種別變更セラレタル爲、増加恩給、傷病年金改定セラレタル爲又ハ身分異動等ニ依リ軍人傷痍記章ノ種類ノ變更又ハ軍人傷痍記章授與證書ノ訂正ヲ要スルトキハ第一條ノ規定ニ準シ軍人傷痍記章

引換願書又ハ軍人傷痍記章授與證書訂正願書ヲ差出スベシ

**第十六條** 軍人傷痍記章ヲ有スル者氏名ヲ改メタルトキハ授與證書及戶籍謄本ヲ添附シ士官ニ在リテハ海軍大臣ニ、特務士官以下ニ在リテハ在籍鎮守府司令長官ニ届出ツヘシ

鎮守府司令長官前項ノ届出ヲ受ケタルトキハ之ヲ調査シ海軍大臣ニ進達スヘシ

附 則 (昭和九年省令第六號)  
ヲ以テ本附則中削除

附 則 (昭和九年省令第六號)  
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

軍人傷痍記章授與證書様式改正ニ依リ之ガ引換ヲ受ケントスル者ハ引換請求書 (様式第三) ニ舊授與證書ヲ添ヘ昭和十年三月三十一日迄ニ離現役當時在籍ノ鎮守府 (舞鶴鎮守府在籍タリシ者ノ中離現役當時秋田、山形、新潟又ハ長野ノ各縣ニ本籍ヲ有シタル者ニ在リテハ横須賀鎮守府、富山、石川、福井、岐阜、京都、鳥取又ハ島根ノ各府縣ニ本籍ヲ有シタル者ニ在リテハ吳鎮守府)ノ海軍人事部長ヲ經テ海軍省ニ差出スベシ但シ從前ノ規定ニ依ル症狀等差第一款症乃至第四款症トシテ軍人傷痍記章ヲ授與セラレタ



ル者ニシテ昭和八年法律第五十號附則第七條但書ノ規定ニ依リ  
傷病年金ヲ請求シタル者ニ在リテハ傷病年金ノ裁定ヲ受ケタル  
上引換請求書ヲ差出スモノトス  
前項ノ請求アリタルトキハ調査ノ上本籍地市、區、町、村長ヲ經  
テ之ヲ本人ニ交付ス  
様式第一

軍人傷痍記章授與願

官職(元官職)位勳功 氏 名

年月日生

舊氏名何某 恩給證書(裁定通知書)受領當時ノ氏名ト軍人傷  
痍記章授與願出當時ノ氏名ト異ル者ニ限リ記入  
右ハ別紙恩給證書(裁定通知書)寫ノ通恩給法ニ依リ増加恩給  
(傷病年金、傷病賜金又ハ賑恤金) 受領致候ニ付軍人傷痍記章  
授與相成度奉願候也

本籍地

現住所

年月日

右氏

名印

海軍大臣(在籍鎮守府司令長官)爵氏名殿

年月日

様式第二

何々市(區)(町)(村)長 氏 名印

軍人傷痍記章授與證書

甲(乙)種 官職(元官職等級)位勳功

第 號 氏 名

年月生

基因及症狀(何々職役何地戰闘ニ於ケル負傷ニ基因シ何々、  
、、、、、、、、、)

右恩給法施行令第二十四條第何項症(第二十四條ノ二第何款症  
又ハ第三十一條第何目症) 該當者ナルヲ以テ頭書ノ軍人傷痍記  
章ヲ授與ス

年月日

海軍省

印

様式第三

軍人傷痍記章授與證書引換請求書

年月日

本籍地

現住所

官(元官職) 氏 名印

名印

海軍省御中

軍人傷痍記章授與證書引換交付相成度同授與證書及提出候也

(記號番號)、種、第 號 添  
軍人傷痍記章授與證書

●軍人遺族記章令

昭和六年八月四日  
勅令第二百四號

朕軍人遺族記章令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム(總理、海軍、  
陸軍大臣副署)

軍人遺族記章令

第一條 左ニ掲グル軍人ノ遺族タル表章トシテ軍人遺族記章ヲ  
設ク

一 戰地(之ニ準ズル事變地ヲ含ム以下之ニ同ジ)ニ於テ戰死  
シタル軍人

二 戰地ニ於テ傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リタル軍人ニシテ之  
ガ爲三年以内ニ死亡シタル者

三 陸軍大臣又ハ海軍大臣ニ於テ前二號ニ相當スル者ト認ム  
ル軍人

第二條 軍人遺族記章ノ制式及形狀附圖ノ如シ

第三條 軍人遺族記章ハ第六條ニ規定スル遺族ノ願出ニ依リ陸  
軍大臣又ハ海軍大臣之ヲ授與ス

第四條 陸軍大臣又ハ海軍大臣軍人遺族記章ヲ授與スル場合ニ  
ハ併セテ軍人遺族記章授與證書ヲ授與ス

第五條 軍人遺族記章ハ之ヲ右肋ニ佩用シ其ノ佩用中ハ軍人遺  
族記章授與證書ヲ携帯スベシ

第六條 軍人遺族記章ハ第一條ニ規定スル軍人ノ屬シタル家ト  
同一ノ家ニ在ル寡婦、子、父、母、祖父、祖母、孫ノ範圍及順位ニ  
從ヒ其ノ一人ニ之ヲ授與ス

前項ニ規定スル遺族ナキトキハ第一條ニ規定スル軍人ノ屬シ  
タル家ト同一ノ家ニ在ル兄、弟、姉、妹ノ中一人ニ其ノ年長ノ  
順序ニ從ヒ之ヲ授與ス

軍人遺族記章授與ノ順位ハ第一項ニ規定スル子又ハ孫二人以  
上アル場合ニ在リテハ年長ノ順序ニ從ヒ、父、母、祖父及祖母  
ニ在リテハ恩給法第七十三條第三項ニ規定スル順位ニ從ヒ之  
ヲ定ム

第七條 軍人遺族記章ヲ授與セラレタル者死亡シ又ハ佩用スル

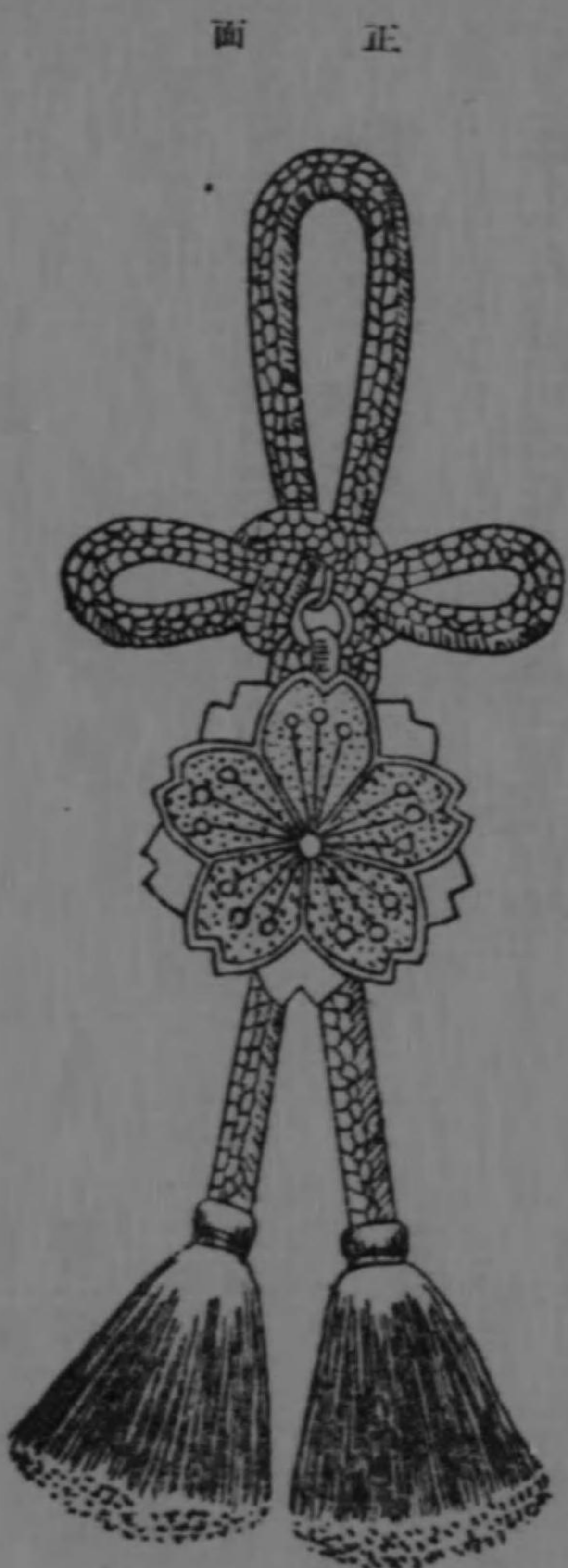


資格ナキニ至リタルトキハ前條ニ規定スル授與ノ範圍及順位ニ從ヒ之ヲ繼承セシメ當該遺族ナキニ至リタルトキハ他ノ遺族ニ之ヲ保管セシム

第八條 第六條ノ規定ニ依リ軍人遺族記章ヲ授與セラレタル者之ヲ佩用セザルトキハ同條ニ規定スル遺族間ニ限り之ヲ佩用スルコトヲ得

第九條 遺族禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者ナルトキハ軍人遺族記章ヲ授與セラレベキ資格、之ヲ繼承スベキ資格及佩用スベキ資格ヲ有セズ第一條ニ規定スル軍人ノ屬シタル家ヲ去リ

附圖



面裏章



タルトキハ其ノ間亦同ジ  
第十條 第七條ノ規定ニ依リ軍人遺族記章ヲ繼承セシムル場合ニ於テハ軍人遺族記章授與證書ヲ併セ繼承セシム  
第十一條 前各條ニ規定スルモノノ外軍人遺族記章及軍人遺族記章授與證書ノ授與、佩用及繼承ニ關シ必要ナル事項ハ陸軍大臣及海軍大臣之ヲ定ム

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

制式		章	環	組
銀色金屬櫻花ハ暗黒色煙	直徑 二十五耗	銀色圓形	直徑 六耗	縱 十耗
			紫色絹直徑三・五耗ノ組紐	横 四耗

●軍人遺族記章令施行規程

昭和六年八月四日  
海軍省令第一號

軍人遺族記章令施行規程左ノ通定ム

軍人遺族記章令施行規程

第一條 軍人遺族記章令第三條ノ規定ニ依リ軍人遺族記章ヲ受ケントスル者ハ軍人遺族記章授與願(様式第一)ニ本籍ノ市町村長(東京市、京都市、大阪市、名古屋市、横濱市及神戸市ニ在リテハ區長、市制町村制ヲ施行セザル地ニ在リテハ之ニ準ズ

ル者以下之ニ同ジ)ノ奥書證印ヲ受ケ戶籍抄本(軍人遺族記章令第六條ニ規定スル範圍ノ者ヲ記シ其ノ戶籍抄本ニ記載ナキ者ニ在リテハ除籍抄本ヲ附ス)ヲ添ヘ左ノ各號ノ區分ニ從ヒ之ヲ差出スベシ  
一 死亡シタル軍人ガ陸軍ニ屬シタル者ナルトキハ直接陸軍省

二 死亡シタル軍人ガ海軍ニ屬シタル者ナルトキハ士官ニ在リテハ直接海軍省、特務士官以下ニ在リテハ元在籍ノ鎮守府經由海軍省

第二條 軍人遺族記章授與證書ノ様式ハ様式第二ノ如シ

第三條 軍人遺族記章ヲ受有スル者死亡シ又ハ佩用若ハ繼承スルノ資格ナキニ至リタルトキハ軍人遺族記章ヲ繼承スベキ順位ノ遺族ヨリ軍人遺族記章授與證書ヲ添ヘ其ノ旨本籍ノ市町村長ニ届出ツベシ

市町村長前項ノ規定ニ依ル届出ヲ受ケタルトキハ其ノ證書ニ繼承ニ關スル所要ノ事項ヲ記入ノ上證印シ之ヲ繼承スベキ者ニ交付スベシ

第四條 軍人遺族記章ヲ繼承スベキ遺族ナキニ至リタルトキハ



戸主ヨリ軍人遺族記章授與證書ヲ添へ其ノ旨本籍ノ市町村長ニ届出ヅベシ

市町村長前項ノ規定ニ依ル届出ヲ受ケタルトキハ軍人遺族記章授與證書ニ爾後繼承資格者ナキ旨ヲ記入ノ上證印シ届出者ニ之ヲ交付シ其ノ旨陸軍大臣又ハ海軍大臣(特務士官以下ナルトキハ元在籍ノ鎮守府經由)ニ報告スベシ

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令中神戸市ニ關スル規定ハ昭和六年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

二 故人ノ生年月日 年月 日生  
三 故人死亡ノ原因 「第何師團何隊(何艦隊何艦何部隊)ニ屬シ何年何月何日何地ニ於テ戰死ス又ハ何師團何隊(何艦隊何艦何部隊)ニ屬シ何年何月何日何地ニ於テ負傷シ何年何月何日何地ニ於テ之ガ爲死亡ス等ト其ノ要旨ヲ明記スベシ」

四 軍人遺族記章 本籍 府縣郡市町村字番地  
ヲ受クベキ最 居住地 府縣郡市町村字番地  
先順位ノ遺族 故人トノ続柄 氏 名  
右ノ通ニ付軍人遺族記章授與相成度候也

年月日 府縣郡市町村字番地 名印

陸(海)軍大臣 爵 氏 名殿

右「何 某」ハ軍人遺族記章ヲ受クベキ資格ヲ有スル最先順位ノ遺族タルコトヲ證明ス

年月日 府縣郡市町村長 氏 名職印

〔海軍〕

様式第一(用紙半紙)

軍人遺族記章授與願

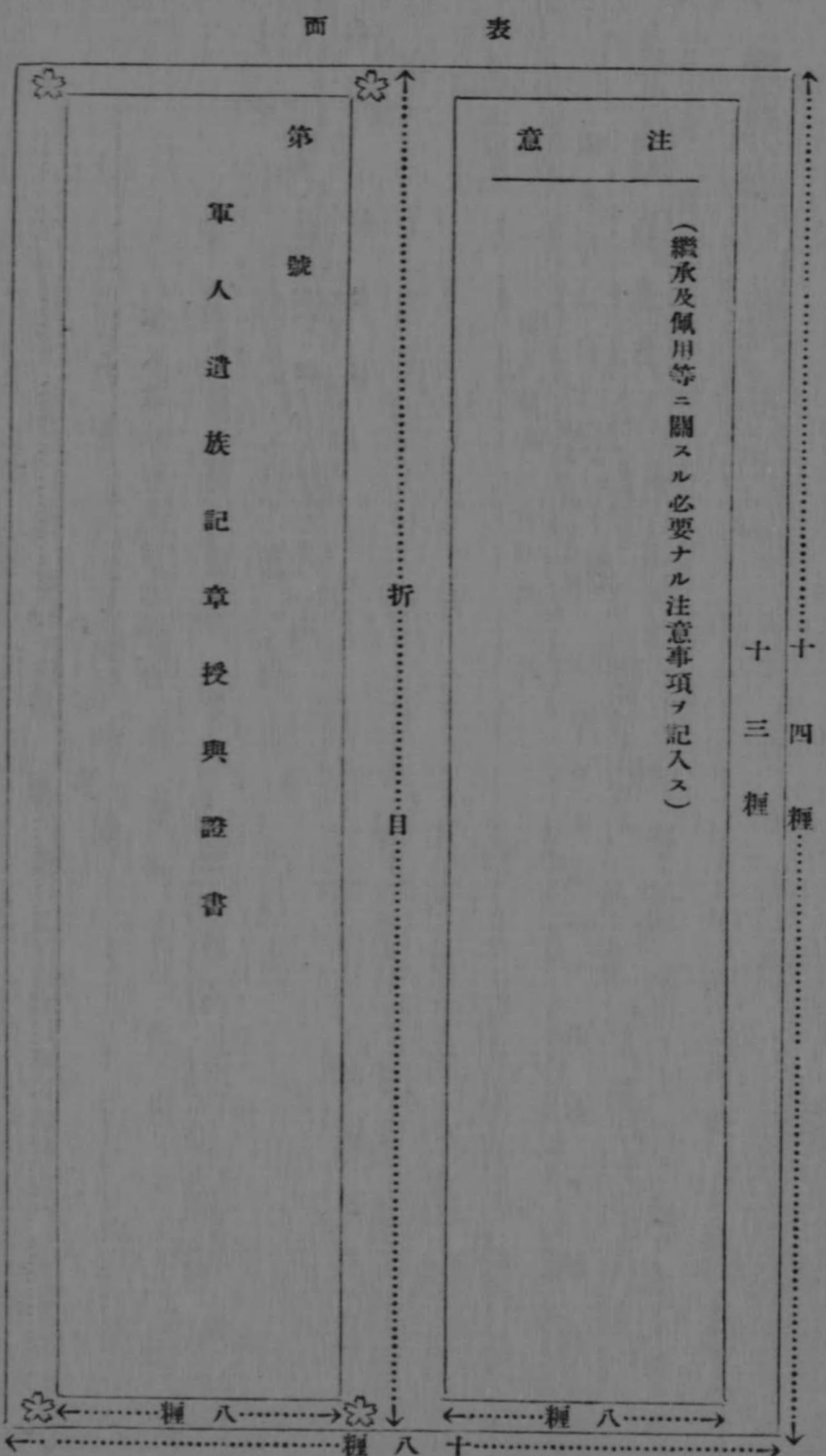
一 故人ノ身分 何兵第何聯(大)隊第何中隊

(第何艦隊何艦何部隊)

官、等級(元官、等級)位、勳、功

氏 名

様式第二(用紙厚紙)





軍人遺族記章授與證書		軍人遺族記章繼承之證	
右軍人遺族記章令ニ依リ軍人遺族記章ヲ授與ス		昭和六、九、四	
年 月 日		繼承年月日	
故陸(海)軍、官、等級、氏名、寡婦(長男長女等)		繼承者氏名及死亡軍人トノ續柄	
氏 名		亡何某長男 某	
陸(海)軍省 印		市町村長 證明	
折		何縣何郡何村長 何	
目		前受有者妻何某死亡セシニ因ル	
八		八	

〔海軍〕

第五款 褒章 感狀 表彰

● 褒章條例

明治十四年十二月七日 太政官布告第六十三號

改正 明治二十三年第七二號、第一二六號、二七年第一號、大正七年第三四九號、九年第二四號、一〇年第一四七號、一四年第二二二號、昭和二年第六號、九年第三九五號

褒章條例別紙ノ通相定來明治十五年一月一日ヨリ之ヲ施行ス 右奉 勅旨布告候事

(別紙)

褒章條例

第一條 凡ソ自己ノ危難ヲ顧ミス人命ヲ救助シタル者又ハ孝子 順孫節婦義僕ノ類ニシテ德行卓絶ナル者又ハ實業ニ精勵シ衆 民ノ模範タルヘキ者又ハ學術技藝上ノ發明改良著述、教育衛 生慈善防疫ノ事業、學校病院ノ建設、道路河渠堤防橋梁ノ修 築、田野ノ墾闢、森林ノ栽培、水産ノ繁殖、農商工業ノ發達ニ關 シ公衆ノ利益ヲ興シ成績著明ナル者又ハ公同ノ事務ニ勤勉シ 勞效顯著ナル者又ハ公益ノ爲私財ヲ寄附シ功績顯著ナル者ヲ 表彰スル爲左ノ四種ノ褒章ヲ定ム

第十二類 褒章 感狀 表彰

紅綬褒章

右自己ノ危難ヲ顧ミス人命ヲ救助シタル者ニ賜フモノトス

綠綬褒章

右孝子順孫節婦義僕ノ類ニシテ德行卓絶ナル者又ハ實業ニ精 勵シ衆民ノ模範タルヘキ者ニ賜フモノトス

藍綬褒章

右學術技藝上ノ發明改良著述、教育衛生慈善防疫ノ事業、學校 病院ノ建設、道路河渠堤防橋梁ノ修築、田野ノ墾闢、森林ノ栽 培、水産ノ繁殖、農商工業ノ發達ニ關シ公衆ノ利益ヲ興シ成績 著明ナル者又ハ公同ノ事務ニ勤勉シ勞效顯著ナル者ニ賜フモ ノトス

紺綬褒章

右公益ノ爲私財ヲ寄附シ功績顯著ナル者ニ賜フモノトス

第二條 本條例ニ依リ表彰セラルヘキ者團體ナルトキハ褒狀ヲ 賜フ

第三條 已ニ褒章ヲ賜ハリタルモノ再度以上同様ノ實行アリテ 褒章ヲ賜フヘキトキハ其都度飾版一箇ヲ賜與シ其章ノ綬ニ附 加セシメ以テ標識トス

〔海軍〕



第十二類 褒章 感狀 表彰

前項ノ飾版五箇以上ニ達シタルトキハ五箇毎ニ別種ノ飾版一箇ヲ引替ヘ賜與ス

第四條 褒章ハ本人ニ限り終身之ヲ佩用スルコトヲ得

第五條 第一條ノ規定ニ依リ褒章ヲ賜フヘキ者ニハ褒章ト金銀木杯又ハ金圓トヲ併セ賜フコトアルヘシ

第六條 第一條ノ規定ニ準スヘキ奇特ノ行爲アリタル者ニハ金銀木杯、金圓又ハ褒狀ヲ賜フコトアルヘシ

第七條 本條例ニ依リ表彰セラレヘキ者死亡シタルトキハ金銀木杯、金圓又ハ褒狀ヲ其遺族ニ賜ヒ之ヲ追賞ス

第八條 第六條ニ依ル行賞ニシテ金銀杯ノ賜與、二十圓ヲ超ユル金圓ノ賜與及千圓以上ノ寄附ニ對スル褒狀ノ賜與ハ賞勳局總裁之ヲ專行ス

第六條ニ依ル行賞ニシテ木杯ノ賜與、二十圓以下ノ金圓ノ賜與及千圓未満ノ寄附ニ對スル褒狀ノ賜與ハ地方長官之ヲ專行ス

第九條 本條例中地方長官ニ屬スル職務ハ朝鮮、臺灣、關東州及南滿洲鐵道附屬地、樺太、南洋群島並外國ニ於テハ各朝鮮總督、臺灣總督、滿洲國駐劄特命全權大使、樺太廳長官、南洋廳長

官、領事官之ヲ行フ

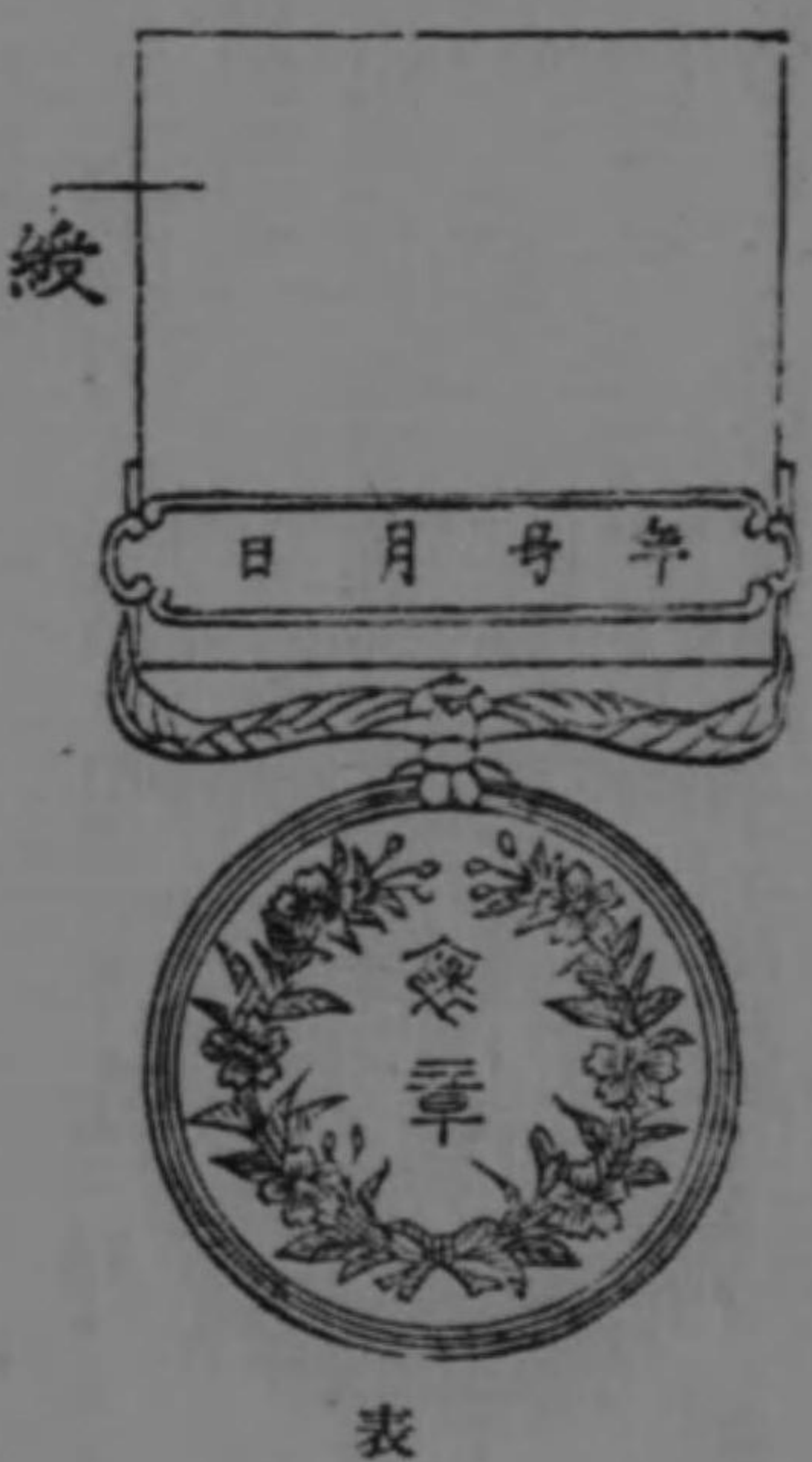
附則 (大正九年勅令第二十四號)

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治十六年太政官布告第一號ハ之ヲ廢止ス

褒章ノ圖

章	銀櫻花紋圓形徑九分
鈕並飾版	銀 但シ第三條第二項ノ飾版ハ金トス
綬	幅一寸種類ニヨリ紅綠藍紺四色ノ別アリ



〔海軍〕

●褒章條例取扱手續

明治二十七年一月六日 閣令第一號

〔海軍〕

改正 大正九年第一號、一四年第三號  
明治十四年第三百三號達褒章條例取扱手續左ノ通改正ス

褒章條例取扱手續

第一條 褒章條例ニ依リ褒章ヲ賜フヘキ者アルトキハ地方長官主務大臣ニ具申シ主務大臣ハ其當否ヲ審査シ賞勳局總裁ヘ申牒スヘシ

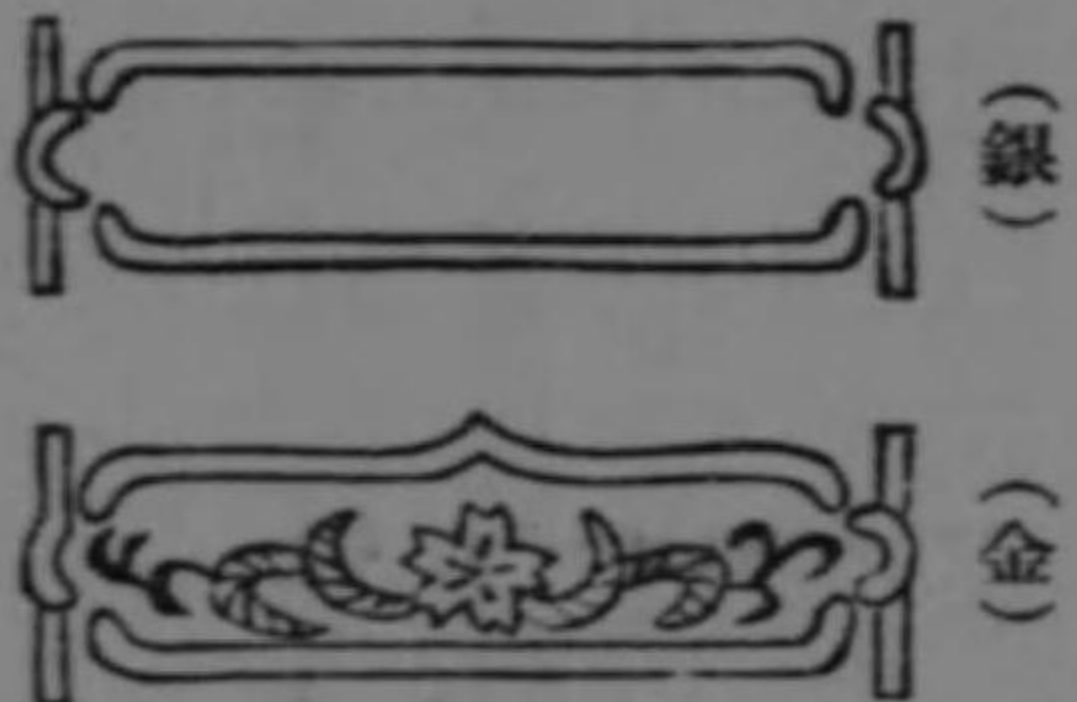
第二條 賞勳局總裁ハ申牒書ヲ覆裁シ褒章ヲ賜フヘキモノト認ムルトキハ奏請裁可ヲ得在東京ノ者ニハ之ヲ直授シ其ノ他ノ者ニハ主務大臣ヲ經由シテ之ヲ傳達スヘシ

第三條 外國人ニ褒章ヲ賜フヘキトキハ主務大臣外務大臣ト連署シテ之ヲ申牒スヘシ授與ノトキハ外務大臣ヲ經由シテ之ヲ傳達ス其公私儲ニ係ル者ハ第二條ニ依ル

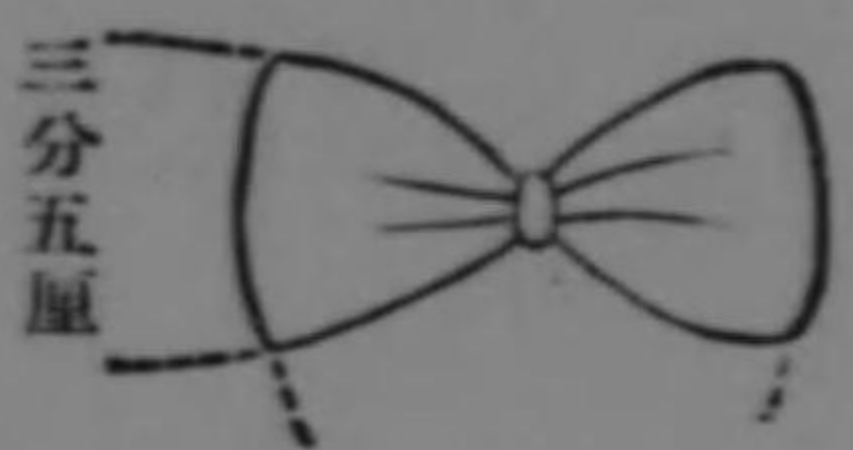
第四條 褒章條例第八條第一項ニ依リ賞勳局總裁ノ專行ニ屬スル行賞ニ該ル者アルトキハ地方長官主務大臣ニ具申シ主務大臣其ノ當否ヲ審査シ賞勳局總裁ヘ申牒スヘシ授與ノトキハ主務大臣ヲ經由シテ之ヲ傳達ス



飾版



略綬



五分六厘

褒章ノ種類ニ依リ紅綠藍紺四色ノ別アリ

備考

第三條第二項ノ飾版ヲ賜フトキハ褒章ノ裏面ニ引替ヘタル各飾版ノ賜與年月日ヲ記入ス  
紺綬褒章ノ裏面ニハ前項ノ外文字ヲ記セス

佩用式

一 褒章ハ左肋ノ邊ニ佩フヘシ

但勳章及從軍記章ヲ有スル者ハ其章ノ左ヘ列シ帶フヘシ

第十二類 褒章 感狀 表彰



第五條 行賞ニ關シニ以上ノ地方長官具申又ハ專行スヘキ場合ニ於テハ關係地方長官ノ協議ニ依リ其ノ一地方長官之ヲ行フコトヲ得

第六條 外國人ニ對スル金銀木杯、金圓又ハ褒狀ノ賜與ハ內國人ノ例ニ依ル但シ帝室ノ貴賞又ハ外國使臣ニ對スル賜與ハ外務大臣賞勳局總裁ヘ申牒スヘシ授與ノトキハ外務大臣ヲ經由シテ之ヲ傳達ス

第七條 褒章條例ニ依リ表彰セララルヘキ者其申後行賞前ニ於テ死亡シ又ハ罰金以上ノ刑ニ該ル罪ヲ犯シタル者ナルコトヲ知リタルトキハ地方長官ハ速ニ其ノ旨主務大臣ニ申報シ主務大臣ハ之ヲ賞勳局總裁ニ通知スヘシ

第八條 本令中主務大臣ノ職務ハ朝鮮、臺灣、關東州及南滿洲鐵道附屬地ニ在リテハ各朝鮮總督、臺灣總督、關東長官之ヲ行ヒ地方長官ノ職務ハ朝鮮、臺灣、關東州及南滿洲鐵道附屬地、樺太、南洋群島並外國ニ在リテハ各朝鮮總督、臺灣總督、關東長官、樺太廳長官、南洋廳長官、領事官之ヲ行フ

附則 (大正九年閣令第一號)

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治十六年太政官達第十七號金銀木杯金圓賜與手續及明治四十四年閣令第十三號ハ之ヲ廢止ス

●海軍戰技優勝旗、旗狀及褒狀保管

取扱規則

大正八年九月二十日 達第五百五十五號

海軍戰技優勝旗、旗狀及褒狀保管取扱規則左ノ通改正ス

海軍戰技優勝旗、旗狀及褒狀保管取扱規則

第一條 海軍戰技褒賞令及同施行規則ニ依リ付與又ハ授與セラレタル海軍戰技優勝旗、旗狀及褒狀ノ保管取扱ハ本則ニ依ルタル御物ノ保管取扱亦前項ニ同シ

第二條 旗狀又ハ褒狀ハ其ノ授與當時ノ名號ヲ有スル戰隊(潛水隊)ニ於テ之ヲ保管ス

第三條 旗狀又ハ褒狀ハ之ヲ保管スル隊ナキ場合ニ於テハ海軍參考館ニ於テ之ヲ保管ス

第四條 海軍戰技優勝旗ハ祝祭日、戰役記念日等ニハ之ヲ旗艦(潛水隊ニ在リテハ司令乘艦)ノ艦橋、砲塔、司令塔ノ如キ外部ヨリ見易キ位置ニ樹立スルヲ例トス

第五條 海軍戰技優勝旗ヲ付與セラレタル場合ニ御物下賜アリタルトキハ其ノ當時ノ名號ヲ有スル戰隊(潛水隊)ニ於テ之ヲ保管シ平素ハ旗艦將官公室(潛水隊ニ在リテハ司令乘艦艦長公室)其ノ他適當ナル場所ニ之ヲ奉置ス

第六條 旗狀又ハ褒狀ヲ授與セラレタル戰隊(潛水隊)ハ其ノ寫ヲ調製シ之ヲ當該戰技ニ參與セル隊内ノ各艦艇ニ交付スルトヲ得

附則

本則發布前下賜セラレタル御物及授與セラレタル旗狀、褒狀ハ當時ノ名號ヲ有スル艦(隊)ニ於テ之ヲ保管シ御物ハ艦長公室其ノ他適當ノ場所ニ之ヲ奉置ス  
前項ノ御物、旗狀及褒狀ハ之ヲ保管スル軍艦(隊)ナキ場合ニ於テハ海軍參考館ニ於テ之ヲ保管ス

●陸海軍感狀授與規程

明治三十七年三月二日 達第五十號

陸海軍感狀授與規程左ノ通定メラル

陸海軍感狀授與規程

第一條 軍人戰地ニ於テ左ノ各號ニ該當スル所爲アルトキハ軍司令官獨立師團長司令官長官獨立司令官其ノ他ノ大本營ニ直屬スル團隊長ハ之ニ感狀ヲ授與シ其ノ功績ヲ表彰ス

一、敵前ニ於テ拔群ノ勳功ヲ顯シ其ノ所爲軍人ノ模範トスヘキトキ

二、特別ノ任務ヲ負ヒ危險ヲ冒シテ敵前ニ行動シ依テ以テ我軍ニ勝利ヲ得セシメタルトキ

三、戰陣中長官ノ危急ヲ救ヒ敵ノ將官ヲ生擒シ又ハ軍旗ヲ奪取シタルトキ

四、前各號ニ準スヘキ拔群ナル武功アリタルトキ

第二條 軍隊艦艇トシテ行動シ前條各號ニ相當スル功績アリタルトキハ感狀ハ之ヲ其軍隊艦艇ニ授與スルトヲ得

第三條 感狀ヲ授與シタルトキハ之ヲ部下一般ニ公示スヘシ



第四條 感狀ヲ受ケタル者軍人ノ體面ヲ汚ス所爲アリタルトキハ其ノ感狀ヲ褫奪ス

第五條 感狀ハ之ヲ授與スル權ヲ有スル諸官ニ於テ適宜其ノ様式ヲ定メ自ラ之ニ署名スヘシ

第六條 感狀ヲ授與シタルトキハ狀ヲ其ノ陸軍ニ在テハ陸軍大臣海軍ニ在テハ海軍大臣ヲ經テ上奏スヘシ其ノ感狀ヲ褫奪シタルトキ亦同シ

附則

本規程ハ今回戰役ノ始期ニ遡リ之ヲ適用スルコトヲ得

●感狀保管規則

明治四十一年四月二十四日  
連第六十三號

感狀保管規則左ノ通定ム

感狀保管規則

第一條 陸海軍感狀授與規程ニ據リ授與セラレタル感狀ハ本規則ニ據リ之ヲ保管スルモノトス

第二條 個人ニ對スル感狀ハ本人自ラ之ヲ保管ス但シ本人死亡シタルトキハ遺族ニ於テ永久ニ之ヲ保管スルノ名譽ヲ有ス

第三條 艦船部隊ニ對スル感狀ハ各其ノ艦船部隊ニ於テ之ヲ保

管ス

第四條 感狀ヲ有スル部隊ハ其ノ部隊内幾多ノ編制換アルモ其ノ部隊號ノ變セサル限リ感狀ヲ保管スルノ名譽ヲ有ス

第五條 艦船部隊廢艦除籍若ハ解散等ノ場合ニ際シ其ノ名號ノ消滅シタルトキ又ハ其ノ部隊號ノ變更シタルトキハ之ニ屬セシ感狀ハ海軍參事館ニ於テ永久ニ之ヲ保管ス

第六條 感狀ヲ授與セラレタル艦船部隊ハ其ノ寫ヲ調製シ之ヲ感狀授與當時ノ全員ニ頒布スルコトヲ得

第七條 個人ニ對スル感狀ハ本人又ハ遺族ノ希望ニ依リ便宜海軍參事館ニ於テ保管スルコトヲ得

●一家ヨリ多數ノ兵役服務者ヲ出シタル場合ニ於ケル表彰ニ關スル件

昭和六年十月二十日  
勅令第二百五十五號

一家ヨリ多數ノ兵役服務者ヲ出シタル場合ニ於ケル表彰ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム(總理、海軍、陸)

一家ヨリ多數ノ兵役服務者ヲ出シタル場合ニ於テハ金銀木杯又ハ表彰狀ヲ現戶主ニ賜ヒ之ヲ表彰スルコトアルベシ

第六款 功績調査

●海軍功績調査規程

大正三年十一月十一日  
連第六十七號

改正 大正四年第一〇六號、七年第一五七號、八年第一〇〇號、第一〇五號

海軍功績調査規程別紙ノ通定ム

海軍功績調査規程

第一章 總則

第一條 戰時若ハ事變ニ於ケル海軍軍人軍屬ノ功績調査ハ本規程ニ據ル

第二條 功績等級ハ左ノ標準ニ據ル

殊勳

甲 金鷄勳章敍賜條例第七條ニ該當スルモノ  
乙 金鷄勳章敍賜條例第二條乃至第四條ニ該當スルモノ

勳功

甲 殊勳乙ニ及ハサルモ其ノ功績常ニ優秀ナルモノ  
乙 功績優秀ニシテ勳功甲ニ次クモノ  
丙 功績優秀ニシテ勳功乙ニ次クモノ

第十二類 功績調査

勳勞

甲 勳功丙ニ及ハサルモ職務ニ精勵シ功績顯著ナルモノ

功勞

甲 功績顯著ニシテ勳勞甲ニ次クモノ  
乙 功績顯著ニシテ勳勞乙ニ次クモノ  
丙 勳勞丙ニ及ハサルモ其ノ勳勞大ナルモノ

慰勞

甲 勳勞アリテ勳勞甲ニ次クモノ  
乙 勳勞アリテ勳勞乙ニ次クモノ  
丙 勳勞アリテ勳勞丙ニ次クモノ  
丁 勳勞アリテ慰勞丙ニ次クモノ  
戊 勳勞アリテ慰勞丁ニ次クモノ  
己 勳勞アリテ慰勞戊ニ次クモノ

第三條

功績調査ノ期日ハ平和克復若ハ事變終結ノ日トス但シ必要ニ際シテハ特ニ調査ノ期日ヲ定ムルコトアルヘシ

第四條

功績調査ハ調査期日現在ノ所轄長之ヲ行フ但シ其ノ期日ニ於テ所屬ナキ者ノ功績ハ最後ノ所轄長ニ於テ調査スヘシ

第二章 調査手續



第十二類 功績調査

**第五條** 所轄長ハ功績明細書第一號ヲ準備シ一戰闘毎ニ又ハ所要ノ都度部下軍人軍屬ノ功績ヲ記入スヘシ

**第六條** 戰役中轉職シタル所轄長ハ轉職前ニ於ケル部下軍人軍屬ノ功績明細書ヲ新所轄長ニ引繼クヘシ

戰役中部下軍人軍屬ニシテ所屬ヲ轉シタル者アルトキハ所轄長ハ本人ノ功績明細書ヲ新所轄長ニ移牒スヘシ但シ獨立任務ニ服シタル首席將校ノ功績明細書ハ之ヲ移牒セサルヲ例トス

新所轄長ナキモノニアリテハ第三條ノ規定ニ拘ラス直ニ第八條ノ手續ヲ行フヘシ

**第七條** 削除

**第八條** 功績調査期ニ於ケル所轄長ハ第五條ノ功績明細書ノ末尾ニ擬定功績等級ヲ記載シ該明細書ニ依リ調製シタル部下軍人軍屬ノ功績具申名簿第二號ト共ニ履歷書第三號見認證書(要ト認ムルトキ若ハ特別書例第四號)及感狀寫(授與サレタルトキ)ヲ添付シ所屬長官ニ進達シ所屬長官ハ之ニ意見ヲ附シ海軍大臣ニ進達若ハ移牒スヘシ但シ特務士官、准士官及下士卒ニ在リテハ所屬長官之ニ意見ヲ附シ在籍鎮守府司令長官ニ移牒シ鎮守府司令長

官ハ海軍大臣ニ進達スヘシ

**第九條** 海軍大臣及所屬長官ハ直屬諸官ニ對シテ本規定ニ關シ所轄長ト見做ス

**第十條** 獨立任務ニ服スル首席將校ハ本規定ニ關シ所屬長官ト見做ス

**第十一條** 功績明細書進達若ハ移牒後進級、免官、逃亡、收禁、處刑、死亡、改氏名其ノ他位勳等ニ異動ヲ生シタルトキハ現所轄長ハ速ニ人事局長ニ通知スヘシ

**第十二條** 功績明細書進達若ハ移牒後其ノ所屬ヲ變更シタル者アルトキハ舊所轄長ハ新所轄長ニ其ノ旨ヲ通知スヘシ

**第十三條** 海軍大臣ハ功績調査書類ヲ武功調査委員ニ交付シ調査セシム

**第十四條** 海軍軍人軍屬ニアラサルモノノ功績調査ハ前諸條ニ準ス但シ第二條ノ功績等級ニ該當セサルモノニ對シテハ別ニ之ヲ定ム

**第三章** 死者ニ對スル功績調査

**第十五條** 所轄長ハ第八條ニ準シ死者ノ功績ヲ調査シ順序ヲ經テ成ルヘク速ニ之ヲ進達若ハ移牒スヘシ

附則  
本達ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十七年達第四十六號海軍功績調査手續ハ之ヲ廢止ス

書例第一號

功績明細書

(美濃十三行罫紙)

年 月 日		功績等級	所	官位勳(瑞)功學位爵氏	名
明治三十七年	六月八日	功績ナシ	乘艦ノ日淺ク功績ノ認ムヘキモノナシ	見	所 職官氏 名
同	年七月三十日	殊勳甲			日進艦長海軍大佐 某
同	三十八年七月二十日	勳 甲			千歲艦長海軍大佐 某
年	月 日	所屬	職 名 部 署	奏功官等	職
明治三十七年	五月二十日	日進	前部彈藥庫員	二水	日進乘艦
同	年六月八日				艦長某大佐轉任新艦長某大佐ノ部下ニ屬ス
同	年自六月十日至六月二十日				旅順口直接封鎖配備
同	年七月五日		艦載水雷艇員	二水	某中尉ノ指揮セル艦載水雷艇ニ乘組ミ旅順口外ニテ敵艦
					勳功乙
					功績調査標準記
					事

第十二類 功績調査



同	年七月三十日	千歳	六尹ノ二	二水	〔……〕ヲ襲撃沈ス	殊勳甲	感状寫添付
同	年八月十日	戰闘中一番負傷シ 代テ一番トナル	六尹ノ二	二水	千歳ニ轉乘艦長某大佐ノ部下ニ屬ス	殊勳甲	見認證書添付
同	年八月三十一日		六尹ノ二	二水	敵艦ノ一ウキクヲ撃破ス	殊勳甲	
同	年自九月十二日 至十一月十八日		六尹ノ一	一水	旅順口封鎖配備	勳功甲	
同	同三十八年五月廿七日				日本海々戦	勳功乙	
同	年七月二十日				第二種症ニ依リ西京丸ニ入院 舞鶴海兵團ニ送籍	殊勳甲	
同	年十月十五日				平和克復		

右功績(殊勳甲)ニ該當スルモノト認ム

年 月 日

海軍大臣 爵氏 名殿

舞鶴海兵團長海軍大佐

某團

備考

〔海軍〕

四八四

年 月 日

(美濃十三行買紙)

海軍大臣 爵氏 名殿  
功績具申名簿 (候補生以上)

………艦長 爵氏

名團

功績順序	功績等級	職名	位	勳功學位	爵	官	氏	名
一	殊勳甲	副長	正六	瑞四	功五	爵	海軍少佐	何某
一	殊勳甲	航海長	正七	旭五			海軍大尉	何某
五	勳功丙	砲術長	正七	旭五				何某
二	殊勳乙	分隊長	正七					何某
四	勳功甲	分隊長	正七					何某

〔海軍〕



第十二類 功績調査

所見	上官	所見	所轄長	功績	分隊長	從	職名
				三 殊勳乙	分隊長心得	從七	海軍中尉 何 某
				四 勳功甲	乘組	從七	同 何 某
				一 殊勳乙	乘組	從七	同 何 某
				五 功績ナシ	乘組	正八	海軍少尉 何 某
				二 勳功甲	乘組	正八	同 何 某
				三 勳功甲	乘組	正八	海軍少尉候補生 何 某
				一 勳功甲	機關長	從六、瑞五	海軍機關少佐 何 某
				三 勳功乙	分隊長	正七	海軍機關大尉 何 某

第………戰隊司令官 爵氏 名  
 第………艦隊司令長官 爵氏 名

備考

一、本具申簿ハ候補生以上、特務士官、准士官及下士卒ノ四種ニ軍屬ニ在リテハ高等文官、判任文官、雇員補人、職工及船員ノ五種ニ區別シ各別冊ト爲シ各兵種官等別ニ先任順序ニ從ヒ記載スヘシ  
 二、認ムヘキ功績ナキ者ハ其ノ旨ヲ附記スヘシ  
 三、氏名ハ各自ノ固有履歷書ニ記載セル氏名ト差異ナキニ注意シ下士卒ニ在リテハ必ス入籍番號ヲ記入スヘシ

書例第三號

履歷書

(美濃十三行昇紙)

原籍  
 住所  
 入籍番號 宣職) 氏 名  
 生年月日

明治二十五年十二月一日	吳海兵團ニ入團五等水兵
同 二十六年十月一日	四等水兵
同 二十七年六月一日	三等水兵
同 六月三日	海軍懲罰令第何條何項ニ依リ禁足何日
同 七月二十五日	日清戰役ニ從事
同 二十八年六月一日	二等水兵
同 十一月十八日	二十七八年戰役ノ功ニ依リ勳八等瑞寶章及賜金五拾圓
同 二十九年六月一日	一等水兵
同 三十年十二月一日	三等兵曹
同 三十二年六月一日	二等兵曹
同 三十五年十二月一日	一等兵曹

第十二類 功績調査

同 三十六年十二月十日	笠置乗組
同 三十七年二月六日	佐世保發戰役ニ從事
同 五月十日	臺中丸乗組 笠置退艦即日乘艦
同 三十八年十一月十八日	三十七八年戰役ノ功ニ依リ勳七等青色桐葉章及賜金參百圓

備考

一、所轄長之ヲ調製ス  
 二、海軍出身以後現時ニ至ル迄ノ左記事項ヲ簡明ニ記載スヘシ  
 任官、進級、賞罰、敘位、敘勳  
 三、氏名ハ各自ノ固有履歷書ニ記載セル氏名ト差異ナキニ注意シ下士卒ニ在リテハ必ス入籍番號ヲ記入スヘシ







第七款 善行章

●海軍下士官兵善行章令

大正十三年三月一日  
勅令第四十五號

朕海軍下士卒善行章行狀條例改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム(總理、海軍)大臣副署)

海軍下士官兵善行章令

第一條 海軍下士官兵ニハ其ノ勤務ノ狀況又ハ特別ノ行爲ニ應シ善行章ヲ付與ス

善行章ハ之ヲ普通善行章及特別善行章ニ區分ス

第二條 普通善行章ハ品行方正勤務精勵ナル者ニ之ヲ付與ス

第三條 特別善行章ハ特ニ勇敢若ハ奇特ノ行爲アリ又ハ拔群ノ勤勞ヲ爲シ衆人ノ模範ト爲ルヘキ者ニ之ヲ付與ス

第四條 善行章ヲ有スル者刑罰ニ處セラレ又ハ品行不正若ハ勤務怠慢ニシテ之ヲ保有セシムルニ適セスト認ムルトキハ之ヲ褫奪スルコトヲ得

第五條 善行章ノ付與及褫奪ニ關スル細則ハ海軍大臣之ヲ定ム

第十二類 善行章

附則

本令ハ大正十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス  
本令施行ノ際現ニ有スル善行章又ハ行狀ハ海軍大臣ノ定ムル所ニ依リ之ヲ本令ニ依ル善行章ト看做ス

〔海軍〕

●海軍下士官兵善行章令施行細則

大正十三年三月一日  
連第十六號

改正 昭和五年第一三九號

海軍下士官兵善行章行狀條例施行細則左ノ通改正ス

海軍下士官兵善行章令施行細則

第一條 善行章ノ付與及褫奪ハ所轄長之ヲ行フ但シ特別善行章ノ付與ハ所屬長官ノ認可ヲ受クルヲ要ス

艦船部隊其ノ他各部通信不便ノ地ニ在ルトキハ所轄長ハ所屬長官ノ認可ヲ得シテ特別善行章ヲ付與スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ事後事由ヲ具シ所屬長官ニ報告スヘシ

第二條 海軍下士官兵初メテ入團又ハ入隊シタル日又ハ普通善行章ヲ付與セラレタル日ヨリ三年以上品行方正勤務精勵ナルトキハ之ニ普通善行章一線ヲ付與ス



海軍兵初メテ入團ノ日ヨリ三年未滿ニシテ退團ノ際第十三條ノ規定ニ依リ除算日數ナキ者ニ在リテハ前項ノ期間ヲ二年十月ニ短縮スルコトヲ得

**第三條** 海軍下士官兵善行章令第三條ノ規定ニ該當スル者アルトキハ一回毎ニ之ニ特別善行章一線ヲ付與ス  
特別善行章ニハ所轄長ノ名ヲ以テスル褒狀ヲ附ス

**第四條** 善行章ノ褫奪ハ左ノ各號ニ依ル

- 一 懲罰、科料、拘留又ハ罰金ニ處セラレタルトキハ普通善行章一線ヲ褫奪ス
  - 二 禁錮ノ刑ニ處セラレタルトキハ普通善行章二線及特別善行章全部ヲ褫奪ス
  - 三 懲役ノ刑ニ處セラレタルトキハ善行章全部ヲ褫奪ス
  - 四 禁錮又ハ懲役ノ刑ニ處セラレ刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ受ケタルトキハ普通善行章二線ヲ褫奪ス
  - 五 現ニ有スル普通善行章ノ數褫奪セラレヘキ數ニ充タサルトキハ現ニ有スル普通善行章ノ全部ヲ褫奪スルニ止ム
- 情狀酌量スヘキ者ニ在リテハ所屬長官ノ認可ヲ得テ前項ノ規定ヲ輕減シ又ハ適用セサルコトヲ得

〔海軍〕

一年以上

四九二

特別善行章ニ附シタル褒狀ハ特別善行章ト共ニ之ヲ褫奪ス

**第五條** 普通善行章ヲ有スル者之ヲ褫奪セラレタルトキハ褫奪ノ日ヨリ左ノ各號ノ期間品行方正勤務精勵ナルトキ之ニ普通善行章一線ヲ付與ス

- 一 前條第一項第一號及第四號並第九條第一項ノ場合  
一年以上
  - 二 前條第一項第二號ノ場合  
一年以上
  - 三 前條第一項第三號ノ場合  
一年以上
- 前項ノ規定ニ依リ普通善行章一線ヲ付與スルモ尙褫奪前有シタル普通善行章ノ數ニ達セサル者ニ付テハ爾後一年以上品行方正勤務精勵ナルトキ之ニ普通善行章一線ヲ付與シ累次褫奪前有シタル普通善行章ノ數ニ到ル
- 第六條** 嘗テ普通善行章ヲ有セサル者又ハ褫奪ノ爲普通善行章ヲ有セサル者刑罰ニ處セラレタルトキハ一回毎ニ左ノ各號ニ依リ第二條及前條ニ定ムル普通善行章第一線付與ニ要スル期間ヲ延長ス
- 一 懲罰、科料、拘留又ハ罰金ニ處セラレタルトキ  
一年以上

〔海軍〕

歸休中ノ日數ヲ除ク

**第十條** 豫備役後備役又ハ歸休中ノ下士官兵ニ對シテハ善行章ノ付與又ハ褫奪ヲ行フコトナシ但シ召集中ノ者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

前項但書ノ場合ニ於テ期間ノ計算ニ付テハ現役中ノ日數ヲ除ク

**第十一條** 普通善行章ノ付與ハ毎月一日之ヲ行フ但シ歸休、現役滿期、現役免除、兵役免除又ハ召集解除ノ者ニシテ第二條、第五條又ハ第六條ノ規定ニ該當スルトキハ各其ノ際之ヲ行フコトヲ得

特別善行章ノ付與ハ其ノ都度之ヲ行フ

善行章ノ褫奪ハ裁判確定ノ日又ハ懲罰言渡ノ日ニ之ヲ行フ但シ第九條ノ規定ニ依ルモノハ其ノ都度之ヲ行フ

**第十二條** 所轄長特別善行章ヲ付與シタルトキ及第九條ノ規定ニ依リ善行章ヲ褫奪シタルトキハ本人在籍ノ鎮守府司令長官ニ其ノ事由ヲ通報スヘシ

**第十三條** 本則ニ定ムル期間ニ算入セサル日數ニ付テハ海軍武官進級令第九條ノ規定ヲ準用ス但シ父母ノ病氣看護又ハ死亡ノ際往返日數ヲ除キ一回ニ付三日以内ノ場合ニ在リテハ除算

四九三

- 二 禁錮ノ刑ニ處セラレタルトキ  
一年六月以上
- 三 懲役ノ刑ニ處セラレタルトキ  
二年以上
- 四 禁錮又ハ懲役ノ刑ニ處セラレ刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ受ケタルトキ  
一年以上

刑罰ノ情狀酌量スヘキ者ニ在リテハ所屬長官ノ認可ヲ得テ前項ノ規定ヲ適用セサルコトヲ得

**第七條** 第五條又ハ前條第一項ノ規定ニ該當スル者ニシテ特ニ改悛ノ狀顯著ニシテ成績良好ナルトキハ所屬長官ノ認可ヲ得テ當該規定ノ期間ヲ短縮スルコトヲ得

**第八條** 前諸條ノ規定ハ海軍入籍前犯シタル罪ニ付刑ニ處セラレタル者ニ付之ヲ適用ス

但シ刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ受ケタル者又ハ情狀酌量スヘキ者ニ在リテハ所屬長官ノ認可ヲ得テ之ヲ適用セサルコトヲ得

**第九條** 刑罰ニ處セラレサルモ品行又ハ勤務ノ狀況ニ依リ善行章ヲ保有セシムルニ適セスト認ムルトキハ第四條ノ規定ニ拘ラス善行章ヲ褫奪スルコトヲ得

前項善行章褫奪ノ場合ニ於テハ其ノ事由ヲ具シ之ヲ所屬長官ニ報告スヘシ



